語学研究所論集

第 22 号　2017

論文

フランス語における「牝馬 jument」再考 …… 川口 裕司　1

研究ノート

コイサン音韻類型論のための語彙資料収集と整備
–ナロ語事例の初期報告–
…… 柳村 裕　19

特集「情報標示の諸要素」

まえがき …… 風間 伸次郎　25

データ：「情報標示の諸要素」

フランス語 …… 秋廣 尚恵　47
イタリア語 …… 土肥 篤　55
ポルトガル語 …… 水沼 修　65
チェコ語 …… 浅岡 健志朗　71
ロシア語 …… 宮内 拓也，後藤 雄介，テレギナ マリア　75
ペルシア語 …… 吉枝 聡子　87
フィンランド語 …… 坂田 晴奈　93
ハンガリー語 …… 大島 一　105
エジプトアラビア語 …… 長渡 陽一　115
マレーシア語 …… 野元 裕樹, アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー　121
中国語 …… 三宅 登之　133
朝鮮語 …… 黒島 規史，崔 正熙　139
ウズベク語 …… 日高 晋介　155
モンゴル語 …… ホリロ　161
ダグール語 …… 山田 洋平　171
ナーナイ語 …… 風間 伸次郎　177
エウェン語 …… 風間 伸次郎　183

活動報告

定例研究会要旨 …… 189
LUNCHEON LINGUISTICS 要旨 …… 201
語学研究所 活動一覧 …… 211

Journal of the Institute of Language Research

No. 22 2017

Article

Jument “Mare” in French Revisited ····· Yuji Kawaguchi 1

Note

Khoisan lexical data organization for phonological typology
—an initial report on Naro
····· Yu Yanagimura 19

Special Issue : “Markers of information structure”

Foreword ····· Shinjro Kazama 25

Data

French ····· Hisae Akihiro 47
Italian ····· Atsushi Dohi 55
Portuguese ····· Osamu Mizunuma 65
Czech ····· Kenshiro Asaoka 71
Russian ····· Takuya Miyauchi, Yusuke Goto, Maria Telegina 75
Persian ····· Satoko Yoshie 87
Finnish ····· Haruna Sakata 93
Hungarian ····· Hajime Oshima 105
Egyptian Arabic ····· Youichi Nagato 115
Malay ····· Hiroki Nomoto, Aznur Aisyah Abdullah 121
Chinese ····· Takayuki Miyake 133
Korean ····· Norifumi Kuroshima, Jeonghee Choi 139
Uzbek ····· Shinsuke Hidaka 155
Mongolian ····· Hao Rile 161
Dagur ····· Yohei Yamada 171
Nanay ····· Shinjro Kazama 177
Ewen ····· Shinjro Kazama 183

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.1-18.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.1-18.

〈論文〉

フランス語における「雌馬 jument」再考[1]
Jument "Mare" in French Revisited

川口 裕司
Yuji Kawaguchi

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies,Institute of Global Studies

要旨:
本稿では言語地理学上で重要だと考えられる『フランス言語地図』(ALF) No.736 jument「雌馬」の地図について、約半世紀後に作成された言語地図との比較対照を行い、「雌馬」という概念とそれを表す語形について考察した。ALF No.736 の地図は地理的分布が複数の言語層を示す典型例であり、言語層の形成には山地や大きな河川が関係している。ALF と『東部ラングドック地方言語民族誌地図』(ALLOr) の比較からは最も古い ègo 形が消滅したわけではないことがわかった。また、フランス語の書きことばコーパスを調べ、jument、cavale と他の語形の変遷を明らかにした。1300 年以降に ive 形が周辺に追いやられ jument が支配的になった。同時に下位概念を表す liarde、poutre、roncine、roncie 形も衰退する。16 世紀に南フランスあるいはイタリアから cavale 形が侵入し、書き言葉では jument と勢力争いを繰り広げるが、わずか一世紀で周辺へ追いやられ、主に南フランスの方言の中だけで生き残った。

Abstract:
In this paper, we examine the concept of "mare" and its denomination in French dialects through the comparison of the *Atlas linguistique de la France* (ALF) No. 736 *jument* with some linguistic atlases published about half a century later. Map No. 736 is a typical example in which geographical distribution shows several layers of dialect forms. Mountainous areas and large rivers are closely involved in the formation of the layers. A parallel analysis between ALF and *Atlas linguistique et ethnographique du Languedoc oriental* (ALLOr) shows that the oldest layer of *ègo* did not disappear. In our diachronic corpus analysis of written French, the word *ive* was first driven to the periphery after 1300 and *jument* remained as a dominant form. *Liarde, poutre, roncine* and *roncie* which represented subordinate concept of "mares" also declined while *jument* prevailed. *Cavale* came in from southern France or Italy in the 16th century and fought against *jument* for one century in written French, but it was also marginalized and eventually survived in the dialects of southern France.

キーワード: 言語地理学、ALF、雌馬

Keywords: linguistic geography, *Atlas linguistique de la France,* jument "mares"

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 本稿は JSPS 科研費 16H03415 基盤研究 B(研究代表者 岩田礼) 「語史再構における言語地理学的解釈の再検討—類型的定式化の試み—」の助成を受けた。本稿は第 1 回研究会(2016 年 9 月 20 日)の報告「方言変異と地形—フランス地域別言語地図の場合—」に基づいている。

はじめに

言語地理学 géographie linguistique はジリエロン Jules GILLIÉRON とその弟子たちによる「言語地理学研究 Études de géographie linguistique」の発表を通して、20 世紀初頭のフランスで産声をあげ、少なくとも戦後のある時期まで言語学における新たな研究分野として隆盛を極めた。とりわけ歴史言語学における言語地理学の重要性を多くの研究者が指摘した。たとえばメイエ Antoine MEILLET は『歴史言語学と一般言語学』第 1 巻の中に「J. ジリエロンと地域口話研究がロマンス語化の発展に与えた影響」と題する章を設け、「こうして言語学にとって決定的な進歩が実現した。あらゆる歴史言語学は比較言語学的であり、同じ一つの共通言語から出た様々な口話の比較だけが、その共通言語を決定するのに役立つ」(Meillet 1921: 307)と称賛した。またメイエは『歴史言語学における比較方法』の第 6 章を言語地理学の解説にあて、「地理的方法を適用することができれば、どこでも決定的な進歩を得ることができた。(...)比較方法は地理的方法によって、それまでにはない精緻さ、広がり、容易さを獲得する」(Meillet 1925: 70)と述べ、ジリエロンの功績を高く評価した。ガミルシェーク Ernst GAMILLSCHEG も『言語地理学とその一般言語学に対する寄与』の中で、ジリエロンの功績として以下の 3 点を指摘した。①ジリエロンは『フランス言語地図 *Atlas Linguistique de la France*』(以下 ALF)を公刊することで方言研究に新たな研究材料を提供した。②新しい地理的な観察方法を提案し、その方法を洗練させた。③パリの高等研究実習院 École Pratique des Hautes Études (EPHE)でのセミナーを通じて後進を育てた[2]。

こうして始まった言語地理学は、本人が「ジリエロンの後継者」[3]と呼ばれることをどう思ったかは別にして、フランスではドーザ Albert DAUZAT が言語地理学の理論的枠組みをさらに探求し『言語地理学 *Géographie linguistique*』(Dauzat 1922)にまとめた。1922 年版[4]の『言語地理学』pp.30-32（そのうち p.31 は地図）と pp.92-93 に「雌馬 jument」に関する言語地理学的解釈が掲載されている。この ALF No.736 jument の地図は、言語地理学において数ある地図の中でも重要な意味をもっていると思われる。たとえばコセリウ Eugenio COSERIU の『言語地理学』(Coseriu 1975)においても引用され、また近いところでは ALF の地図をどのように解釈すればよいかを平易に説いたブラン・トリゴ Guylaine BRUN-TRIGAUD、ル・ベール Yves LE BERRE、ル・デュ Jean LE DU（以下 ブラン・トリゴ他）による『ジリエロンとエドモンの ALF を読む 時間から空間へ』 (Brun-Trigaud et al. 2005)にももちろん取り上げられている。興味深いことに、ドーザ、コセリウ、ブラン・トリゴ他のいずれもが ALF No.736 の言語地図を掲載しているのだが、どういうわけか地図の細部が微妙に違っているように見える。ここでは jument の問題を考える取っ掛かりとして、そうした細部は気にせずに、最も新しいブラン・トリゴ他の地図を用いて、彼らの言語地理学的説明を見ておこう。

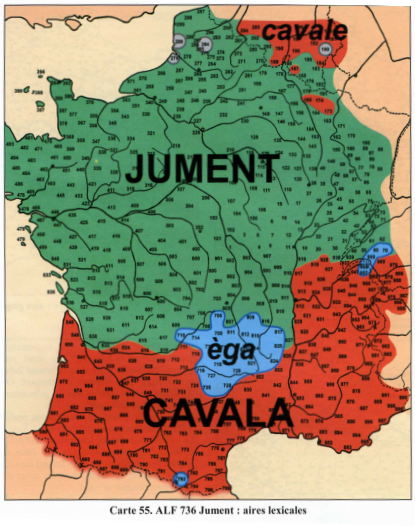
---

[2] Gamillscheg (1928: 2).

[3] 未見だが Anne-Marguerite Fryba-Reber に“Dauzat et Jaberg : deux héritiers de Gilliéron”, in *Actes du Colloque Dauzat et le patrimoine linguistique auvergnat,* Montpellier, 2000, 211-230 の論考がある。

[4] 1944 年版は jument の部分については同じ記述であるが、他の箇所に相当な書き直しや追記が見られるため注意が必要である。邦訳、『フランス語言語地理学』、松原・横山訳、大学書林、1958 年は、内容から 1944 年版の邦訳であることがわかる。

「南部の èga（古フランス語 ive、ラテン語 equa）の地域が最も古く、第一の形成である。この語は至るところで衰退し、中世以来その地歩を失い続けてきた。その後イタリアから cavala がやって来る。この二番目の形成は南フランスとリヨン地方に広がり、さらにオーヴェルニュ地方とワロン地方に至った。jument の地域変種が発達したヴォージュ地方を除けば、東部ではリヨンからリエージュまでかつては連続する地域であったに違いない。最後に雌馬を意味する jument がパリに到達すると、そこから広い領域に伝播していく。この三番目の形成は東部地域をいくつにも分断し、リヨン地方に達し、オーヴェルニュ地方、アン県、イゼール県の cavala から切り離され、伝播の先端はアルプス地方にまで至った。」



ブラン・トリゴ他 2005: 102.

ブラン・トリゴ他では èga の語に対して第一の（言語層の）形成(formation primaire)という表現を用いている。ドーザも「語の層位学を決定する」(Dauzat 1922: 32)、「各層の位置を容易に再建する」(Dauzat 1922: 33)のような表現からわかるように、èga、cavala、jument を三つの異なる言語層として説明する。こうした言語層を研究することの重要性はジリエロンの論考からも明らかである[5]。いずれにしても jument の地図はドーザが言う意味での言語地理学的な原則を非常に明瞭な形で表している。それゆえ重要な地図と言える。言語地理学の原則とは以下の三つの原則を言う。①ある語の現在の地理的分布を観察することで、語の歴史と埋没している語の諸層を再構築できる、②現在の地理的分布を観察することで、今は分断されて分布している語がかつては連続する区域に広がっていたことがわかる、③語の革新は主として中央地域で起き、その結果、側面地域には古い形態が残る[6]。これら三つの原則を jument の地図で確認することができる。つまり èga が最古層であり、分断されている東部の cavala は第二層として、かつては南北で繋がっていた。また東部において cavala が側面地域として残存したのは、第三層である jument の革新が伝播した結果である。この有名な地図の解釈について、今更何を付け加えることがあるのだろうと考える方がおられるかもしれない。しかしながら jument の語は上記のような単純な地図の解釈では解決できない非常に複雑な問題を孕んでいると思われ、今日でもその問題を問い直す意味は十分にあると考える。ここでは主として二つの観点から「雌馬 jument」について再考する。最初に ALF から半世紀ほど経った時点での方言調査の結果について述べる。次に「雌馬」という概念とそれを表現するための語形の問題について考える。

1. ALF の半世紀後

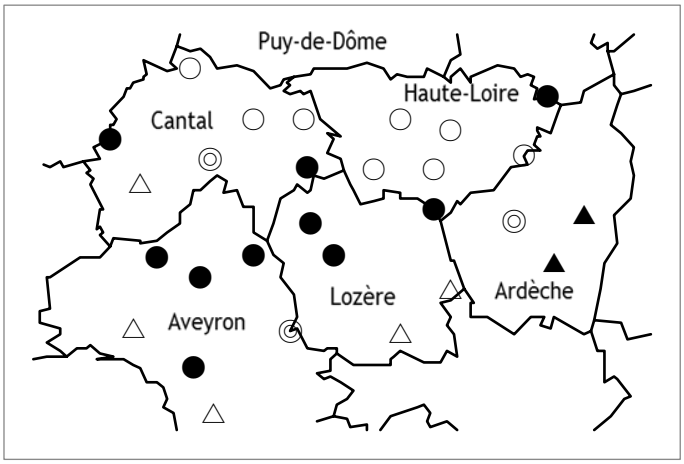
フランスは国土の 10%だけが 800m を超える山地であり、概して起伏が少ない。なかでも北部と西部には高地が少なく、海抜の高い地域は中南部と南西部と東部に存在する。このうち中南部には中央山塊 Massif Central と呼ばれる高地があり、最古層と考えられる èga が残る地域とぴったり一致する。中央山塊は ALF の中で、しばしば古い語形が分布する地域として知られる。たとえばブラン・トリゴ他による

[5] たとえば Gilliéron et Mongin (1905: 3)を参照。
[6] この側面地域の原則はジリエロンではなくユートとバルトーリによって提案されたようだ。Dauzat (1944: 48).

と[7]、ALF No.36 alouette「ひばり」では接尾辞-ette をとらない、ガリア語の alauda に直接に遡る alausa 形がこの地域で見られる。ALF No.244 charpentier「大工」では、ラテン語の fustis から派生した fustier 形が、ALF No.629 gauche「左」では中央山塊地域にバスク語と関係する esquèr 形が、ALF No.791 maçon「石工」では peirièr 形が分布し、ゲルマン語*makôn に由来する他の地域の語形とは一線を画している。ブラン・トリゴ他によれば、これらの地図では山地という地形が原因となって、中央山塊に古い言語層が残ったという。東部の山岳地帯でも同様のことが起きる。

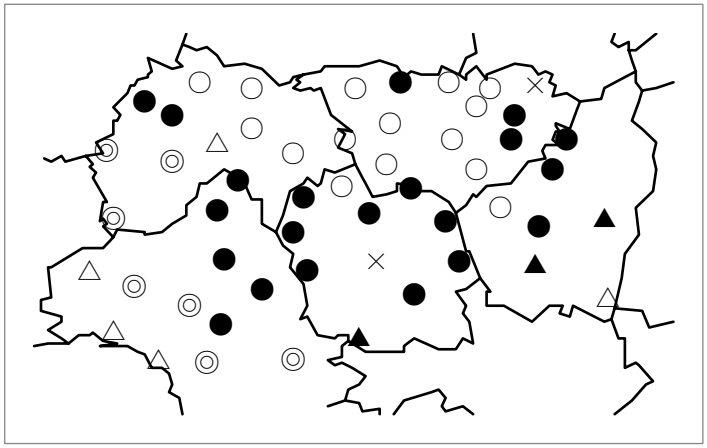
1.1. 中央山塊言語民族誌地図(ALMC)

まずは中央山塊の半世紀後を見てみよう。ノートン Pierre NAUTON は 1951 年から 1953 年にかけて中央山塊地域を方言調査した。ALF と ALMC は図 1 と図 2 のようになる。



○	égà, èga [8]
●	ègò, ègo
◎	égo / kòbàlo
△	kabalò, kòbalo
▲	kàvalo, kòvalo

図 1　ALF 736 jument [9]



○	$ég_a$, $èg_a$
●	$ég_o$, $èg_o$, $èg_o$
◎	égo / kòbalo
×	Jumã
△	$kabal_ò$, $kòbal_o$
▲	$kòval_o$

図 2　ALMC 469 jument

[7] Brun-Trigaud (2005: 98, 103).
[8] 音声記号は若干の補助記号を除き、できる限り言語地図の音声記号に近づけるよう努めた。
[9] エドモン Edmond EDMONT がこの地域の調査において強勢と長母音を混同して記載したことについては Nauton (1956:.48)を参照されたい。

ALMC の調査地点が 55 地点に対して ALF は 28 地点であるため単純に比較することはできないが、全体として半世紀経った時点でも èga、égo 形（図 1・2 の○●）は生き残っていると言えよう。ALF ではアヴェロン県 Aveyron の地点 728 とカンタル県 Cantal の地点 717 の 2 地点だけが西部において égo と kòbalo を併用する地点（図 1 の◎）であったのに対し、ALMC の地図では西部で併用地点（図 2 の◎）が増えている[10]。このことは ALF から半世紀経った ALMC では égo 形がいよいよ消滅に向かい、kòbalo 形に取って代わられつつあることを示している。ところで一般に ALMC の地域は図 3 のように三つの方言域に区画されるのだが[11]、èga、égo はこうした方言域の区分には関係なく、中央山塊全域で生き残ったことがわかる。他方でアヴェロン県とカンタル県を含む南部オック語域から徐々に égo 形が kòbalo 形に置き換わろうとしている。また ALMC では 2 地点だけであるが jument 形も観察される（図 2 の×）。これも半世紀の間に起きた方言状況の変化である。

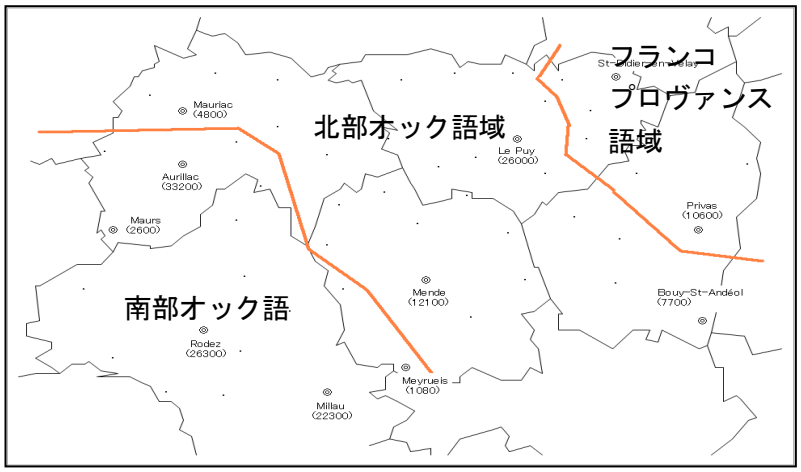


図 3　ALMC の言語域[12]

ところでフランスがガリアと呼ばれていた時代から現在に至るまで èga、égo 形が維持された主たる要因は中央山塊の地形だけではない。ドーザは『言語地理学』を執筆する 8 年前に動物の雌雄を表す語形について考察している。フランス語では動物の雌雄はロバ(âne / ânesse)、猫(chat / chatte)、ライオン(lion / lionne)のように、しばしば派生形によって表される。ところが馬(cheval / jument)、羊(mouton / bélier)、豚(porc / truie)、鶏(coq / poule)、ガチョウ(jars / oie)のように、雌雄を表す語形が大きく異なる場合もある。同論考の中でドーザは jument についても述べており[13]、『言語地理学』の説明はこの論考の内容を要約したものである。ドーザによれば jument は元々南フランスでも北フランスでも荷物などを運ぶ「荷馬 bête de somme」を意味した。ラテン語の equa 形は規則的な音変化によって ive 形となったが、ive 形は形態的に摩滅して弱く、女性形の接尾辞-ive（例、active）と同音衝突を起こしたために消滅する運命にあった[14]。北フランスで ive の消失を補ったのが jument であり、南フランスでは cavala であった。一方、音変化を経ても摩滅しなかった èga 形は中央山塊と東部地域の一部で生き残った。ジリエロンもドーザも

[10] ALF のカンタル県の被調査者は補助教員で 30 代と若い。Gilliéron et Edmont (1902: 48).
[11] 例えば ALMC No.9 il fait chaud の fait の母音と chaud の語頭子音について、北部オック語域では[fai]と[ts-, tɕ-]となるが、南部オック語域では[fo]と[k-]になる。
[12] Nauton (1956: 43)の地図を ALMC No.9 il fait chaud の分布も加味して修正した。
[13] Dauzat (1914: 161-169).
[14] 規則的音変化によってラテン語起源の語が多く消失したことはジリエロンが力説したことである。Pop (1959: 29).

同音性は語の歴史にとって決定的な要因であり、同音衝突は言語地理学の最も重要な発見であったと考えた[15]。もっとも同音衝突があれば直ちに語形が消失し、他の語形に置き換わるわけではない。実際、言語活動においては同音性・同形性は頻繁に起きることであり、文脈のおかげで許容される場合が多い。問題はむしろ同音衝突によって同じような部類に属する語の間で混同が起きることである[16]。ジリエロンは「許容しがたい困難を経験した後に同音異義語に処方を与えようとする」[17]と主張しているが、言語地理学における同音衝突の例では、実際に話し手において混同や困難が起きた証拠をあげながら説明することはほとんどない。またジリエロンは同音衝突によって治療的処方が必要とされる言語の病理的状態にしか興味がなかった[18]。彼らの同音衝突による語形変化の説明を読んでも、それによって語形の有為転変の原因が解明されたと考えてよいのかは疑問が残る。また語の地理的分布に着目するあまり、語と事物の結びつきを中心に据えてしまうことで、言語地理学の説明はあたかも話し手の言語活動から独立した形で語形変化が生じているような印象を受ける。このことはジリエロンらの分析に対する批判の一つでもあった[19]。ただし言語地理学では、二つの語形が衝突する地域で折衷形あるいは類音牽引による語形成が観察されると指摘する。また消失する語形は意味的に曖昧になったり、多くの意味を抱え込んだりするという指摘がある。こうした証拠こそ、同音衝突が語の消失や語形変化の要因となったことを説明するうえで重要であると考えられる[20]。

1.2. リヨネ地方言語民族誌地図(ALLy)

ところで èga、égo の東部境界はどこなのだろうか。中央山塊の東に位置するリヨネ地方を ALLy を利用して見てみよう。ガルデット Pierre GARDETTE がこの地域を調査したのは 1945 年から 1947 年にかけてであった。ALF が 17 地点だけを調査したのに対して、ALLy には 75 地点あり、かなり密な方言調査になっている。とはいえ半世紀後でもそれほど大きな変化は見られない。図 4 と図 5 を参照。

ALLy ではロワール県 Loire とローヌ県 Rhône の両方に jument（図 5 の×）が拡大している。一方で èga 形（図 5 の○）はオート・ロワール県 Haute-Loire のみに、kàvàla 形（図 5 の△）はピュイ・ドゥ・ドーム県 Puy-de-Dôme と東部に見られる。またアン県 Ain には jument が拡がりつつあり、半世紀の間に標準形の浸透した様子がうかがえる。ALLy の地図が示すように、èga、égo 形の東部境界はオート・ロワール県であり、それよりも東に èga、égo 形は存在しない。逆に言えばリヨネ地方は北からの jument と南からの kàvàla がぶつかり合う地域なのである。標準形の jument がリヨネ地方にまで進出したことで kàvàla 形の地域は東西に分断された。古い èga 形の東端はオート・ロワール県に、新しい jument の南端はロワール県にまで達している。ドーザが主張するように、語はデタラメに伝播していくわけではない。中でも標準形の伝播は比較的明確な経路を通って拡がることが知られている。フランスの場合、大幹線はソーヌ河とロワール河の渓谷である。もちろん大きな川は河川交通によって伝播を促進することもあれば、逆に大河によって言語が分断されることも考えられる[21]。

---

[15] Dauzat (1922: 65).
[16] Gamillscheg (1928: 34).
[17] Gilliéron (1918: 58).
[18] Lauwers (2002: 85).
[19] 例えばコセリウ (1973: 103)と Demset (2002: 42).
[20] Lauwers は「同音性と意味の過剰飽和(l'homonymie et la sursaturation sémantique)が語形変化において疑いもなく役割を演じている」と主張する。Lauwers (2002: 105).
[21] Dauzat (1922: 157), 160. Kawaguchi (1995, 2001, 2017)はパリ周辺部、シャンパーニュ地方、ブルゴーニュ地方における標準語化とその経路を分析した。そこでも河川の果たす役割が大きい。

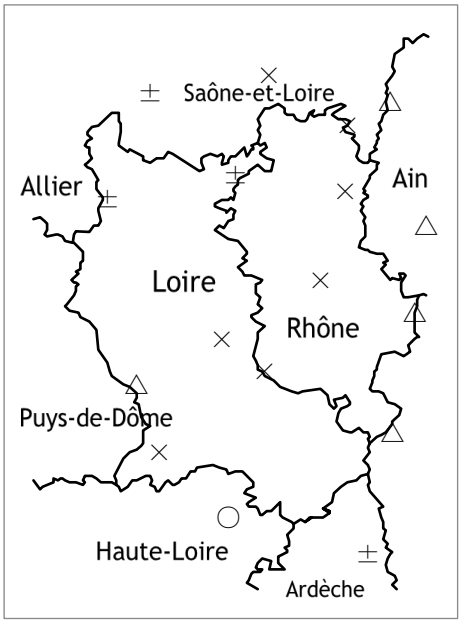


図 4　ALF 736 jument

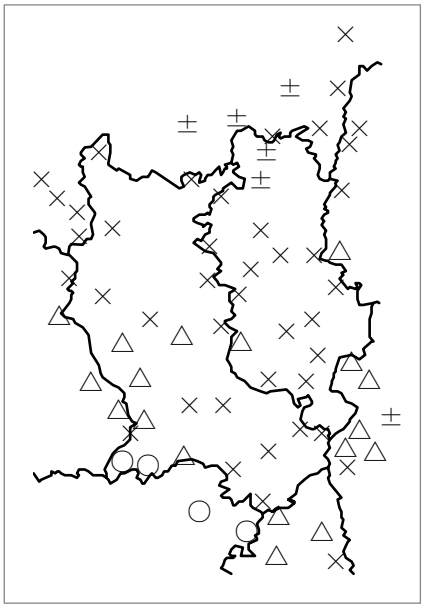


図 5　ALLy 311 jument

×	Jumã
○	Ègó
△	kàvàlà, kavàlė
±	dzumã, dzœmã, etc.

×	jumã
○	égå
△	kàvàla, kàvàlo
±	dzumã, zumã, etc.

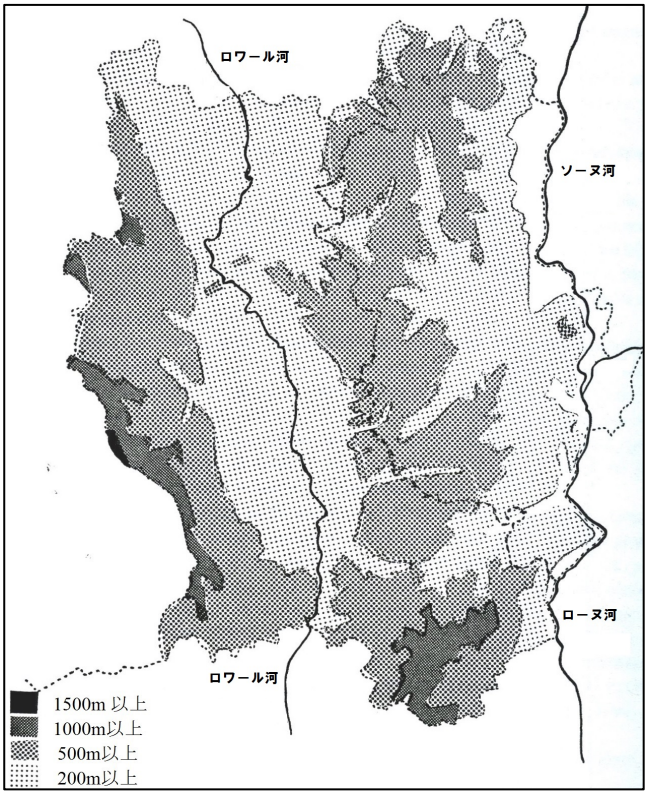
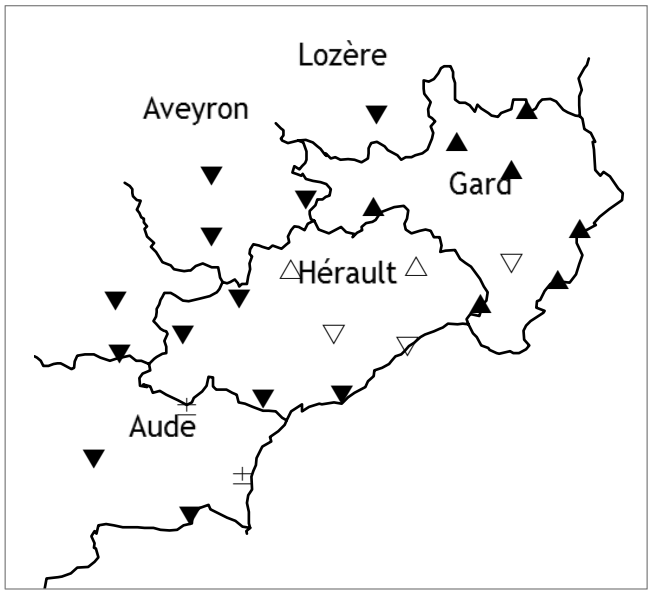


図 6　リヨネ地方の地形[22]

[22] ALLy の Carte 1. Carte du relief du Lyonnais を編集した。

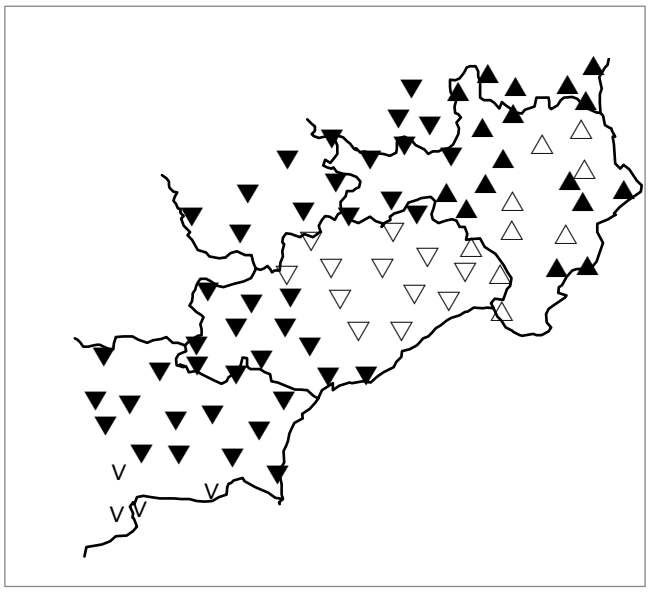
図 6 の地形図と ALLy No.311 の jument 形（図 5 の×）の分布を照らし合わせてみると、jument 形が東部ではソーヌ河とローヌ河の渓谷を通じて、西部においてはロワール河の渓谷を通って、北部から南部へと伝播したことは十分にあり得る。また ALLy の kàvàla 形（図 5 の△）と égå 形（図 5 の○）はロワール河とローヌ河のそれぞれの西側にある比較的高い山地で生き残っている。標準形の jument はリヨネの南部にまで伝播し、ローヌ河の西側にある山地で止まり、ロワール河方面では égå 形と kàvàla 形の両方に行く手を遮られた。こう考えると中央山塊よりもさらに南では jument、kàvàla、èga はどのようになっているのかも気になってくる。ここでは東部ラングドック地方言語民族誌地図（以下 ALLOr）について調べた。すると ALF から半世紀後の興味深い状況がわかった。

1.3. 東部ラングドック地方言語民族誌地図(ALLOr)



△	kávàlà
▲	kávàló
▽	kábàlà
▼	kábàlò
±	kábàló / ègo

図 7　ALF 736 jument

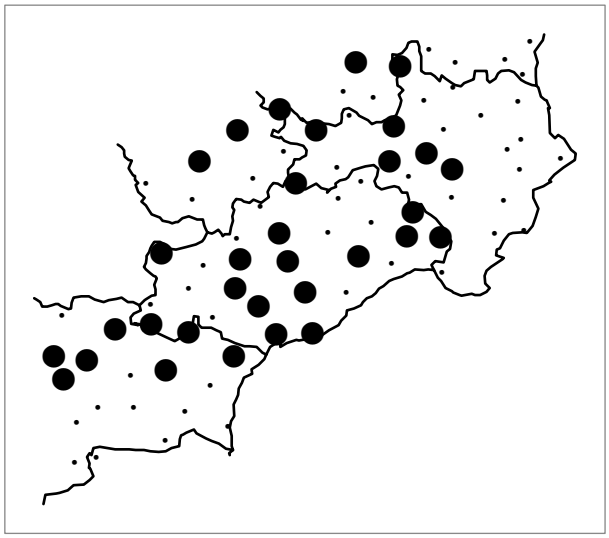


△	kavala
▲	kavalo
▽	kaḇala
▼	kaḇalo, kòbalo
∨	kaḇaḷo

図 8　ALLOr 501 jument

ALLOr において、語末母音はエロー県 Hérault とガール県 Gard では[a]になる（図 8 の白い△▽）。またガール県（図 8 の△▲）以外は母音間の子音が[v]ではなく[b̲][23]になる（図 8 の下向き▽▼∨）。こうした傾向は ALF の半世紀後でも変わっていない。ALLOr では kavala、kab̲ala あるいは kavalo、kab̲alo が支配的であると片づけてしまいそうであるが、実際はそうではなく変化は着実に起きつつあった。

ALF と ALMC の地図を分析した際に、アヴェロン県とカンタル県において égo と kòbalo を併用する地点（図 1、図 2 の◎）が ALF に比べて ALMC で増えたことを指摘した（1.1.を参照）。これは égo 形が消滅へと向かい、kòbalo 形に取って代わられつつあることを示していた。図 7 のオード県 Aude ではこれと全く逆のことが起きている。地点 767 と 787 において kábàló が ègo と併用されるのである（図 7 の±）。この 2 地点の被調査者は 35 歳と 40 歳くらいの市町村職員で、両者とも同地の生え抜きであった[24]。とくに特徴的な話者とは思えないこの 2 名だけが、なぜ kábàló と ègo を併用すると答えたのだろうか。その答えが ALLOr の地図の中にあった。実は ALLOr No.501 の地図には欄外に「古い èga[25]は、その存在と意味をいたるところで確認できた[26]」という注記がある。古い èga を中心に ALLOr を再分類し直してみると図 9 のようになる。



	第 1 形	第 2 形
●	kavala, kavalo kab̲ala, kab̲alo, kòb̲alo	ègo

図 9　ALLOr 501 jument　ègo の残存

もちろん ALLOr で kavala 形が第一形であることには違いないが、ALF で地図に 2 地点しか記載されていない古い ègo 形は完全に消失したわけではなく、その存在と意味がまだ確認できる状態であった。ègo 形はこの地域でまだ理解されていたのだが、徐々に kavala 形に圧倒されて消滅に向かいつつあった。だからこそ ALF の地点 767 と 787 で併用形が観察されたのだった。エドモンが ALF 調査の際に、なぜ ègo 形が他の地点でも理解されていたのを知らなかったのか、その理由はよくわからない。ALF の補遺にも特に記載はない。

[23] b̲ は幾分弛緩した閉鎖音、軽い狭窄音を表す。ALF ではこの調音は正しく認識されなかった。
[24] Gilliéron et Edmont (1902: 49).
[25] 興味深いことだが Boisgontier は実際に確認される[ègo]ではなく、èga という語形を用いて注記した。Boisgontier (1984) ALLOr No.541 Jument ; «Èga»を参照。
[26] “(...) le terme archaïque **èga**, dont on a partout vérifié la présence et les valeurs sémantiques.”

2. 文献的証拠と言語地図

ジリエロンとドーザの最も際立った研究手法の違いは、文献的証拠と言語地図をどのように関連づけるかという視点であろう。ジリエロンは「文献を探求して得られることになる事後的な実証がどのような重要性をもつとしても、それらは地理的方法によって到達する結果を例示するに過ぎず、強固にするものではない。たとえそうした実証が欠けているとしても、地理的方法による結果は確実かつ疑う余地のないものと見なされなければならない」[27]と主張する。これに対してドーザはミツバチを意味するessetteをとりあげて、「言語地理学と文献研究は、まさに歴史と地理のように緊密に連帯しあう」[28]と述べる。初期の研究においてジリエロンは再三にわたり、ALF以外の方言調査と文献的証拠の価値を問題視した。こうした発言の背景には地理的方法だけを用いて言語理論を構築したいというジリエロンの強い思いがあったのだろう。とはいえ後にも触れるが、ALFの「雌馬」の地図が私たちに示してくれる語形の変異とその分布の限界は、まさにALFの方言調査自体の限界に帰されるべきものであり、その限界を乗り越えるための一つの手段として ALF 以外の方言調査と文献的証拠の活用は不可避であると言わなければならない。

2.1. JUMENT 形と CAVALE 形

最も新しい言語層と言われる jument の出自はどうなっているのだろうか。「国語の主人 maître de la langue nationale 」[29]たるパリで産声をあげたのだろうか。この語形は12世紀中頃に書かれたアングロ・ノルマン文学の *Psautier d'Oxford* において「荷馬」の意味で男性名詞として用いられたのが最初らしい。一方「雌馬」の意味としては、Guernes de Pont-Saint-Maxence が1172-74年にイギリスで執筆したとされる *Vie de Saint Thomas Becket* に女性名詞として初出する。つまり初期の文献的証拠はいずれもイギリスでみつかったことになる[30]。これに対してラテン語の jumentum を女性形 jumenta として用いた例は8・9世紀に既に見られる[31]。この古い女性形に由来するか、もしくは類似の派生形と思われる語形が ALF に散見される。ムルト・エ・モーゼル県 Meurthe-et-Moselle の地点150 jœmaᵒt、ヴォージュ県 Vosges の地点59 jœmòt[32]、69 jmòt、77 jŭmát、86 djŭmàd、バ・ラン県 Bas-Rhin の地点88 jŭmàt、オ・ラン県 Haut-Rhin の地点85 djŭmàt である。これらの語形はフランス東部にのみ残存する[33]。

フランス語の書き言葉の歴史において jument 形と競合して用いられたのは cavale 形であった。本稿の最初で見たように、近代以降になると cavale 形は方言として南フランスと北部でのみ残存したようである。この cavale の語源はプロヴァンス語であったという説、イタリア語から移入されたという説がある[34]。いずれにしてもベルギーのヘントの南にあるアウデナールデにおいて1552年に書かれた Coutume de Renaix が初出のようであるから、南フランスだけに特徴的な単語ではなく、言語地理学が説明するように、かつてはベルギーから南フランスにかけて広く分布していたに違いない。

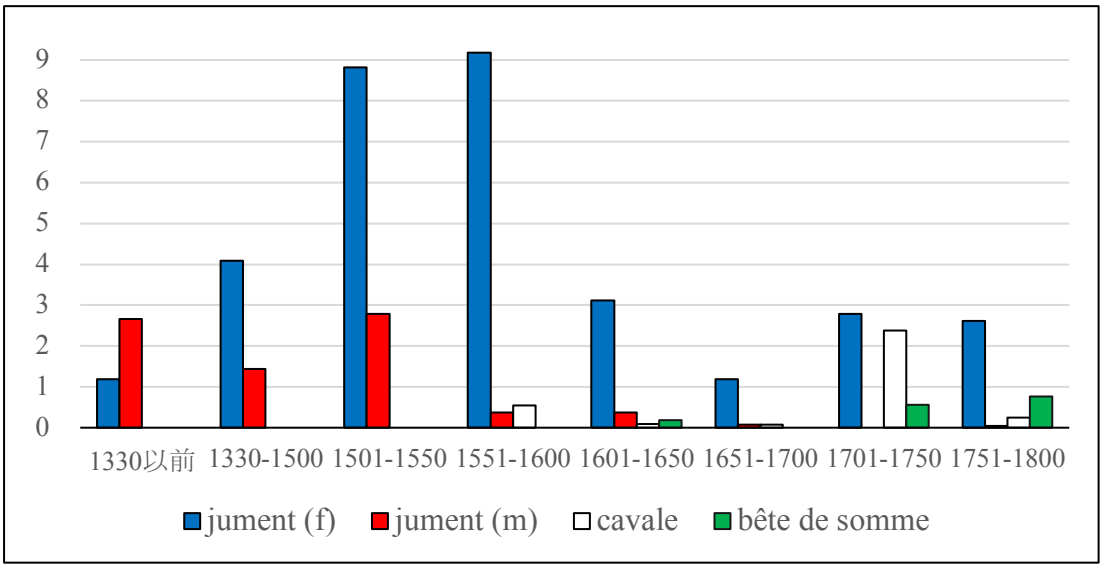
ここでは jument と cavale の書き言葉における競合関係を詳しく調べるために、Frantext を基にして100万語あたりの両語形の調整頻度の推移を 1330 年から 1800 年まで追った。ただし 1501-1550 年と1551-1600年に関しては、理由はよくわからないが、特定の文献における jument の頻度が著しく高いた

---

[27] Gilliéron et Mongin (1907: 296).
[28] Dauzat (1922: 43).
[29] Gilliéron (1918: 259).
[30] 13世紀以前における古仏語作品の作成地域には大きな偏りがあったことを忘れてはならない。
[31] 初出に関しては *Trésor de la langue française informatisé* (http://atilf.atilf.fr/tlf.htm): jument の項を参照。
[32] 接尾辞-òt は-èt 形のこの地域における変異形である。-èt 形が-òt 形になる音声変異はシャンパーニュ地方の南東部からフランス東部にかけて広く分布する。Kawaguchi (1994)参照。
[33] 接尾辞-òt はジャガイモを pmòt、kmòt と呼ぶ場合にも見られる。Poirot (1913)を参照。
[34] Trésor と FEW の項目を参照。

め、そうした文献を除いて Frantext の年代区分に従って生起頻度を計算した。結果は表 1 のようになる。

表 1　jument と cavale の生起頻度（100 万語あたりの調整頻度[35]）



まず最初に、明らかに女性名詞と判断できる jument「雌馬」（表 1 の青色）と女性名詞とは判断できないか、あるいは冠詞類や形容詞から男性名詞と判断すべき jument「荷馬」（表 1 の赤色）の生起頻度が古フランス語から中期フランス語へと移る時期、グラフ上の 1330-1500 年までの間に逆転することがわかる。1500 年以後は女性名詞 jument が明らかに優勢になる[36]。男性名詞 jument は 1651-1700 年にほぼ消滅し、それに代わって 1700 年以降に bête de somme「荷動物」（表 1 の緑色）という表現が増える傾向にある。このことは男性名詞 jument の消滅過程を証拠づけるものとして注目に値する[37]。女性名詞 jument と cavale（表 1 の白色）の競合は 1700 年から 1750 年までをピークに、その後 cavale の衰退に終わる。Frantext が各時代の書き言葉のデータベースであることを考慮するならば、cavale 形は 1700-1800 年までの一世紀の間、標準的なフランス語の書き言葉として通用していたことになる。以上が Frantext のデータから指摘できることである。

しかし実際には 1700 年よりもずっと早い時期、たとえば 1618 年に文法家のモーパ Charles MAUPAS が *Grammaire et syntaxe françoise* (初版 1607 年)の中で、「jument と cavale は hongre とも言う、去勢した馬の

[35] 実際の生起数は以下のようであった。

	jument (f)	jument (m)	cavale	bête de somme			jument (f)	jument (m)	cavale	bête de somme
-1330	4	9	0	0		1601-1650	34	4	1	2
1330-1500	40	14	0	0		1651-1700	16	1	1	0
1501-1550	19	6	0	0		1701-1750	35	0	30	7
1551-1600	50	2	3	0		1751-1800	62	1	6	18

[36] ただし 1600 年以前のデータには男性名詞 jument (m)の中に、冠詞類や前後文脈から jument が女性名詞であると判断できない例（cheval et jument、冠詞なしで単に jument 等）例も含まれる。

[37] bête de somme はすでに 12 世紀末に「荷動物」として Béroul の *Le Roman de Tristan et Iseut* に記録がある。Trésor の somme の項。

ことである」[38]と記している。またドゥ・ラ・トゥシュ Pierre DE LA TOUCHE は 1730 年の *L'art de bien parler françois*（初版 1696 年)の中で、さらに詳細に「通常、親しい会話では jument と言う。Cavale は上品な文体のほうがふさわしい。アカデミーはこのような使用を区別しない」[39]と述べた。ドゥ・ラ・トゥシュのこの説明はメナージュ Gilles MÉNAGE の *Observations de Monsieur Ménage sur la langue françoise*（初版 1672 年）の次の記述の引用であった。「親しい会話では、une cavalle よりもむしろ une jument と言うだろう。王の厩舎でもアカデミーでもそうである。しかし上品な文体では jument よりも cavalle と言うだろう」[40]。

2.2. 古フランス語から中期フランス語へ

ところで Frantext が十分にカバーできていない時代、とくに古フランス語期から初期の中期フランス語までの間、「雌馬」は書き言葉においてどんな語形で表されていたのだろうか。トブラー・ロマッチ TOBLER-LOMMATZSCH の『古フランス語辞典 *Altfranzösisches Wörterbuch* 』（以下トブラー・ロマッチ）を調べたところ、次のような語形が見つかった。まずラテン語の equa から変化したと考えられるいくつかの変異形、ive、ie、iewe、egue、igue がある。次に jument があり、「灰色毛の雌馬」として liarde、「若い雌馬」を指す poutre、最後に「荷馬」としての roncine、roncie があった。これらの語形の使用をさらに詳細に調べるために、古フランス語と中期フランス語のコーパスと考えられる *Corpus de la littérature médiévale en langue d'oïl des origines à la fin du XVe siècle Prose narrative – Poésie – Théâtre*, Champion Électronique, 2001(以下 Corpus Champion)を調査した[41]。最も生起頻度の高かったのは jument であり 111 例あった。このうち 1300 年以前が 42 例、14 世紀・15 世紀が 69 例あった。男性名詞 jument の例は 6 例みつかった。冠詞類や形容詞等がないために、あるいは周りの文脈から文法性を判断できない例は 27 例あった。

Corpus Champion において jument の次に生起頻度が高かったのは ive 形の 12 例である。この語形は全て 1300 年以前の文献で見つかった。ive 形が古フランス語の時代において、女性形の接尾辞-ive と同音衝突することでどれほどコミュニケーションに支障が出たのかは皆目検討もつかない。ただ先ほどの生起頻度からすると、古フランス語の時代にも書き言葉では jument 形が圧倒的に頻繁に用いられていたため、ive 形が衰退しても「雌馬」を表すのに jument を用いておればおそらくコミュニケーションに支障はなかったであろう。ともかくも 14 世紀までに ive 形が書き言葉から消失したらしいという推測が成り立ち、このことは 2.1.で見たように、1330 年頃にはすでに jument 形だけが支配的になっていた事実と矛盾しない。また ive の変異形である igue 形は一例しか見つからない。このように jument はいわば「雌馬」の最上位概念を表す語形と言える。同じ「雌馬」でも色に焦点を当てると liarde「灰色毛の雌馬」、職能をハイライトすると roncine、roncie「荷馬」、年齢を取り立てると poutre「若い雌馬」となり、これらはいずれも「雌馬」の下位概念を表す語形であった。

2.3. Poutre 形について

ラテン語 pullus「小動物」の派生形*pulliter に由来すると思われる poutre はトブラー・ロマッチの定義

---

[38] "jument, Cavale, se dit aussi Hongre, se dit d'un Cheval chastré," (Classique Garnier Numérique).

[39] "On dit d'ordinaire jument dans le discours familier: cavale vaut mieux dans le style relevé. L'Acad. n'en distingue point l'usage." (Classique Garnier Numérique).

[40] "Dans le discours familier, je dirois *une jument*, plustost qu'*une cavalle*. C'est ainsi qu'on parle dans les Ecuries du Roi, & dans les Académies. Mais dans un discours relevé, je dirois *cavalle*, plustost que *jument;*" (Classique Garnier Numérique).

[41] 当該コーパスは Champion 社から出版された中世文学等の校訂本を電子化したものだが、校訂本自体に質的なばらつきがあることは否めない。

では「仔馬」、「若い雌馬」、「梁」を意味する。Corpus Champion では 4 例みつかり、全てが 15 世紀以降の例で、女性名詞すなわち「若い雌馬」である。この語彙について比較的詳しく記載しているのはゴドフロワ Frédéric GODEFROY の辞書[42]で、そこには poutre、poultre、poustre、poudre、pouldre の五つの語形が記載され、「未交尾の雌馬」を指すとある。1472 年の文献が初出である。ゴドフロワは項目の最後のほうでこう締めくくる。「未交尾の雌馬を表す poutre は一般的な言語においては 17 世紀一杯まで用いられた[43]。18 世紀にはポワトゥー地方のテクストに現れる」。15 世紀後半から 16 世紀まで書き言葉において用いられ、その後は方言にしか残らなかった短命な語形である。Corpus Champion を検索すると poultre 形が 3 例みつかったが、出典は全てラブレーFrançois RABELAIS であった。ドーザも既に指摘したように、この語形は低地ロワール河地方の 16 世紀の作家たち、ラブレー、ロンサール RONSARD、ベローRémy BELLEAU の作品の中にみつかる[44]。この語形について最も詳細な分析を行ったのはおそらくユート Jakob JUD であろう[45]。ユートの研究を引用してガミルシェークは次のように言う。「ユートは、ある語が特定の社会層から他の社会層に侵入すると、副次的な同音異義が生じることを「梁」をあらわす語を使って証明した。(...)中期フランス語の poutre「未交尾の雌馬」は 16 世紀には文語から姿を消す。ALF によると、今日この語は最北部と最東部のわずか 4 地点で見られるにすぎない。この語が大部分の領域で消失したのは、14 世紀の終わりに現れ、今日ではフランスの大部分に拡がった poutre「梁」によって押しのけられたためである。この語の語源は poutre「若い雌馬」と同じである。動物をあらわす語が職人階級において主柱としての「梁」をあらわすために用いられた」[46]。この場合 poutre「未交尾の雌馬」が消滅したのは、「梁」との同音衝突に原因があるというよりも、盤石な jument が使用され続け、「若い、未交尾」をハイライトするときも jeune jument を用いることで事足りたからだと考えるのが自然であろう[47]。ALF No.736 jument にはそもそも poutre 形の記載がなく、ユートが 4 地点のみと書いたのは ALF No.1070 poulain (poulain pouliche)「生後 5 年目までの雄馬・雌馬」の地図である。実際、スイスの地点 62 で pūdrẽ が、ワロン地方の地点 194 では pòlẽ と並んで古形として putrẽ が、パ・ドゥ・カレ県 Pas-de-Calais の地点 299 では pulã と並んで pūtr が、サヴォワ地方の地点 956 では pòḷã, ḷãnà, pòdrà が記載されている。

以上のように考えると、フランス語の歴史を通して、ドーザが行ったように年代的に言語層の積み重なりがあり、これを地理的分布と関連づけて見つめ直すことは方法論的にも理論的にも興味深い。しかしながら書き言葉に関して言えば、歴史を通じて一貫して jument の語が用いられてきた。その意味でも jument は「雌馬」の上位概念を代表している語形と言うことができる。この上位概念形とは別に用いられる、その周りに衛星の如く共存する語形があった。あるいは流れ星のように短期間だけ使用され消滅した語形もあった。言語層の積み重なりと言うよりは、むしろ求心と遠心構造の力学とも呼ぶべき現象である。中心には常に jument が据えられる。1300 年以降に ive 形が中心から周辺へと衰退すると、jument が支配的となり、「荷馬」の意味内容を周辺化する。「荷馬」の意味内容は結局のところ bête de somme が取って代わる。同時に古フランス語期の「雌馬」の下位概念を表していたと思われる liarde、poutre、

---

[42] Godefroy (1891-1902).

[43] ゴドフロワのこの記述は以下の分析からすると、おそらく「16 世紀一杯まで」と修正したほうがよい。実際、17 世紀の文法家イルソン Claude IRSON は *Nouvelle methode pour apprendre facilement les principes et la pureté de la langue françoise contenant plusieurs traitez*（初版 1662 年）において、“POVTRE vieux mot qui signifie *jument* qui porte le joug.”「POUTRE は荷を運ぶ jument を表す古語」と記している。

[44] Dauzat (1921: 26).

[45] Jud und Jaberg (1908).

[46] Gamillscheg (1928: 42-43). 「荷運びの雌馬」と「梁」には「重荷を支える」という抽象的レベルでの共通性があるというのがユートの主張であった。Jud und Jaberg (1908: 90).

[47] あるいは Jud が言うように pouliche 形が poutre の消失した後を補ったと考えるべきであろうか。Jud und Jaberg (1908: 81).

roncine、roncie 形も衰退していく。他方で南フランスあるいはイタリアから cavale が侵入し、一時は書き言葉の中で用いられ jument と勢力争いを繰り広げるが、それもわずか一世紀で周辺へと追いやられ、最後は南フランスと北部の方言の中だけで生き残った。

2.4. ALF におけるその他の語形

長い歴史の中にはたくさんの「雌馬」の下位概念を表す語形が存在したに違いない。ALF No.736 jument の地図にそうした痕跡をいくつか見ることができる。まず英語の mare に当たる mér がワロン地方の地点 190 にある。ソンム県 Somme の地点 263 で jument と併記されている ponèt は言うまでもなく、ponette「雌の仔馬」である。また『ALF 補遺』[48]によると、スイスの地点 969 に bidà = bidet 形があった。以上は説明が簡単であるが、パリ周辺とシャンパーニュ地方に見られる jubin 形はそうはいかない。この語形はドーザが語源不明とみなし[49]、ヴァルトブルク Walter von WARTBURG の『フランス語語源辞典 *Französisches Etymologisches Wörterbuch* 』（以下 FEW）でも同じ扱いを受けている。ALF ではセーヌ・エ・オワーズ県 Seine-et-Oise の地点 227 で観察される。またエーヌ県 Aisne の地点 230 とマルヌ県の地点 128 では jumã、jimã 等と併記されているが、いずれも古形という注記がある。たいへん興味深いことだが、ALF から半世紀以上経った後にパリ周辺部で方言調査を行ったシモーニ・オランブ Marie-Rose SIMONI-AUREMBOU は、『イル・ド・フランス、オルレアン地方言語民族誌地図』（ALIFO）の No. 540 jument の地図の上に、広い領域で jumã と jubin を記載することになる。また『シャンパーニュ、ブリー地方言語民族誌地図』(ALCB)の No.896 (une) jument でも、ブルスロ Henri BOURCELOT はマルヌ県の複数の地点で jubin を唯一の語形として記載した。ALF の古形という注記は被調査者たちの個人的な見解に過ぎないと考えられる。彼らはエドモンから質問を受け、おそらく上位概念を中心に答え、周辺的と判断した jubin のことを古形と答えたのだろう[50]。ALIFO の欄外注を見てみると、jubin が「雌馬」の下位概念的な語形であることが容易に理解できる。たとえば地点 5 では「馬車用」とあり、地点 9 では「仔馬を産んでいない雌馬」の意味で、地点 10 では「速歩の雌馬」を指し、地点 59 では「bidè のように、2 輪馬車用の雌馬を jubin と呼んでいた」とある。このように jubin には様々な付加的意味があった。

これと反対に明らかに上位概念を中心に据えた回答も ALF には複数見られる。「馬 cheval」という最上位概念かつ通性的な語形を使用した回答がそれである。オワーズ県 Oise の地点 253 に gvœ̀ = cheval がある。モルビアン県 Morhihan の地点 486 では jument と共に bét dė ɛwa = bête de cheval が用いられ、スイスの地点 989 にも tsévà = cheval がある。ドーザによれば、こうした通性的な cheval 形の使用は jument と cavale の境界地域に起きるという。なぜなら境界地域では新たに移入される語形がないままに、古い語形（èga 形）が消失するからである[51]。地理的基準からすれば一見もっともらしい解釈なのだが、地点 486 では通性形が jument と併用されており、新たに移入された語形が存在することは疑いの余地がない。ドーザのこの解釈ではパ・ドゥ・カレ県 Pas-de-Calais とソンム県 Somme における ALF の回答も同じ様に説明されることになる。両県では jument がほぼ全域に広がる中で、地点 276、278、279、285、288、289 において bèt à pulã = bête à poulain が見られる。地点 276 では同語形が jument と併用される。さらにコート・デュ・ノール県 Côtes-du-Nord でも地点 481 で bét、482 で bèt (= bête)の回答がある。

ALIFO の欄外注のように、一つの語形 jubin でさえ様々な下位概念的意味があった。また ALF には明らかに上位概念の語形を用いて回答したと思われる地点が複数あった。これらのことから、ALF の調査

---

[48] Gilliéron et Edmont (1920: 113).
[49] Dauzat (1921: 27).
[50] 標準形が広く分布するパリ周辺部で行われた ALF の調査には同種の問題が少なくない。たとえば Kawaguchi (1994)における接尾辞-ette の分析を参照。
[51] Dauzat (1921: 27).

は必ずしも「雌馬」の下位概念を表すような方言語彙をうまく拾い集めることができていないばかりか、上位概念が中心の地図上に複数の下位概念を表す方言形が複雑に混ざっていると考えられる。

3.「雌馬」の下位概念とその命名をめぐって

タポレ Ernst TAPPOLET は「雌馬」の下位概念とその命名をめぐる問題の本質にいち早く気づいた研究者であった。彼は 1913 年のフランス語圏スイスにおける家畜の命名に関する論考において、「雌馬の語形は、より大きな領域に拡がっている語形(kavala、ega、jument)であるか、あるいは単に孤立して生起するかによって、はっきりと二つのグループに分かれる」[52]と指摘した。タポレの分析から直接に刺激を受けたかどうかは定かではないが[53]、四半世紀後の 1939 年にウダード WOODARD が師であるホームズ Urban T. HOLMES の始めた分析を引き継ぐ形で *Language Dissertation* の第 29 号として発表した『フランス語とプロヴァンス語における馬の語形：方言学における研究』は「雌馬」の下位概念を考察する時、今日でもその価値を全く失っていない。「雌馬」の下位概念という観点からウダードの分析を整理し直すと、表 2 のような結果になる[54]。

表 2　ウダード(1939)における「雌馬」の下位概念と語形

下位概念	語形　「意味」
色彩	brunelo 「灰色の」、morette 「黒い」
価値	bronna、bèrègne、carne 「悪い」、zigue 「無価値の」
機能	bidette、bidet 「乗馬用の」
容姿	haquenée 「小格馬」、harin 「消耗した」、bida、bidette、cavalelo 「小さい」、caneio 「中くらいの」、chivalas、cavalasso 「太った」、pèque、rique 「痩せた」
生殖	pourie、pourière 「仔馬を産んだ」、puryero 「子連れの」、poute、poutre 「未交尾の」、mulassière 「ラバを産んだ」、vassive 「発情中の」
年齢	aridelle、hene、karkevala、marghalla、poutra 「老いた」、poeudra、poultre、poutrenne、soradze、soreindja、vasif 「若い」、paudra、pudra 「２歳で若い」
歩法	houine、ouine 「嘶き扱いにくい」、carcan、mosquiu 「御しにくい」、bidète、haguette、haquenage、lambrino 「側対歩で進む」
その他	killa、mare、koumala、ruga 「雌馬」

下位概念を見てみると馬の様々な特徴を規準にしていることがわかる。「その他」の語形は意味が「雌馬」と記されているため、jument とほぼ同義と考えられる。表２の語形のうち ALF No.736 jument の地図には bida、bidette、mare のみが現れる。ウダードはその当時入手できた様々な方言集と FEW をデータとして分類を行ったが、それでも網羅的な語彙集とは言えない。表２の中で bidette 形は「機能」と「容姿」の両方に現れ、さらに bidète も類似の語形だとすれば「歩法」にも関連する。このように、ある語

[52] “Die Stutenwörter teilen sich scharf in zwei Gruppen, je nachdem sie auf einem größeren Gebiet übhch sind (*kavala, ega, jument*) oder nur ganz vereinzelt auftreten:”. Tapollet (1913: 104).
[53] Woodard (1939)の膨大な参考文献の中に Tappolet (1913)がないことから、おそらくは参照していないと思われる。
[54] 単語の詳細な意味と使用地域については WOODARD (1939)を参照されたい。

形が jument と同義的あるいは類義的であると判断する時は、とくに対象が方言形の場合には、どれほど慎重に判断しようともし過ぎることはない。このことは語の置き換わりが同音衝突に深く関連していると主張する時も同じであろう。

おわりに

以前、筆者はフランス北東部における「稲光 éclair」を指す方言形を地域別言語民族誌地図を用いて分析したことがある[55]。俗に「雷」と呼ばれる自然現象には三つの構成要素が関わっている。「落下」と「音響」と「発光」である[56]。歴史的にもそれぞれが異なる語形に対応していた。ごく簡単に言うと、ラテン語では fulgur、tonitrus、fulmen、古フランス語では foudre、toneire、espart、現代フランス語では foudre、tonnerre、éclair である。ところが興味深いことに ALF には foudre の項目がない[57]。No.1913 に tonnerre があるものの南フランスのみを対象にしている。結局 No.438 の éclair だけが全域で調査され、語形に関して研究ノートが書けるくらい方言形の種類が豊かである。このことは fourdre「落下する雷」が最上位の概念[58]であり、それゆえ方言的変異が少なくジリエロンが調査項目に選ばなかったのかもしれない。それに対して éclair「発光する雷」の語形は激しい有為転変を経験した。ラテン語の flumen は古フランス語で espart に置き換わり、espart は 15 世紀まで命を繋いだが、やがてフランス西部からやって来たと思われる éclair に圧倒されて書き言葉から姿を消した。「雷」を表す éclair と foudre と tonnerre のように、ALF の質問項目と方言形を上位概念・下位概念という観点から調べ直してみることは案外重要かもしれない。ALF には方言変異が極端に多い地図と非常に少ない地図があることは、ALF を詳細に調べるまでもなく明らかであり、ALF を少しでも見たことのある人ならば誰でも気づくことだからである。

参考文献

Boisgontier, Jacques. 1984. *Atlas linguistique et ethnographique du Languedoc oriental (ALLOr)*, Vol. II, Paris: Editions du C.N.R.S.

Bourcelot, Henri. 1966–1978. *Atlas Linguistique et Ethnographique de la Champagne et de la Brie*, Vol. I–III, Paris, Editions de C.N.R.S.

Brun-Trigaud, Guylaine, Yves Le Berre et Jean Le Dû. 2005. *Lectures de l'Atlas linguistique de la France de Gilliéron et Edmont Du temps dans* l'espace, Editions du Comité des travaux historiques et scientifiques (CTHS).

Coseriu, Eugenio. 1975. *Die Sprachgeographie*, Tübingen.

Dauzat, Albert. 1914. "Essais de géographie linguistique (Suite) II. - Noms de femelles", *Revue de philologie française et de littérature* 28e année, pp. 161-185.

Dauzat, Albert. 1922. *Géographie linguistique*, avec 7 figures dans le texte, Paris : Flammarion.

Dauzat, Albert. 1944. *Géographie linguistique*, 9 cartes, Paris : Flammarion.

Desmet, Piet, Peter Lauwers et Pierre Swiggers. 2002. "Le développement de la dialectologie française avant et

[55] Kawaguchi (1998).

[56] 類似の発想は Goeman et al. (1988: 18)にもすでに見られる。

[57] それどころかロレーヌ地方言語民族誌地図(ALLR)の No.28、ブルゴーニュ地方言語民族誌地図(ALB)の No.23、フランシュ・コンテ地方言語民族誌地図(ALFC)の No.16 の foudre の地図を見ても foudre 形はほぼ存在せず、代わりに tonnerre、feu du ciel 形が見られる。

[58] Göhri (1912: 36)は foudre を「雷鳴」tonnerre と「稲光」éclair の中間にある語彙とした。文語的と言えるかもしれない。

après Gilliéron”, *Géographie linguistique et biologie du langage: Autour de Jules Gilliéron,* Lauwers Peter. Marie-Rose Simoni-Aurembou et Pierre Swiggers (éd.), *Orbis Supplementa* 20, Peeters, pp. 17-64.

Gamillscheg, Ernst. 1928. *Die Sprachgeographie und ihre Ergebnisse für die allgemeine Schprachwissenschaft*, Bielefled und Leipzig: Verlag von Velagen & Klasing.

Gardette, Pierre. 1967. *Atlas linguistique et ethnographique du Lyonnais (ALLy)*, Vol. I, Paris: Editions du C.N.R.S.

Gardette, Pierre. 1971. “Frontières linguistiques et limites intérieures en Lyonnais d’après l’ALLy”, *Les dialectes romans de France à la lumière des Atlas régionaux*, pp. 141-171.

Gilliéron, Jules. 1918. *Généalogie des mots qui désignent l’abeille d’après l’Atlas linguistique de la France*, Paris: Librairie Ancienne Honoré Champion.

Gilliéron, Jules et Jean Mongin. 1905. “Etudes de géographie linguistique *Scier* dans la Gaule romane du sud et de l’est”, Paris: Honoré Champion.

Gilliéron, Jules et Jean Mongin. 1907. “Études de géographie linguistique IX LE SEL”, *Revue de philologie française et de littérature* 21, pp. 292-296.

Gilliéron, Jules et Edmont Edmond. 1902. *Atlas linguistique de la France Notice servant à l’intelligence des cartes*, Paris: Honoré Champion.

Gilliéron, Jules et Edmont Edmond. 1902-1920. *Atlas linguistique de la France*, Paris: Honoré Champion.

Gilliéron, Jules et Edmont Edmond. 1920. *Atlas linguistique de la France Suppléments* tome premier, Paris: Librairie Ancienne Honoré Champion.

Goeman, A.C.M., H. Hogerheijde et P.J. Meertens. 1988. “Tonnerre, foudre, éclair”, *Atlas Linguarum Europae (ALE)*, vol.1 – Cemmentaires, Van Gorcum, Assen/Maastricht, Pays-Bas, pp. 3-78.

Göhri, Karl. 1912. *Die Ausdrücke für Blitz und Donner im Galloromanischen. Eine onomasiologische Studie (mit 4 sprachgeographischen Karten*), Inaugural-Dissertation, Universität Zürich, Hamburg.

Jud, Jakob und Karl Jaberg. 1908. “Sprachgeographische Untersuchungen I. Poutre, II. Arocher, garocher, garoter, rocher, rucher - werfen”, *Archiv für das Studium der neueren Sprachen und Literaturen* 120, pp. 72-98.

Kawaguchi, Yuji. 1994. “Suffixe *–ette* (< lat. *–itta*) en Champagne et en Brie à la lumière des Atlas Linguistiques”, *Zeitschrift für romanische Philologie* 110 (3-4): pp. 410-431.

Kawaguchi, Yuji. 1995. “Extension du français moyen dans les dialectes (ALIFO, ALCB)”, *Parlure 7-8-9-10, Mélanges offerts au Professeur Jacques Chaurand,* pp. 259-275.

Kawaguchi ,Yuji. 1998. “Éclair dans les dialectes du Nord-Est de la France”, *Vox Romanica* 57, pp.138-155.

Kawaguchi, Yuji. 2001. “À propos de la francisation des dialectes bourguignons”, *Mélanges de dialectologie, toponymie, onomastique, offerts à G. Taverdet*, vol.1, pp. 255-274.

Kawaguchi, Yuji. 2007. “Is it possible to measure the distance between near languages ? A case study of French dialects”, *Langues proches – Langues collatérales*, L’Harmattan, pp. 81-88.

Kawaguchi, Yuji. 2017. “How Can We Depict Standardization in the Linguistic Atlas? Case Study of Champagne and Brie (ALCB)”, *Philologica Jassyensia* 24.2, pp. 237-250.

Lauwers, Peter. 2002. “Jules Gilliéron: Contrainte et liberté dans le changement linguistique”, *Géographie linguistique et biologie du langage: Autour de Jules Gilliéron,* Lauwers Peter. Marie-Rose Simoni-Aurembou et Pierre Swiggers (éd.), *Orbis Supplementa* 20, Peeters, pp.79-112.

Meillet, Antoine. 1921. *Linguistique historique et linguistique générale*, Paris: Librairie ancienne Honoré Champion.

Meillet, Antoine. 1925. *La méthode comparative en linguistique historique*, Oslo: H. Aschehoug & Co. (W.

Nygaard).

Nauton, Pierre. 1956. “Atlas Linguistique et Ethnographique du Massif Central”, *Revue de linguistique romane,* 20, pp. 41-65.

Nauton, Pierre. 1955-61. *Atlas Linguistique et Ethnographique du Massif Central (ALMC)*, Vol.I-IV, Paris: Editions du C.N.R.S.

Poirot, Jean. 1913. “Lorrain *pmot, kmot* = pomme, pomme de terre”, *Neuphilologische Mitteilungen* 15, pp. 83-87.

Pop, Sever et Rodica Doina Pop. 1959. *Jules Gilliéron vie, enseignement, élèves, œuvres, souvenirs,* Centre international de Dialectologie générale, Louvain.

Simoni-Aurembou, Marie-Rose. 1973-1978. *Atlas linguistique et ethnographique de l'Ile-de-France et de l'Orléanais : Ile-de-France, Orléanais, Perche, Touraine*, Vol. I et II, Paris, Éditions de C.N.R.S.

Tappolet, Ernst. 1913. “Die Ursachen des Wortreichtums bei den Haustiernamen der französischen Schweiz“, *Archiv für das Studium der neueren Sprachen und Literaturen* 131, pp. 81-124.

Woodard, Clement Manly. 1939. *Words for Horse in French and Provençal: A Study in Dialectology*, *Language* 15, No.2, *Language Dissertation* No.29, pp.5-84.

Base Textuelle Frantext. http://www.frantext.fr/

Corpus de la littérature médiévale en langue d’oïl des origines à la fin du XVe siècle Prose narrative – Poésie – Théâtre, Champion Électronique, 2001.

Godefroy, Frédéric. 1891-1902. *Dictionnaire de l’ancienne langue française et de tous ses dialectes du IXe au XVe siècle*, Paris: Librairie Émile Bouillon.

Grand Corpus des grammaires françaises, des remarques et des traités sur la langue (XIVe-XVIIe s.), Classique Garnier Numérique. https://www.classiques-garnier.com/numerique/

Tobler-Lommatzsch. 2002. *Altfranzösisches Wörterbuch*, Edition électronique conçue et réalisé par Peter Blumenthal et Achim Stein, Stuttgart: Franz Steiner Verlag.

Trésor de la langue française informatisé. http://atilf.atilf.fr/tlf.htm

Wartburg, Walter von. 1922-2002. *Französisches Etymologisches Wörterbuch* (FEW), Tübingen: J.C.B. Mohr. https://apps.atilf.fr/lecteurFEW/

執筆者連絡先： **ykawa@tufs.ac.jp**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.19-24.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.19-24.

〈研究ノート〉

コイサン音韻類型論のための語彙資料収集と整備
ーナロ語事例の初期報告ー[1]

Khoisan lexical data organization for phonological typology
ーan initial report on Naro

柳村 裕
Yu Yanagimura

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies,Institute of Global Studies

要旨:
本稿では，コイサン諸語の通言語比較による音韻類型論的研究へ向けて，ナロ語の語彙資料の収集・整備・集計の初期報告を行う．現在，コイサン諸語の音韻構造の解明および通言語比較による音韻類型論的特徴の解明を目的としたプロジェクトが進行中であり，そこではコイサンの複数の言語を対象に共通の枠組みを用いた語彙資料の収集・整備・集計を行う（Nakagawa 2014）．本稿では，ナロ語を事例として，この語彙資料の収集・整備・分析の手順を実演する．また，その初期的成果として，ナロ語の形態素の音素配列パターン，形態素内の各位置での子音音素の目録，およびそれらの頻度に関する現時点での集計結果を提示する．集計結果から，今回提示した語彙資料の収集・整備・集計の手順が，コイサン諸語の音韻構造の記述と通言語比較のために有効な手法であることが確認された．

Abstract:
This paper presents an initial report on collecting and organizing the lexical materials of Naro. Currently, a research project is in progress aimed at elucidating the phonological-typological features of Khoisan languages by cross-linguistic comparison, in which the same procedure is applied to several Khoisan languages for collecting, organizing and analyzing lexical materials. This paper demonstrates the procedure by organizing Naro material and shows current observations on the phonotactic and distributional patterns and frequency of click consonants. It is confirmed that the procedure of collecttion and organization of lexilcal items is an effective way for phonological description and cross-linguistic comparison of Khoisan languages.

キーワード: コイサン，ナロ，音韻論，類型論，音素配列，クリック，頻度
Keywords: Khoisan, Naro, phonology, typology, phonotactics, click, frequency

1. 導入

本稿は，科研プロジェクト「稀少特徴と言語地域の音韻類型論：コイサン音韻論の貢献」（代表者：中川裕；2016–2020 年度）の一部の報告である．このプロジェクトは，広範囲にわたるコイサン諸語の音韻構造の解明と，それらの通言語比較による汎コイサン語音韻論の類型論的プロファイルの解明を目的とする．通言語比較のために，共通の分析枠組みを用いて各言語の 1 次資料を分析する．現在，複数の調査対象言語で，資料の収集・整備・分析が進行中である．

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 本研究は JSPS 科研費 JP16H01925 の助成を受けたものである．本稿は，The First Meeting of the Khoisan Phonological Typology Project（2016 年 10 月 17–21 日，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）での口頭発表を加筆修正したものである．発表で有益なコメントを下さった参加者の皆様に感謝申し上げる．

本稿では，ナロ語を事例として，このプロジェクトでの語彙資料の収集・集計手順を提示する．また，その成果として，ナロ語の音素配列パターンや音素の分布・頻度に関する現段階での集計結果を提示する．

2. 方法

2.1. 資料

Naro dictionary: Naro-English; English-Naro（Visser 2001）の見出し語項目からナロ語語彙を収集した．調査票は "KBA 700-word questionnaire" と "KBA 105-word body-parts questionnaire" を用いた（Naumann 2011）．両リストで重複する項目を除いた 749 項目を対象とし，Visser (2001) に記載のあった 625 項目のナロ語語彙が得られた．

調査票の一つの項目に対して複数のナロ語項目が見つかった場合でも，対象を 1 項目に限定した．その際，まず形態的に，より単純な形式と考えられるものを優先した（単純語，単一形態素）．また，意味的には多義でないもの（当該意味のみが記載されているもの）を優先し，多義的な項目同士では，当該意味が第一義として記載されているものを優先した．なお非コイサンからの借用語であると明記してあるものは対象から除外した．（ただし後述のように，借用語と明記されていない項目であっても，借用語が含まれていた可能性がある．）

2.2. 形態素の同定

上記で得られた 625 語彙項目を形態素へと分析した．形態および意味から見て複合語・派生語であることが明白な語は，語根・接辞へと分割した．複数の項目が単一の多義的形態素であることが明白な場合は，それらを単一の形態素とし，1 項目として数えた．以上により 547 個の形態素が得られた．

2.3. 集計

収集した形態素 547 項目を「コサイン音素配列テンプレート」および「通コイサン子音チャート」に従って分類・集計した（Nakagawa 2014）．これは，コイサン諸語の音韻構造に関して，これまでに蓄積された知見から得られた通言語的一般化であり，また，それに基づいて設計された調査指針の枠組みである．本稿ではこの二つの枠組みに従ってナロ語彙資料を分類・集計する．

コイサン音素配列テンプレートは，コイサン諸語の形態素の音韻的構造，すなわち音素配列パターンを，少数の型として一般化したものである．現時点での一般化としては，事実上すべてのコイサンの形態素が，同テンプレートのいずれかの型に分類される．ここでは，Nakagawa (2014) より，本稿の集計に関連する型のみを提示する．O は形態素初頭位置の子音（onset），C_m は形態素内部位置の子音（medial），N は鼻子音を表す．

コイサン音素配列テンプレート

1. Bimoraic template
   - (i) $OV_1C_mV_2$
   - (ii) OV_1V_2
   - (iii) OV_1N
2. Monomoraic template
   - (i) C_0V_0
   - (ii) N
3. Combination of the two

(i) Trimoraic
(ii) Non-derived reduplicated form

形態素内の各位置では音素の分布に関して異なる制限がある．本稿では O および Cm に現れる子音音素の種類およびその頻度を集計した．

通コイサン子音チャートは，コイサン諸語における語根頭に潜在的に現れる可能性のあるすべての子音（あるいは子音複合）を網羅的に分類したものである（Nakagawa 2014）．本稿ではその全体の提示は省くが，そのうちナロ語に関連する部分のみを抜き出したものを表 2 と表 3 に示す．従来の IPA の枠組みとは異なり，縦軸には調音法と喉頭特徴を含む拡張系列（シリーズ）をとる．横軸にはクリックおよび破擦性を含む拡張調音点（タイプ）をとる．この枠組に従い，観察されたナロ語子音音素を分類・集計する．

3. 結果

集計結果を提示する．3.1 では形態素の音素配列パターンとその頻度を示す．3.2 では形態素内の各位置での音素目録とその頻度を示す．

3.1. 音素配列

コイサン音素配列テンプレートの分類に従い，観察された音素配列のパターンとその頻度を表 1 に示す．表 1 の type frequency 欄の数値は，当該テンプレートに分類された形態素の個数を表し，%欄はサンプル全体（547 形態素）に対する割合を表す．

表 1．ナロ語の音素配列パターンと頻度

		Type frequency (number of morphemes)	%
Monomoraic template		15	2.7%
Bimoraic template	CVCV	159	29.1%
	CVV	289	52.8%
	CVN	47	8.6%
Non-derived reduplicated form		10	1.8%
CUaCa		9	1.6%
Others		18	3.3%
Total		547	100%

表 1 から明らかな通り，サンプルの大部分が，コイサン音素配列テンプレートのいずれかに該当するといえる．2 モーラ型に該当する形態素が最も多く，サンプル全体の約 9 割を占める．2 モーラ型に比べると少ないものの，1 モーラおよび非派生的重複形の各型に該当する例も見られる．以上がテンプレートに分類可能であることが明白な形態素であり，合計で 520 個，サンプルの 95.1%を占める．残りの 27 個は一見テンプレートに従わないものの，以下のように説明可能であるという見通しを持っている．

CUaCa 型（9 例，1.6%）は，分析不可能な単一形態素で，1 音節目に二重母音を持つ 3 モーラ構造である．ここで U は円唇母音を表す．グイ語では円唇母音が音声的に二重母音で実現することがあり（すなわち /U/ → [uᵊ] など）（Nakagawa 2014），ナロ語でも類似の二重母音が観察される（Visser 1998）．

したがって表 1 の CUaCa 型 9 例は 2 モーラ CVCV 型と解釈できる見通しである．また，それ以外の 18 例の多くは，非コイサンからの借用語である可能性が高い[2].

以上より，現時点で収集されたナロ語サンプルの大多数は，コイサン音素配列テンプレートのいずれかに分類できるといえる. 同テンプレートは, ナロ語形態素の音素配列構造を記述するのに十分であり，分析に有効なツールであるといえる．また，ナロ語彙資料の集計結果は，これまでのコイサン諸語の音韻類型論に関する一般化を支持するものであるといえる.

3.2. 子音音素頻度

3.1 の音素配列テンプレートによる分類に基づき，形態素内での位置ごとに，子音音素の目録と頻度を集計した．形態素初頭位置の子音 O と形態素内部位置の子音 C_m の集計結果を順に示す．観察された子音音素を「通コイサン子音チャート」に従って分類した（Nakagawa 2014）．ナロ語に観察された子音音素はすべて同チャート内で分類可能であった.

形態素初頭位置 O では，クリック子音が 340 例（62%），非クリック子音が 196 例（36%）得られた．まずクリック子音の集計・分類結果を表 2 に示す．表 2 の各軸は通コイサン子音チャートに従い，縦軸は調音点と喉頭特徴を含む拡張系列（シリーズ）を表す．横軸は
クリックのタイプ（調音点）である.（クリックに関連するもののみを抜き出してあるため，表 3 とは項目が異なる.）

表 2．ナロ語の形態素初頭位置のクリック子音頻度

	Dental		Alveolar		Palatal		Lateral		Total	
Plain	22	(6.5%)	22	(6.5%)	27	(7.9%)	19	(5.6%)	90	(26.5%)
Voiced	8	(2.4%)	11	(3.2%)	5	(1.5%)	11	(3.2%)	35	(10.3%)
Aspirated	4	(1.2%)	6	(1.8%)	5	(1.5%)	3	(0.9%)	18	(5.3%)
Plain+/χ/	12	(3.5%)	9	(2.6%)	13	(3.8%)	10	(2.9%)	44	(12.9%)
Plain+/qχ'/	9	(2.6%)	4	(1.2%)	2	(0.6%)	8	(2.4%)	23	(6.8%)
Plain+/ʔ/	13	(3.8%)	16	(4.7%)	14	(4.1%)	16	(4.7%)	59	(17.4%)
Nasal	17	(5%)	18	(5.3%)	12	(3.5%)	24	(7.1%)	71	(20.9%)
Total	85	(25%)	86	(25.3%)	78	(22.9%)	91	(26.8%)	340	(100%)

現在のサンプル内で観察された形態素初頭位置での子音音素は，表 2 に掲げたものがすべてである．いずれも通コイサン子音チャート内に分類可能であり，かつその中でギャップも存在しない．ただしその頻度には差があるといえそうである．クリックタイプあるいは拡張調音点（横軸）を比較すると，クリックのタイプによる明確な頻度差は無いようである. 一方, クリックシリーズあるいは拡張調音法（縦軸）には比較的明確な頻度差があることが窺える. plain シリーズの頻度が最も高く, aspirated や plain+/qχ'/ などは少ない.

続いて非クリック子音の集計結果を表 3 に示す．通コイサン子音チャートに従い，縦軸は系列（調音

[2] The First Meeting of the Khoisan Phonological Typology Project での口頭発表時に複数の参加者から受けた指摘による.

法，喉頭特徴を含む)，横軸は調音点（破擦性を含む拡張調音点）を表す.

表 3．ナロ語の形態素初頭位置の非クリック子音頻度

	Labial	Alveolar	Alveolar affricate	Velar	Uvular	Uvular affricate	Glottal	Total
Plain stop	2	23	15	25				65
Voiced stop	4	14	3	7				28
Aspirated stop		4	10	5	3			22
Ejective stop			11			19		30
Plain stop+/χ/		1	1					2
Nasal	5	5						10
Fricative		10			12		13	35
Non-nasal sonorant	1	1						2
Total	12	58	40	37	15	19	13	194

非クリック子音音素もすべて通コイサン子音チャートのいずれかに分類された．ただしクリック子音に比べてギャップが目立つ．拡張調音点（横軸）を比較すると，coronal (すなわち alveolar と alveolar affricate)の頻度が比較的高い．拡張系列（縦軸）の中で plain の頻度が最も高いという点はクリック子音の場合と同様である.

以上，音節初頭位置 O における子音音素の目録と頻度の集計結果を見てきた．観察された頻度差に関してどのような一般化がなされるか，また，他のコイサン諸語とどう関係するかなどの問題が今後の課題となる.

次に形態素内部位置 C_m の集計結果を見る．集計対象は，2 モーラ型のうち CVCV（$OV_1C_mV_2$）構造を持つ 159 例と，同構造を含む非派生的重複型の 6 例，CUaCa 型（$OV_1aC_mV_2$）の 9 例，合計 174 例である．以上の C_m 位置に現れる子音音素の目録と頻度を表 4 に示す.

表 4．ナロ語の形態素内部位置の子音の頻度

	Frequency	%
/r/	72	41%
/b/	44	25%
/n/	28	16%
/m/	16	9%
/j/	5	3%
/w/	0	0%
others	9	5%
Total	174	100%

表 4 を見ると明らかな通り，C_m 位置に現れる子音音素の目録は，O 位置におけるものとは大きく異なる．これまでに知られているコイサン諸語の一般化としては，C_m は /b, r (or l), m, n/ の頻度が高く，/j, w/ の頻度が低く，他の子音の頻度はさらに低い（Nakagawa 2014）．ナロ語の集計結果はこの傾向と一致する．現時点でのナロ語のサンプルには C_m に /w/ を持つ形態素は含まれていなかった．

4. 結語

本稿では，ナロ語を事例として，コイサン諸語の通言語比較のための語彙資料の収集・整備・集計の手順を示した．また，そこで得られた集計結果の初期報告を行った．通コイサン比較のための分析ツールである「コイサン音素配列テンプレート」と「通コイサン子音チャート」を用いて，これらの手法がナロ語語彙資料の分析に有効であることが確認された．さらに，これらのツールの基となっているコイサン諸語の音韻構造に関する一般化が, 現段階で集計に基づく限りナロ語の事例においても確認された．

今後は，ナロ語を含む広範なコイサン諸語を対象に，本稿で提示したものと同様の分析が進められ，類型論的考察のためのコイサン諸語の音韻構造に関する知見が蓄積される．ナロ語では，現在，調査対象語彙の拡大と，今回提示した子音音素の集計結果の分析が進められている．また，今回取り上げなかった母音と声調についても，同様の指針の基に分析する．

参考文献

Nakagawa, Hirosi. 2014. Khoisan comparative phonology questionnaire. 『東京外国語大学論集』88: 145–158.

Naumann, Christfried. 2011. *Lexical questionnaire 700 words* (‘KBA 700-word list’). Unpublished.

Visser, Hessel. 1998. The phonological system of Naro. In Mathias Schladt (ed), *Language, identity, and conceptualization among the Khoisan*: 117–136.

Visser, Hessel. 2001. *Naro dictionary: Naro-English; English-Naro*. Naro Language Project/SIL International.

執筆者連絡先 : yanagimura.yu@gmail.com

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017）, pp.25-45.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.25-45.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

［テーマ企画：特集 情報標示の諸要素］
まえがき
Foreword : Markers of information structure

風間 伸次郎
Shinjiro Kazama

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies,Institute of Global Studies

キーワード：主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. 企画に至った経緯

今号の特集は，前回の特集「情報構造と名詞述語文」に内容的に連続するものである．

例年の方式に倣い，まず日本語による 25 の例文からなるアンケートを作成し，これに答えていただくことによって，各言語のデータを収集することにした．

これにより 17 の言語に関するデータが集まった．これは東京外国語大学にある 27 専攻語のうちの 11 言語にフィンランド語，ハンガリー語，ダグール語，ナーナイ語，エウェン語，ウズベク語を加えたものとなっている．なおモンゴル語のデータはオラド方言とハルハ方言の 2 つの方言のデータからなっている．

これらの言語を語族別に見ると，まずフランス語，イタリア語，ポルトガル語，ロシア語，チェコ語，ペルシア語は印欧語族の言語である．エウェン語，ナーナイ語はツングース諸語，ダグール語，モンゴル語はモンゴル諸語，ウズベク語はチュルク諸語に属するが，これらは（系統ではなく）構造的な類似などの点からアルタイ諸言語としてまとめられることのある言語群である．フィンランド語とハンガリー語はウラル語族，エジプトアラビア語（以下では単に「アラビア語」とする）はアフロ・アジア語族の言語である．マレーシア語はオーストロネシア語族，中国語は（異論もあるが）シナ・チベット語族，とされている．朝鮮語，日本語は系統的に孤立した言語とされている．なおアフリカ，オセアニア，カフカース，新大陸などの諸言語のデータを欠いているため，本稿での以下に展開される類型論的考察はなおきわめて不十分なものであることは否めない．

主題卓越型と主語卓越型の対立に関する Li and Thompson (1976) の研究は，情報構造と統語構造の対立を類型論的な観点から捉えたもっとも著名な研究である．次に，主題標示要素「ハ」を含むとりたて表現の体系は，特に日本語学において発展した情報構造の研究である．不定表現は既知／未知，定／不定，特定／不特定，などの情報上の対立に関するもので，やはり近年類型論の分野で，意味領域地図による通言語的な研究の枠組みが提示されている．なわ張り理論は話し手と聞き手のもつ情報の帰属先に関する理論的研究で，日本の研究者によって提案されたものである．

以上のような研究における情報標示の諸要素に関する研究に基づいて作成したのが，以下のアンケート例文である．

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

１．主題卓越型類型論の軸項について

[1]「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

[2] 「私は頭が痛い．だから今日は休む．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

２．とりたて表現について

[3] あの人**だけ**，時間通りに来た．【限定】

[4] これはここで**しか**買えない．【限定・否定との共起】

[5] その家にいたのは子供**ばかり**だった．【限定・多数】

[6] 次回**こそ**，失敗しないようにしよう．【限定・強調】

[7] 疲れたね，お茶**でも**飲もう．【反限定・例示】

[8] 水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ．【極端・意外】

[9] 小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた．【極端・意外】

[10] 私はお金**なんか**欲しくない．【反極端・低評価】

[11] 自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい．【反極端・最低限】

[12] 私に**も**ちょうだい．【類似・累加】

[13] お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？【反類似・対比（疑問）】

３．不定表現について

[14] 「**誰か**（が）電話してきたよ．」【特定未知（specific unknown）】

[15] 「**誰か**に聞いてみよう．」【非現実不特定（irrealis non-specific）】

[16] 「私のいない間に**誰か**来た？」【疑問（question）】

[17] 「**誰か**来たら，私に教えてください．」【条件節内（conditional）】

[18] 「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」
【間接（全部）否定（indirect negation）】

[19] 「そこには今**誰も**いないよ．」【直接（全部）否定（direct negation）】

[20] 「（それは）**誰でも**できる．」【自由選択（free-choice）】

[21]「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか!?」【自由選択を示す「みんな」】

[22] 「そんなもの，**誰が**買うんだよ!?　誰も買うわけないじゃないか！」【反語】

４．なわ張り理論について

[23] 「君は英語がうまい**ね**．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

[24] 「君は退屈そうだ**ね**．」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

[25] 「明日も寒いらしい**よ**．」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

以下では，上記の 4 つの問題点とその理論的背景について，それぞれ節を立て，その問題点の所在について説明し，さらに今回のその調査結果についてまとめる．

2. 主題卓越型と主語卓越型の対立に関する類型論と統語的軸項について

2.1. 先行研究 ― Li and Thompson (1976) ―

Li and Thompson (1976) は，以下のような類型論的な分類を提案した．

(a) 主語卓越の言語（subject-prominent language）：印欧語，ニジェール＝コンゴ，フィン＝ウゴル，セム，インドネシア語，マダガスカル語など
(b) 主題卓越の言語（topic-prominent language）　例：中国語，ラフ語（ロロ-ビルマ），リス語（ロロ-ビルマ）など
(c) 主語卓越であり，主題卓越でもある言語　例：日本語，朝鮮語など
(d) 主語卓越でもなく，主題卓越でもない言語　例：タガログ語，イロカノ語（フィリピン）など

こうした類型に分ける根拠，各類型の示す特徴について述べられていることを要約する．
①（定である）主題は文をまたいで続いていく（【筆者註】日本語の係助詞としての「ハ」が想起される）．
②主題は文頭に起こる．
③主題卓越の言語では，主題の表層コーディング（標示）があるが，主語の表層コーディングは必要ではない．日本語と朝鮮語のような主語卓越・主題卓越の両方の特徴を持つ言語では，主題と主語についてそれぞれの形態素標示を持っている．
④受動構文が主語卓越の言語ではよく用いられる．それに対して，主題卓越の言語では，受動化が現れない(たとえば，ラフ語，リス語)，もしくは，たとえ受動化が現れるにしても，周辺的な構造で現れ，会話ではまれにしか用いられない（たとえば，北京官話），あるいは特別な意味を持つ（たとえば，日本語の「迷惑の受身」）ことがほとんどである．主題卓越の言語において受動が相対的にあまり重要ではないことは，次のように説明しうる．主語卓越の言語における主語の概念は基本的なものであるので，もし動詞がその主語として指定する名詞以外の名詞が主語となる時，この動詞は義務的にこの非典型的主語選択を示すためにマークされなければならない．これに対し，主題卓越の言語においてはこのような操作を必要とせずに任意の名詞を主題にすることができる．
⑤主語卓越の言語には，いわゆる代役主語（It is raining. のit）があるが，主題卓越の言語にはない．
⑥あらゆる主題卓越の言語は，「魚は鯛がおいしい」「私は頭が痛い」のようなタイプの二重主語文を持つ．こうした文の主題は動詞との選択関係をもたない．純粋な主語卓越の言語はこのような文を持たない．
⑦主題卓越の言語では，主題が統語的軸項（pivot）として
那棵树叶子大，所以我不喜欢_____。
Nèike shù yèzi dà, suǒyi wǒ bu xǐhuān _____.（nèike shù (that tree) が省略可能である）
“That tree (topic), the leaves are big, so I don’t like it.”
那块田稻子长得很大，所以_____很值钱。
Nèi kuài tián dàozi zhǎngde hěn dà, suǒyi _____ hěn zhìqián.（nèi kuài tián (that piece of land) が省略可能である）
“That piece of land (topic), rice grows very big, so it (the land) is very valuable.”

最後に，この 3 類型は連続体をなしているとし，下記の図を提示している．

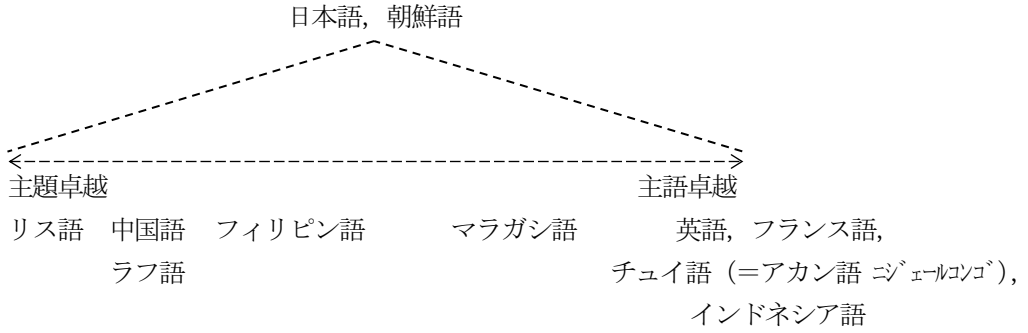


図 1: Li and Thompson (1976) における主語卓越と主題卓越の類型の概念図

2.2. アンケート例文のねらいと分析の基準，および調査結果

以下では若干のコメントを加えるとともに，今回のアンケート（以下本アンケートとする）で使用する文との関係を述べる．Li and Thompson (1976)は主語卓越対主題卓越の類型を提案してはいるものの，これを分類する客観的基準を示しているわけではなく，多くの言語についてどの類型に属するかを確定したわけでもない．複数挙げている基準のうち，どれが決定的な判断基準で，どれが副次的な判断基準であるともしていない．3 類型は連続的なものとしているので，各言語は複数あげている基準のどれくらいを満たすかによって，上記の図の特定の位置に位置づけられるものと考えられる．

上記の①については，昨年度のアンケートである程度検証した．

②，③については，本アンケートの多くの文で検証されるものと考える．④については，本論集 14 号の受身特集で得られた例文を再検討することができる．⑤については，本論集 16 号の(20)明日は雨が降るそうだ，および 19 号の(17)b. 今日は寒い，を再検討することができる．さらに，存現文も主題が存在しない，もしくは場所が主題となるという点で情報構造の研究にとってきわめて重要であるが，これについては 18 号の所有・存在表現の特集で得られた例文を再検討することが可能である．ただし，このような④～⑤の分析に関しては今号で扱っていない．今後の課題とする．

⑥および⑦については今号の特集における下記のアンケート文で検討する（再掲）．

[1]「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

[2] 「私は頭が痛い．だから今日は休む．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

この 2 文に関して，次のような基準から分析し，対象となる言語を分類した．

基準 a．二重主語文が現れ，その総主語／大主語（＝主題）が統語的軸項として機能する．
基準 b．場所などを示す前置詞句など，いわば斜格項が主題的に機能し，統語的軸項として機能する．
基準 c．主語でなければ統語的軸項になれない．

分類結果
A（基準 a を満たす言語）：ダグール語，中国語，朝鮮語
B（基準 b を満たす言語）：フィンランド語，ハンガリー語，マレーシア語，モンゴル語，ウズベク語
C（基準 c を満たす言語）：フランス語，イタリア語，ロシア語，アラビア語??

主語でなければ統語的軸項になれない C の言語は，（少し判断に問題のあるアラビア語を除いて）ヨーロッパの印欧語に偏っていることがわかる．逆に主題軸項型の A の言語は先行研究でもそうした位置づけがなされていた中国語をはじめ，東アジアの言語に偏っている．B の言語群には特に偏りが見られないが，基準 b とその分類結果に関しては今後のさらなる研究・考察が必要であると考えている．

Aのうち朝鮮語には主題を明示する要素がある．しかし日本語と異なり，主題が主語よりも必ず統語的軸項として優先されるとは限らない．[1]で日本語では「この土地<u>に</u>は野菜が良く育つ．だから高い値段で売れるだろう」と「に」を加えても，依然主題の方が統語的軸項として優先的に解釈されるが，朝鮮語では位格を加えた場合，軸項は「土地」とも「野菜」とも解釈しうるという．

イタリア語のデータがもっともよく主語卓越型言語，つまりCの言語の特徴を示している．[1] [2]の 2 例とも，1 文目で「**この土地は**豊富な収穫を与える」「**私は**頭の痛みを持つ」のような表現を用いることによって，2 文目の主語を 1 文目の主語に据えている．つまり，他の多くの言語では「土地」や「私」は斜格項

（場所格や属格）となっているのだが，これに対しイタリア語では，その意味役割が場所や持ち主である「土地」「私」を主語に据えることによって，2 文目の主語に備えて 1 文目においてすでに統語的軸項を調整しているということである．

以下では，個別の各言語に関してさらに若干の考察を加える．

フランス語，イタリア語，ポルトガル語，ロシア語では，性の区別とそれによる人称代名詞の一致があり，[1]ではイタリア語を除くどの言語でも「土地」が女性名詞で 1 文目の斜格項であるため，2 文目では女性の代名詞を明示して主語の交替を明示しなければならない（イタリア語では男性名詞だが，原理と状況は同じである）．ロシア語の[1]のデータには 2 文目で女性の代名詞を明示して主語の交替を明示しなければならないことが指摘されている．これを省略すれば，当然 1 文目で主格複数形で表れている ovošči「野菜（pl.）」が主語と解釈されてしまうからであろう．

フィンランド語およびハンガリー語の[2]においては, 2 文目で動詞の人称と数の標示があるため主語の転換はこれで明示される．

アラビア語の[1]は文意のまま訳されなかった．逆にこのことは話者が日本語の文さえも主語卓越型として解釈してしまったと言う事かもしれない．

ダグール語では，モンゴル語で許されないような二重主語文が（[1][2]の両方において）成立している．したがってAに分類したが, その[2]は主語明示型の文とみるべきかもしれない. 動詞にも人称標示がある．モンゴル語オラド方言の[2]にも二重主語文が現れている．

マレーシア語では二重主語文が許されないが，[1]で (di) tanah ini「この土地（で）」において前置詞 di が現れなければ，これは二重主語文に一歩近づいたものとみることができよう（詳しくは各言語のデータを参照されたい）．

3. とりたてに関する対照研究

3.1. 先行研究 — 野田 (2015a), 野田 (2015b) を中心に

野田 (2015a)は，日本語が高コンテクスト言語で，英語が低コンテクスト言語だという通説がある，とした上で，これには反例も多くあり再検討が必要であることを述べている．さらに，次のように諸言語における「とりたて表現」の研究の必要性を唱えている．

> 今後，高コンテクスト言語と低コンテクスト言語に関連した研究を発展させていくためには「日本語は高コンテクスト言語で，英語などは低コンテクスト言語だ」という先入観を捨て，むしろそれとは反対のように見える言語現象を発掘していく必要がある．そうすれば，それぞれの言語でどんな部分を言語的に明示し，どんな部分をコンテクストに任せて聞き手に推論させているのかといった新しい枠組みでの研究が可能になる．新しい枠組みでの研究の可能性としては，たとえば「も」「さえ」「でも」のような「とりたて表現」の使い方が言語によってどう違うかを明らかにすることが考えられる．日本語の「とりたて表現」が表す意味は，次の表 1 のような体系にまとめることができる．

表 1: 日本語のとりたて表現の意味の体系

	例		例
限定	「だけ」(限定),「しか」（限定）など	反限定	「でも」（例示),「も」（柔らげ）など
極端	「まで」(意外),「さえ」（意外）など	反極端	「なんて」（低評価),「ぐらい」（最低限）など
類似	「も」（類似）	反類似	「は」（対比）

この表 1 の左半分にある「限定」「極端」「類似」の意味を表すとりたて表現は，日本語でも，英語をはじめとするヨーロッパ諸語でも，同じように使われることが多い．（中略）

一方，表 1 の右半分にある「反限定」「反極端」「反類似」の意味を表すとりたて表現は，日本語では使われるが，英語をはじめとするヨーロッパ諸語ではあまり使われない．（中略）このように「限定」「極端」「類似」を表すとりたて表現は，日本語でもヨーロッパ諸語でも言語的に明示することが多い．それに対して「反限定」「反極端」「反類似」を表すとりたて表現は，日本語では言語的に明示することが多いが，ヨーロッパ諸語では言語的に明示しないで，コンテクストに任せて聞き手に推論させることが多いと言える．それぞれの言語で，どのようなときにどんなとりたて表現が使われ，どのようなときにどんなとりたて表現が使われないかについて，さらに詳しい研究が必要である．

野田 (2015a: 126-128, 表番号は改変した)

野田 (2015b) では，実際に日本語とスペイン語を対照し，上記のような仮説があてはまることを示している．

上記の点に関する検証については，下記の文を用いる（再掲）．

[3] あの人**だけ**，時間通りに来た．【限定】
[4] これはここで**しか**買えない．【限定・否定との共起】
[5] その家にいたのは子供**ばかり**だった．【限定・多数】
[6] 次回**こそ**，失敗しないようにしよう．【限定・強調】
[7] 疲れたね，お茶**でも**飲もう．【反限定・例示】
[8] 水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ．【極端・意外】
[9] 小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた．【極端・意外】
[10] 私はお金**なんか**欲しくない．【反極端・低評価】
[11] 自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい．【反極端・最低限】
[12] 私に**も**ちょうだい．【類似・累加】
[13] お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？【反類似・対比（疑問）】

アンケート例文では，表 1 にないとりたて助詞を 2 つ（「こそ」，「ばかり」）扱っているので，これらも含めて扱っている他の先行研究におけるとりたて助詞の体系を見ておく．日本語記述文法研究会（編）(2009: 4-8) では，次のように体系化している（今回の調査で扱っていない形式などは省略した）．

表 2: 日本語記述文法研究会（編）のラベル付け

累加	も
対比	は
限定	だけ，しか，ばかり，こそ
極限	さえ，まで
評価	なんか，くらい
ぼかし	でも

沼田 (2000: 201) では次のように体系化している（詳しくは原著を参照されたい）．

表 3: 沼田 (2000) によるラベル付けと体系化（一部省略）

	意味	主張		主張と含みの関係	含み		
		断定	自者肯定		断定	自者肯定	他者肯定
も	単純他者肯定	＋	＋	カツ	＋	／	＋
でも	選択的例示	＋	＋	マタハ	＋	／	＋
さえ	最低条件	＋	＋	カツ	＋	／	－不要
まで	意外	＋	＋	カツ	－	－	＋
だけ	限定	＋	＋	カツ	＋	／	－
ばかり	限定	＋	＋	カツ	＋	／	－
しか	限定	＋	－	カツ	＋	／	＋
こそ	特立	＋	＋	カツ	＋	／	±
くらい	最低限	＋	＋	カツ	－	－	－
なんか	柔らげ	＋	＋	カツ	擬制	／	＋
は	対比	＋	＋	カツ	＋	／	対比

なお, マレーシア語のデータにおいて野元氏が記しているように, 少なくとも対比の「は」, 累加の「も」, 限定の「だけ」の 3 者は論理的に相反する事態を示す.

3.2. 調査結果

以下では得られたデータについての考察を，とりたての機能ごとにいくつかのグループに分け，それぞれに節を立てて述べていくことにする．なおその際，当該言語の形式を示す場合には《 》内に，その形式に日本語もしくは英語で対応する意味（のみ）を示す場合には，「 」，“ ” 内に示すこととする．なお，メタ言語的な意味機能の説明のラベルであることを明示する際には，【 】を用いている．

3.2.1. 【限定】の[3]「だけ」，[4]「しか」，[5]「ばかり」

まず限定の[3]「だけ」，[4]「しか」，[5]「ばかり」についてみると，どれも限定であるために，同じ形式をまたがって用いる言語があるが，その状況は以下のように整理できる．

表 4: 【限定】の調査結果

[3][4][5]の3つとも同じ	フランス語，イタリア語，ポルトガル語，ハンガリー語，ロシア語（[5]では別の表現も可），チェコ語，朝鮮語（[4]では二重否定も可），ウズベク語，モンゴル語，エウェン語
[3][4]が同じ	ダグール語（ただし[4]では修飾語の方に限定の要素がついている），ナーナイ語，マレーシア語
[3][5]が同じ	フィンランド語，ペルシア語
3 つとも異なる	中国語，アラビア語

ウラル語族のフィンランド語を除けば，全般的に見てヨーロッパの言語が 3 者の違いに比較的無関心な言語群であると言えそうである．アラビア語には分裂文（名詞述語文）を好むかなり強い傾向があるように思える．類型的に日本語と大きく類似し地理的にも近いにもかかわらず，朝鮮語では《=man》が広い意

味範囲を示し，日本語とはこの点で大きな異なりを見せている．「[4][5]が同じ」という言語がないのは，[3]がもっとも典型的な限定のケースであるためだろう．日本語では，[5]「その家にいたのは子供**ばかり**だった」の文において，「大人もいた」であろうことが含意されるが，アンケートを見る限り，このような意味が確実に含意される言語は少ないようだ．

以下では，個々の形式について観察された特徴や傾向を記しておく．

[3]「だけ」では，アラビア語のみならず，マレーシア語でも疑似分裂文が生じている．これに限らず，しばしば名詞述語文が観察されるので，アラビア語は一般に名詞述語文／コピュラ文による表現の比率が他言語に比べて高いように感じられる．

[4]「しか」は日本語では否定と呼応するものとして捉えられているが，例えば，「[4]' これはここ**以外では**買えない（これはここで**しか**買えない）」と「**以外では**」に言い換えられることを考えると，「しか」は二重否定につながりがある表現と捉えることもできよう．実際に[4]で二重否定が用いられた言語には，イタリア語，ポルトガル語，フィンランド語，ペルシア語，アラビア語，があった．フランス語は[3][4][5]のいずれにも二重否定を用いていた．ロマンス諸語は二重否定を好み，中でもフランス語はその傾向が最も強いと言えそうである．

[5]「ばかり」に関して，アラビア語とダグール語では "all" による表現が観察された．アラビア語で "all" が用いられるのは，上記のアラビア語の名詞述語文志向と関連があるものと考えられる．

3.2.2. [6]「こそ」

次に[6]「こそ」について考察する．日本語記述文法研究会（編）(2009: 4-8) では「こそ」を[3]「だけ」，[4]「しか」，[5]「ばかり」とともに【限定】として扱っているが，他者（寺村の言うとりたての「影」）が命題的に否定されない点で，この 3 者とは異なっている．「こそ」を限定に入れるのは誤りではないだろうか？ このことは次のような通言語的な調査結果からも支持される．すなわち，[3][4][5]と同じ形式が用いられる言語はモンゴル語[1]だけで，他には無かった．他方，明示的な形式が用いられない言語が多い．

表 5: 「こそ」の明示的な対応形式

形式の出ない言語	フランス語，朝鮮語，イタリア語，ポルトガル語，フィンランド語，ハンガリー語，中国語（副詞《一定》），チェコ語，エウェン語，ペルシア語，マレーシア語
形式の出る言語	ウズベク語，ダグール語，ナーナイ語，ロシア語（もしくは後置語順），アラビア語（文頭語順と「特に」）

フランス語や朝鮮語のデータでは，「主題化して文頭に置く」ことによって「こそ」の機能が果たされると書かれている．明示的な説明はなくとも，他の言語でもやはり文頭位置（さらには動詞直前位置）による主題化によってその機能が示されている言語は多いだろう．したがって「こそ」はむしろ対比の「は」や主題の「は」に近いものとして捉えるべきではないだろうか？

ダグール語とナーナイ語は同じ《=kaa》という付属語を用いている．両者は近隣の言語だが，系統的にはモンゴル諸語とツングース諸語であって系統を異にするので，この要素はおそらくダグール語がツングース（おそらくエウェンキー語アムール方言 cf. Bulatova (1987: 74)）から借用したものであろう．調査にお

[1] モンゴル語の「こそ」との対応形式は《=l》であるが，以下でも見るように[3][4][5][7][8]が同じくこの形式によるという，きわめて多機能で機能範囲の広い形式である．この形式の十全な意味記述は今後の課題である．

ける媒介言語の中国語／ロシア語にいずれにも出ていない要素であるのにも関わらず，現れた両言語の形式 《=kaa》は貴重な記録であると考えられる.

3.2.3. 【極端】[8]「さえ」，[9]「まで」

次に，ともに極端（意外）／極限（意外）などとされている[8]「さえ」，[9]「まで」をみる．沼田 (2000) は「さえ」に【最低条件】，「まで」に【意外】という異なったラベルをつけて区別していた.

まず，[9]「まで」の対応形式はあるが，[8]「さえ」に対応する明示的な形式が現れない言語にフランス語，イタリア語，チェコ語がある．いずれもヨーロッパの印欧語である．これらの言語における [9]「まで」には英語の “even” のような意の形式が現れる．[9]に現れる形式がなぜ[8]では使えないのか，その違いの決め手となる点は何か，については，フランス語のデータの稿に考察があるので参照されたい.

[8]「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ」という文は，「? 水**だけ**あれば，数日間は大丈夫だ」のように言い換えても，少し変にはなるが近い意味は実現できる（ただし「最低限」という話者の評価のニュアンスは失われる，以上筆者の内省による）．したがって「さえ」は「だけ」など限定に近いものと考えられるが，実際に[3]の限定の形式と同じ形式が用いられる言語に，ポルトガル語，フィンランド語，ペルシア語，アラビア語，ナーナイ語，朝鮮語がある．ロシア語とエウェン語は限定の形式と仮定法が組み合わせられている.

他の「さえ」の対応形式には，焦点となる動詞直前位置によるハンガリー語，「何もないならば」という表現によるウズベク語，上述の多機能な《=l》によるモンゴル語，「少なくとも」／「～である限り」によるマレーシア語などがある.

[9]「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた」では，やはり極端のニュアンスは失われるが，「小さい子供**も**，その仕事の手伝いをさせられた」と言い換えてもかなり近い意味を実現できる．したがって「も」【累加】に近いと考えられるが，実際に[12]「も」と同じ対応形式の現れる言語（ハンガリー語，モンゴル語，ナーナイ語）が観察された．「も」に何らかの強調要素（“even”，「まで」など）が加えられた表現を使う言語（エウェン語，ウズベク語，マレーシア語）も観察された．他には “all” によるダグール語，日本語と同じように格助詞としても用いられる「まで」を用いる朝鮮語がある.

3.2.4. 【類似／累加】の[12]「も」

【類似／累加】とされる[12]「も」では，どの言語でも明示的な対応形式が観察された．ただしその品詞は副詞のものが多く，日本語の「も」に比べると音形も長く，独立性も高そうであり，日本語の「も」より文法化していない印象を受ける.

3.2.5. 【反限定／選択的例示／ぼかし】の[7]「でも」

以下では，野田 (2015a) が「日本語では言語的に明示されるが，ヨーロッパ諸語では明示的な形式が現れない（要約）」と指摘していた反限定，反極端，反類似，についてみる．野田 (2015a) は，系統を特に問題にせず「ヨーロッパ諸語」としている点や，日本語と類似した類型論的特徴を示す北東アジアの諸言語などを視野に入れていない点が残念だが，今回の調査はこうした問題点にも一定の答を出してくれることが期待される.

まず【反限定／選択的例示／ぼかし】などとされる[7]「でも」に関して，たしかにイタリア語，ポルトガル語でも明示的形式が現れない．ただし不定冠詞が若干それに近い働きをしている可能性は考えられる．ハンガリー語のデータではそのような説明が明記されている．中国語の量詞《(一) 杯》とペルシア語「一つ」もこれに類似した要素として考えてよいだろう．さらに，“or (something)” のような表現による言語には，フランス語，マレーシア語，アラビア語，ナーナイ語がある．もっと変わったものとして，動詞の瞬

間相アスペクトによるエウェン語がある．なおチェコ語は全く違う表現になってしまっているため，分析不能である．

これらに対し，明示的表現を用いる言語には，フィンランド語，ロシア語，モンゴル語ハルハ方言（上記の《=l》），朝鮮語（「も」）がある．ウズベク語とモンゴル語オラド方言，ダグール語では反響語（echo-word）によって示される．反響語とは，チュルク諸語とモンゴル諸語（今回の調査に該当言語が無いがさらに南アジアの諸言語）に広く見られるもので，語頭子音を m などに替えてから語全体を後ろに重複することによって形成されるものである．日本語においてもたとえば「お茶か何かない!?」とか「何やらかんやら」などの表現は形式・機能の両面においてこれに近いものと考えられる．明示的表現を持つ言語においては，その 6 言語のうち 4 言語が北東／中央アジアのいわゆる「アルタイ型言語」（亀井・河野・千野（編）(1996: 28-29)）であることがわかる．

3.2.6. 【反極端】の[10]「なんか」，[11]「ぐらい」

【反極端／評価／柔らげ】とされる[10]「なんか」の明示的対応形式を持たないのは，フランス語，イタリア語，ポルトガル語，ペルシア語，アラビア語，ナーナイ語，である．このうちナーナイ語は媒介言語であるロシア語の影響を受けた可能性がある．これとアラビア語を除くと，残りは印欧語族の言語であり，ロマンス諸語の言語は 3 つともに含まれていることがわかる．

他方，[10]「なんか」の明示的対応形式を持つのは，エウェン語（[9]【極端・意外】と同じ形式），ハンガリー語（「も」の否定），朝鮮語（依存名詞《ttawi》），フィンランド語（「何も」），チェコ語（強調否定辞 “none of”），である．ただしフィンランド語やチェコ語の形式は完全に文法化したものとは言えないかもしれない（なお，上記の諸形式は，より文法要素的性格が強いと思われる言語から順に示してみた）．さらに反限定におけると同様に，ここでもウズベク語，モンゴル語，ダグール語では反響語による表現が可能である．文法化した要素ではないが，中国語では副詞「全く」，ロシア語では迂言的表現もしくは語順，マレーシア語では “or the like” “or anything at all” のような表現によって[10]「なんか」のニュアンスを示している．

ここでも明示的対応形式を持たない言語は印欧語や西アジアのアラビア語に偏っており（ナーナイ語はやはり媒介言語ロシア語で明示的形式がないことに影響された可能性がある），明示的対応形式を持つ言語はウラル諸語，アルタイ諸語，朝鮮語，および東アジアの中国語，マレーシア語などに偏っていることがわかる．

[11]「ぐらい」の明示的対応形式を全く示さないのは，ポルトガル語，チェコ語，ナーナイ語，ダグール語で，大部分の言語は「少なくとも」（フランス語，イタリア語，フィンランド語，ロシア語，アラビア語，中国語），“as far as”（マレーシア語），“again”（ペルシア語），「何もないならば」（ウズベク語），のように具体的で語彙的／分析的な表現（つまり文法化していない表現）を用いている．

他方，[11]「ぐらい」の明示的対応形式を示すのは，エウェン語，朝鮮語（「程度は」）である．いずれも東アジアのアルタイ型言語ではあるが，他のとりたてに比べると，文法化した形式を示す言語が少ない．もっとも日本語の「なんか」や「ぐらい」も音形は長く，十分に文法化した要素とは言えないかもしれない．

3.2.7. 【反類似・対比】の[13]「は」

【反類似・対比】とされる[13]「は」の明示的対応形式を全く示さない言語には，まずフランス語，ポルトガル語，アラビア語があり，これらの言語では “and” が対比のニュアンスを示すのに若干機能しているとみることができる．ペルシア語，ダグール語も対応形式はないが，具体的に述語がさらに補われている．

他方，明示的対応形式を示すのは，朝鮮語，ウズベク語，エウェン語，ナーナイ語（[6]「こそ」と同じ

要素），マレーシア語，フィンランド語（ただし疑問文でのみ），である．

スラブ系言語であるロシア語とチェコ語には対比接続詞《a》というものがあり，これは “and” とも似た面を持つが，日本語の「は」の対比の機能を能く実現するものとみてよい．イタリア語の《invece》「一方で」はより具体的で語彙的な要素だが，機能的にはこれに近いものとみてよいものかもしれない．

他には，中国語で省略疑問文を形成する《呢》，（語順がもっぱら情報構造の明示に用いられる）ハンガリー語での文頭位置による対比がある．

3.2.8. 「とりたて」についての調査結果のまとめと考察

まず野田 (2015b) の仮説についての検証からはじめる．たしかにヨーロッパ諸語には反限定，反極端，反類似の明示的形式を持たない言語が多い．しかし，ヨーロッパでもウラル語族の言語や印欧語でもスラブ系の言語などはある程度対応する形式を示すようだ．他方，東アジアの言語，特に日本語との類型的な類似を示すアルタイ諸言語や朝鮮語には反限定，反極端，反類似の諸形式を持つものが多いと言える．特にモンゴル諸語とチュルク諸語では反極端・反類似に特化した反響語という形態的手法がある点で特徴的である．

しかし，反限定，反極端，反類似以外でも，例えば[6]「こそ」の対応形式を持つ言語は一般に少ない．極端についても，限定や類似（／累加）の形式によって示される言語が多く，話し手による評価を特に言語化しない言語が多く存在する．

こうした状況はどのような理由によるものであろうか？　まず，対比と限定と累加の 3 つはもっとも基本的なものと考えられる．論理的にも互いに対立する（上述，論理式については，マレーシア語のデータの 2 節を参照されたい）．対比は主題に近いためか，明示的な形式を持たない言語が多いが，限定と累加の形式はどの言語にも存在する．これに対し，「こそ」は 3.2.2. でみたように多くの言語で単に（主に文頭の）主題として表現されることが多く，主題に近い機能を持つものと考えられる．さらに，「しか」「ばかり」は限定と同形，「まで」は累加と同形で表現されることが多い．つまり，日本語以外の（とくにヨーロッパの）言語では論理的な適用範囲のみを表示することが多く，話者の評価を問題にしないことが多いようだ．この点に関して今後のさらなる実証的研究が必要であり，またなぜそうなのか，その理由を解明してゆく必要があると考える．

日本語に類型論的に近く，また地理的にも近い諸言語（朝鮮語やアルタイ諸言語を中心とするアルタイ型言語）では，日本語同様，とりたての要素はもっぱら主に名詞につく付属語として現れている．これらの要素は概ね文法化しており，音形は短く意味は抽象的である．これに対し，ヨーロッパの言語では副詞や分析的／迂言的表現など，より独立性が高く，文法化していない語彙的な要素に依っていることが多い．これは SOV 語順などの他の特徴と関わっている可能性が考えられるが，なお明らかでない．その解明も今後の課題としたい．

4. 不定代名詞

4.1. 不定代名詞に関する言語類型論的な先行研究 —Haspelmath (1997, 2005)－

Haspelmath (1997) は不定代名詞に関する通言語的研究であり，100 の言語を対象に不定表現を研究した．Haspelmath (1997) の 4.4 節には, 40 の言語を対象に下記のような意味領域地図／含意的配置図（implicational map）が提案されている（以下では含意的配置図という用語の方を用いる）．

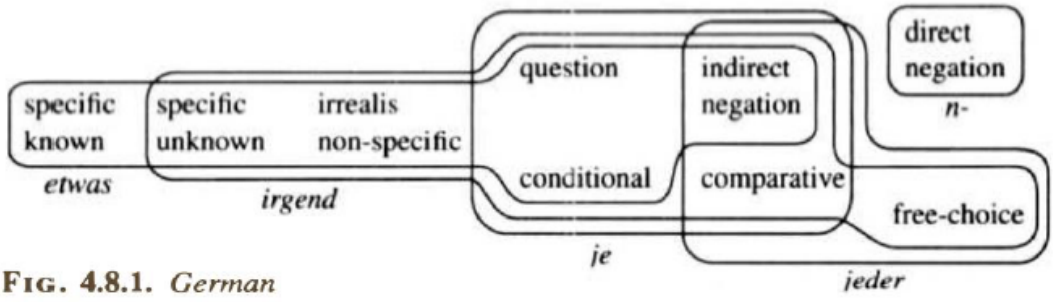


FIG. 4.8.1. *German*

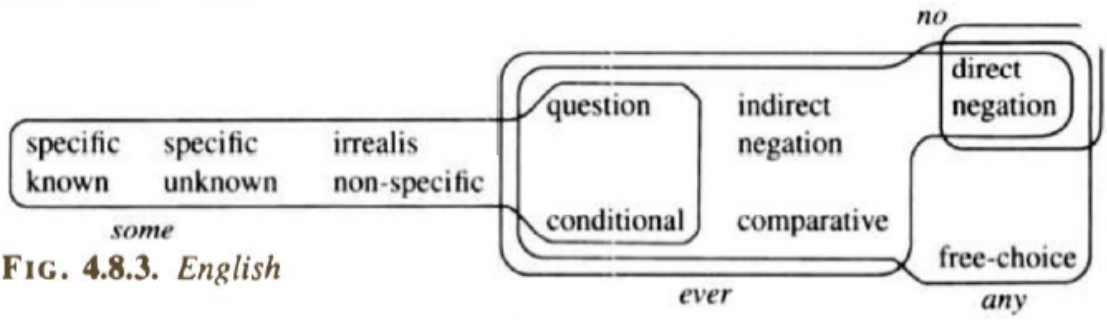


FIG. 4.8.3. *English*

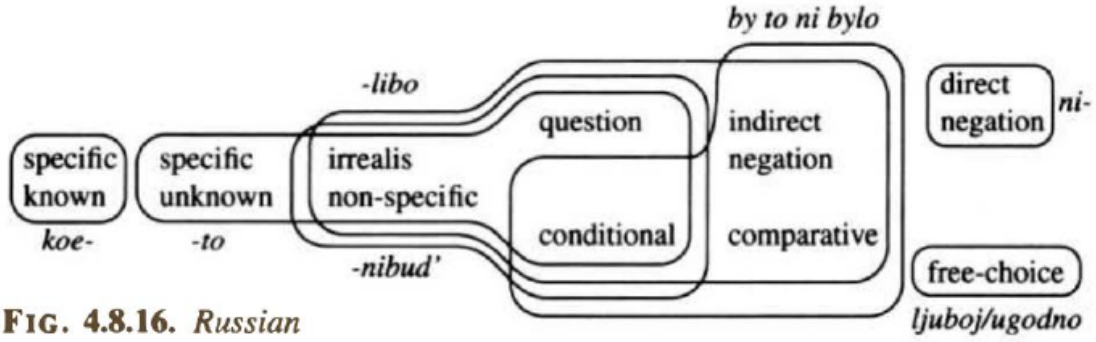


FIG. 4.8.16. *Russian*

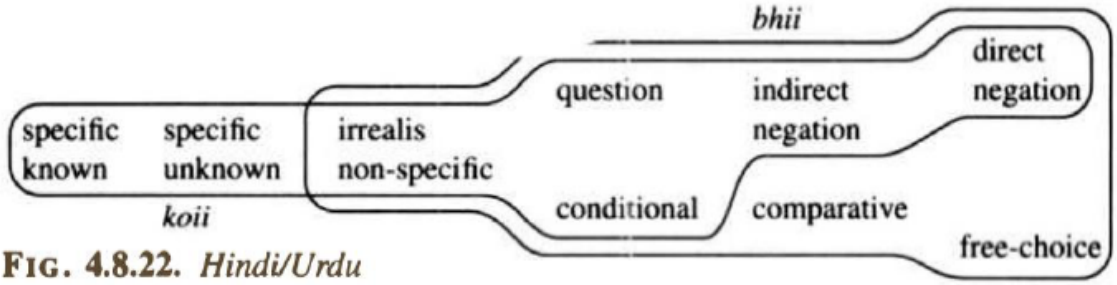


FIG. 4.8.22. *Hindi/Urdu*

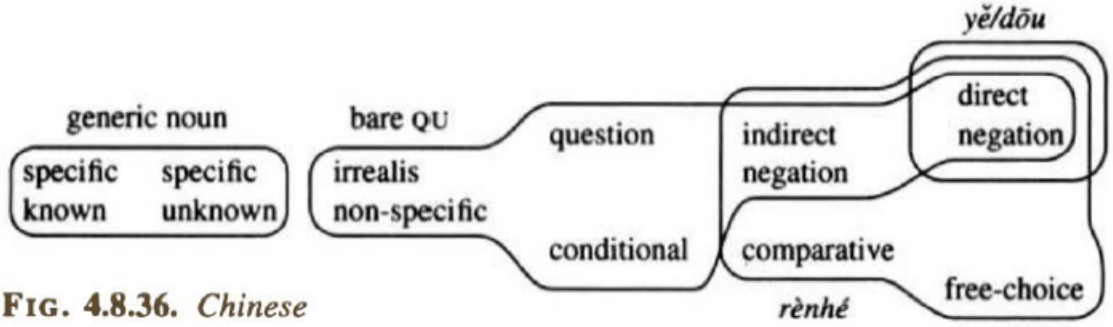


FIG. 4.8.36. *Chinese*

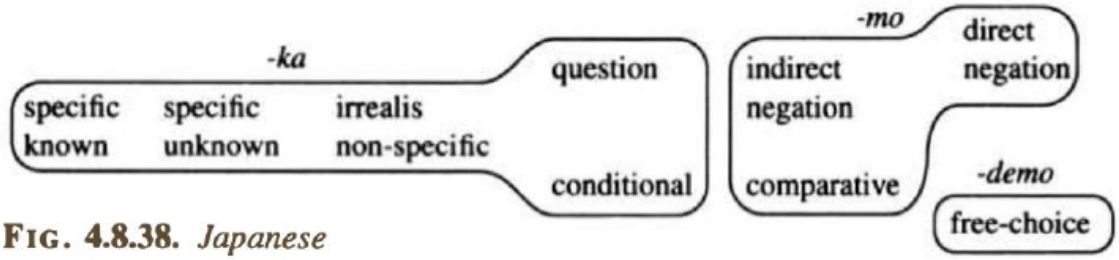


FIG. 4.8.38. *Japanese*

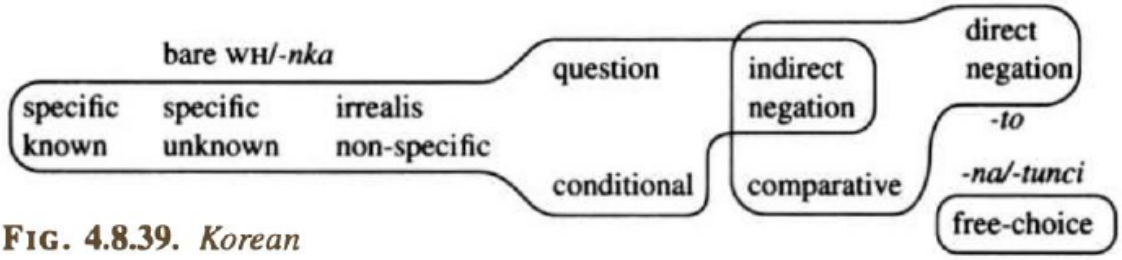


FIG. 4.8.39. *Korean*

Haspelmath (2005) では 326 の言語について調べ，それらは次のような基準で分類している．以下は Haspelmath (2005: 195) より拙訳により要約して示す.

ここでは ‘somebody’ ‘something’ のような不定代名詞を取り扱う. 一方において, 不定代名詞は「誰」「何」のような**疑問代名詞**と近い関係を持っている．ロシア語では kto-to「誰か」と čto-to 「何か」は kto「誰」と čto「何」から不定の接尾辞 -to により派生される．他方で，不定代名詞は「人」や「物」のような**汎称的名詞**（generic nouns）と近い関係を持っている．ペルシア語において，「誰か」は kæs-i [人 - 不定接尾辞]のように，「何か」は čiz-i [もの - 接尾辞]で表現される．この二つの主要なタイプに加えて，何とも関係のない他の**特別な表現**（special expressions）によって「誰か」や「何か」を示す言語が存在する．例えばアブハズ語（北西コーカサス）では，「誰か」は ajºə̀, 「何か」は ak’ə となる. 理論上は指示代名詞から不定が派生されるようなさらなる別のタイプが推定されるものの，他のタイプは見つかっていない.

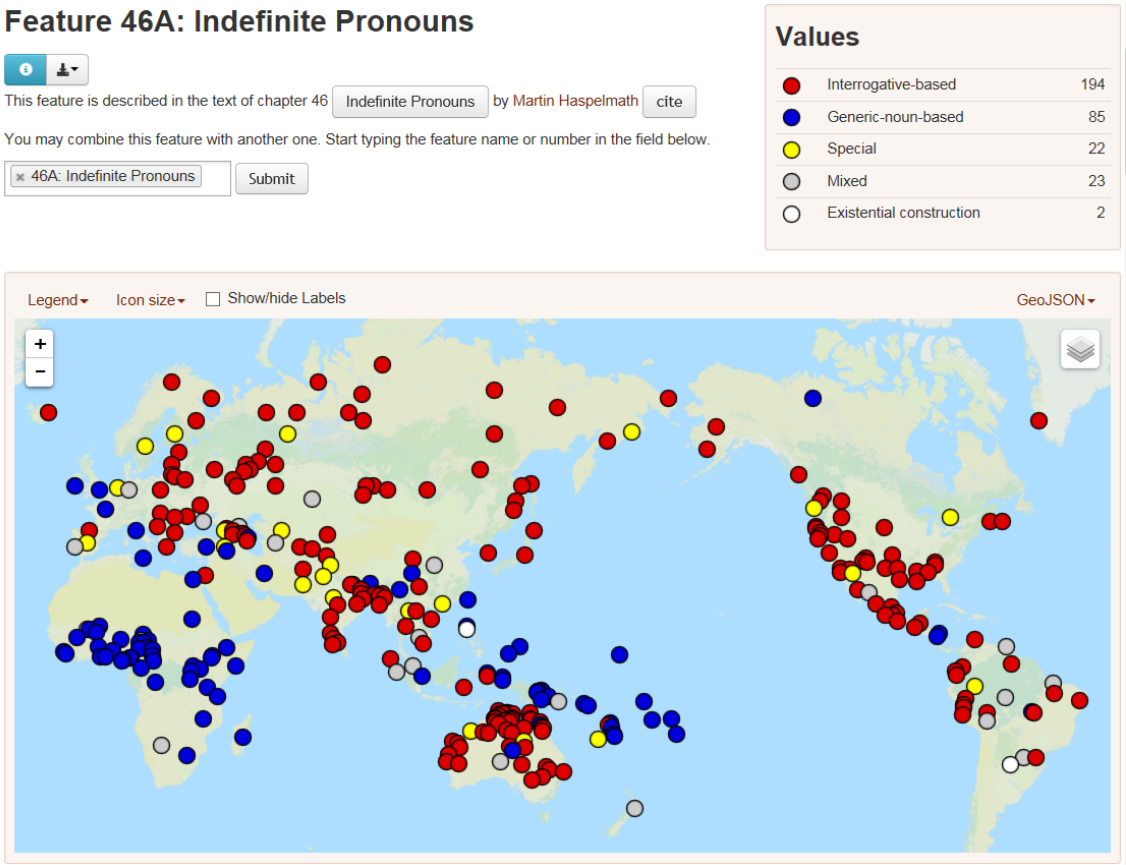
「誰か」と「何か」が違った振舞いを見せる**混合したタイプ**を示す言語もある．例えば，クメール語では「誰か」は「人」と訳される kè: であり nɛak na: 「誰」とは無関係であるが，「何か」は「何」ʔʊɣy と近い関係にある ʔʊɣy (-mú:əy) である.

最後に，いくつかの言語は名詞的な不定代名詞が完全に欠けていて，「誰か」と「何か」の対

応する内容は**存在の構造**（existential construction）によって表現される．

（中略）

2 つの主要なタイプの地理的分布ははっきりしている．アフリカのほとんど全ての言語は汎称的名詞起源の不定代名詞を持ち，ほとんどのニューギニアおよび太平洋の諸島の言語もまたそうである．これに対し，北アメリカ，オーストラリア，ユーラシア（西の縁を除く）は圧倒的に疑問詞起源の不定代名詞を示す．「特別な不定代名詞」のタイプはユーラシア全体に散らばっており，混合タイプははっきりした分布を示さない．これは言語の系統から完全に独立し，大陸規模の地理的分布を示す特徴のうちの一つの好例である．



http://wals.info/feature/46A#2/28.3/152.4（最終確認日：2015/12/16）

風間 (2003: 290-291) では不定表現と全部否定について若干の考察を行った．以下にその内容を示す（一部省略した）．

トルコ語での不定表現は基本的に疑問詞とは形の上での関連が無く，bir「1」で不定を表現し，モンゴル語では疑問詞によってその不定表現は異なるが，疑問詞と нэг「1」を構成要素としている点では共通している．朝鮮語では疑問詞がそのまま不定表現に用いられる．漢語及びさらにその南方の諸言語ではこのように疑問表現と不定表現が形の上で区別されないという．

トルコ語では「誰もいない」は kimse yok（kim は「誰」，kimse は「誰か，ある人」）のように表現されるが，一般に全部否定の表現では，ペルシャ語起源の hiç を用い，疑問詞及び疑問詞派生の語を用いない．モンゴル語では日本語同様，「何も～ない」「誰も～いない」といった全部否定の場

合には，やはり［疑問詞＋「も」に類似した機能の付属語］を用いて示す．ツングース諸語も同様である．朝鮮語ではこうした全部否定の場合，疑問詞より派生した語は使われず，’amu「誰（か），誰（も）」から’amu-ges「何（か），何（も）」や’amu-dei「どこ（か），どこ（にも）」，’amu-ddai「いつ（か），いつ（でも）」が派生した形になっている点で特異である（nugu「誰」，mu’es「何」，’edi「どこ」，’enjei「いつ」）．

Haspelmath (1997) の 7 章では，通時的にみた不定代名詞の来源について，次の 5 つを提示している：
①疑問代名詞／汎称代名詞／数詞の「1」に数量焦点小辞（scalar focus particle, 「も，さえ，まで」／“also, even, at least”）を加えるもの（Haspelmath (1997) 7.1.）
②同じく「か」／“or” を加えるもの（Haspelmath (1997) 7.2.）
③疑問代名詞そのままの形（Haspelmath (1997) 7.3.）
④重複によるもの（Haspelmath (1997) 7.4.）
⑤その他（Haspelmath (1997) 7.5.）

この類型のうち①は，次にみるとりたて（モなどを含んでいる）の研究とつながっている．
さらに，否定の不定代名詞の問題がある．英語などでは，Nobody came. のように全部否定の否定要素は名詞の側に現れるが，日本語では「誰も来なかった」のように動詞の側に標示される．Haspelmath (1997: 193-194) では，否定の不定代名詞に関する表現として，次の 4 つのタイプを示している（( ) 内は筆者による）．
(a) Verbal negation plus (ordinary) indefinite（＝ “not some(body)” 型）
(b) Verbal negation plus ‘special indefinite’（＝ “not any(body)” 型）
(c) Verbal negation plus ‘negative indefinite’（＝ “not no(body)” 型）
(d) ‘Negative indefinite’ without verbal negation（＝ “no(body” 型）

以上の先行研究の分析を踏まえ，今回集まった言語データにおける不定代名詞の現れを確認・検証する．不定表現に関連する調査例文は次の様なものである（再掲）．

[14] 「**誰か**（が）電話してきたよ．」【特定未知（specific unknown）】[2]
[15] 「**誰か**に聞いてみよう．」【非現実不特定（irrealis non-specific）】
[16] 「私のいない間に**誰か**来た？」【疑問（question）】
[17] 「**誰か**来たら，私に教えてください．」【条件節内（conditional）】
[18] 「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」
【間接（全部）否定（indirect negation）】
[19] 「そこには今**誰も**いないよ．」【直接（全部）否定（direct negation）】
[20] 「（それは）**誰でも**できる．」【自由選択（free-choice）】
[21]「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか!?」【自由選択を示す「みんな」】
[22] 「そんなもの，**誰が**買うんだよ!?　誰も買うわけないじゃないか！」【反語】

Haspelmath (1997) と比べると，【特定既知（specific known）】と【comparative】がなく，【自由選択を示す

[2] 筆者は最初この例を【特定既知】の例と勘違いしていたが，正確には【特定未知】であった．この点について野元氏より御教示をいただいた．他にも有益なコメントや情報を下さった野元氏にお礼申し上げたい．ただし，さらなる誤謬等は全て筆者の責に帰するものである．

「みんな」(all)】と【反語（irony)】がつけ加えられた形になっている.

	14	15	16 question	18 indirect	19 direct	22 irony
~~specific~~	specific	irrealis		negation	negation	
~~known~~	unknown	non-specific				
			17 conditional	~~comparative~~	20 free-choice	21 all

図 2: Haspelmath (1997) と含意的配置図と本稿の調査項目の関係

なお，Haspelmath (1997) の 4.4 節にすでに含意的配置図が提示されている 40 言語のうち，今回データが集まった言語のうちですでに分析されているものは，フランス語，イタリア語，ポルトガル語，ロシア語，フィンランド語，ハンガリー語，ペルシア語，ナーナイ語，中国語，朝鮮語，（日本語)，の 10 言語である．他方，含意的配置図がないのはチェコ語，アラビア語，ウズベク語，モンゴル語，ダグール語，エウェン語，マレーシア語，の 7 言語である．

4.2. 調査結果

4.2.1. 否定の不定表現

ここでは，[18]【間接（全部）否定（indirect negation)】と[19]【直接（全部）否定（direct negation)】に現れた形式を，上記 Haspelmath (1997: 193-194) の 4 分類に照らして分類してみた．

(a) “not some(body)” 型：モンゴル語，ダグール語，アラビア語，ペルシア語，エウェン語，中国語（ただし[19]は「一人も～いない」，ナーナイ語

(b) “not any(body)” 型：フランス語，フィンランド語，朝鮮語，マレーシア語，ウズベク語

(c) “not no(body)” 型：イタリア語，ポルトガル語，ハンガリー語，ロシア語，チェコ語，

(d) “no(body)” 型：なし

実際の分類に当たっては，(b) と (c) の判別に際して少し問題があった．そこでは，肯定とは異なる不定要素が現れた場合，否定辞と関連のある形をしていれば，(c) に，関係のない形をしていれば (b) に分類した．(c) の地理的分布が顕著で，全てヨーロッパの言語である．ハンガリー語を除き，系統的には全て印欧語である．

なお，イタリア語とポルトガル語，ハンガリー語，ロシア語の[18]では，主節に否定辞が現れる場合に不定代名詞が，従属節に否定が現れる場合に否定代名詞が現れる．対してフィンランド語では，いずれにも否定代名詞が現れる．

4.2.2. 間接否定表現

ここでは，[18] 「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」【間接（全部）否定（indirect negation)】に関して，前者の日本語文に即した表現が現れるか，後者か，もしくは両方の表現が可能かについての結果を整理した．もちろん話者の方が，「あまり使わないな」と思いつつ機械的に逐語的に翻訳した，というケースもあったかもしれないので，間違いなくその言語の文法を反映しているかは定かではない．ただ，先入観なく訳したものだけに，逆に一つの資料として有効であろうと思う．

・もっぱら「今日は**誰も**来るとは思わ**ない**」を使う：アラビア語，ペルシア語

・もっぱら「今日は**誰も**来**ない**と思う」を使う：チェコ語，ウズベク語，ナーナイ語，ダグール語，朝鮮語，中国語

・両方使う：フランス語，イタリア語，ポルトガル語，ロシア語，ハンガリー語，フィンランド語，モンゴル語，エウェン語，マレーシア語

結果にはかなりはっきりした偏りが認められる．上位節に否定を使う言語は西アジアの 2 言語であり，下位節に否定を使う言語はチェコ語を除きアルタイ諸言語や東アジアの言語である．ヨーロッパの言語はチェコ語を除き全部両方使う言語に入っている．ただ，なぜこのような分布を示すのかについて，現時点でなお筆者には説明できない．

4.2.3. 自由選択を示す「みんな」

ここでは，[21]【自由選択を示す「みんな」（all）】に関して，“all (~) / every (~)” の対応表現を使うのか，それ以外の表現を使うのかについて整理した．

・“all (~) / every (~)”：フランス語，イタリア語，フィンランド語，チェコ語，ペルシア語，アラビア語，モンゴル語，ウズベク語，ナーナイ語，マレーシア語，中国語

・“all (~) / every (~)” でない：ハンガリー語（《minden「すべての」-ki「誰」》），ロシア語（ljuboj / kto ugodno “anyone” = [20]），朝鮮語（nwukwu-na「誰でも」=[20], nwukwu-tun(ci)「誰でも」），ダグール語（anii=č “who=ever” =[20]），エウェン語（ŋii=wut “who=indef” ≠[20]），

“all (~) / every (~)” でない形式を用いる言語の形式は，基本的にどれも疑問代名詞に基づく不定代名詞である．ただしその言語群にはっきりした地理的・系統的な偏りは見いだせない．

なお，今回は[22]【反語（irony）】に関しても調査したが，どの言語も疑問詞を用いた一種の疑問文を用いており（もちろん，接続法や強調辞の若干の使用は見られるが），疑問とは全く異なった表現をとる言語は一つも観察できなかった．

4.2.4. Haspelmath (1997) が含意的配置図を示していない言語の調査結果

マレーシア語に関しては，データの方に完全な含意的配置図が示されているため，ここでは取り扱わない．紙面の都合と技術的な問題から，アンケートの例文番号を用い簡略化した形で以下の 6 言語の含意的配置図を示す．

・チェコ語：［[14][15][16][17]］někdo　［[18][19]］nikdo　［[20]］každ-
・アラビア語：［[14][15][16][17][18][19][20]］ħadd
・ウズベク語：［[14][15][16][17]］kim=dir　［[18][19]］hech kim　［[20]］har bir odam
・モンゴル語：［[14][15][16][17]］xün　［[18][19][20]］xen=č
・ダグール語：[14]?　［[15][16][17]］kuu　［[18][19][20]］anii=č
・エウェン語：
[14] ŋii=wut　[15] ŋii=də　[16] ŋii=də=wɯl　[17][18][19]ŋii=də　[20] ŋii=wul

同じスラブ系のロシア語と比べると，チェコ語の含意的配置図はかなり単純である（他方で，ウズベク語の含意配置図と同じになっている）．もっともこれは言語の違いによるのか，調査の方法上の問題点に起因するのか，不明である．いくつかの形式について，どれが使用可能でどれが使用不可能であるのか，もっと丁寧に調べればもう少し違った結果が得られるかもしれない．

アラビア語における ħadd はかなり万能の形式／意味範囲の広い形式であることがわかる．モンゴル語

とダグール語はやはり系統的に同じモンゴル諸語に属す言語であるため，分布・形式ともによく似た配置図を示している．エウェン語では [15] と [17][18][19] ŋii=də が，[16] の ŋii=də=wɯl に分断されており，含意的配置図の主旨からは問題となる分布になっている．付属語の意味・機能について今後のより深い研究が必要である．

総じて，[14]-[17]と[18]-[20]の間に大きな境界のあることがわかる．

4.2.5. 日本語における「だれ＋数量焦点小辞」にみられる「ゆれ」

分析の途中で，日本語の「だれ＋数量焦点小辞」の構成に関して，あることに気づいたのでここで記しておく．なお日本語学・国語学の文献を丁寧に調べたわけではないので，もしかするとすでに指摘されていることかもしれない．その場合はご容赦願いたい．

日本語で同じように疑問詞から（広い意味での）不定表現を形成する「か」と「も」であるが（「だれ=か」，「だれ=も」），格に関してその出現分布は異なっている．すなわち，だれかが／だれかを／だれかに／だれかから，…と「か」には格が後接するのに対して，だれをも（後述）／だれにも／だれでも／だれからも（／*だれがも）のように「も」では格がその前に現れる．これは「も」が係助詞であるためだと説明されるかもしれないが，係助詞の客観的定義のために分布を用いるということになれば，その説明はややトートロジーであるということになろう．他方，「だれか」は，Haspelmath (1997) が含意的配置図の一番左の方を示すので，特定既知の人物，つまりかなり具体的な現実の人物を示しうるので，「その人」のような一般名詞と同じように扱われ，格はその後ろにつくのだと説明できるかもしれない．

しかし，「だれもが」という形式があり，これは格が「も」の後ろについている．そしてこの場合，「だれもが」は肯定文で使われ，「みんな」のような意味（Haspelmath (1997) のいう free choice に近い意味であろう）を実現している（例えば，「だれもが知っている」≒「みんなが知っている」．他方，「だれにも／だれからも」は主に否定とともに用いられるようだ（この点に関しては下記で再び取り上げる）．

ここで試しに「だれもを／だれもに／だれもから」を国立国語研究所の現代書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）から少納言を使って検索してみると，「だれもを／だれもから」には 1 例のヒットもないが，「だれもに」は 3 例見つかる．そのどれも「みんなに」と置き換えることができる（筆者の内省による）．

・そしてそれは，当日その場にいた観客の**だれもに**共通することにちがいない．
・**だれもに**真実を語ることを求めるならば，自分が真実を語るべきである．
・信号灯たちは，ちょっと考えました．　信号灯ほど**だれもに**見つめられる仕事はありません．

なお，「だれがも」が不可であることは，「は」や「も」の前で格助詞が落ちるものとして説明されており，「だれをも」も同様に不可であると思われるが，実際に検索してみると 6 例見つかる．そのうちの 5 例は「**だれをも**信ずることができず，」のように否定ともに用いられているが，肯定の例も 1 件見いだされた．

・これは，心霊写真の検証をする人たちの論争にも似ている．**だれをも**納得させうる，説明のつかない奇怪なものがはっきりと写しだされていないかぎり，

実例は見いだせなかったが，このような場合，口語でなら例えば，「そのメンバーの**だれもを**納得させるものだった」のような表現も言えそうである（筆者の内省による）．同じく，「だれからも」にも「**だれからも**尊敬されていました」のように肯定文中での例が見つかるが，やはりこのように「みんな」の意味である場合，「そのメンバーの**だれもから**尊敬されていたのです」のような表現ができそうである（同じく筆者の内省による）．

Haspelmath (1997) の日本語の含意的配置図では (in)direct negation / comparative を -mo とし，free choice を -demo としているが，これは「だれ**でも**できる」のような例に基づくものだろう．ただこれも「だれ**もが**できる（ことだ）」のように言い換えることが可能であり，-mo は free choice の領域にも若干進出しているとみるべきであろう（「だれ**もが**」と「だれ**でも**」の間にはさらに若干の意味や共起する形式の違いがあるようだが，現時点では筆者はまだその解明に至っていない）．

以上の観察を，日本語における「だれ＋数量焦点小辞」にみられる「ゆれ」として報告しておく．

5. 情報のなわ張り理論

5.1. 情報のなわ張り理論についての先行研究 —神尾 (1990)—

高見 (2015) は神尾 (1990) の簡略かつ的確なまとめとなっているので，これを以下に引用する．

> 情報のなわ張り理論は，神尾昭雄によって提唱された語用論に関する理論で，情報が，話し手や聞き手の誰に帰属するか，つまり，誰の「なわ張り」にあるかによって表現形式が異なることを明示したものである．「私は兵庫県出身です」のような確定的，断言的文型を〈直接形〉，「彼女は多分来るだろう」のような不確定な文型を〈間接形〉とすると，情報が話し手，聞き手のなわ張りの内にあるか外にあるかによって，次の 4 つの表現形式が用いられる．

		話し手のなわ張り	
		内	外
聞き手の	外	A：直接形	D：間接形
なわ張り	内	B：直接ね形	C：間接ね形

> A は，情報が話し手のなわ張りにのみ属し，「私は頭が痛い／主人は来週パリに行きます」のような〈直接形〉が用いられる．B は，情報が話し手と聞き手の両方のなわ張りに属し，「いい天気ですね／君はフランス語がうまいね」のような〈直接ね形〉が用いられる．一方 C は，情報が聞き手のなわ張りにのみ属し，「君は退屈そうだね／係長は出張のようですね」のような〈間接ね形〉が用いられ，D は，情報が話し手と聞き手のどちらのなわ張りにも属さず，「明日も暑いらしいよ/彼はもう退院したんじゃない」のような〈間接形〉が用いられる（英語では，A，B が〈直接形〉，C，D が〈間接形〉で表現される）．

これについて日本語・英語以外の言語についてもその表現を検討し，日本語と同じタイプを示すのか，英語と同じタイプを示すのか，いずれとも異なるタイプを示すのかについて検討することにした．その例文は下記である（再掲）．

[2] 「私は頭が痛い．だから今日は休む．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】（再掲）
[23] 「君は英語がうまい**ね**．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】
[24] 「君は退屈そうだ**ね**．」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】
[25] 「明日も寒いらしい**よ**．」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

英語と日本語の違いは，英語では話し手のなわ張りに属するか否かのみを問題にするのに対し，日本語では話し手のみならず聞き手のなわ張りに属するか否かも問題にする点であるといえよう．英語が問題に

するのは，話し手にとっての情報の入手経路であり，いわゆる証拠性（evidentiality）であるといえる．

今回の調査では，上記の 4 つの文において（実際には，特に[23]において），【 】の意味の違いを示す何らかの形式が現れているか否かによって，対象言語を 2 つに分類した．

・英語型：フランス語，イタリア語，ポルトガル語，ロシア語，チェコ語，ハンガリー語，アラビア語，中国語，エウェン語
・日本語型：フィンランド語，**朝鮮語**，モンゴル語，ウズベク語，**マレーシア語**

判断の難しいもの：ダグール語，ペルシア語，ナーナイ語

全般に英語型の言語が多く，[24]で「～のように見える」，[25]では伝聞や推量など，証拠性にかかわる形式が現れ，それらの文の情報が話し手のなわ張りに属していないことを明示している．[24]で証拠性らしき形式が現れていないのはナーナイ語だけであった．やはり「退屈だ」という心情は話し手にしか直接体験できず，外見的にも判断が難しいため，何らかの形式を伴うのがふつうであることがわかる．したがって，英語型であるか日本語型であるかの決め手は，[23]に何らかの形式が現れるかどうかにかかっている．

イタリア語，チェコ語の[23]ではそれぞれ veramente「本当に」，fakt “really” という語彙的な副詞が日本語の「ね」にあたるニュアンスをある程度伝えている可能性がある．ロシア語の[23]でも，ved’「だって，まったく，たしかに，本当に」を用いて「ね」のニュアンスを出すことが可能であるという．ロシア語を媒介言語としてデータを得たエウェン語における uməkič「そんな（に）」も同様である．逆に見れば，「ね」のニュアンスは他の言語ではせいぜいこのような要素でしか伝達できず，日本語に見られるような「念押し」の機能を示す終助詞のような要素の使用は通言語的にはあまり一般的ではないことがわかる．

フィンランド語では，日本語の「ね」に対して hAn と pA が用いられるが，両者は聞き手への語りかけの度合いによって使い分けられており，文全体の語調によっては用いられないこともあると言う点で注意が必要である．ハンガリー語の[24]に現れている ugye「ですよね？」は，情報の入手経路を示す形式ではなく，同意を求める形式となっている．チェコ語の nebo co? “or what” もこれに近い．この点でこれらの言語におけるこれらの形式は，機能面で「ね」に近いものとみてよいだろう．逆に，朝鮮語は日本語型に分類したものの，[23]と[24]に共通して現れる要素は，-kwuna「知覚・推論によって得た情報を新たに知る」および -ney「現在の近くから得た情報を新たに知る」で，どちらも情報の入手に関する形式であって聞き手に確認を求める類のものではない．

ウズベク語の =a，マレーシア語の -lah は日本語の「ね」に近い機能を示す要素であるようだ．ただし =a は[23]にのみ，-lah は[23], [24], [25]の 3 つともに現れている．日本語との類似，という観点から言えば，[23], [24]に同じ文末要素が現れる点で，上記分類に太字で示した朝鮮語とマレーシア語がもっとも日本語に似ていると言えるだろう．ただし朝鮮語の文末要素は上述のように日本語の「ね」とはその機能が大きく異なる．

[23]に関して，ペルシア語の文末の間投詞 hā，ダグール語の文末の強調辞 =ee が「ね」のニュアンスを表しているのか，どの程度必須の要素なのか，が問題であり，これによって両言語の位置づけは違ってくる（筆者には十分な判断ができなかった）．モンゴル語（ハルハ方言）の[23] =yum=aa および =tee は「ね」のようなニュアンスを示すものと判断したが，なお検討を要する．

上述のようにナーナイ語は，[24]に証拠性等の明示的な要素がないばかりでなく，[23]にも特に明示的な要素は現れない．したがって厳密にいえば上記の 2 タイプとはさらに別のタイプということになる．ただし sii əiniə paixapsilaa biəči.「今日は 君は やや退屈 だね」のような表現になっており，別の日の状態と比べることによって「退屈であること」を外見的に捉えられるものとして表現しているのかもしれない．

系統的および地域的には，はっきりとした偏りは見いだせない．ヨーロッパにおける印欧語族の言語はいずれも英語型で，日本語型の言語がない点は指摘しておくに値するかもしれない．

6. 反省点と今後の課題

4 節の不定代名詞に関しては，筆者が Haspelmath (1997) を十分に消化しきれていなかったため，あまり意図が明確でない調査となってしまった．データを作成してくださった研究者の皆様にはお詫び申し上げたい．

ヨーロッパの印欧語の傾向として提示するには，ロマンス諸語とスラブ諸語のデータがあるものの，まずドイツ語をはじめとするゲルマン系の言語のデータがなかった点が大きな問題であろう．他方，アジア側でもビルマ語など，系統の異なる SOV 語順のデータがあればより説得力のある考察になったのではないかと考える．今後の号で，補遺としてこれらの言語のデータが加わることを期待したい．

参考文献

Bulatova, N. Ja. (1987) *Govory evenkov Amurskoj oblasti*. Leningrad: Izd. Nauka.

橋本萬太郎 (1981) 『現代博言学』 東京：大修館書店

Haspelmath, Martin (1997) *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

Haspelmath, Martin (2005) Indefinite Pronouns. Haspelmth et al. (eds.) *World Atlas of Language Structures*. 190-193. Oxford: Oxford University Press.

亀井孝・河野六郎・千野栄一（編） (1996) 『言語学大辞典 第 6 巻 術語編』東京：三省堂

風間伸次郎 (2003) 「アルタイ諸言語の 3 グループ(チュルク．モンゴル．ツングース) 及び朝鮮語．日本語の文法は本当に似ているのか—対照文法の試み」アレキサンダー・ボビン・長田俊樹 (共編) 『日本語系統論の現在』日文研叢書 31: 249-340. 京都：国際日本文化研究センター.

神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』東京：大修館書店.

Li, C. N. and S. A. Thompson (1976) Subject and topic: a new typology of language. In C. N. Li (ed.) Subject and topic. 457-489. New York: Academic Press.

日本語記述文法研究会（編）(2009)『現代日本語文法 5 第 9 部 とりたて 第 10 部 主題』東京：くろしお出版

野田尚史 (2015a) 「第 5 章 世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性 —「する」言語と「なる」言語，高コンテクスト言語と低コンテクスト言語の再検討を中心に—」益岡隆志（編）『日本語研究とその可能性』106-132. 東京：開拓社.

野田尚史 (2015b) 「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』5-2. 82-97.

沼田善子 (2000)「３ とりたて」『日本語の文法 ２ 時・否定と取り立て』151-216. 岩波書店

髙見健一 (2015) 「情報のなわ張り理論」斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）『明解言語学辞典』 120. 東京：三省堂.

執筆者連絡先：kazamas@tufs.ac.jp

東東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017）, pp.47-53.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.47-53.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

フランス語における情報標示の諸要素
Markers of informational structure in French

秋廣 尚恵
Hisae Akihiro

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies,Institute of Global Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するフランス語データを与えることである．

Abstract:
This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the French data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，取り立て表現，不定表現，情報の縄張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

以下，アンケート項目の 1 から 25 までの例文のフランス語訳を掲げ，それぞれの項目ごとにコメントを加える．尚，フランス語訳の作成は東京外国語大学博士前期課程に在学するフランス人学生 2 名にお願いした. とりわけ両者の回答の間に有意義な違いが現れた場合にかぎり, それぞれの回答を併記する．

2. 主題卓越型類型論の軸項について

(1)「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう.」

Les	légumes	poussent	bien	sur	cette	terre.
ART.DEF.PL	N(野菜).PL	INTR(生える).PRS.3PL	ADV(よく)	PREP(～の上に)	ADJ.DEM.SG.F.	N(土地).SG.F

C’est	pour	ça	qu’	elle	se	vend	cher.
PRES.PRS	PREP(のために)	PRN.DEM	COMP	PRN.3SG.F	PRN.REFL.3SG	TR(売る).PRS.3SG	ADV(高く)

(2)「私は頭が痛い．だから今日は休む.」

J’	ai	mal	à	la	tête,
PRN.1SG.SBJ	TR(持つ).PRS.1SG	N(痛み).SG.M	PREP(~に)	ART.DEF.SG.F	N(頭).SG.F

donc	aujourd’hui	je	me	repose.
CONJ(だから)	ADV(今日)	PRN.1SG.SBJ	PRN.REFL.1SG	TR(休ませる).PRS.1SG

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

フランス語は Li and Thompson (1976)の分類にもある通り，主語卓越型言語である．(1)では，2 人のインフォーマントが共に「この土地に(Sur cette terre)」という状況補語を主題の位置には置かずに訳している．文頭に現れるのは主語の「野菜(Les legumes)」である．通常，状況補語は動詞の後に置かれ，特別な文脈無しに，いきなり Sur cette terre...と始めることは不自然だ．だが，もし(1)の前文脈に既に「この土地」についての何等かの言及があれば，もちろん，主題化して Sur cette terre...という形で文頭に置くことは可能である．また「土地が売れる」という場合には，「土地」を主語女性代名詞 elle で受け，代名動詞の受動的用法によって，主語の位置に押し上げて表現する．(2)については，「私は頭が痛い」という日本語に見られるような主語と主題を共に述語の前に置く形式は取らない．「頭に(à la tête)」を状況補語として動詞の後に置き「私は頭に痛みがある」という表現がフランス語では用いられる．

3. 取り立て表現について

(3)「あの人だけ，時間通りに来た.」

Il n'y a	que	lui	qui	est venu	à	l'	heure.
PRES.NEG.PRS	CONJ	PRN.3SG.M	REL.NOM	INTR(来る).PST.3SG.M	PREP(～に)	ART.DEF.SG.F	N(時間).SG.F
Seulement	lui	est venu	à	l'	heure.		
ADV(ただ～だけ)	PRN.3SG.M	INTR(来る).PST.3SG.M	PREP(～に)	ART.DEF.SG.F	N(時間).SG.F		

(4)「これはここでしか買えない.」

Ça,	on	ne	peut	acheter	qu'	ici.
PRN.DEM	PRN.INDF.3SG	NEG	VM(～できる).PRS.3SG	TR(買う).INF	CONJ	ADV(ここ)

(5)「その家にいたのは子供ばかりだった.」

Il n'y avait	que	des	enfants	dans	cette	maison.
PRES.NEG.IMPF	CONJ	ART.INDF.PL	N(子供たち).PL	PREP(～の中に)	ADJ.DEM.SG.F	N(家).SG.F.

これらの 3 つの例はいずれも「限定」の表現を伴うものであるが，フランス語では，副詞 seulement (ただ～だけ)や二重否定 ne ~ que (…しかない)などを使って表すことができる．

(6)「次回こそ，失敗しないようにしよう.」

La	prochaine	fois,	on	fera	bien	attention		
ART.DEF.SG.F	ADJ(次の).SG.F	N(回・度).SG.F	PRN.INDF3SG.	TR(する).FUT.3SG	ADV(よく)	N(注意).SG.F		
à	ne	pas	échouer.					
PREP	NEG	NEG	TR(失敗する).INF					

「こそ」はフランス語では訳しにくい．主題化して文頭に置くことで取り立てる以外あまり表現方法がない．

(7)「疲れたね，お茶でも飲もう.」

On	a bien travaillé	hein !			
PRN.INDF.3SG	ADV(よく)+INTR(仕事をする).PST.3SG.M	INTJ			
On	prend	un	petit	café	ou…?
PRN.IND.3SG	TR(取る).PRS.3SG	ART.INDF.SG.M	ADJ.SG.M	N(コーヒー).SG.M	CONJ(あるいは)

「お茶でも」の「でも」反限定はフランス語での訳出は難しい．インフォーマントのうちの 1 人が，話し言葉であれば，上昇イントネーションを伴う「あるいは(ou)」をつけた形式で訳出が可能であるとする. このような ou の文末におかれる談話標識的用法は話し言葉では頻繁に見られるが書き言葉では見られない(ou は削除されてしまう).

(8)「水さえあれば，数日間は大丈夫だ.」
（「＝少なくとも水があるから数日間は大丈夫だ.」実際に水があることが前提）

Si	on	a	de l’	eau,	on	peut
CONJ(もし)	PRN.INDF.3SG.M	TR(持つ).PRS.3SG	ART.INDF.PART.F	N(水).SG.F	PRN.3SG.M	VM(できる).PRS.3SG

tenir	quelques	jours.
INTR(持ちこたえる).INF	ADJ.INDF(幾つか)	N(日).PL

(8)「水さえあれば，数日間は大丈夫だ.」
（「＝水だけでもあれば，数日間は大丈夫なのに.」水がないことが前提）

Si	seulement	on	avait	de l’	eau,
CONJ(もし)	ADV(ただ～だけ)	PRN.INDF.3SG.M	TR(持つ).IMPF.3SG	ART.INDF.PART.F	N(水).SG.F

on	pourrait	tenir	quelques	jours
PRN.3SG.M	VM(できる).COND.3SG	INTR(持ちこたえる).INF	ADJ.INDF(幾つか)	N(日).PL

(9)「小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた.」

Même	les	petits	enfants	ont dû	aider
ADV(~でさえも)	ART.DEF.PL	ADJ(小さい).PL	N(子供たち).PL	VM(~ねばならない).PST.3PL	TR(手伝う).INF

à	faire	ce	travail.
PREP	TR(する).INF	ADJ.DEM.SG.M	N(仕事).M.SG

「極端」を表す取り立てのフランス語の表現として一番よく用いられているのが副詞(形容詞，代名詞としても機能する) même (～まで，さえも)であるが，このマーカーは既に取りたてるもの以外の他の要素に対しても，その文の真理条件が当てはまっていることが前提になっている．したがって(9)のような例(小さい子供も大きい子供も手伝いをさせられるということが論理的に含意されている)では容易に用いられるが，(8) (他のものはなくても水があることが論理的に含意される)で用いることは不可能で，「水さえ」の「さえ」の取り立ての意味は形の上では明示せず，コンテクストから推察させるほうがむしろ普通である．また，インフォーマントによれば，(8)に無理やり「限定」の取りたて表現である seulement をつけた場合には，反実仮想の意味が出てきてしまうそうである．

(10)「私はお金なんか欲しくない.」

Moi,	l’	argent,	ce	n’ est	pas	ce	que	je	veux
PRN.1SG	ART.DEF.SG.M	N(金).SG.M	PRN.DEM.SG.M	NEG COP.PRS.3SG	NEG	PRN.INDF	REL.ACC	PRN.1SG.SBJ	TR(欲しがる).PRS.1SG

「なんか」や「なんて」という低評価の取り立て表現の訳出は難しい．(10)では「お金は私の欲しいものではない」と訳出されている．

(11)「自分の部屋くらい，自分できれいにしなさい.」

Fais	le	ménage	toi-même	au	moins
TR(する).IMP	ART.DEF.SG.M	N(掃除).SG.M	PRN.2SG-ADJ(～自身)	PREP.ART.DEF.SG.M	N(最小の).SG.M

dans	ta	chambre !
PREP(～の中に)	ADJ.POSS.SG.F	N(部屋).SG.F

「最低限」を表す取り立て表現は，au moins などが存在する．その他にも「遅くとも」au plus tard など，最上級を使うことが多い.

(12)「私にもちょうだい」

Moi	aussi,	j’	en	veux.
PRN.1SG	ADV(～も)	PRN.1SG.SBJ	PRN.INDF	TR(欲しがる).PRS.1SG

「類似」を表す取り立て表現はフランス語でもよく用いられる．副詞 aussi がその例である.

(13)「お父さんもう帰ってきたね．お母さんは？」

Papa	est déjà rentré	hein !	Et	maman ?
N(お父さん).SG.M	ADV(もう)+INTR(戻る).PST.3SG.M	INTJ	CONJ(～そして)	N(お母さん).SG.F

「対比」を表す表現はいろいろある(par contre, au contraire など)のだが，事態を対比させることが多く，名詞のみを取りたてて対比させる場合にはいずれにしても使用が難しいと思われる．(13)でも取り立ての「は」は訳出不可能という結果であった.

4. 不定表現について

(14)「誰かが電話してきたよ.」

Il y a	quelqu’un	qui	a téléphoné.
PRES.PRS	PRN.INDF	REL.NOM	INTR(電話する)+PST.3SG

(15)「誰かに聞いてみよう.」

On	va	demander	à	quelqu’un.
PRN.INDF.3SG.	INTR(…てみよう).PRS.3SG	TR(聞く).INF	PREP(~に)	PRN.INDF

(16)「私のいない間に誰か来た？」

Il y a	quelqu’un	qui	est venu	pendant que	je	n’	étais
PRES.PRS	PRN.INDF	REL.NOM	INTR(来る).PST.3SG.M	CONJ(~の間)	PRN.1SG.SBJ	NEG	INTR(居る).IMPF.SG

pas	là ?
NEG	ADV(そこに)

(17)「誰か来たら，私に教えてください.」

Si	quelqu’un	vient,	préviens-moi !
CONJ(もし)	PRN.INDF	INTR(来る).PRS.3SG	TR(予告する).IMP-PRN.1SG.DAT

(18)「今日は誰も来るとは思わない・今日は誰も来ないと思う.」

Je	ne	pense	pas	que	quelqu'un	viendra	aujourd'hui.
PRN.1SG.SBJ	NEG	TR(思う).PRS.1SG	NEG	COMP	PRN.INDF(誰か)	INTR(来る).FUT.3SG	ADV(今日)

Je	pense	que	personne	ne	viendra	aujourd'hui.
PRN.1SG.SBJ	TR(思う).PRS.1SG	COMP	PRN.INDF(誰も)	NEG	INTR(来る).FUT.3SG	ADV(今日)

(19)「そこには今誰もいないよ」

Non,	mais	il n'y a	personne	là	maintenant !
NEG	CONJ(強意)	PRES.NEG.PRS	PRN.INDF(誰も)	ADV(そこに)	ADV(今)

(20)「(それは) 誰でもできる.」

Ça	tout	le	monde	peut	le	faire.
PRN.DEM	ADJ(すべての).INDF.SG.M	ART.DEF.SG.M	N(人).SG.M	VM(できる).PRS.3SG	PRN.3SG.ACC	TR(する).INF

(21)「そんなこと (は), みんな知っているんじゃないか！？」

Mais	tout	le	monde	le	sait	déjà,	ça !
CONJ(強意)	ADJ(すべての).INDF.SG.M	ART.DEF.SG.M	N(人).SG.M	PRN.3SG.ACC	TR(知る).PRS.3SG	ADV(既に)	PRN.DEM

(22)「そんなもの, 誰が買うんだよ！？, 誰も買うわけないじゃないか！」

Franchement,	qui	va	acheter	un	truc	pareil !
ADV(正直に言えば)	PRN.INTERR(誰が)	INTR(…だろう).PRS.3SG	TR(買う).INF	ART.INDF.SG.M	N(もの).SG.M	ADJ(同じような).SG.M

Il n'y a	aucune	chance	que	quelqu'un	l'	achète.
PRES.NEG.PRS	ADJ.INDF.SG.F	N(可能性).SG.F	COMP	PRN.INDF	PRN.ACC.3SG.M	TR(買う).PRS.3SG

不定表現については, 名詞の不定性を示す傾向がフランス語では強い. まず, 数量表現を伴う不定代名詞のシリーズがある：quelqu-, chac(qu)-, plusieurs など. 中でも Quelqu-については単数形で用いれば, 特定既知を表す場合も, 非現実不特定を表す場合もある. また形容詞, 代名詞, 副詞など複数のカテゴリーにまたがって機能し,「全体(もしくは全体を構成する任意の要素)」を表す tout, 逆に, 全否定的な意味を持つ personne「誰も...ない」や rien「何も…ない」がある. そして, 修辞的疑問文の中で用いられる一連の疑問代名詞 qui, quoi も不定表現としてよく用いられる.

5. 情報の縄張り理論

(23)「君は英語がうまいね.」

Tu	parles	bien	anglais	hein !
PRN.2SG.SBJ	TR(話す).PRS.2SG	ADV(よく)	N(英語).SG.M	INTJ

(24)「君は退屈そうだね.」

Tu	as	l'	air	de	t'	ennuyer	hein !
PRN.2SG.SBJ	TR(持つ).PRS.2SG.	ART.DEF.SG.M	N(空気).SG.M	PREP(～の)	PRN.REFL.2SG.	TR(退屈させる).INF	INTJ

(25)「明日も寒いらしいよ.」

Demain	aussi	il	paraît	qu’
ADV(明日)	ADV(～もまた)	PRN.3SG.M.SBJ(非人称主語)	INTR(～のようだ).PRS.3SG	COMP

il	va	faire	froid	hein !
PRN.3SG.M.SBJ(非人称主語)	INTR(…だろう).PRS.3SG	INTR(～になる).INF	ADJ(寒い).SG.M	INTJ

情報の縄張り理論の観点から，話し手と聞き手の情報の縄張りのどこにある情報を示すかに応じて，日本語では終助詞「ね」「よ」の使い分けがなされている．フランス語でも，話し言葉において，hein, quoi, là といった文末にあらわれる様々な談話標識が用いられて，聞き手に向けられた様々なモダリティを示すことが知られている．ただし，これらの談話標識の研究はまだ始まったばかりで，それぞれの談話標識の機能の違いはまだはっきりと明らかにされていない．ここで挙げられた例では，いずれの例も hein が用いられている．Noda (2011)も指摘しているように，hein, quoi の使用は，発話をどのように聞き手に対して提示するかという聞き手に対する話し手の態度が深くかかわってくる．したがって，必ずしも情報の縄張り理論からその機能の違いは説明され得ないように思われる．これらのマーカーの機能の違いについては今後また改めて研究したいと思う．

略語リスト

1	1 人称	INTJ	間投詞
2	2 人称	INTR	自動詞
3	3 人称	M	男性
ACC	対格	N	名詞
ADJ	形容詞	NEG	否定
ADV	副詞	NOM	主格
ART	冠詞	PART	部分
AUX	助動詞	PL	複数
COMP	補語節	POSS	所有格
COND	条件法	PRN	代名詞
CONJ	接続詞	PREP	前置詞
COP	コピュラ動詞	PRS	現在
DAT	与格	PRES	提示詞，存在詞
DEF	定	PST	過去
F	女性形	REFL	再帰
FUT	未来	REL	関係詞
IMP	命令形	SBJ	主語
IMPF	未完了過去	SG	単数
INDF	不定	TR	他動詞
INF	不定形	VM	法動詞
INTERR	疑問		

参考文献

Li, C. N. and S. A. Thompson (1976) Subject and topic: a new typology of language. In C. N. Li (ed.) Subject and topic. 457-489. New York: Academic Press.

髙見健一 (2015) 「情報のなわ張り理論」斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）『明解言語学辞典』 120. 東京：三省堂.

Noda Hiroko (2011) Emplois des marqueurs discursifs et intersubjectivité : autour de *hein*, *Cahier de praxématique 56*, 77-89.

執筆者連絡先：**hisae-akihiro@tufs.ac.jp**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.55-64.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.55-64.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

イタリア語
Markers of information structure in Italian

土肥 篤
Atsushi Dohi

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するイタリア語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Italian data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語、取り立て表現、不定表現、情報の縄張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

特集「情報標示の諸要素」のアンケートについて、そのねらいに鑑み、以下に回答をまとめ、さらにそれぞれについて簡単な説明を試みる。また項目によっては、筆者の判断で例文を追加した。

回答および例文の追加に際しては、筆者によるイタリア語への直訳（追加例文の場合には、作例）を母語話者に訂正、ないし他の表現の可能性を指摘してもらった[1]。

例文については、グロスは最低限のみ付している。また、調査例文とニュアンスが異なる等の理由で必要であると思われる場合にのみ、グロスの下に日本語での直訳を示した[2]。

1. 主題卓越型類型論の軸項について

(1) この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。
【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

a.	Questo	campo	dà	un	raccolto	abbondante.	Quindi	verrà venduto
	この	土地:M;SG	与える	ART	収穫	豊富な	だから	売られる:3SG;M

ad	un	prezzo	alto.
で	ART	値段	高い

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 主に日本語学習者であるイタリア語母語話者 2 名の協力を得た。いずれも十分な日本語力を備えている。しかしながら、本稿および例文に関する責任は当然、全て筆者にある。

また、インフォーマントの出身地は北部イタリアと南部イタリア両方が含まれてはいるが、地域差については十分に考慮できていないことをことわっておく。

[2] グロスに用いた略語は以下の通りである。以下、使用順。M=男性、SG=単数、ART=冠詞、3=三人称、PL=複数、F=女性、1=1 人称、NEG=否定、IMP=命令法、AUX=助動詞、PRS=現在、IND=直説法。

イタリア語においては、(1a)のように Questo campo「この土地」を（主題でもある）主語に置き、「この土地は豊富な収穫を与える」のように表現するのが最も自然であろう。続く文は同じく「この土地」を主語とした受動文である[3]。

また、(1a)に比べれば多少不自然にはなるが、次のような表現も可能である。

b.	In	questo	campo	crescono	bene	le	verdure.	Quindi	verrà venduto	ad
	で	この	土地:M;SG	育つ;3PL	よく	ART	野菜:F;PL	だから	売られる:3SG;M	で

un	prezzo	alto.
ART	値段	高い

「この土地では野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

(1b)では、動詞 crescere「育つ」（ここでは三人称複数形 crescono に活用している）と選択関係を持たない主題である in questo campo「この土地で」が文頭に現れている。定動詞 crescono は三人称複数である主語 verdure「野菜」に一致している。二文目は(1a)と同じで、ここでも verrà venduto が三人称単数男性形であり、campo が主語になっていることがわかる。

ここで、動詞 crescere の主語を campo と同じ男性単数の名詞 riso「稲」にしてみると、次のようになる。

c.	In	questo	campo	cresce	riso	di	ottima	qualità.	Quindi
	で	この	土地	育つ:3SG	稲:M;SG	の	最高の	クォリティ	だから

verrà venduto	ad	un	prezzo	alto.
売られる:3SG;M	で	ART	値段	高い

「この土地では良い稲が育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

日本語と同様に、イタリア語でも「高値で売れる」ものは土地であるという読み方が普通である。稲が高値で売れると言いたい場合には、次のように二文目の主語を明示する、すなわち主題を変更する必要がある。

c’	In	questo	campo	cresce	riso	di	ottima	qualità.	Quindi	il	riso
	で	この	土地	育つ:3SG	稲:M;SG	の	最高の	クォリティ	だから	ART	稲:M;SG

verrà venduto	ad	un	prezzo	alto.
売られる:3SG;M	で	ART	値段	高い

「この土地では良い稲が育つ。だからその稲は高く売れるだろう。」

---

[3] 二つ目の文において主語が見た目上現れないのは、イタリア語がいわゆる pro-drop 言語であるためである。主語が questo campo であることは、文脈のほか、定動詞 verrà が三人称単数形であることおよび主語と性数一致する過去分詞 venduto が男性単数形であることからわかる。

(1c)は、文を超えて続いている主題（土地）が、統語的軸項として機能している例であると言えるだろう[4]。

(2)　私は頭が痛い。だから今日は休む。
【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能】

a.　Ho　mal　di　testa.　Per　oggi　mi riposo.
持つ:1SG　痛み　の　頭　に　今日　休む:1SG

b.　Mi　fa　male　la　testa.　Per　oggi　mi riposo.
私に　する　痛み　ART　頭　に　今日　休む:1SG

前半に関しては、二通りの言い方が可能である。(2a)が主語の明示されていない SVO 構文であるのに対し、(2b)では主題である「私」が与格の代名詞 mi「私に」によって表され、文の主語は testa「頭」である。二重主語文についてはイタリア語には対応する表現は見当たらず、翻訳する場合には文ごとにどのように表現するのかを考えることになるだろう。

また、後半に関しては、主題が前半部で主語であっても間接目的語であっても主語として現れている。

2. とりたて表現について

(3)　あの人だけ、時間通りに来た。【限定】

a.　Solo　lui　è arrivato　in orario.
だけ　彼　到着した　時間通りに

副詞 solo「～だけ、～のみ」を用いて、明示的に限定を表すことができる。solo は同意語 soltanto 及び solamente と交替可能である：

b.　Soltanto lui è arrivato in orario.
c.　Solamente lui è arrivato in orario.

多少のニュアンスの違いはあれど、文の意味は大きく変わらないと言って良い[5]。Soltanto 及び solamente との交替は以下の(4-5)においても可能である。

また、unico「唯一の（もの、人）」を用いても同じような意味を表すことが可能であろう。

d.　L'unica　persona　arrivata　in tempo　era　lui.
唯一の　人物　到着した　時間通りに　であった　彼
「時間通りに来た唯一の人物が彼であった。」

---

[4] ただし、(1c)などは無理やり作った作例であるという印象は否めない。最も自然な表現は、(1a)のように双方の文において主語と主題が一致するものであろう。

[5] Solo がもっともよく使われる形のようである。また、soltanto は他の 2 語に比べて限定の意が多少強調される、とされることもある。

(4)　これはここでしか買えない。【限定・否定との共起】

a.　Questo　si può　acquistare　solo　qui.
　　これ　できる　買う　だけ　ここ

(3)と同様、solo（ないし soltanto、solamente）を用いて明示される。ただし、日本語に現れるような否定はイタリア語では現れず、「これはここでだけ買える。」という文と同じ形で表すことになる。
もしくは、(4a)に比べると表現としては多少不自然になるが、否定を含んだ次の文も可能である。

b.　Questo　non　si può　acquistarlo　in　altri　negozi.
　　これ　NEG　できる　これを買う　で　他の　店
「これは他の店では買えない。」

この場合、限定を表す語は表れない。
Unico を用いるのであれば、例えば、次のような文となるだろう。

c.　Questo　è　l'unico　negozio　in cui　si può　acquistare　questo.
　　これ　である　唯一の　店　において　できる　買う　これ
「これがこれを買える唯一の店である。」

(5)　その家にいたのは子供ばかりだった。【限定・多数】

a.　In　quella　casa　c'erano　solo　bambini.
　　に　その　家　いた:3PL　だけ　子供:PL

ここでも、solo を用いるか、unico を用いて、

b.　Gli　unici　ad essere　in　quella　casa　erano　bambini.
　　ART　唯一の者:PL　いる　に　その　家　であった　子供:PL
「その家にいる唯一の者たちは、子供であった。」

となるだろう。

(6)　次回こそ、失敗しないようにしよう。【限定・強調】

a.　La　prossima　volta　cercherò di　non　fallire.
　　ART　次の　回　ようにする　NEG　失敗する
「次回は失敗しないようにしよう。」

b.　LA PROSSIMA VOLTA, cercherò di non fallire.
「（他の回ではなく）次回は、失敗しないようにしよう。」

イタリア語では語彙によって明示されない。(6a)のように「次回は失敗しないようにしよう」と同じ形式を用いてコンテクストから読み取らせるか、(6b)のように強く読んだ上で残りの文と間を空けて区切ることで la prossima volta「次回」を焦点化することになるだろう。またインフォーマントからは、すでに一度失敗しているか、次回が一定の結果を出すために重要な回であるという点から、次のように言うこともできると指摘された。

c.	Proprio	per	questo	la	prossima	volta	cercherò di	non	fallire.
	まさに	ために	これ	ART	次の	回	ようにする	NEG	失敗する

「まさにこのために、次回は失敗しないようにしよう。」

(7) 疲れたね、お茶でも飲もう。【反限定・例示】

a.	Che	stanchezza!	Andiamo	a	prendere	un	caffè.
	なんという	疲れ	行こう	に	飲む	ART	コーヒー

「疲れた！コーヒーを飲みに行こう。」

(6)同様、明示されないのが普通である。この例文で言えば、聞き手は話し手がコーヒーしか欲しくないというわけではなく、例としてコーヒーを出しているということを文脈から類推することになる。

(8) 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

a.	Anche	solo	bevendo	acqua	puoi	sopravvivere	per	qualche	giorno.
	も	だけ	飲む	水	できる	生き延びる	の間	いくつかの	日

「水を飲むだけでも数日間生き延びられる。」

b.	Per	sopravvivere	qualche	giorno	basta	anche	solo	l'acqua.
	ために	生き延びる	いくつかの	日	十分である	も	だけ	水

「数日間生き延びるためには、水だけでも十分だ。」

イタリア語でとりわけ表現しづらい内容である。(3-5)にも現れた solo「だけ」と anche「〜も」を組み合わせて、anche solo「〜だけでも」とすることになるだろう。

(9) 小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

a.	Perfino	i	bambini	sono stati obbligati a	dare una mano	per	quel	lavoro.
	でさえも	ART	子供	しなければいけなかった	手を貸す	のために	その	仕事

(6-8)と異なり、副詞 pefino「でさえも」によって言語的に明示される。日本語とほぼ同じ意味を表現できると言ってよいだろう。

(10)　私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

a.　A　me　non　interessa　il　denaro.
　　に　私　NEG　興味を引く　ART　金
　「私はお金に興味がない。」

b.　Non　voglio　dei　soldi.
　　NEG　欲しい　ART　金
　「お金は欲しくない。」

(8)同様に、イタリア語では明示する形式のない表現である。インフォーマントからは、特に(10b)では部分冠詞 dei を用いることで一般的概念としての「お金」を表現し、たとえば「(感謝してもらえれば）お金はいらない」というような文脈を想定させることで、「なんか」に相当するようなお金に対する低評価をある程度示唆することができるのではないか、という指摘もあった。

(11)　自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

a.　Almeno　la　tua　stanza　puliscitela　da solo.
　　少なくとも　ART　あなたの　部屋　あなたのためにそれを掃除する:IMP　自分で

(9)と同様、副詞 almeno「少なくとも」を使って明示することができると言えるだろう。

(12)　私にもちょうだい。【類似・類似】

a.　Dallo　anche　a　me.
　　それをあげる:IMP　も　に　私

b.　Lo　voglio　anch'io.
　　それ　欲しい　私も
　「私もそれが欲しい。」

どちらの表現も可能であるが、いずれの場合にも(8)にも出てきた anche を用いて言うことができる。

(13)　お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【反類似・対比(疑問)】

a.　Papà　è　già　tornato.　E　mamma　invece?
　　パパ　AUX　もう　帰った　そして　ママ　一方で

b.　Papà è già tornato. E mamma?
c.　Papà è già tornato. Mamma invece?
d.　Papà è già tornato. Mamma?

(13c-d)は(13a-b)に比べると多少不自然ではあるが、四つ全てが可能な文である。まず、副詞 invece「逆に、一方で」は対比を明示する典型的な手段であると言えるだろう。また、接続詞 e「それで、そして」も、invece よりは弱いものの対比を表していると考えられる。これら二つの要素が、どちらも現れても現れなくても良い。

3. 不定表現について

(14) 誰か(が)電話してきたよ。【特定既知(specific known)】

a. Ti ha chiamato qualcuno.
君を 電話した 誰か

不定代名詞 qualcuno「誰か」は不定形容詞 qualche「なんらかの」および数詞 uno「1」の複合である。さらに Qualche は疑問詞 quale「どの」と関係代名詞 che の複合である。

なおこの文を含め、本項に挙げている例文の語順は特に言及がない限り全て無標である。

(15) 誰かに聞いてみよう。【非現実不特定(irrealis non-specific)】

a. Chiediamo a qualcuno.
聞こう に 誰か

(14)同様、qualcuno を用いる。

(16) 私のいない間に誰か来た？【疑問(question)】

a. È venuto qualcuno quando non c'ero?
来た 誰か 時に NEG いる:1SG

疑問文においても、同じく qualcuno を用いる。

(17) 誰か来たら、私に教えてください。【条件節内(conditional)】

a. Casomai qualcuno venisse, mi faccia sapere.
もし 誰か 来る 私に させる 知る

条件節の中でも、同様である。

(18) 今日は誰も来るとは思わない。/今日は誰も来ないと思う。【間接(全部)否定(indirect negation)】

a. Non credo che venga qualcuno oggi. / Credo che oggi non venga nessuno.
NEG 思う と 来る 誰か 今日 思う と 今日 NEG 来る 誰も

主節に否定辞 non が現れる場合には qualcuno が、従属節に現れる場合には不定代名詞 nessuno「誰も」

が使われる。Nessuno はラテン語 ne ĭpsu(m)「もない」と ūnu(m)「1」の複合から派生した語である[6]。また nessuno は動詞に対して後置される場合には否定辞 non を伴う[7]。

なお、nessuno が動詞に対して後置された(18a)二つ目の文は無標の語順であるが、これは動詞 venire（ここでは接続法現在三人称単数形 venga に活用している）「来る」の性質によるものであろう[8]。実際、例えば動詞を lavorare「働く」に変えて非能格の構文を作ると、次のように動詞に対して前置されたものが無標である。

b. Nessuno lavora.
誰も 働く
「誰も働かない。」

(19) そこには今誰もいないよ。【直接(全部)否定(direct negation)】

a. Lì non c'è nessuno ora.
そこ NEG いる 誰も 今

間接否定において従属節内に non が現れる場合と同様、nessuno が用いられる。

(20) (それは)誰でもできる。【自由選択(free-choice)】

a. Chiunque lo sa fare.
誰でも それを できる する

不定代名詞 chiunque「誰でも」は疑問詞 chi「誰」と譲歩のマーカーである-unque「〜でも」の複合である。また、次の言い方も可能である。

b. Lo sanno fare tutti.
それを できる する みんな
「それはみんなができる。」

なお(20b)および下に挙げる(21a-b)では主語が文末に来ているが、これは無標の語順ではない。イタリア語において新情報が文末に置かれるためである。対して(20a)で Chiunque が無標の位置である文頭に置かれるのは、文脈上、chiunque が焦点要素であると感じられにくいからであろう。

(21) そんなこと(は)、みんな知っているんじゃゃないか!?【自由選択を示す「みんな」】

---

[6] 否定文における nessuno は同じく不定代名詞の alcuno によって交替できるとされるが、現在では非常に文語的な表現になる。
[7] 例外も散見されるものの、原則であると言ってよい。
[8] いわゆる非対格構文を要求する動詞であるためである。

a. Ma non lo sanno tutti?
しかし NEG それを 知っている みんな

(20b)と同様に、tutti が用いられるだろう。また、chiunque を用いた次の文も可能である。通常、「みんな」には tutti、「誰でも」には chiunque が対応しているとされるが、用法には（日本語と同様）大きな違いはないように思われる[9]。

b. Ma lo sa chiunque!
しかし それを 知っている 誰でも
「誰でもそれを知っているよ！」

(22) そんなもの、誰が買うんだよ!?、誰も買うわけないじゃないか!【反語】

a. Chi mai lo comprerebbe!? Nessuno!
誰 一体 それを 買う 誰も

二文目には Nessuno を単体で用いることができる。省略されている要素を明示するとすると、次のようになるだろう。ここでもやはり、焦点要素である nessuno は文末に現れる。

b. Chi mai lo comprerebbe!? Non lo comprerebbe nessuno!
誰 一体 それを 買う NEG それを 買う 誰も

4. なわ張り理論について

(2) 私は頭が痛い。だから今日は休む。（再掲）
【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的 軸項としての機能】

a. Ho mal di testa. Per oggi mi riposo.
持つ:PRS;IND 痛み の 頭 に 今日 休む:PRS;IND

b. Mi fa male la testa. Per oggi mi riposo.
私に する:PRS;IND 痛み ART 頭 に 今日 休む:PRS;IND

(2a-b)いずれの場合にも、直説法現在形が使われる。直接形であると言ってよいだろう。

(23) 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

a. Sei veramente bravo in inglese.
である:PRS;IND 本当に 上手な において 英語

日本語の「ね形」にあたるニュアンスは、ここでは veramente「本当に」によってある程度表されて

[9] Chiunque の方がどちらかといえば文語的な表現である。

いると言えるだろう。いずれにせよ、動詞は(2a-b)と同様に直説法現在形で、直接形である。

(24)　君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

a.　Sembri　annoiato.
　　見える:PRS;IND　退屈した

動詞 sembrare「〜に見える」（ここでは二人称単数形 sembri に活用している）が用いられる。間接形と言える。

(25)　明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

a.　Dicono　che　anche　domani　farà　freddo.
　　言う:PRS;IND;3PL　と　も　明日　する　寒い

b.　Pare　che　anche　domani　farà　freddo.
　　見える:PRS;IND　と　も　明日　する　寒い

動詞 dire「言う」の三人称単数形を用いた非人称的表現 dicono che「〜と言われている」、ないし動詞 parere「〜に見える」を用いて、間接形で表す。

参考文献

de Mauro, Tullio. 1999. *Grande dizionario italiano dell'uso*, UTET, Torino.
Salvi, Giampaolo e Laura Vanelli. 2004. *Nuova Grammatica Italiana*, Il Mulino, Bologna.
Serianni, Luca. 2006. *Grammatica Italiana*, UTET, Torino.

執筆者連絡先: medusoide@gmail.com

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.65-69.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.65-69.

<特集「情報標示の諸要素」>

ポルトガル語
Markers of information structure in Portuguese

水沼 修
Osamu Mizunuma

東京外国語大学非常勤講師
Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨 : 本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するポルトガル語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Portuguese data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語、とりたて表現、不定表現、情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

♦主題卓越型類型論の軸項について

[1]「この土地は野菜がよく育つ.

Os	vegetais	crescem	bem	nesta	terra.
ART.PL.M	vegetable.PL	grow.PRS.3PL	well	in.this.SG.F	soil

だから高い値段で売れるだろう.」

Por	isso,	vender-se-ão	caros.
for	that	sell.FUT.3PL-REFL	expensive.PL.M

[2]「私は頭が痛い.

Estou	com	dor	de	cabeça.
be.PRS.1SG	with	pain	of	head

だから今日は休む.」

Por	isso,	hoje	não	vou	ao	trabalho.
for	that	today	N	go.PRS.1SG	to.ART.SG.M	work

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

♦とりたて表現について

[3][1]「あの人だけ，時間通りに来た.」

Só	aquela	pessoa	chegou	a	tempo.
only	that.SG.F	person	arrive.PST.3SG	to	time

[4][2]「これはここでしか買えない.」

(a)	Só	se	pode	comprar	isto	aqui.
	only	REFL	can.PRS.3SG	buy.INF	this	here

(b)	Não	se	pode	comprar	isto	senão	aqui.
	N	REFL	can.PRS.3SG	buy.INF	this	otherwise	here

[5]「その家にいたのは子供ばかりだった.」

Só	havia	crianças	nessa	casa.
only	have.PRS.3SG	kid.PL	in.that.SG.F	house

[6]「次回こそ，失敗しないようにしよう.」

Na	próxima	vez,	não	podemos	falhar.
in.ART.SG.F	next	time	N	can.PRS.1PL	miss.INF

[7][3]「疲れたね,

Estamos	cansados.
be.PRS.1PL	tired.PL.M

お茶でも飲もう.」

Tomemos	um	chá.
take.IMP.1PL	ART.SG.M	tea

[8][4]「水さえあれば，数日間は大丈夫だ.」

Só	com	água,	sobrevivo	uns	dias.
only	with	water	survive.PRS.1SG	ART.PL.M	day.PL

---

1 「限定」を表すとりたて表現（[3]〜[5]）としては，「só（だけ）」や「apenas（だけ）」などが一般的である.

2 (a)は，「só（だけ）」を用いて「ここだけで買える」，(b)は，「senão（そうでなければ）」を用いて，「ここ以外では買えない」を表している.

3 スペイン語同様（野田 2015），「反限定」を表す副詞としてのとりたて表現はなく，副詞以外の表現（「ou alguma coisa assim」（か何か）など）が用いられる.

4 「極端（さえ）」に該当する表現としては，「até（まで）」などの副詞を用いるのが一般的だが，[8]のような場合には，「só（だけ）」が用いられることもある.

[9]「小さい子供まで,

Até	as	crianças	pequenas
even	ART.PL.F	kid.PL	small.PL.F

その仕事の手伝いをさせられた.」

foram	obrigadas	a	ajudar	nesse	trabalho.
be.PST.3PL	force.PTCP.PL.F	to	help.INF	in.that.SG.M	work

[10]「私はお金なんか欲しくない.」

Eu	não	quero	dinheiro.
I	N	want.PRS.1SG	money

[11][5]「自分の部屋ぐらい,

É	o	teu	quarto.
be.PRS.3SG	ART.SG.M	your.SG.M	room

自分できれいにしなさい.」

(a)	Tu	limpa-lo	sozinho.
	you	clean.PRS.2SG-it	alone

(b)	Tu	é	que	o	arrumas.
	you	be.PRS.3SG	REL	it	clean.PRS.2SG

[12]「私にもちょうだい.」

Dá-me	também.
give.IMP.2SG-me	too

[13]「お父さんもう帰って来たね

O	pai	já	chegou.
ART.SG.M	father	already	arrive.PST.3SG

お母さんは？」

E	a	mãe	?
and	ART.SG.F	mother	

5 「反極端（ぐらい，こそ)」を表すとりたて表現としては，スペイン語同様（野田 2015)，「pelo menos（少なくとも)」,「só（だけ)」などがあるが，これら以外にも特定の語順で表現されたり，強調表現が用いられることもある．ここでは，便宜上,「自分の部屋なのだから，自分できれいにしなさい」を表す文としている．

♦不定表現について

[14]「誰か（が）電話してきたよ.」

Alguém	nos	ligou.
someone	us	call.PST.3SG

[15]「誰かに聞いてみよう.」

Vamos	perguntar	a	alguém.
go.PRS.1PL	ask.INF	to	someone

[16]「私のいない間に誰か来た？」

Alguém	veio	quando	eu	não	estava	cá ?
someone	come.PST.3SG	when	I	N	be.IPFV.1SG	here

[17]「誰か来たら，私に教えてください.」

Avise-me	se	alguém	vier.
tell.IMP.3SG-me	if	somebody	come.SBJV.FUT.3SG

[18]「今日は誰も来るとは思わない.

Não	acho	que	alguém	venha	hoje.
N	think.PRS.1SG	REL	someone	come.SBJV.PRS.3SG	today

／今日は誰も来ないと思う.」

/	Acho	que	ninguém	vem	hoje.
	think.PRS.1SG	REL	nobody	come.PRS.3SG	today

[19]「そこには今誰もいないよ.」

Lá	não	está	ninguém	agora.
there	N	be.PRS.3SG	nobody	now

[20]「(それは) 誰でもできる.」

Toda	a	gente	consegue.
every	ART.SG.F	people	can.PRS.3SG

[22]「そんなもの，誰が買うんだよ!?

Quem	compra	isso ?
who	buy.PRS.3SG	that

誰も買うわけないじゃないか！」

Ninguém	o	comprará.
nobody	it	buy.FUT.3SG

♦なわ張り理論について

[23]「君は英語がうまいね.」

Falas	bem	inglês.
speak.PRS.2SG	well	English

[24]「君は退屈そうだね.」

Estás	com	ar	de	aborrecido.
be.PRS.2SG	with	air	of	bored

[25]「明日も寒いらしいよ.」

Dizem	que	vai	ser	frio	amanhã	também.
say.PRS.3PL	REL	go.PRS.3SG	be.INF	cold	tomorrow	too

執筆者連絡先:**osamu.mizunuma@me.com**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.71-74.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.71-74.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

情報標示の諸要素 —チェコ語—
Markers of information structure in Czech

浅岡 健志朗
Kenshiro Asaoka

東京大学大学院人文社会科学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するチェコ語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Czech data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

「情報標示の諸要素」に関するアンケートに，チェコ語について回答する．調査協力者はボヘミア地方出身の 20 代後半チェコ語母語話者一名である[1]．例文は主に調査協力者が日本語をチェコ語に翻訳する方法で得られた．一部，筆者の作例を調査協力者に適当かどうか判断してもらう方法で得られたものもある．

2. データ

2.1. 主題卓越型類型論の軸項について

(1)

Tahle	hlín-a	plod-í	hodně	zelenin-y,
this.SG.NOM	soil-SG.NOM	produce.PRS.IPFV-3SG	many	vegetable-SG.GEN
takže	je	drah-á.		
so	COP.PRS.3SG	expensive-SG.NOM		

「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」

(2)

Bol-í	mě	hlav-a,	takže	si	odpočin-u.
hurt.PRS.IPFV-3SG	1SG.ACC	head-SG.NOM	so	REFL	have a rest.PRS.PFV-1SG

「私は頭が痛い．だから今日は休む．」

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 調査協力者はプラハ・カレル大学の日本語専攻を出て日本の修士課程を終了しており，日本語をチェコ語に翻訳するのに十分な日本語の能力を持っている．

2.2. とりたて表現について

(3) Na čas přiše-l jenom on.
on time come.PFV- PST.3SG.M only 3SG.NOM
「あの人だけ，時間通りに来た.」

(4) To se dá koupit jenom tady.
this.SG.NOM REFL be possible.PRS.IPFV.3SG buy.IPFV.INF only here
「これはここでしか買えない.」

(5) V tom dom-ě by-l-y jenom dět-i.
in that.SG.LOC house-SG.LOC COP-PST-3PL.F only child-PL.NOM
「その家にいたのは子供ばかりだった.」

(6) Příště chyb-u už ne-udělej-me.
next time failure-SG.ACC anymore NEG-do.PFV.IMP-1PL
「次回こそ，失敗しないようにしよう.」

(7) To by-l-a ale[2] fušk-a, pojď-me si
this.SG.NOM COP-PST-3SG.F why hard work-SG.NOM go.PFV.IMP-1PLREFL

někam na chvíli sednout.
somewhere for a while sit down.INF
「疲れたね，お茶でも飲もう.」

(8) Když bud-eme mít vod-u,
if FUT-1PL have.IPFV.INF water-SG.ACC

tak pár dní bud-e v pohodě.
then for some days COP.FUT-3SG all right
「水さえあれば，数日間は大丈夫だ.」

(9) S tou prac-í pomáha-l-y i mal-é děti.
with that.SG.INS work-SG.INS help.IPFV-PST-3PL.F even small-PL.NOM child.PL.NOM
「小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた.」

(10) Já žádn-ý prach-y ne-chc-i.
1SG.NOM none of-PL.ACC money-PL.ACC NEG-want.PRS.IPFV-1SG
「私はお金なんか欲しくない.」

---

[2] 驚きや感嘆を表す助詞．(21)に現れるものも同様.

(11) Svůj pokoj si laskavě ukliď sám.
own.SG.ACC room.SG.ACC REFL kindly clean.PFV.IMP.2SG by oneself
「自分の部屋ぐらい，自分できれいにしなさい.」

(12) Dej mi taky.
give.PFV.IMP.2SG 1SG.DAT also
「私にもちょうだい.」

(13) Tát-a se už vráti-l, že jo?
dad-SG.NOM REFL already return-PFV.PST.3SG right

A co mamk-a?
and what about mom-SG.NOM
「お父さんもう帰って来たね．お母さんは？」

2.3. 不定表現について

(14) Někdo zavola-l.
someone.NOM call-PST.3SG.M
「誰か（が）電話してきたよ.」

(15) Někoho se zept-áme.
someone.GEN REFL ask-PRS.PFV-1PL
「誰かに聞いてみよう.」

(16) Přiše-l někdo, když jsem tady ne-by-l?
come.PFV-PST.3SG.M someone.NOM when AUX.1SG here NEG-COP-PST.M
「私のいない間に誰か来た?」

(17) Řekn-ěte mi, když někdo přijd-e.
say.PFV.IMP-2PL 1SG.DAT if someone.NOM come.PRS.PFV-3SG
「誰か来たら，私に教えてください.」

(18) Mysl-ím, že dneska nikdo ne-přijd-e.
think-PRS.PFV-1SG COMPL today no one.NOM NEG-come.PRS.PFV-3SG
「今日は誰も来るとは思わない．/今日は誰も来ないと思う.」

(19) Tam nikdo teď není.
there no one.NOM now NEG.COP.PRS.3SG
「そこには今誰もいないよ.」

(20) To um-í každ-ý.
that.SG.ACC can do.PRS.IPFV-3SG everyone-SG.NOM
「(それは) 誰でもできる.」

(21) To ale ví všichn-i, že jo?
that.SG.ACC why know.PRS.IPFV.3PL everyone-PL.NOM right
「そんなこと(は), みんな知っているんじゃないか!?」

(22) Kdo tohle koup-í?
who.NOM this.SG.ACC buy.PRS.PFV-3SG

To si přece nikdo ne-koup-í.
that.SG.ACC REFL yet no one.NOM NEG-buy.PRS.PFV-3SG
「そんなもの, 誰が買うんだよ!?, 誰も買うわけないじゃないか!」

2.4. なわ張り理論について

(23) Ty mluv-íš fakt dobře anglicky.
2SG.NOM speak.PRS.IPFV -2SG really well in English
「君は英語がうまいね.」

(24) Ty se nud-íš nebo co?
2SG.NOM REFL bore.PRS.IPFV-2SG right
「君は退屈そうだね.」

(25) Zítra bud-e prý taky zim-a.
tomorrow COP.FUT-3SG supposedly also cold-SG.NOM
「明日も寒いらしいよ.」

略号

ACC (対格) AUX (助動詞) COMPL (補文標識) COP (コピュラ) DAT (与格) F (女性) FUT (未来) GEN (属格) IMP (命令) INF (不定形) IPFV (不完了体) LOC (前置格) M (男性) NEG (否定) NOM (主格) PFV(完了体) PL (複数) PRS (現在) PST (過去) REFL (再帰代名詞) SG (単数)

執筆者連絡先 : kenshiro.asaoka1990@gmail.com

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.75-86
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.75-86

〈特集「情報標示の諸要素」〉

ロシア語における情報標示の諸要素
Some markers of information structure in Russian

宮内 拓也[1,2]，後藤 雄介[1]，テレギナ マリア[3,4]
Takuya Miyauchi, Yusuke Goto, Maria Telegina

1 東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

2 国立国語研究所コーパス開発センター非常勤研究員
Adjunct Researcher, Center for Corpus Development, National Institute for Japanese Language and Linguistics

3 オックスフォード大学東洋学部日本語研究センター
Doctoral Course, Research Centre for Japanese Language and Linguistics, Faculty of Oriental Studies, University of Oxford

4 国立国語研究所特別共同利用研究員
Special Joint Research Fellow, National Institute for Japanese Language and Linguistics

要旨:本稿の目的は，特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与するために，ロシア語のデータを提供することである．簡単な解説を加えながら，アンケートに沿った形でロシア語の例文を提示する．

Abstract: The aim of this report is to offer Russian data to contribute to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). We present Russian examples following the questionnaire, adding brief explanations for them.

キーワード: 主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

本稿ではロシア語における情報表示の諸要素について，特集のアンケートを基にまとめることを目的とする．

以下，2 節にてアンケートに沿った形でロシア語の例文を提示し，簡単な解説を加える．グロスの下にある日本語文は，特集のアンケート例文をそのまま記載したものであり，ロシア語例文の日本語訳ではないことに注意されたい．なお，本稿における例文番号はすべてアンケートの番号と同一である．アンケートにて回答を求められた例文以外にも，必要に応じて補足的な例文を加えてある．その際は同一の例文番号のもと，より小さな項目(a, b, c ...)によって示しており，補足した例文である旨は注において示してある．例文についてはキリル文字によるものとラテン文字によるものを併記することとする[1].

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] ラテン文字による翻字はロシア文字による表記の下，グロスの上に記すこととする．翻字は以下の通りとする： А = A，Б = B，В = V，Г = G，Д = D，Е = E，Ё = E，Ж = Ž，З = Z，И = I，Й = J，К = K，Л = L，М = M，Н = N，О = O，П = P，Р = R，С = S，Т = T，У = U，Ф = F，Х = X，Ц = C，Ч = Č，Ш = Š，Щ = Šč，Ъ = ”，Ы = Y，Ь = ’，Э = È，Ю = Ju，Я = Ja.

2. アンケートへの回答

2.1. 主題卓越型類型論の軸項について

(1) На этой земле хорошо родятся овощи, наверно, поэтому *(её)
Na étoj zemle xorošo rodjatsja ovošči , naverno, poétomu *(ee)
on this-LOC soil-LOC well are_born-IPFV.3.PL vegetables-NOM probably therefore it-ACC

можно продать по высокой цене.
možno prodat' po vysokoj cene.
can-IPFV sell-PFV.INF at high-DAT price-DAT[2]

「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」

統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項(pivot)の機能については，(1)のように，主題である前置詞句 *на этой земле*「この土地で」を受ける場合，代名詞 *её*「それ」を用いる．代名詞を省略することは許されず，省略した場合は非文法的となる．そのため，必須項ではない名詞は統語的軸項の機能を果たさない．

(2) a. У меня болит голова, поэтому сегодня я отдохну.
U menja bolit golova, poétomu segodnja ja otdoxnu.
at I-GEN hurts-IPFV.3.SG head-NOM therefore today I-NOM have_a_rest-PFV.1.SG

「私は頭が痛い．だから今日は休む．」

b. * Этот студент болит голова.[3]
* Ètot student bolit golova.
this-NOM student-NOM hurts-IPFV.3.SG head-NOM

「この学生は頭が痛い．」

統語的軸項としての機能については，(2a)のように主題として前置詞句 *у меня*「私のところで」が用いられ，*голова*「頭」が主格となる．2 つ目の節では，主語 *я*「私」が明示されており，そのため，主題は統語的軸項として機能していない．また，(2b)のように *этот студент*「この学生」と *голова* の両方を主格にし，二重主語構文にすると非文になる．よって，ロシア語は典型的な主題卓越型言語ではないといえる[4]．

---

[2] グロスは議論に関わるもののみ付す．文法情報の略記は以下の通りとする：SG = 単数，PL = 複数，M = 男性，F = 女性，N = 中性，NOM = 主格，ACC = 対格，GEN = 生格(属格)，DAT = 与格，INS = 造格(具格)，LOC = 前置格(所格)，1 = 1 人称，2 = 2 人称，3 = 3 人称，INF = 不定形，PFV = 完了体(完了相)，IPFV = 不完了体(不完了相)，IMP = 命令法，COMP = 補文標識，PTCL = 助詞(小詞).

[3] (2b)の例は，アンケートにない追加の例文である．

[4] ただし，ロシア語には，主題卓越型言語に典型的にみられる特徴もある．詳細は匹田 (2004)を参照されたい．

2.2. とりたて表現について

(3) Только этот мужчина пришёл[5] вовремя.
Tol'ko étot mužčina prišel vovremja.
only this-NOM man-NOM.SG.M arrived-PFV.M on_time
「あの人**だけ**，時間通りに(歩いて)来た.」

(3)に見るように，限定については，主語名詞句 *этот мужчина*「あの(男の)人」に，限定を表す *только*「だけ」を組み合わせることで表される[6].

(4) a. Это можно купить только здесь.
Èto možno kupit' tol'ko zdes'.
this-ACC can-IPFV buy-PFV.INF only here
「これはここで**しか**買えない.」

b. Я хочу выучить русский язык, только не знаю,
Ja xoču vyučit' russkij jazyk tol'ko ne znaju,
I-NOM want-IPFV.1.SG learn-PFV.INF Russian-ACC language-ACC only not know-IPFV.1.SG
как (это сделать).[7]
kak (éto sdelat').
how this-ACC do-PFV.INF
「私はロシア語を学習する気はあるが，どうやって学習したらいいのかが分からないだけだ.」

c. Он владеет не только русским языком, но ещё и французским
On vladeet ne tol'ko russkim jazykom, no ešče i francuzskim
he-NOM master-IPFV.3.SG not only Russian-INS language-INS but also and French-INS
и японским языками.
i japonskim jazykami.
and Japanese-INS languages-INS
「彼はロシア語だけではなく，フランス語と日本語にも堪能である.」

限定と否定の共起に関して，アンケート例文を基にした(4a)では，限定のみで否定は用いられない．つまり，(4a)のロシア語文の直訳は「これはここでだけ買える」となる．しかし，(4b, c)の例で示すように，ロシア語において，限定と否定が共起する際も，限定を表す *только*「だけ」を用いることができる．なお，(4b)は限定が否定より広い作用域を取り，(4c)は否定が限定より広い作用域を取る例である．

---

[5] ロシア語において移動を表す表現は，どのように移動するかによって異なる動詞が用いられる．例えば,「到着する」という表現は、*прийти*「(歩いて)到着する」，*приехать*「(乗り物で)到着する」，*прилететь*「(飛行機で)到着する」，*приплыть*「(泳いで)到着する」のように，どのように移動するかによって，使用される動詞が異なる．

[6] なお，ここでは「あの人」は男性であるとし，主語に *только этот мужчина*「あの(男の)人だけ」が用いられているが，これ以外にも *только он*「彼だけ」も同様の意味で用いることが可能である．また，「あの人」が女性を指している場合は，*только эта женщина / девушка*「あの(女の)人だけ」も可能である．

[7] (4b)及び(4c)の例はアンケートにない，追加の例文である．なお，(4b)における 2 文目従属節の *это сделать*「それをやる」は省略可能である．

(5) В этом доме были { сплошь дети / только дети / много
V étom dome byli sploš' deti / tol'ko deti / mnogo
in this-LOC house-LOC were entirely children-NOM only children-NOM many
детей }.
detej }.
children-GEN
「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」

限定・多数を表す場合，(5)で示すように，いくつかの表現が可能である．それぞれ，構文は同じであるが，「子供」と結合する語が異なる．限定・多数を共に一語で表現するために副詞 *сплошь*「全面的に」を用いると日本語文に最もよく対応したものとなる．ただし，*сплошь* をこのように用いるのはかなり口語的である．限定を表す *только*「だけ」を使用した場合，限定の意味のみを示すことになるため，「大人はいなかった」ことが含意される．多数を意味する *много*「たくさん」を使用した場合，多数の意味のみが表現されるため，大人の人数についての含意はない．

(6) a. Уж в следующий раз, я { постораюсь справиться / точно не
Už v sledujuščij raz ja postorajus' spravit'sja / točno ne
PTCL in next-ACC time-ACC I-NOM try-PFV.1.SG cope-PFV.INF definitely not
потерплю неудачи}.
poterplju neudači}.
loose-PFV.1.SG failure-GEN

b. Я { постораюсь справиться / точно не потерплю неудачи} в
Ja { postorajus' spravit'sja / točno ne poterplju neudači } v
I-NOM try-PFV.1.SG cope-PFV.INF definitely not loose-PFV.1.SG failure-GEN in
следующий раз.
sledujuščij raz.
next-ACC time-ACC
「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」

限定・強調の意味については，(6a)のように，強調の助詞 *уж*「もう」を用いることで表出させることが可能である．一方，(6b)のように助詞を用いない場合は，前置詞句 *в следующий раз*「次回に」を後置することで「こそ」のニュアンスを出すことが可能である．ただし，当該の前置詞句を後置する方が，助詞 *уж* を用いるよりも「こそ」のニュアンスがより出る．

(7) a. Ты устал? Чаю что ли попьём?
Ty ustal? Čaju što li pop'em?
you-NOM became_tired-PFV.2.SG tea-GEN PTCL drink-PFV.1.PL

b. Наверно устал? Давай хотя бы чаю попьём .
Naverno ustal? Davaj xotja by čaju pop'em .
probably became-tired-PFV.2.SG let's PTCL tea-GEN drink-PFV.1.PL
「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」

反限定・例示については，(7a)の *что ли*「～か何か」，(7b)の *хотя бы*「例えば～でも」，どちらも可能である．ただし，*что ли* は英語で言う *or something* にあたる表現になるため，「例えば，お茶を飲もうか」

という意味になる．一方，後者の場合，「他に選択肢がないので，お茶でも飲もう」[8]とうニュアンスが含意される．なお，「飲もう」にあたる *попьём* は動詞 *попить*「飲む」の一人称単数形で勧誘を表している．

(8) Была бы только вода, { можно прожить несколько дней / пару дней протяну }.
Byla by tol'ko voda, { možno prožit' neskol'ko dnej / paru dnej protjanu }.
was.F PTCL only water-NOM.F can-IPFV live-PFV.INF some days-GEN pair-ACC days-GEN last_out-PFV.1.SG
「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」

極端・意外の表現については，仮定法[9]と，(3)の限定と同様に，*только*「だけ」を用いて表される．なお，動詞 *протяну*「生きながらえる」を使う方が *можно прожить*「生きることができる」と比べて少し口語的である．

(9) a. Даже маленькие дети были вынуждены помогать с этой работой.
Daže malen'kie deti byli vynuždeny pomogat' s étoj rabotoj.
even-PTCL little-NOM children-NOM were be_compelled-PL help-IPFV.INF with this-INS work-INS

b. Даже маленьких детей заставили помогать работать.
Daže malen'kix detej zastavili pomogat' rabotat'.
even-PTCL little-ACC children-ACC made-PL help-IPFV.INF work-IPFV.INF
「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」

(9)のような極端・意外の例については，(9a, b)ともに，助詞 *даже* が「まで」にあたるニュアンスを出している．また，(9b)では動詞 *заставили*「強いた」を用いているが，この動詞を使用する場合，かなり強い強制のニュアンスが出る．さらに，動詞 *заставили* の後ではなく，文頭に補語の名詞句 *маленьких детей*「小さな子供を」を置くことで，単に助詞 *даже* を用いるだけの場合よりも「まで」のニュアンスをさらに強くすることが可能である．なお，「その仕事の手伝いをする」という表現については，(9a)のように動詞 *помогать*「助ける」に前置詞句 *с этой работой*「その仕事で」を続けるよりも，(9b)のように不定形の *работать*「働く」を続ける方が総じて自然になる．

(10) a. Мне до денег дела нет.
Mne do deneg dela net.
I-DAT to money-GEN business-GEN no

b. Не хочу я денег.
Ne xoču ja deneg.
not want-1.SG I-NOM money-GEN
「私はお金**なんか**欲しくない.」

---

[8] 例えば，お茶以外の飲み物がない，または他にやることがない等が状況として考えられる．
[9] ロシア語において，仮定法は動詞の過去時制と仮定法を明示する標識によって表される(АН СССР 1960: 501)．本例では，過去時制の動詞は *была*，仮定法の標識は *бы* となっている．

c. Да куда ему![10]
Da kuda emu!
PTCL where he-DAT
「彼に**なんか**できるものか.」

反極端・低評価を示す場合，(10a)の例が「お金なんて興味ない，どうでもいい」という日本語のニュアンスが一番よく出る．(10b)も同様に可能であるが,「お金なんか」の反極端・低評価のニュアンスは,(10a)ほどではない. なお, (10b)の語順に関して, *Я не хочу денег.*(主語 否定辞 動詞 補語)とするよりも, *Не хочу я денег.*(否定辞 動詞 主語 補語)とする方がより反極端・低評価のニュアンスが出る．これは否定辞＋動詞を前置することで「いらない」が強調されることにより，それに応じて *денег*「お金」への低評価を表現することができると考えられる．(10c)の *куда* を用いた例も反極端・低評価を表すことが可能である．ただし，これを用いるのが可能なのは，かなり限られた場合のみである．

(11) { По крайней мере / Хотя бы } свою комнату сам прибери.
{ Po krajnej mere / Xotja by } svoju komnatu sam priberi.
at_least at_least self's-ACC room-ACC oneself-NOM clean-PFV.IMP.2.SG
「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」

反極端・最低限については，*по крайней мере*「少なくとも」，*хотя бы*「せめて～でも」のどちらも最低限を表す表現として使用可能である．*по крайней мере* を使用すると少し硬い感じがし，*хотя бы* を使用する方がこの文脈ではより自然である．

(12) И мне (дай).
I mne (daj).
PTCL I-DAT give-PFV.IMP.2.SG
「私に**も**ちょうだい.」

類似・例示の意味について，ロシア語においては強調の助詞 *и*「～も」によって表される．*Дай и мне.*(動詞 助詞 補語)の語順よりも，*И мне дай.*(助詞 補語 動詞)のように，助詞＋補語を前置する方が，より類似・例示のニュアンスを強めることが出来る．また，動詞 *дай* は省略可能であり，*и* と補語のみで表現することも可能である．

(13) Папа уже { дома, / пришёл домой, } а мама?
Papa uže { doma, / prišel domoj, } a mama?
papa-NOM yet at_home arrived-3.SG home whereas mama-NOM
「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」

反類似・対比(疑問)の意味について，ロシア語には，軽い対立・対照を表す接続詞として *а*「～だが...」がある．(13)において，この接続詞は，*папа*「父親」と *мама*「母親」を対照する働きをしている．なお,「お父さんはもう帰ってきたね」の箇所に関して，コピュラ文[11]の場合と，動詞 *пришёл*「到着した」を

[10] (10c)の例はアンケートにない，追加の例文である．
[11] ロシア語において，コピュラ動詞 *быть* は現在時制の場合，通常，音声上顕在的な要素として現れない．ロシア語におけるコピュラ文に関しては，非常に複雑な様相を呈しており，詳細については，Chvany

使用した文の場合とがある．どちらの文も可能であるが，通常想定される状況では前者が自然で，後者は少し不自然(使える場面が非常に限られている)である．

2.3. 不定表現について

まず, ロシア語の不定代名詞, 否定代名詞の形成法について簡単に述べる. 不定代名詞は疑問詞に *кое-*, *-то*，*-нибудь*，*-либо* といった接辞を添加することにより形成される．また，否定代名詞は疑問詞に接辞 *ни-*を添加することでできる．これを疑問詞 *кто*「誰」，*что*「何」を例として用いてまとめたものが表 1 である．なお，このように形成される代名詞については，曲用するのは疑問詞部分のみである．

表 1 ロシア語の不定代名詞，否定代名詞の形成の例

疑問詞	кое-	-то	-нибудь	ни-
кто「誰」 kto	кое-кто koe-kto	кто-то kto-to	кто-нибудь kto-nibud’	никто nikto
что「何」 čto	кое-что koe-čto	что-то čto-to	что-нибудь čto-nibud’	ничто ničto

図 1 は Haspelmath (1997)によるロシア語の不定表現の含意マップ(implicational map)である．さらに，図 2 は Татевосов (2002)による含意マップである．

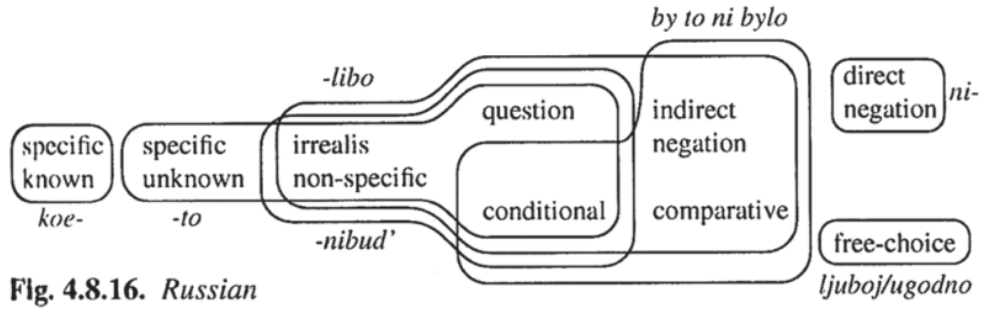


図 1 Haspelmath (1997: 71)によるロシア語の含意マップ

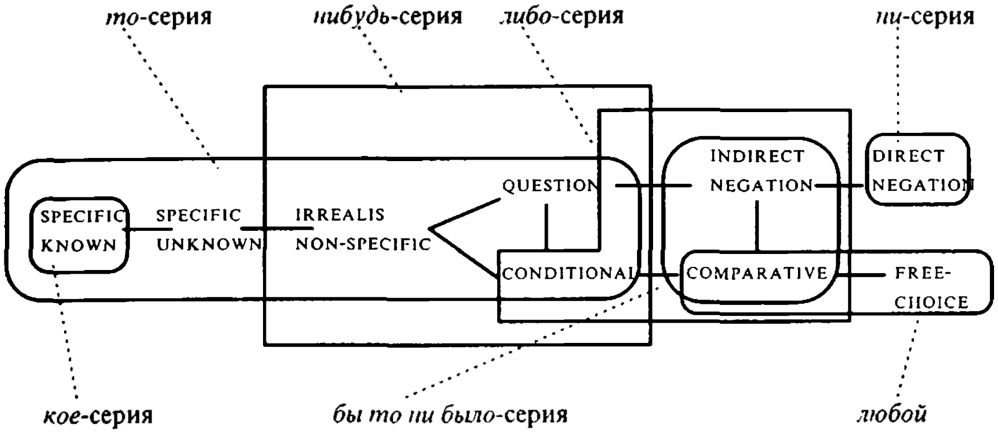


図 2 Татевосов (2002: 141)によるロシア語の含意マップ

(1975)や Pereltsvaig (2007)等を参照されたい．

特集と関係のある点について上記の先行研究における記述の違いをまとめると，Haspelmath (1997)は特定既知(specific known)の文脈で то 系列の不定代名詞が現れないとしている一方で，Татевосов (2002)は用いることができるとしている．さらに либо 系列は，Haspelmath (1997)は非現実不特定(irrealis non-specific)，疑問(queation)の文脈でも用いられるとするが，Татевосов (2002)は用いられないとする．бы то ни было 系列については，Haspelmath (1997)が条件節内(conditional)でも現れ得るとしている一方，Татевосов (2002)は現れないとしている[12]．

(14) { Кое-кто / # Кто-то } звонил.
Koe-kto / # Kto-to zvonil.
someone-NOM someone-NOM called-IPFV.M
「**誰か**（が）電話してきたよ．」

(14)では不定代名詞 *кое-кто*「誰か」[13]が用いられている．このように，特定既知の環境では *кое* 系列の不定代名詞が現れる．*кое* 系列の不定代名詞は特定既知の文脈で用いられるものであるため，「お互いに名前を知っているから言わないという状況」が想起され，ここで *кое-кто* は「(例の)あの人」のような意味になる．また，本調査では特定既知の文脈で *кто-то*「誰か」は用いることはできないという結果であった[14]．なお，*кое-кто*, *кто-то* は男性形の一致を要求する．

(15) Давай у { кого-то / кого-нибудь / ?? кого-либо / # кого бы то ни было } спросим.
Davaj u { kogo-to / kogo-nibud' / ?? kogo-libo / # kogo by to ni bylo } sprosim.
let's at someone-GEN someone-GEN someone-GEN someone-GEN ask-PFV.1.PL
「**誰か**に聞いてみよう．」

(15)のように，非現実不特定の環境では，不定代名詞 *кого-то*, *кого-нибудь*「誰か」が用いられる．この環境で *кого бы то ни было*「誰か/誰も」を用いることはできない．*кто-либо*「誰か/誰も」については，不自然になるものの，この環境で用いるのは不可能ではない[15]．

(16) { Кто-то / Кто-нибудь / ?? Кто-либо / # Кто бы то ни было } приходил, пока
{ Kto-to / Kto-nibud' / ?? Kto-libo / # Kto by to ni bylo } prixodil, poka
someone-NOM someone-NOM someone-NOM someone-NOM came-IPFV.M while
меня не было?
menja ne bylo?
I-GEN not was-N
「私のいない間に**誰か**来た？」

疑問の環境においては，(16)で示すように不定代名詞 *кто-то*，*кто-нибудь*「誰か」共に用いることができる．しかし，この環境で *кто бы то ни было*「誰か/誰も」を用いることはできない．なお，*кто-то*

---

[12] なお，各不定代名詞は現れ得る環境だけではなく，スコープの取り方においても違いがある．詳細は Yanovich (2006)や Geist (2008)等を参照のこと．
[13] ロシア語の不定代名詞の訳語は，基本的に Haspelmath (1997: 75)にある日本語の不定代名詞の含意マップにおいて対応するものを充てることとする．
[14] 本調査は，この点では Татевосов (2002)の記述より Haspelmath (1997)の記述を支持することになる．
[15] この不自然さについて，生起可能と捉えるか，不可能と捉えるかによって，Haspelmath (1997)と Татевосов (2002)との間で記述が揺れているものと思われる．

を用いれば，話者が事態の発生を知っていることが含意され「誰かが来たことはわかっている」，*кто-нибудь* を用いれば，話者が事態の発生自体についても知らないということがそれぞれ含意され，「誰かが来たかどうかわかっていない」という意味になる．(15)と同様，*кто-либо*「誰か/誰も」については，この環境で用いるのは不可能ではないが，不自然になる[16]．

(17) Если { кто-то / кто-нибудь / кто-либо / ? кто бы то ни было } придёт,
Esli { kto-to / kto-nibud' / kto-libo / ? kto by to ni bylo } pridet,
if someone-NOM someone-NOM someone-NOM someone-NOM comes-PFV.3.SG
сообщите мне, пожалуйста.
soobščite mne, požalujsta.
inform-PFV.IMP.2.PL I-DAT please
「**誰か**来たら，私に教えてください．」

(17)に示すように，条件節内においては，*кто-то*，*кто-нибудь*「誰か」，*кто-либо, кто бы то ни было*「誰か/誰も」のどれも用いることが可能である．ただし，*кто бы то ни было* は若干不自然になる[17]．

(18) a. Я не думаю, что { # кто-то / кто-нибудь / кто-либо /
Ja ne dumaju, što { # kto-to / kto-nibud' / kto-libo /
I-NOM not think-IPFV.1.SG that-COMP someone-NOM someone-NOM someone-NOM
кто бы то ни было } сегодня придёт.
kto by to ni bylo } segodnja pridet.
someone-NOM today comes-PFV.3.SG
「今日は**誰も**来るとは思わない．」

b. Я думаю, что сегодня никто не придёт.
Ja dumaju, što segodja nikto ne pridet.
I-NOM think-IPFV.1.SG that-COMP today no_one not comes-PFV.3.SG
「今日は**誰も**来ないと思う．」

間接否定(indirect negation)の上位節の否定(superordinate negation)の環境では，(18)で示すように，*кто-нибудь*「誰か」，*кто-либо, кто бы то ни было*「誰か/誰も」を用いることが可能である[18]．しかし，この環境では，*кто-то*「誰か」を用いることはできない．(18b)においては，補文内に否定辞が生起し，直接否定環境になっている，この場合は，不定代名詞は現れず，否定代名詞 *никто*「誰も(～ない)」が用いられることになる．

[16] 脚注 15 と同様，この不自然さについて，生起可能と捉えるか，不可能と捉えるかによって，Татевосов (2002)と Haspelmath (1997)の間で記述が揺れているものと思われる．
[17] これについても，脚注 15，16 と同様の理由で，Haspelmath (1997)と Татевосов (2002)の間で記述が揺れていると考えられる．
[18] Haspelmath (1997)，Татевосов (2002)ともに，含意マップには間接環境において нибудь 系列の不定代名詞は用いられないとしているが，本調査では(少なくとも 18a の例文においては)，нибудь 系列の不定代名詞が現れる結果となった．なお，補文の環境が *кто-нибудь*, *кто-либо, кто бы то ни было* が認可されない環境であれば，当然これらの不定代名詞は用いられない．

(19) Сейчас там никого нет.
Sejčas tam nikogo net.
now there no_one-GEN not_be
「そこには今**誰も**いないよ.」

(19)では，(18b)で見たのと同様に，直接否定環境においては，否定代名詞 *никто*「誰も(～ない)」が現れる[19].

(20) Это { любой / кто угодно } может.
Èto { ljuboj / kto ugodno } možet.
this-ACC anyone-NOM.SG anyone-NOM can-IPFV.3.SG
「(それは) **誰でも**できる.」

自由選択(free choice)の意味では，(20)で示すように *любой, кто угодно*「誰でも」どちらも用いることが可能である.

(21) Это же { любой / кто угодно } знает?!
Èto že { ljuboj / kto ugodno } znaet?!
this-ACC PTCL anyone-NOM.SG anyone-NOM knows-IPFV.3.SG
「そんなこと（は)，**みんな**知っているんじゃないか!?」

(20)と同様(21)でも，自由選択を示す「みんな」について，*любой, кто угодно*「誰でも」が現れる.

(22) Да кто же такое купит?! Да никто такое не купит!
Da kto že takoe kupit?! Da nikto takoe ne kupit!
PTCL who-NOM PTCL ever buys-PFV.3.SG PTCL no_one-NOM ever not buys-PFV.3.SG
「そんなもの，**誰が**買うんだよ!? 誰も買うわけないじゃないか！」

(22)のような反語の文については，不定代名詞は用いられず，通常の疑問詞 *кто*「誰」が用いられる．助詞 *да* と *же* により文が強調されており，また *такое*「一体」は *кто* を強調している．なお，反語として内容的に前半に含意されている後半の文については否定代名詞が用いられている．ここでも助詞 *да* が文を強調し，*такое* が *никто*「誰も(～ない)」を強調している.

2.4. なわ張り理論について

(23) a. У тебя ведь очень хороший английский.
U tebja ved' očen' xorošij anglijskij.
at you-GEN.SG PTCL very good English

[19] なお，冗語的な(pleonastic)否定や虚辞的な(expletive)否定の文においては，то 系列の不定代名詞や нибудь 系列の不定代名詞が否定辞と同節内で用いられることもあり得ることも指摘されている．詳細は Brown (1999)を参照のこと．さらに，直接否定環境において，либо 系列の不定代名詞が主語になる場合は認可されないが，補語になる場合は認可されることも指摘されている．詳細は Татевосов (2002)を参照のこと.

b. Ты ведь очень хорошо говоришь по-английски.
Ty ved' očen' xorošo govoriš' po-anglijski.
you-NOM.SG PTCL very well speak-IPFV.2.SG. in_English
「君は英語がうまいね.」

情報が話し手のなわ張り内にあり，かつ聞き手のなわ張り内にもある場合，(23)のように直接形[20]で表現される．助詞 *ведь*「だって」を用いることで，この場合のニュアンスを若干出すことが可能である．

(24) Тебе { наверняка / наверно } скучно.
Tebe { navernjaka / naverno } skučno
you-DAT.SG certainly probably bored
「君は退屈そうだね.」

情報が話し手のなわ張り外，聞き手のなわ張り内にある場合，(24)で示すように *наверняка*「確かに」や *наверно*「たぶん」といった副詞により間接形となる．

(25) { Завтра вроде / Кажется завтра } тоже будет холодно.
{ Zavtra vrode / Kažetsja zavtra } tože budet xolodno.
tomorrow it_looks_as_if apparently tomorrow too will_be-3.SG cold
「明日も寒いらしいよ.」

情報が話し手のなわ張り外，聞き手のなわ張り外にある場合は，(25)のように *вроде*「どうやら～らしい」や *кажется*「たぶん～らしい」を用いることで間接形とする．なお，*вроде* を用いるのは話し言葉的である．

最後に情報が話し手のなわ張り内，聞き手のなわ張り外にある場合について，(2a)で見た文を再掲する．

(2a: 再掲) У меня болит голова, поэтому сегодня я отдохну.
U menja bolit golova, poétomu segodnja ja otdoxnu.
at I-GEN hurts-IPFV.3.SG head-NOM therefore today I-NOM have_a_rest-PFV.1.SG
「私は頭が痛い．だから今日は休む.」

この場合は，単純な直接形を用いることになる．

以上をまとめると以下の表 2 のようになる．

表 2 ロシア語における情報のなわ張り理論

		話し手のなわ張り	
		内	外
聞き手の	外	A：直接形	C：間接形
なわ張り	内	B：直接形	D：間接形

[20] 神尾 (1990)によれば，情報のなわ張り理論における直接形とは断定・言い切りの形であり，間接形とは「らしい」,「そうだ」等の形である．本稿では，「らしい」や「そうだ」等の訳語が充てられる要素が顕在化するものについては間接形とし，そうでないものは直接形としている．

本調査からは，ロシア語は英語とほぼ同様の類型を示すといえる．ただし，領域 B において，この領域に情報があることを示唆する助詞を用いることが可能である．

3. おわりに

以上，本稿では，アンケートに沿った形でロシア語の例文に簡単な解説を加えつつ，ロシア語における情報表示の諸要素についてまとめることを試みた．

本稿での結果を以下に簡単に述べる．2.1 で見た主題卓越型類型論の軸項については，動詞の必須項ではない主題は統語的軸項の機能を果たさないこと，そして二重主語構文は用いられないことを示した．このことより，ロシア語は典型的な主題卓越型言語ではないといえる．2.2 で見たとりたて表現については，基本的に助詞や副詞を添加することでとりたてを表すことを示した．場合によっては語順によってそれを表現することもあった．2.3 で述べた不定表現については，概して Haspelmath (1997)，Татевосов (2002)の指摘している通りの結果となった．これらの先行研究にはない反語の環境では不定代名詞は用いられず単純な疑問詞で表現されることを確認した．2.4 で見たなわ張り理論については，基本的に英語と同じ類型を示すことを示した．

もちろん，上記について結論を出すにはより詳細な調査が必要となるが，特集のアンケートに対するロシア語のデータ提供という本稿の目的は果たされたものと思われる．

参考文献

Brown, Sue. 1999. The Syntax of Negation in Russian: A Minimalist Approach, Stanford: CSLI Publications.

Chvany, Catherine V. 1975. *On the syntax of BE-sentences in Russian.* Cambridge: Slavica.

Geist, Ljudmila. 2008. Specificity as referential anchoring: Evidence from Russian. In *Proceedings of Sinn und Bedeutung 12*, ed. by Atle Grønn, 151-164. Oslo: University of Oslo.

Haspelmath, Martin 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

Pereltsvaig, Asya. 2007. *Copular sentences in Russian: A theory of intra-clausal relations*. New York: Springer.

Yanovich, Igor. 2006. Choice-function series of indefinites and Hamblin semantics. In *Proceedings of Semantics and Linguistic Theory 15*, ed. by Effi Georgala and Jonathan Howell, 309-326. Ithaca: Cornell Linguistics Publications.

АН СССР. 1960. *Грамматика русского языка,* т.I, Москва: Издательство Академии наук СССР.

Татевосов, Сергей Г. 2002. *Семантика составляющих именной группы: кванторные слова*, Москва: Институт мировой литературы имени А.М. Горького.

神尾昭雄. 1990.『情報のなわ張り理論』東京：大修館書店.

匹田剛. 2004.「ロシア語に見られる主題卓越型特徴について」『小樽商科大学人文研究』107: 83-106.

執筆者連絡先：miyauchi.takuya.k0@tufs.ac.jp,
gotou.yuusuke.j0@tufs.ac.jp,
maria.telegina@orinst.ox.ac.uk

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.87-91.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.87-91.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

情報標示の諸要素:ペルシア語
Markers of information structure in Persian

吉枝 聡子
Satoko Yoshie

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies, Institute of Global Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する. 本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するペルシア語データを与えることである.

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Persian data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語, 取り立て表現, 不定表現, 情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

本稿では, 情報標示に関わるペルシア語の文例を列挙し, 簡単な説明を加える. なお, 提示するデータは主として口語体で表記してある[1].

[1]「この土地は野菜がよく育つ. だから高い値段で売れるだろう.」

dar in zamin	sabzi	xub	rošd mikone.	barāye hamin	fekr konam
in this field	vegetable	well	grow.IND.PRS.3SG	therefore	think.SBJV.PRS.1SG

bā qeymate bāla	(be) foruš	bere.
at a high price	(to) sale	go.SBJV.PRS.3SG

＊ペルシア語では人称代名詞である主語は通常省略される. 表示する際は強調など, 何らかのニュアンスを表すことが多い.

[2]「私は頭が痛い. だから今日は休む.」

sar-am	dard mikone.	barāye hamin	emruz (ro)	esterāhat mikonam.
head-PRON.SUF.1SG	hurt.IND.PRS.3SG	therefore	today-(ACC)	take rest.IND.PRS.3SG

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 本稿の作成にあたり, カーヴェ・マグスディ (東京外国語大学大学院博士後期課程在学, 男性, テヘラン出身) に協力いただいた. 記して感謝したい.

＊ro（文語体 rā）は定の直接目的語に後置されるマーカーであり，ここでは対格として esterāhat kardan「休む」の目的語になっていると解釈することも可能である．ただし rā は，この他に焦点を表示する場合がある．上の文も，emruz「今日」に焦点をあてるための用法「今日は休む」と考えることも可能である．以下の文例を参照：

u	rā	do	pesar	bud.
he		two	son	COP.PST.3SG

「彼には，二人の息子がいた」

[3]「あの人だけ，時間通りに来た.」

faqat	u,	sare vaqt	umad.
only.PREP	he/she	on time	come.IND.PST.3SG

[4]「これはここでしか買えない.」

ino	qeyr az	injā	az	jāye dige-yi	nemiše	xarid.
this.ACC	except.PREP	here	from.PREP	other place-INDF.SUF	become.IND.PRES.3SG	buy.INF

＊šodan「〜になる」は他の動詞と用いられると可能を表す助動詞的な機能をもつことがある．また，本動詞に短い不定詞が用いられる場合は，人称を特定しない一般的事象を表す.

[5]「その家にいたのは子供ばかりだった.」

dar un xune	faqat	bačče	bud.
in that house	only.PREP	child.SG	COP.IND.PST.3SG

＊bačče を複数形で用いると，特定の子供（「その家にいたのは，その子供達ばかりだった」）を表示するニュアンスが強くなる.

[6]「次回こそ，失敗しないようにしよう.」

daf’e-ye ba’d	dige	(sa’y konim)	eštebāh nakonim.
next time	again	(try.IND.PRS.1SG)	mistake.NEG.SBJV.PRS.1SG

＊dige（文語体 digar）は「再び，もう」などを表す副詞だが，ここではこのような具体的な意味に加えて，前の daf’e-ye ba’d「次回」あるいは文全体にかかって，話し手の強い意志を表しているとも解釈できる.

[7]「疲れたね，お茶でも飲もう.」

xaste	šodim	(na?),	čāyi-yi	čizi	boxorim!
tired	get.IND.PST.1PL	(INTJ)	tea-INDF.SUF	something.INDF.SUF	eat/drink.SBJV.PRS.1PL

＊čāyi yi čizi は上のように，不定を表す接辞-i が čāyi「茶」に付加されたと考えることも可能だが，yi を数詞 ye「一つ」（名詞に前置されると不定を表す）の口語形ととらえて，čāy ye čizi 「茶か何か」と解釈することも可能である.

[8]「水さえあれば，数日間は大丈夫だ.」

age	faqat	āb	dāšte bāšim,	tā čand ruz	moškel-i
if.CONJ	only	water	have.SBJV.PRS.1PL	for some days	problem-INDF.SUF

nadārim/nist.
have.NEG.IND.PRS.1PL / COP.IND.PRS.3SG

[9]「小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた.」

hattā	bačče-hā-ye	kučik	ham,	majbur	be	komak	barāye	un kār
even	child-PL-EZ	small	too	forced	to.PREP	help	for.PREP	that work

šodand.
become.IND.PST.3PL

[10]「私はお金なんか欲しくない.」

man	alāqe-yi	be	pul	o	in (jur) čizhā	nadāram.
I	interest-INDF.SUF	to.PREP	money	and	such a things.PL	have.NEG.IND.PRS.1SG

＊直訳すると，「私はお金といったものは欲しくない」くらいの意味で，「なんか」という強いニュアンスは表していないようである.

[11]「自分の部屋ぐらい，自分できれいにしなさい.」

otāq-et	ro	dige	xod-et	tamiz kon.
room-PRON.SUF.2SG	ACC	ADV	self-PRON.SUF.2SG	clean.IMP.2SG

＊強調を表す dige の用法．(6)を参照のこと.

[12]「私にもちょうだい.」

be	man	ham	bede.
to-PREP	I	too	give.IMP.2SG

[13]「お父さんもう帰って来たね．お母さんは？」

bābā	bargašte	na?	māmān	četowr?
dad	come_back.PRF.PRS.3SG	INTJ	mom	how.INTERR

[14]「誰かが電話してきたよ.」

ye(k)	nafar	zang zad,	(hā).
one	person	call.IND.PST.3SG	(INTJ)

[15]「誰かに聞いてみよう.」

az	ye(k)	nafar	beporsim.
from.PREP	one	person	ask.SBJV.PRS.1PL

[16]「私のいない間に誰か来た？」

vaqti	man	nabudam	kas-i	umad?
when	I	COP.NEG.PST.1SG	person-INDF.SUF	come.IND.PST.3SG

＊(14)(15)の ye(k) nafar は特定の「誰か」を想定しており，(16)-(18)は不定の「誰か」を表している．互いに ye(k) nafar （あるいは不定接辞が付加した nafari）と kasi の入れ替えは不可．

[17]「誰か来たら，私に教えてください．」

age	kas-i	umad	be man	xabar bede.
if.CONJ	person-INDF.SUF	come.IND.PST.3SG	to me	inform.IMP

[18]「今日は誰も来るとは思わない．／今日は誰も来ないと思う．」

「今日は誰も来るとは思わない」

fekr nemikonam	emruz	kas-i	biyād.
think.NEG.IND.PRS.1SG	today	person-INDF.SUF	come.SBJV.PRS.3SG

「今日は誰も来ないと思う」

fekr mikonam	emruz	kas-i	nayād.
think.IND.PRS.1SG	today	person-INDF.SUF	come.NEG.SBJV.PRS.3SG

＊いずれの文も同頻度に使用される．

[19]「そこには今誰もいないよ．」

unjā	al'ān	kas-i	nist (hā).
there	now	person-INDF.SUF	COP.IND.PRS.3SG (INTJ)

[20]「（それは）誰でもできる．」

har	kas-i	mitune	(un kār ro	anjām bede)
every	person-INDF.SUF	AUX.PRS.3SG	(that work-ACC	complete.SBJV.PRS.3SG)

[21]「そんなこと（は），みんな知っているんじゃないか!?」

hamčin čizi	ro	(ke)	hame	midunand.
such a thing	ACC	ADV	all	know.IND.PRS.3PL

＊ke は強調のニュアンスを加える．またこの ro は，対格マーカーでもあるが，「そんなことは」に近く，焦点を表示しているとも考えられる．(2)を参照．

uno	mage	hame	nemidunand?
that-ACC	ADV	all	know.NEG.IND.PRS.3PL

＊mage（文語体 magar）は反語を作る副詞．「それを誰も知らないとでも言うのか」という意味になって

いる.

[22]「そんなもの，誰が買うんだよ!?，誰も買うわけないじゃないか！」

hamčin čizi	ro	ki	mixare!?
such a thing	ACC	who	buy.IND.PRS.3SG

hički	nemixare.
no one	buy.NEG.IND.PRS.3SG

（または	fekr nemikonam	kas-i	bexare）
	think.NEG.IND.PRS.1SG	person-INDF.SUF	buy.SBJV.PRS.3SG

[23]「君は英語がうまいね.」

to	ingilisi-t	xub-e	hā.
you.SG	English-PRON.SUF.2SG	good-COP.PRS.3SG	INTJ

[24]「君は退屈そうだね.」

engār	howsel-at	sar rafte	(, na?).
ADV	patience-PRON.SUF.2SG	pass.PRF.3SG	INTJ

＊engār は「想像，仮定」を意味する名詞だが，会話文では「～のようだ」と副詞的に用いられる.

[25]「明日も寒いらしいよ.」

fardā	ham	engar	sard-e	hā.
tomorrow	too	ADV	cold-COP.PRS.3SG	INTJ

＜凡例＞

ACC	対格	INDF	不定	PRF	完了
ADV	副詞	INF	不定詞	PRON	人称代名詞
AUX	助動詞	INTERR	疑問詞	PRS	現在
CONJ	接続詞	INTJ	間投詞	PST	過去
COP	コピュラ	IPFV	未完了	SBJV	接続法
EZ	エザーフェ	NEG	否定	SG	単数
IMP	命令	PL	複数	SUF	接尾辞
IND	直説法	PREP	前置詞		

執筆者連絡先 : yoshie@tufs.ac.jp

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.93-103.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.93-103.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

フィンランド語における情報標示の諸要素
Markers of information structure in Finnish

坂田 晴奈
Haruna Sakata

東京外国語大学非常勤講師
Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するフィンランド語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Finnish data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, inforpmational territory

1. コンサルタント情報

本調査においては，以下のフィンランド語[1]コンサルタント 1 名にご協力いただいた．

氏名：Sinikka Kurosawa (シニッカ・黒澤)
性別：女性
生年月日：1964 年 8 月 21 日
出身地：フィンランド・ピュフター (Finland, Pyhtää)
母語：フィンランド語ヘルシンキ方言
備考：日本に 20 年以上在住（配偶者は日本人）

媒介言語は日本語である．例文を提示していただく際は，日本語文を示しながらその文が表す状況を説明して調査した．以降に示す例文のグロスと訳は全て筆者による．

2. 情報標示の諸要素に関する調査結果

グロスに関しては基本的にライプツィヒグロスおよび Hakulinen 他(2004)の術語に従う．グロス中の英訳はインターネット上の辞書"EUdict" (http://eudict.com/)のフィンランド語・英語辞書を参照した．例文中の重要な要素には下線を引いた．

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] フィンランド語はウラル語族，フィン・ウゴル語派，バルト・フィン諸語に属する膠着語である．名詞の格変化が 15 種あり，動詞は人称（単数，複数の 1〜3 人称の他に受動形という不定人称形がある），時制（現在，過去，現在完了，過去完了），法（直説法，条件法，可能法，命令法）によって語形変化する．また，否定動詞という人称活用をともなう否定形を持つのが特徴である．基本語順は SVO，修飾部先行型で，概ね後置詞型である．表記は全て正書法に基づく．

2.1. 主題卓越型類型論の軸項について

(1) 「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」

a. Tässä maa-ssa vihannekse-t kasva-vat hyvin.
this:INE ground-INE vegetable:NOM-PL grow.up:PRS-3PL well
Ne voi-da-an myy-dä kallii-lla hinna-lla.
it:PL.NOM can-PASS.PRS-3SG sell-AINF expensive-ADE price-ADE

b. Tässä maa-ssa vihannekse-t kasva-vat hyvin,
this:INE ground-INE vegetable:NOM-PL grow.up:PRS-3PL well
siksi ne voi-da-an myy-dä kallii-lla hinna-lla.
therefore it:PL.NOM can-PASS.PRS-3SG sell-AINF expensive-ADE price-ADE

(1a)と(1b)の違いは，日本語の接続詞「だから」に相当する表現の違いである．前者は順接の表現が特に現れず，後者は接続詞 siksi が現れている．いずれも頻度はあまり変わらず，ニュアンスの違いも特にないという．

主題卓越型類型論という観点から分析すると，フィンランド語は日本語のような構造にはならないことがわかる．「この土地は野菜がよく育つ．」の部分は，「この土地では野菜がよく育つ．」のように，主題が斜格（内格）をとる．「(野菜が）高い値段で売れるだろう．」の部分は，指示詞 ne「それら」を主語として用いて，「売れる」という表現に関しては「売ることができる」の「できる」を表す動詞 voida が受動形となる．

(2) 「私は頭が痛い．だから今日は休む．」

a. Koska pää-tä-ni särke-e lepää-n tänään.
because head-PART-POSS.1SG ache:PRS-3SG rest:PRS-1SG today

b. Koska pää-ni on kipeä lepää-n tänään.
because head:NOM-POSS.1SG be:PRS.3SG sore:NOM rest:PRS-1SG today

日本語における「私は頭が痛い．」という，いわゆる二重主語文は，フィンランド語には存在しない．(2a)は「私の頭を（何かが）痛くする」という表現で，(2b)は「私の頭が痛い（病気である)」という形容詞 kipeä を用いた表現である．(2a), (2b)のいずれも頻度はあまり変わらず，ニュアンスの違いも特にないという．

後半の「だから今日は休む．」の部分は，「休む」を表す動詞 levätä（>lepään）に主語標示があるので，主題卓越型の言語とは異なる構造を持っているのがわかる．

2.2. とりたて表現について

(3) あの人**だけ**，時間通りに来た．【限定】

<u>Ainoastaan</u> tuo ihminen tul-i ajoissa.
merely that:NOM human:NOM come-PAST.3SG on.time

限定を表すとりたて表現は，副詞 ainoastaan で表される．フィンランド語には，限定の意味を持つ副詞 vain が存在するが，(3)のような文で vain はあまり用いないようである．その理由についてはよくわかっていないが，(8)の【極端・意外】を表すとりたて表現としては vain が用いられているので，ainoastaan と vain の違いはこの点にあると推測できる．

(4) これはここで**しか**買えない.【限定・否定との共起】

a.	Tätä	ei	voi	osta-a	kuin	tää-ltä.
	this:PART	NEG.3SG	can:PRS	buy-AINF	than	here-ABL

b.	Tätä	ei	voi	osta-a	muua-lta.
	this:PART	NEG.3SG	can:PRS	buy-AINF	elsewhere-ABL

否定と共起する限定の表現は，接続詞 kuin を用いる方法と，否定のみで表す方法とがある．kuin は比較を表す文などで用いられ，英語の than に相当する語である．(4a)は「ここ以外では買えない」という表現で，(4b)は「他の所では買えない」という表現である．(4a)は日本語における「しか」に相当するとりたて表現にやや近いが，(4b)はとりたて表現のようにはなっていない．したがって，(4a)の方が提示した日本語のニュアンスに近いと考えられる．

(5) その家にいたのは子供**ばかり**だった.【限定・多数】

(5)の日本語を提示した際，コンサルタントはまず以下の文を示した．

(5')	Siinä	talo-ssa	ol-i	vain	laps-i-a.
	it:INE	house-INE	be-PAST.3SG	only	child-PL-PART

(5')は，「その家には子供たちだけがいた」という意味である．これでは(5)のニュアンスが充分に表されていない．そこで筆者は，日本語の「ばかり」の用法を説明し，「例えば，家に大人が 1 人だけと，子供がたくさんいた，という場合はどのように言えますか」と尋ねたところ，以下の文が回答として得られた．

(5")	Siinä	talo-ssa	ol-i	yhde-n	aikuisen	lisäksi	vain	laps-i-a.
	it:INE	house-INE	be-PAST.3SG	one-GEN	adult:GEN	in.addition	only	child-PL-PART

(5")は「その家には大人 1 人に加えて子供たちだけがいた」という意味で，筆者が例として説明した状況をそのまま表現しているに過ぎない．日本語における「ばかり」のようなとりたて表現をフィンランド語では簡潔に表すことができないということがわかる．

(6) 次回**こそ**，失敗しないようにしよう.【限定・強調】

Seuraava-lla	kerra-lla	e-mme	saa	epäonnistu-a.
next-ADE	time-ADE	NEG-1PL	get:PRS	not.succeed-AINF

上の文を直訳すると，「次回は失敗できない」となる．日本語の「こそ」に当たるような表現は，フィンランド語にはなく，限定・強調のニュアンスを表すには上記のような表現しかできない．

(7) 疲れたね，お茶**でも**飲もう.【反限定・例示】

Väsyttä-ä,	juo-da-an	vaikka	tee-tä.
wilt:PRS-3SG	drink-PASS.PRS-3SG	though	tea-PART

特定の事物に限定せず，例示を表すとりたて表現は，フィンランド語にも存在する．接続詞 vaikka は「～だけれども」という逆接表現で用いられることが多いが，(7)のような用法も持つ．日本語の「でも」のように，同音異義語のような用いられ方をする点が興味深い．

(8) 水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ．【極端・意外】

Vain	vede-llä	pärjä-ä	use-i-ta	päiv-i-ä.
only	water-ADE	get.on.well:PRS-3SG	several-PL-PART	day-PL-PART

日本語の「さえ」に相当する表現として，副詞 vain が用いられる．vain は(3)の分析でも述べたように，限定の意味を表すことが多い．

(9) 小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた．【極端・意外】

a.

Jopa	piene-t	lapse-t	joutu-i-vat	autta-ma-an
even	small:NOM-PL	child:NOM-PL	fall.into-PAST-3PL	help-MAINF-ILL
siinä	työ-ssä.			
it:INE	work-INE			

b.

Jopa	piene-t-kin	lapse-t	joutu-i-vat	autta-ma-an
even	small:NOM-PL-PC	child:NOM-PL	fall.into-PAST-3PL	help-MAINF-ILL
siinä	työ-ssä.			
it:INE	work-INE			

(9a)と(9b)の違いは，「小さい」を意味する形容詞 pieni（>pienet）における小辞 kin の有無のみである．kin は，追加を表す「～も」という意味で，口語・文語を問わず使用頻度は高い．コンサルタントからは，(9a)と(9b)のニュアンスの違いは特にないという意見をいただいたが，(9b)の方が「小さい」という点をより強調しているように筆者には感じられる．ただし，日本語の「まで」に当たるニュアンスは，文頭の jopa のみでも充分であるとネイティブには感じられるようである．

なお，本稿の論点とは直接関わりがないが，「～させられた」という表現は，joutua＋MA 不定詞入格形で表されている．joutua は本来「間に合う，～に達する」という意味を持つが，joutua と MA 不定詞入格形（mA[2]という形態素を持つ不定詞．定形動詞に後続して補助的な意味を表すことが多い）を組み合わせると「～せざるを得ない」という意味になる．

(10) 私はお金**なんか**欲しくない．【反極端・低評価】

Minä	e-n	halua	mitään	raha-a.
1SG:NOM	NEG-1SG	want:PRS	nothing:PART	money-PART

日本語の「なんか」のような表現は，mikään（>mitään）「何も」によって表される．mikään は否定文と共起する語で，肯定文とは共起しないという制限がある．

---

[2] 母音調和による異形態が存在するため，ここでは「a もしくは ä」という意味で A と記した．以降も同様の表記をする．

(11) 自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい．【反極端・最低限】

Siivoa	edes	oma	huonee-si	itse.
clean:IMP.2SG	at.least	own:NOM	room:NOM-POSS.2SG	oneself

日本語の「ぐらい」のような表現は，副詞 edes「少なくとも」によって表される．フィンランド語の命令文において，本来対格で現れる目的語は主格と同形になる．

(12) 私に**も**ちょうだい．【類似・類似】

Anna	minu-lle-kin.
give:IMP.2SG	1SG-ALL-PC

日本語の「も」に当たる表現は，小辞 kin によって表される．形態素接続の順番は日本語の「私-に-も」と同じである．

(13) お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？【反類似・対比（疑問）】

Isä	tul-i	jo	koti-in.	Entä	äiti?
father:NOM	come-PAST.3SG	already	home-ILL	what.about	mother:NOM

疑問形式において対比を表すには，entä という語を用いる．entä は疑問文でしか用いられず，通常は文頭に現れる．

以上(3) - (13)をふまえ，日本語とフィンランド語のとりたて表現を自由形態素か拘束形態素かという観点で表 1 にまとめる．自由形態素には（自），拘束形態素には（拘）と記す．

表 1　とりたて表現の比較

用法	日本語	フィンランド語
【限定】	だけ（拘）	ainoastaan（自）
【限定・否定との共起】	しか（拘）	kuin（自）
【限定・多数】	ばかり（拘）	—
【限定・強調】	こそ（拘）	—
【反限定・例示】	でも（拘）	vaikka（自）
【極端・意外】	さえ，まで（拘）	vain, jopa（自）
【反極端・低評価】	なんか（拘）	mitään（自）
【反極端・最低限】	ぐらい（拘）	edes（自）
【類似・類似】	も（拘）	kin（拘）
【反類似・対比（疑問）】	は（拘）	entä（自）

日本語のとりたて表現が全て拘束形態素によって表されているのに対し，フィンランド語はほとんどが自由形態素によって表されている．さらに，【限定・多数】および【限定・強調】に相当するとりたて表現はフィンランド語に存在しないことがわかった．

2.3. 不定表現について

(14) 「**誰か**（が）電話してきたよ.」【特定既知（specific known）】

Joku	soitt-i	puhelime-lla.
somebody:NOM	give.a.call-PAST.3SG	telephone-ADE

フィンランド語の不定代名詞 joku は，人物・事物問わず用いられる.

(15) 「**誰か**に聞いてみよう.」【非現実不特定（irrealis non-specific）】

Kysy-tä-än	joltain.
ask-PASS.PRS-3SG	someone:ABL

不定代名詞は，他の名詞類の語とは異なり，格標識が語中に融合された形で現れる．例えば固有名詞 Kaisa（女性の名）の場合は Kaisalta のように格標識が名詞に後続するが，不定代名詞 joku の場合は(15)のように joltain となる.

なお，奪格は通常「～から」というような意味を表すが，動詞 kysyä（>kysytään）「質問する」に関しては，対象物が奪格をとるというコロケーションがある．そして，動詞 kysyä が受動形になっているのは，フィンランド語の受動形が勧誘の用法も持つからである.

(16) 「私のいない間に**誰か**来た？」【疑問（question）】

a.	Käv-i-kö	joku,	kun	ol-i-n	poissa?
	visit-PAST.3SG-Q	somebody:NOM	when	be-PAST-1SG	away

b.	Käv-i-kö	joku	poissa-oll-e-ssa-ni?
	visit-PAST.3SG-Q	somebody:NOM	away-be-EINF-INE-POSS.1SG

不定代名詞 joku は疑問文においても用いられる. (16a)は時を表す接続詞 kun を用いた節が用いられており，(16b)は E 不定詞内格形を用いた節が現れている．この E 不定詞節は時相構文と呼ばれ，kun 節と同じく時を表す節である．(16b)では，(16a)において独立した語であった poissa が E 不定詞節に前接している.

E 不定詞節に定形動詞は現れず，構造上は定形動詞を含む主節に従属している．しかし他の不定詞節に比べると，機能的には独立性が高い．コンサルタントによると，kun 節と E 不定詞節には頻度やニュアンスに差がないということである.

(17)「**誰か**来たら，私に教えてください.」【条件節内（conditional）】

a.	Kun	joku	tule-e,	niin	ilmoita	minu-lle.
	when	somebody:NOM	come:PRS-3SG	so	let.know:IMP.2SG	1SG-ALL

b.	Ilmoita	minu-lle,	kun	joku	tule-e.
	let.know:IMP.2SG	1SG-ALL	when	somebody:NOM	come:PRS-3SG

不定代名詞 joku は条件節内においても用いられる．フィンランド語には条件法が存在するが，「(誰か来る予定で）誰か来たら」という「誰かが来る」確実性の高い場合も，「(誰も来ないと思うが，万が一）誰か来たら」という「誰かが来る」確実性の低い場合も kun 節と直説法を用いる. (17a)では kun 節が冒頭にあり, (17b)

では kun 節が命令文の後にある．接続詞 niin の有無の違いはあるが，両者に頻度やニュアンスの違いは特にない．

(18) 「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」【間接（全部）否定（indirect negation）】

a.	Luule-n,	ettei	tänään	tule	ketään.
	believe:PRS-1SG	that:NEG.3SG	today	come:PRS	nobody:PART

b.	Tänään	ei	varmaan	tule	ketään.
	today	NEG.3SG	probably	come:PRS	nobody:PART

直接・間接の別なく，否定文における「誰も」という表現は，不定代名詞 kukaan（>ketään）によって表される．来る人数が特定されていない上のような場合では，分格形が用いられる．(10)の mikään と同じく，kukaan は否定文と共起し，肯定文とは共起しない．

(19) 「そこには今**誰も**いないよ．」【直接（全部）否定（direct negation）】

Sie-llä	ei	ole	nyt	ketään.
there-ADE	NEG.3SG	be:PRS	now	nobody:PART

(18)と同様，否定文における「誰も」という表現は，不定代名詞 kukaan によって表される．

(20) 「（それは）**誰でも**できる．」【自由選択（free-choice）】

a.	Se-n	voi	teh-dä	kuka	tahansa.
	it-ACC	can:PRS.3SG	do-AINF	who:NOM	ever

b.	Se-n	voi	teh-dä	kuka	vaan.
	it-ACC	can:PRS.3SG	do-AINF	who:NOM	any

日本語の「誰でも」における「でも」に相当するフィンランド語は，副詞 tahansa あるいは接続詞 vaan といった語である．両者の頻度やニュアンスに特に違いはない．tahansa と vaan はいずれも疑問代名詞 kuka に後続する．kuka に限らず，「いつでも」や「どこでも」といった表現においても，「いつ」「どこ」に当たる疑問代名詞の後に tahansa あるいは vaan が現れる．

(21) 「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか！？」【自由選択を示す「みんな」】

Ei-vät-kö	kaikki	tiedä	sellais-ta	asia-a?
NEG-3PL-Q	all:NOM	know:PRS	such-PART	matter-PART

上の文を直訳すると「みんなはそんなことを知らないのか」となり，日本語とニュアンスが異なるように感じられた．そのため，コンサルタントに再度確認したが，他に適切と思われる文は提示されなかった．上の文は反語的な表現と考えられる．「みんな」に相当する不定代名詞 kaikki は事物にも用いられる．

(22) 「そんなもの，**誰が**買うんだよ！？誰も買うわけないじゃないか！」【反語】

Kuka	osta-isi	sellaisen?	Ei	kukaan!
who:NOM	buy-COND.3SG	such:ACC	NEG.3SG	nobody:NOM

反語表現として用いられる「誰が」は，疑問代名詞 kuka で表される．「実際には誰も買わない」というニュアンスを表すため，上の文では条件法が用いられている．

2.4. なわ張り理論について

(23) 「君は英語がうまい**ね**.」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

a.

Sinä-hän	puhu-t	hyvin	englanti-a.
2SG:NOM-PC	speak:PRS-2SG	well	English-PART

b.

Sinä-hän	osaa-t	hyvin	englanti-a.
2SG:NOM-PC	be.able:PRS-2SG	well	English-PART

(23a)では動詞 puhua（>puhut）「話す」が，(23b)では動詞 osata（>osaat）「できる」が用いられている点で違っているが，動詞の違いは本稿の論点とは直接関わりがない．これらの動詞はいずれも直説法であり，いわゆる直接形であることがわかる．

人称代名詞 sinä には，小辞 hAn が後続している．hAn は使用状況によって様々な意味を持ちうるが，機能的には日本語の「ね」や「よ」といった終助詞に似ている．初級文法書である Lepäsmaa & Silfverberg (2004: 84) には，以下のような会話例がある．

(23') - Kenen nämä paperit ovat?
「これらの書類は誰のもの？」
- En minä tiedä. Jos ne ovat Pekan. Pekka aina unohtaa kaikki.
「僕は知らない．ペッカのじゃないかな．ペッカはいつも色々な物を忘れるから.」
- Ei. Nämä eivät voi olla Pekan. Tämä ei ole Pekan käsialaa.
「いや．これらはペッカのじゃないだろう．これはペッカの筆跡じゃない.」
- Ai, niin onkin. Nämähän ovat minun. Kiitos vain.
「ああ，確かにそうだ．これらは僕のものだ．ありがとう.」

（Lepäsmaa & Silfverberg (2004: 84)）

(23')の最後の文において，指示代名詞 nämä「これら」に小辞 hAn が後続している．この hAn は，「話し手にとってその状況が驚きであった」ことを示すという（Lepäsmaa & Silfverberg (2004: 97)）．つまり(23')の hAn は，「これらの書類」が始めはペッカのものだと思っていたが，実は話し手のものだったことに気づいた（話し手の）驚きを表している．(23a), (23b)における hAn も同様のニュアンスがあると考えられる．

以上のことをふまえると，【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】の場合は，日本語と同様に「直接ね形」で表されると言える．

(24) 「君は退屈そうだ**ね**.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

Näytä-t-pä	ikävystynee-ltä.
show:PRS-2SG-PC	bored-ABL

(24)では，動詞 näyttää（>näytät）と形容詞の奪格形が用いられている．この表現はフィンランド語の熟語として多用され，「～に見える」という意味を表す．よって，これは間接形の一種と言えよう．

さらに，動詞 näyttää には小辞 pA が後続している．コンサルタントからは「näytätpä とは言えるが，näytäthän とは言えない」という意見もいただいた．小辞 pA にも様々な用法があるが，hAn と pA の間には何らかの違いがあるということがわかる．(23)や(23')の例も考慮に入れると，hAn と pA の違いは「他者（話し相手）への働きかけ」の有無が関係していると考えられる．

これを検証するため，(23)【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】の例として「いい天気だね.」，および(24)【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】の例として「君のお兄さんは出かけているようだね.」という文を追加して調査した．すると，以下のような文が得られた．

(23")「いい天気だね.」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

On-pa	kaunis	sää.
be:PRS.3SG-PC	beautiful:NOM	weather:NOM

(24')「君のお兄さんは出かけているようだね.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

Sinu-n	velje-si	näyttä-ä	mene-vä-n	ulos.
2SG-GEN	brother:NOM-POSS.2SG	show:PRS-3SG	go-ACT.PTCP-GEN	out

(23a), (23b)では hAn が使われているのに対し，(23")では pA が使われている．これは，hAn が話し手の感情を表しているに過ぎない，つまり聞き手に対する語りかけのニュアンスが薄いのに対し，pA は聞き手に対する語りかけのニュアンスを持つからであると思われる．さらに，(24')に小辞は現れていない．小辞 hAn も pA も，語調を整えるために用いられることがあるので，文全体の語調によっては必須でなくなる．

以上をふまえると，【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】の場合は，日本語と同様に「間接ね形」あるいは「間接形」で表されることがわかる．

(25) 「明日も寒いらしいよ.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

a.	Huomenna-kin	näyttä-ä	kylmä-ltä.	
	tomorrow-PC	show:PRS-3SG	cold-ABL	
b.	Huomenna-kin	on	luultavasti	kylmä.
	tomorrow-PC	be:PRS.3SG	probably	cold:NOM

(25a)を直訳すると「明日も寒いように感じられる.」，(25b)を直訳すると「明日も多分寒い.」となる．いずれも，(25)の日本語とニュアンスが異なるように思えたので，コンサルタントに再度質問した．「誰かとの会話で，自分の予測でなく，天気予報で明日は寒いと言っていたのを聞いた後の発言だとどうなりますか」と尋ねたところ，(25c)のような文が得られた．

c.	Huomise-ksi-kin	on	luva-ttu	kylmä-ä.
	tomorrow-TRA-PC	be:PRS.3SG	promise-PASS.PAST.PTCP	cold-PART

(25c)を直訳すると「明日も寒いと思われている.」となる．結果として，いずれの例にも小辞は現れていな

い．そして，「～に見える」，「多分～だ」を意味する表現が用いられているので，間接形であると言える．つまり，【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】の場合は，日本語と同様に「間接形」で表されることがわかる．

以上(23) - (25)をふまえ，日本語における情報のなわ張り理論は，フィンランド語にもほぼ当てはまることがわかった．機能的には日本語の終助詞に相当する小辞 hAn と pA は，文全体の語調によって必須でなくなるという点は少し違う．いずれにしても，フィンランド語の小辞 hAn と pA は聞き手への語りかけの度合いによって使い分けられており，情報のなわ張り理論とは無関係である．

略号一覧

	英語	フィンランド語	日本語
-			形態素境界
. / :			形態素内の意味境界
1	1st person	1. persoona	1 人称
2	2nd person	2. persoona	2 人称
3	3rd person	3. persoona	3 人称
ABL	ablative	ablatiivi	奪格
ACC	accusative	akkusatiivi	対格
ACT	active	aktiivi	能動
ADE	adessive	adessiivi	接格
AINF	A-infinitive	A-infinitiivi	A 不定詞
ALL	allative	allatiivi	向格
COND	conditional	konditionaali	条件法
EINF	E-infinitive	E-infinitiivi	E 不定詞
GEN	genitive	genetiivi	属格
ILL	illative	illatiivi	入格
IMP	imperative	imperatiivi	命令法
INE	inessive	inessiivi	内格
MAINF	MA-infinitive	MA-infinitiivi	MA 不定詞
NEG	negative	negatiivi	否定
NOM	nominative	nominatiivi	主格
PART	partitive	partitiivi	分格
PASS	passive	passiivi	受動
PAST	past	imperfekti[3]	過去
PC	particle	partikkeli	小辞
PL	plural	monikko	複数
POSS	possessive	possessiivi	所有接辞
PRS	present	preesens	現在
PTCP	participle	partisiippi	分詞
Q	question particle	kysymyspartikkeli	疑問小辞
SG	singular	yksikkö	単数
TRA	translative	translatiivi	変格

[3] フィンランド語学では，いわゆる過去形は imperfekti（未完了形）と呼ばれ，現在完了・過去完了を表す perfekti（完了形）と対立する位置づけになっている．

参考文献

Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen, Irja Alho. 2004. *Iso suomen kielioppi.* Helsinki: Suomalaisen Kirjallisuuden Seura.

Lepäsmaa, Anna-Liisa and Leena Silfverberg. 2004. *Suomen kielen alkeisoppikirja.* Helsinki: Finn Lectura.

参考ウェブサイト

EUdict http://eudict.com/

執筆者連絡先: **poutainen@hotmail.com**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.105-113.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.105-113.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

情報標示の諸要素：ハンガリー語[1]

Markers of information structure in Hungarian

大島 一
Hajime Oshima

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するハンガリー語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Hungarian data for the question of 25 phrases.

キーワード：主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. コンサルタント情報

ハンガリー語対応例文の作例は大島が，それをハンガリー語話者コンサルタントに確認した上で記載した．以下，コンサルタントの情報である．

氏名：BILIK Éva（ビリク・エーヴァ）[2]
性別：女性
生年月日：1971 年 3 月 13 日
出身地：ハンガリー，ブダペスト（Hungary, Budapest）
母語：ハンガリー語ブダペスト方言

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] ハンガリー語は中央ヨーロッパのハンガリーおよび周辺国で話されている言語（ウラル語族フィン・ウゴル語派に属する）であり，話者数は約 1,500 万人である．その言語的特徴は膠着語，後置詞言語であり，豊富な動詞活用を持つ．特に，他動詞における対格目的語が定まったものかそうでないかにより活用が変わる不定／定活用（例文グロスでは (ϕ)/DEF）はハンガリー語の大きな特徴の一つである．

[2] ハンガリー語は日本語と同じく，「姓・名」の順番で表記する．

2. 情報構造に関する言語類型論的／通言語的研究におけるハンガリー語の特徴

まず，ハンガリー語について，特に，情報標示といった概念における「主題」の表現の仕方について説明する．ハンガリー語の情報構造における「主題（トピック）」や「焦点（フォーカス）」を表わす機能は語順が担っている．文頭位置に「主題」要素が置かれ，動詞の直前の位置が「フォーカス」のスロットである（大島，2016:91）．同時に，その格体系では，主格主語は無標（-ϕ），対格目的語は -t で表される．したがって，ハンガリー語も日本語と同じく，「主語卓越であり，主題卓越でもある言語」と言える．

各類型の示す特徴について，③「受動構文が主語卓越の言語ではよく用いられる．それに対して，主題卓越の言語では，受動化が現れない」ということに対して，ハンガリー語では日英で見られるような受動構文が存在しない．能動態のまま，語順操作を経ることで，擬似的な受動の意味を実現する（(イ)，(ロ)）．また，動詞の活用を 3 人称複数形にして，「（不特定多数の誰かが）～した」が，「～された」という意味としてよく使用される（(ハ)）．

(イ) *Gábor-ϕ* *meg-öl-t-e* *Évá-t.* 【通常の能動文語順】
ガーボル-SUB PRV［完了］-殺す-PST-DEF.3SG エーヴァ-ACC[3]
「ガーボルはエーヴァを殺した」

(ロ) *Évá-t* *meg-öl-t-e* *Gábor-ϕ.*【擬似受動的な能動文語順】
エーヴァ-ACC PRV［完了］-殺す-PST-DEF.3SG ガーボル-SUB
「エーヴァは，ガーボルが殺した」（≒エーヴァはガーボルに殺された）

(ハ) *El-lop-t-ák* *a* *pénztárcá-m-at.*
PRV［完了］-盗む-PST-DEF.3PL the 財布-POSS.1SG-ACC
「私の財布が盗まれた」（←「（不特定多数の彼らが）私の財布を盗んだ」）

⑤「非人称主語における代役主語（It is raining.の it）があるが，主題卓越の言語にはない」であるが，ハンガリー語も以下のとおり，英語における形式主語でもって天候表現を表わすようなことはない．

(ニ) a. *Süt* *a* *nap.*
照る the 太陽，日
「日が照っている」

b. *Es-ik* *az* *eső.*
降る-3SG the 雨
「雨が降っている」

c. *Hull* *a* *hó.* ／ *Havaz-ik.*
雪が降る the 雪 雪が降る-3SG
「雪が降っている」

---

[3] グロスに使用する略号は基本的に Leipzig Grossing Rules (https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf) に従った．その中に記載のないものは以下．ABL：ablative「奪格」，BE：be verb「存在動詞」，DEF：definitive conjugation「定活用」，DEL：delative「離格」，ESS：essive「様格」，INE：inessive「内格」，POT：potential「可能接辞」，PRPT：present participle「現在分詞」，PRV：preverb「動詞接頭辞」，SUP：superlative「上格」，TER：terminative「到格」

⑥「あらゆる主題卓越の言語は，「魚がおいしい」「私は頭が痛い」のような二重主語文を持つ」について，ハンガリー語も以下のとおり，二重主語文を表わすことが可能である．

(ホ)	*Az*	*elefánt-nak*	*(pedig)*	*hosszú*	*az*	*ormány-a.*
	the	象-DAT	～は	長い	the	鼻-POSS.3SG

「象は鼻が長い」

(Fukaya, 1988:34)

3. 調査結果

3.1. 主題卓越型類型論の軸項について

【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

(1) 「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」

Ez-en	*a*	*föld-ön*	*jól*	*növeksz-ik*	*a*	*zöldség.*
これ-SUP	the	土地-SUP	よく	育つ-3SG	the	野菜
Ezért	*drágán*	*elad-hat-ó.*				
このため	高く	売る-POT-PRPT				

「この土地は」は主題要素とみて，文頭に置かれている（Ezen a földön「この土地に（は）」）．また，「売れる」といった自発・可能を意味する表現は，elad「売る」に可能接辞 -hat/-het を付けて（eladhat「売ることができる」），それを現在分詞（V-ó/-ő）化した eladható（「売れている」）で表される[4]．

【話してのなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

(2) 「私は頭が痛い．だから今日は休む．」

Nek-em	*fáj*	*a*	*fej-em.*	*Úgyhogy*	*ma*	*pihen-ek.*
DAT-1SG	痛む	the	頭-POSS.1SG	だから	今日	休む-1SG

日本語のとおり，「私は（nekem）」と，主題要素を付けて言うことができる．ただし，fej-em「頭-私の」とあることから，冗長的な感じがするとのことである．普通は Fáj a fejem.「私の頭が痛い」で充分である．

3.2. とりたて表現について

(3) 「あの人**だけ**，時間通りに来た．」【限定】

Csak	*az*	*az*	*ember*	*jö-tt*	*pontosan.*
だけ	あの	the	人	来る-PST.3SG	時間通りに

ハンガリー語における「とりたて」表現で最もよく使われるものが，この csak「～だけ，まさに」である．後続する名詞（句）を強調する意味を持つ．

---

[4] なお，ハンガリー語は母音調和という現象のため，それぞれの母音のグループ，すなわち，後舌母音 (u, o, a)／前舌母音 (i, e)／円唇母音 (ü, ö)のグループに応じた異形態を持つ．この可能接辞および現在分詞では，後舌母音グループと，前舌母音および円唇母音グループの対立となる．

(4) 「これはここで**しか**買えない.」【限定・否定との共起】

Ez	*csak*	*itt*	*ve-het-ő.*
これは	だけ	ここで	買う-POT-PRPT

日本語では「ここでしか買えない」は，ハンガリー語では「ここだけで買える」というほかない．「買える」は (1)で見たものと同様に，動詞 vesz「買う」に可能接辞 -hat/-het を付けて（vehet「買うことができる」），現在分詞 (-ó/-ő) 化した，vehető が使われる．

(5) 「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」【限定・多数】

Ab-ban	*a*	*ház-ban*	*csak*	*gyerek-ek*	*vol-t-ak.*
あの-INE	the	家-INE	だけ	子ども-PL	BE-PST-PL

gyerekek「子供たち」と複数形であっても，csak「〜だけ」を使うことにより，「子供たちだけ」と，とりたて表現が可能である．

(6) 「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」【限定・強調】

Legközelebb	*az-t*	*akar-om,*	*hogy*	*ne*	*buk-j-ak*	*meg.*
近いうちに	あれ-ACC	欲する-DEF.1SG	that	NEG	失敗する-IMP-1SG	PRV［完了］

「次回こそ」という「〜こそ」を表わす表現は対応するハンガリー語例には見当たらない．文頭の位置は一般的に「主題（トピック）」要素が占めることから，「次回 (legközelebb)は，失敗しないように」と，主題化操作により，意味的に強調できると思われる．

(7) 「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」【反限定・例示】

Jól	*el-fárad-t-unk.*	*Nem*	*isz-unk*	*egy*	*teá-t?*
よく	PRV［完了］-疲れる-PST-1PL	NEG	飲む-1PL	1	お茶-ACC

「反限定」としての「お茶でも」は，ハンガリー語では不定冠詞 egy が担っていると考えられる．「とりあえず，どれでもいいから一つ」が不定冠詞の意味機能だからである[5]．

---

[5] 以下の例のとおり，不定冠詞と定冠詞の意味の違いが見られる．たとえば，a では町の通りで，どこでもよいから町のどこかにある不特定多数のトイレを探す時に使われる一方で，b はデパートなら必ずあるトイレを探す時に使用される．

(i) a.

Hol	*van*	*egy*	*vécé?*
どこに	be	a	トイレ

「（とにかくどこでもよいから一つの）トイレはどこにありますか？」

b.

Hol	*van*	*a*	*vécé?*
どこに	be	the	トイレ

「（デパートなどで店員に）トイレはどこにありますか？」

（早稲田，2015:63）

(8) 「水**さえ**あれば、数日間は大丈夫だ.」【極端・意外】

Ha	*viz*	*van,*	*pár*	*nap-ig*	*ki-bír-om.*
もし	水	BE	数	日-TER	PRV［完了］-耐える-DEF.1SG

ハンガリー語では，最も強調したい要素（フォーカス）が，動詞の直前の位置に来る．víz「水」が存在動詞 van「ある」の前にあることで，「水さえ」の意味を実現していると考えられる．

(9) 「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」【極端・意外】

A	*kisgyerek-ek-et*	*is*	*segít-tet-t-ék*	*ab-ban*	*a*	*munká-ban.*
the	小さな子ども-PL-ACC	も	助ける-CAUS-PST-DEF.3PL	あれ-INE	the	仕事-INE

「〜まで」といった意外性のある“超過”といったものは，ハンガリー語では is「〜も」で表わすことができる．これは名詞（句）の後に置かれる．なお，ハンガリー語文の直訳は，「(彼ら（＝一般不特定多数）は）小さな子供たちをもその仕事を手伝わせた」と使役形が使われており（segít-tet「手伝わせる」），その主語を「(彼ら＝一般不特定多数)」とすることで，「子どもたちは手伝いをさせられた」と疑似受け身的な意味を実現する．

(10) 「私はお金な**んか**欲しくない.」【反極端・低評価】

Én	*nem*	*akar-ok*	*pénz-t*	*se.*
わたしは	NEG	欲する-1SG	お金-ACC	NEG

上記の is「〜も」の否定版が，この se「〜も（…ない)」である．これを使うことで，「お金なんか〜ない」を表わす．

(11) 「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」【反極端・最低限】

Legalább	*a*	*saját*	*szobá-d-at*	*saját*	*maga-d-nak*
すくなくとも	the	自身の	部屋-POSS.2SG-ACC	自身	自身-POSS.2SG-DAT
kell		*takarít-an-od.*			
しなければならない		掃除する-INF-2SG			

「自分の部屋ぐらい」といった，特定の名詞（句）の最低限評価を意味させる表現はないが，legalább「少なくとも」で代替することは可能である．

(12) 「私に**も**ちょうだい.」【類似】

Nek-em	*is*	*tessék*	*ad-ni!*
DAT-1SG	も	どうぞ	与える-INF

「私に・も」ということで，nekem is と，日本語と対応して表わすことができる．「ちょうだい」は「与えて下さい (tessék adni)」とした[6].

[6] tessék V-ni は「〜して下さい」として定形的に使用される（V-ni は不定詞形）．tessék は「どうぞ〜して下さい」であるが，そもそもは，tetszik「(〜が）気に入る」の命令形定活用 3 人称単数形．動詞不定詞形に，こ

(13) 「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」【反類似・対比（疑問）】

Apá-nk	*már*	*haza-jö-tt.*	*Anyá-nk*	*még*	*nem?*
父-POSS.1PL	すでに	PRV「家へ」-来る-PST.3SG	母-POSS.1PL	まだ	NEG

「お母さんは？」であるが，「お父さん (apánk)」と同じく，文頭位置に置くことで，対比主題として表現している．

3.3. 不定表現について

(14) 「**誰か**（が）電話してきたよ．」【特定既知 (specific known)】

Vala-ki	*fel-hív-ott.*
INDF-誰	PRV「上へ」-呼ぶ-PST.3SG

ハンガリー語では不定のものは vala「〜か」で表わす．人であればこの例のとおり，valaki「誰か」，人以外であれば valami「何か」（mi「何」）となる．これは他の疑問詞にも付けられる．例えば，valahol「どこかに（hol「どこに」）」，valahova「どこかへ（hova「どこへ」）」，valahonnan「どこかから（honnan「どこから」）」，また，valamilyen「なんらかの（milyen「どのような」）」といった具合である．

(15) 「**誰か**に聞いてみよう．」【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

Kérdez-z-ük	*meg*	*vala-ki-től!*
尋ねる-IMP-DEF.1PL	PRV［完了］	INDF-誰-ABL

こちらも同じく valaki「誰か」が使われる．(14)と違い，こちらは知らない人でも誰でも良いから聞いてみるということだが，その「誰か」をハンガリー語では区別していない．

(16) 「私のいない間に**誰か**来た？」【疑問 (question)】

Jö-tt	*vala-ki,*	*amíg*	*nem*	*vol-t-am?*
来る-PST.3SG	INDF-誰	〜の間	NEG	BE-PST-1SG

これも valaki「誰か」が使われている．例 (20)で見るように，ハンガリー語では他の不定代名詞表現として，akár-/bár- があり，人に対応する形式として，akárki／bárki「誰でも」が存在する．しかしながら，この【疑問 (question)】ではそれらは使われず，このとおり，valaki「誰か」のみである（Haspelmath, 1997:292）．

(17) 「**誰か**来たら，私に教えてください．」【条件節内 (conditional)】

Ha	*vala-ki/akár-ki/bár-ki*	*jön,*	*szól-j-ál*	*nek-em!*
もし	INDF-誰	来る	言う-IMP-2SG	DAT-1SG

このとおり，【条件節内 (conditional)】の例は，「誰でもいいから来たら」ということなので，valaki「誰か」も akárki/bárki「誰でも」，すべて使用することができる（Haspelmath, 1997:292）．

の tessék（お気に召しませ）を付けることで幅広く敬語表現として定着している（Tessék jönni.「いらっしゃってください（←jön「来る」）」など）．

(18) 「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」【間接（全部）否定 (indirect negation)】

Ma	*nem*	*hisz-em,*	*hogy*	*jön*	*vala-ki/akár-ki/bár-ki.*	／
今日	NEG	思う-DEF.1SG	that	来る	INDF-誰	
Ma	*az-t*	*hisz-em,*	*hogy*	*nem*	*jön*	*senki.*
今日	あれ-ACC	思う-DEF.1SG	that	NEG	来る	誰も（～ない）

「誰も来るとは思わない」の引用節内は，「誰か来る（jön valaki/akárki/bárki）」という肯定表現であるので，valaki, akárki, bárki どれでも使用可能である（Haspelmath, 1997:292）．しかし，「誰も来ないと思う」の「誰も来ない (nem jön senki)」となると，一転して「誰も…ない」の senki が使えないことが分かる．

(19) 「そこには今**誰も**いないよ．」【直接（全部）否定 (direct negation)】

Ott	*most*	*senki*	*sincs.*
あそこに	いま	誰も	いない

(18)と同様に「誰も…ない」で senki を使うことは変わらない．また，非存在を表わす nincs「ない」の，「～も（さえ）ない」という意味の sincs を使うことも可能である．

(20) 「（それは）**誰でも**できる．」【自由選択 (free-choice)】

(Az-t)	*Bár-ki*	*tud-ja.*
あれ-ACC	～でも-誰	できる-DEF.3SG

「誰でも」は，「不定の人なら誰でも」を表わす bárki「誰でも」が使われるとのことである．同じ意味で akárki「誰でも」を使っても良い．ハンガリー語における【自由選択 (free-choice)】を示す一連の表現には，この akár- と bár- が使われる（akárki/bárki「誰でも」，akármi/bármi「なんでも」，akárhol/bárhol「どこでも」など）(Haspelmath, 1997:291).

(21) 「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか!?」【自由選択を示す「みんな」】

Ar-ról	*minden-ki*	*tud,*	*ugye?*
あれ-DEL	すべての-誰	知っている	ですよね？

こちらは mindenki「みんな（minden「全ての」- ki「誰」）」が使用されている．なお，「そんなこと（は）」は arról とあるが，これは az「あれ」に，離格接尾辞 -ról/-ről「～の上から」が付いている．この接尾辞はもう一つの意味「～について」としてもよく使われるものである．文末に ugye?「～ですよね？」をつけることで，「そのことについては，みんな知っていますよね？」と同意・確認を求める文となる．

(22) 「そんなもの，**誰が**買うんだよ!?，誰も買うわけないじゃないか！」【反語】

Olyan	*tárgy-at*	*ki*	*akar*	*ven-ni!?*
あのような	もの-ACC	誰が	欲する	買う-INF
Lehet-etlen,		*hogy*	*vala-ki*	*vesz-i!*
あり得る-なしの		that	INDF-誰	買う-DEF.3SG

「そんなもの，誰が買うんだよ!?」と反語を表わす疑問文ということで，実際のハンガリー語文は文末のイントネーションが上昇気味で発音される（通常の疑問文は疑問詞が強く高く発音され，文末に向けて下降していく）.

3.4. なわ張り理論について

(23) 「君は英語がうまい**ね**.」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

Jól	*tud-sz*	*angol-ul.*
よく	できる-2SG	英語-ESS

事実描写の「君は英語がうまい」も，「君は英語がうまいね」も，上記のとおり表現する．実際に英語を上手に話していることを見た上での発話であろうから，区別しようがない．あえて言えば，Azt hiszem, hogy jól tudsz angolul.と，azt hiszem, hogy ～「～だと私は思う」を付け加えても良いだろうが，冗長な感じがする.

(24) 「君は退屈そうだ**ね**.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

Te	*pedig*	*unalmas*	*vagy,*	*ugye?*
君	～といえば	退屈な	BE.2SG	ですよね？

こちらは (23)とは異なる．聞き手（相手）の内面の様子は正確にはわかり得ないだろうから（退屈していないかもしれない），同意をもとめる ugye?「ですよね？」を付ける必要が出てくる.

(25) 「明日も寒いらしい**よ**.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

Úgy	*tűn-ik,*	*holnap*	*is*	*hideg*	*lesz.*
～のように	～のようである-3SG	明日	も	冷たい	なる

文末の lesz「なる」は予定調和の確定的な未来を表わすものだが，そうなることが，úgy tűnik, ～「～のようである」で，全体を予想するといった意味構造を取っている.

4. おわりに

以上，ハンガリー語における「情報標示の諸要素」が関わる例文をみた．ハンガリー語は「主題（トピック）」を文頭位置が担うという語順による主題標示機能を持っていることから，日本語の「～は…が V する」といったものも表現可能であった．また，とりたて表現においては，csak「～だけ」や，is「～も」，また不定冠詞の利用などにより，ある程度，日本語と同程度に表し分けていることが分かる．不定表現については，valaki「誰か」，valami「何か」といった，疑問詞に vala-「～か」が利用できること，また，sem「何も～ない」，senki「誰も～ない」，semmi「何も～ない」，akárki/bárki「誰でも」といったように，日本語例にうまく対応できる要素が存在する．最後に，なわ張り理論についてだが，例 (23)にある「話し手も聞き手も内」では，日本語は同意・共感を求めるような「～ね」が使われるのに対し，対応するハンガリー語は無標の直接形のままであった．結論として，ハンガリー語は全体的に日本語例文と似たような方策でこれらの諸要素を表わすことができる言語であると言える.

参考文献

大島 一. 2016.「情報構造と名詞述語文：ハンガリー語」『語学研究所論集』vol.21:91-100，東京外国語大学語学研究所.

早稲田みか. 2015.「対照研究で読み解く日本語の世界⑪ ハンガリー語における定・不定の概念と日本語」，「日本語学」，vol.34-3，明治書院.

Fukaya, Shitoshi. 1988. “A functional analysis of topic-comment structure of Hungarian - contrasted with Japanese”, Hidasi (ed.) *Contrastive studies Hungarian-Japanese*, Akadémiai kiadó, Budapest.

Haspelmath, Martin 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

Kenesei, István, Robert M. Vago, and Anna Fenyvesi. 1998. *Hungarian: Descriptive Grammars,* Routledge.

Kiss, É. Katalin. 2002. *The Syntax of Hungarian*, Cambridge University Press.

執筆者連絡先：hazsime@gmail.com

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.115-119.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.115-119.

<特集「情報標示の諸要素」>

エジプトアラビア語の情報標示の諸要素
Markers of information structure in Egyptian Arabic

長渡 陽一
Youichi Nagato

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies, Institute of Global Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するエジプトアラビア語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Egyptian Arabic data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語、取り立て表現、不定表現、情報の縄張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

特集「情報標示の諸要素」に関する、エジプトアラビア語（アラビア語エジプト口語体）の用例を提供する。カイロ市出身の 20 代の女性、ゼイナブ・アルアズィーズィ氏の協力を得た。表記は、便宜的な音韻表記である[1]。

2. 主題卓越型類型論の軸項

アラビア語は、いわゆる二重主語文が可能である。主題と主語を区別する標示はなく、文頭におかれると主題となる。

(1) この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。

el-χoḍrawa:tᵉ	***lli-bititzaraʕ***	***fi-l-ʔarḍᵉ-di***	***ħelwa,***	(الخضروات اللى بتتزرع في الأرض دي حلوة)
the-vegetables	the-be.planted.3SG.F	in-the-land-this	good	

u	***ʕaʃan***	***keda***	***be-titba:ʕ***	***bi-seʕr***	***ʁa:li.***	(وعشان كدا بتتباع بسعر غالي)
and	for	so	CONT-be.sold.3SG.F	by-price	expensive	

【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] アラビア語エジプト口語体の母音は、短母音/a/、/ɑ/、/i/、/u/、長母音/a:/、/ɑ:/、/i:/、/u:/、/e:/、/o:/である。/a/と/ɑ/は区別せず ***a*** で示した。/i/は ***i*** や ***e*** で示し、/u/は ***u*** や ***o*** で示した。また挿入母音の/i/は、上付きの「ᵉ」で示した。***ṭ***、***ḍ***、***ṣ*** はそれぞれ/t/、/d/、/s/の口蓋垂化音ないし咽頭化音である。***r***、***rr*** の発音はそれぞれ[ɾ]、[r]である。音節構成上で短縮した長母音は短母音で示した。また語末の ***h*** はふつう発音されない。

文頭の ***el-χoḍrawa:t***「野菜」は、補語 ***ħelwa***「良い」の主語でもあり、後半の ***be-titba:ʕ***（売れる）の主語も兼ねている。2 つの動詞 ***bititzaraʕ***「植えられている」と ***be-titba:ʕ***「売れる」は受動形（語幹接頭辞 ***t-***）である。

(2)　私は頭が痛い。だから今日は休む。

h-aʁi:b	***ʔennaharda***	***ʕafa:n***	***ʕand-i***	***ṣoda:ʕ.***	(هاغيب النهاردة عشان عندي صداع)
FUT-be.absent.1SG	today	for	at-me	headache	

【話し手の縄張り内・聞き手の縄張り外、統語的軸項としての機能】

「私は頭が痛い」が単独発話であれば、二重主語文 ***ana ʕandi ṣoda:ʕ***「私は、私に、頭痛」が可能だが、理由節なので、用例意図に反し、二重主語文にはならなかった。

(3)　あの人だけ、時間通りに来た。　【限定】

da	***ʃ-ʃaχṣ^{e}***	***l-waħi:d^{e}***	***lli-ge***	***fi-l-maʕa:d.***	(دا الشخص الوحيد اللي جه في الميعاد)
that	the-person	the-only	the-came.3SG	in-the-appointed.time	

「それは、約束時間に来た唯一の人だ」という擬似分裂文の形をとっており、「～だけ」に対応しているのは形容詞 ***waħi:d***（唯一の）である。

(4)　これはここでしか買えない。　【限定・否定との共起】

da	***ma-teʔdar-ʃ***	***teʃteri:-h***	***ʔilla***	***min***	***hena.***	(دا ماتقدرش تشتريه إلا من هنا)
this	not-can.2SG- not	buy.2SG- it	except	from	here	

「それは、（君は）ここ以外で買えない」という二重主語文であり、主題の ***da***「それ」が、***teʃteri:***「買う」に接尾された***-h***「それ（を）」で再提示されている。否定と共に使われる限定は、***ʔilla***「～しか、～以外」で表される。

(5)　その家にいたのは子どもばかりだった。　【限定・多数】

el-be:t^{e}-da	***ka:n***	***koll***	***^{e}lli-fi:-h***	***ʕeja:l.***	(البيت دا كان كل اللي فيه عيال)
the-house-this	was.3SG	all	the- in-it	children	

el-be:t^{e}-da（その家）が主題となる「この家は、その中の全てが子どもたちだった」という二重主語文であり、コピュラ動詞 ***ka:n***「だった」の主語は ***koll ^{e}lli-fi:-h***「その中（家の中）の全て」、補語は ***ʕeja:l***「子どもたち」である。「～ばかり」には ***koll***「全て」が対応している。

(6)　次回こそ、失敗しないようにしよう。　【限定・強調】

el-marra-di	***bi-z-za:t***	***h-aʕmel^{e}***	***lli-ʔaʔdar***	***ʕale:-h***	***ʕafa:n***	***m-affal-ʃ***	***ta:ni .***	
the-time-this	particularly	FUT-do.1SG	the-can.1SG	on-it	for	not-fail.1SG-not	again	

(المرة دي بالذات هاعمل اللي اقدر عليه عشان مافشلش ثاني)

前半の文構成は「今回こそ、それができることをするつもりだ」である。「～こそ」には ***bi-z-za:t***「とりわけ、特に」が対応し、また ***el-marra-di***「今回」が文頭に置かれ、主題とされている。

(7)　疲れたね、お茶でも飲もう。　【反限定・例示】

teʕebt ! ***tiːgi*** ***niʃrab*** ***ʃaːj*** ***walla ħaːga.*** (تعبت ! تيجي نشرب شاي وللا حاجة)
got.tired.1SG　come　drink.1PL　tea　or　thing

ʃaːj「茶」が例示に過ぎないことを表すのが、***walla ħaːga***「～か何か」である。「何か」は、***ħaːga***「物」の非限定で表される。

(8)　水さえあれば、数日間は大丈夫だ。　【極端】

lau ***maʕaː-k*** ***majja*** ***bass,*** ***teʔdar*** ***teqaːwem*** ***kaːm*** ***joːm.*** (لو معاك مية بس ، تقدر تقاوم كام يوم)
if　with-you　water　only　can.2SG　oppose.2SG　some　day

この文では「～さえ」に対応する表現は ***majja***「水」に付けられた ***bass***「～だけ」である。「～だけ」と「～さえ」の区別はない。

(9)　小さい子どもまで、その仕事の手伝いをさせられている。　【極端・意外】

ħatta ***l-ʔaʈfaːlᵉ*** ***ṣ-ṣoʁajjariːn*** ***bejχalluː-hom*** ***jisaʕduː-hom*** ***fi-ʃ-ʃoʁlᵉ-da .***
even　the-babies　the-little.PL　CONT-let.3PL-them　help.3PL-them　in-the-job-this
(حتى الأطفال الصغيرين بيخلوهم يساعدوهم في الشغل دا)

ħatta は、意外性の「～まで」や「～さえ」を表す。***bejχalluː***「させている（to let）」の主語は 3 人称複数で、不定人称の受身表現である。***jisaʕduː***「手伝う」の主語は ***l-ʔaʈfaːlᵉ ṣ-ṣoʁajjariːn***「小さい子どもたち」である。

(10) 私はお金なんか欲しくない。　【反極端・低評価】

ana ***miʃ*** ***ʕaːjiz*** ***filuːs.*** (انا مش عايز فلوس)
I　not　want　money

「私はお金が欲しくない」という文であり、反極端の「～なんか」は表されていない。

(11) 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。　【反極端・最低限】

ʕala-l-ʔaʔall ***ʔoːṭt-ak*** ***naḍḍaf-ha*** ***b-nafs-ak.*** (على الأقل أوضتك نظفها بنفسك)
on-the-fewest　room-your　clean.IMP-it.F　by-self-your

ʕala-l-ʔaʔall「少なくとも」が「～ぐらい」に対応する。***ʔoːṭt-ak***「君の部屋」が主題で、***naḍḍaf***「きれいにしろ」につけられた***-ha***「それ（を）」が主題を再提示している。

(12) 私にもちょうだい。　【類似】

iddiː-ni ***ana*** ***kamaːn.*** (إديني أنا كمان)
give.IMP-me　I　also

kamaːn「～も」が類似を表している。***ana***「私」がなければ、***kamaːn*** が「もっと」とも解釈される。「私」にかかっていることを明示するためには ***ana***「私」が必要である。

(13) お父さんもう帰って来たね。お母さんは？　【反類似・対比（疑問）】

baːba rawwaħ χalaːṣ, ṭab wi-maːma ? (بابا روح خلاص ، طيب و ماما ؟)
dad came.back.3SG already then and-mom

対比は、単に前件があることで表されている。

3. 不定表現

以下「誰か」、「誰も」、「誰でも」は、いずれも ***ħadd*** が対応する。元来の語根は ***ħ-d*** で、***waːħid***「１」と共有されている。また、***ħadd*** は疑問詞ではない。

(14) 誰かが電話してきたよ。　【特定既知】

fiː ħadd ittaṣal. (فيه حد إتصل)
there.is someone called.3SG
文構成：「電話した人がいる」

(15) 誰かに聞いてみよう。　【非現実不特定】

ṭajb negarrab nesʔal ħadd. (طيب نجرب نسأل حد)
then attempt.1PL ask.1PL someone

(16) 私のいない間に誰か来た？　【疑問】

fiː ħadd^{e} ge w-ana miʃ-maugu:d ? (فيه حد جه وأنا مش موجود)
there.is someone came.3SG while-I not- be.present

(17) 誰か来たら、私に教えてください。　【条件節内】

lau ħadd^{e} ge w-ana miʃ-maugu:d ʔibʔi ballaʁiː-ni. (لو حد جه وانا مش موجود إبقي بلغيني)
if someone came.3SG while-I not- be.present EMPH tell.IMP-me

(18) 今日は誰も来ないと思う。　【間接（全部）否定】

m-aʕtaqed-ʃ ʔinn^{e} fiː ħadd^{e} gaj ʔinnaharda. (ماعتقدش إن فيه حد جاي النهاردة)
not-believe.1SG-not that there.is someone coming today
文構成：「今日、来る人があるとは思わない」

(19) そこには今誰もいないよ。　【直接（全部）否定】

ma-fiː-ʃ ħadd^{e} maugu:d^{e} hnaːk dilwaʔti. (مافيش حد موجود هناك دلوقتي)
not-there.is-not someone be.present here now

(20) それは誰でもできる。　【自由選択】

ʔajj^{e} ħadd^{e} jeʔdar jeʕmal da. (أي حد يقدر يعمل دا)
which someone can.3SG do.3SG this

(21) そんなことは、みんな知ってるよ!?　【自由選択を示す「みんな」】

en-naːs koll-aha ʕarfa l-mauḍuːʕ^{e}-da ʔaṣlan. (الناس كلها عارفة الموضوع دا أصلاً)
the- people all- of.it.F knowing the-matter-this basically

「みんな」に対応するのは ***en-naːs koll-aha***「人々、その全てが」である。

(22) そんなもの、誰が買うんだよ!? 誰も買うわけないじゃないか！ 【反語】

miːn	***da***	***lli-jeʔdar***	***jeʃtiri***	***ħaːga***	***zajjᵉ-keda.***	(مين دا اللي يقدر يشتري حاجة زي كدا)
who	this	the-can.3SG	buy.3SG	thing	like-so	
ma-fiː-ʃ	***ħaddᵉ***	***mumken***	***jeʃtiri.***	(مافيش حد ممكن يشتري)		
not-there.is-not	someone	possible	buy.3SG			

前半は、「そんなものを買うことができるそれは誰か？」という擬似分裂疑問文である。

4. 情報のなわ張り

(23) 君は英語がうまいね。 【話し手の縄張り内・聞き手の縄張り内】

ʔenta	***ʃaːṭer***	***fi-lingiliːzi.***	(أنت شاطر في الانجليزي)
you	skilful	in-English	

(24) 君は退屈そうだね。 【話し手の縄張り外・聞き手の縄張り内】

waːḍeħ	***ʕaleː-kᵉ***	***l-malal.***	(واضح عليك الملل)
obvious	on-you	the-boredom	

(25) 明日も寒いらしいよ。 【話し手の縄張り外・聞き手の縄張り外】

waːḍeħ	***ʔinnᵉ***	***bokra***	***kamaːn***	***saʔʕa.***	(واضح إن بكره كمان ساقعة)
obvious	that	tomorrow	also	cold	

（23）～（25）においては、話し手や聞き手のなわ張りが反映された表現はない。（24）と（25）の ***waːḍeħ*** は、見た目に現れていることを示す。（24）では ***l-malal***「退屈」が主語で、「退屈が君の上に現れている」という文である。

参考文献

Badawi, El-Said and Martin Hinds. 1986. *A Dictionary of Egyptian Arabic*, Librarie du Liban: Beirut.

執筆者連絡先：nagatoyouichi@gmail.com

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.121-131.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.121-131.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

マレーシア語のとりたて助詞と不定表現*

Focus-sensitive particles and indefinites in Malay

野元 裕樹[1]，アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー[2]
Hiroki Nomoto, Aznur Aisyah Abdullah

[1] 東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies, School of Language and Culture Studies
[2] マレーシア国民大学社会科学・人文学部
Universiti Kebangsaan Malaysia, Faculty of Social Sciences and Humanities

要旨:本稿ではマレーシア語のとりたて助詞と不定表現を概観する．データは，本号の特集「情報表示の諸要素」のためのアンケートに基づく．

Abstract: This article overviews focus-sensitive particles and indetinife expressions in Malay. The data is based on the questionnaire prepared for the special topic of this volume “Markers of informational structure. ”

キーワード:とりたて表現，焦点，不定表現，情報構造，マレーシア語
Keywords: focus-sensitive particles, focus, indefinites, information structure, Malay

1. はじめに

本稿では，特集のアンケート項目に基づき，マレーシア語のとりたて助詞と不定表現について概観する．それぞれ第 2 節，第 3 節で扱う．アンケート項目のうち，これらの節で議論されないものは，第 4 節に収録する．特集アンケートでの例文番号は【　】に入れて示す.

本稿で示すデータは，マレーシア国内の地域方言の差を超えて使われる，マレーシア語の標準方言のものである．標準方言においては，書き言葉と話し言葉があり，2 つの変種の間の差は大きく，ダイグロッシア状況を生んでいる．本稿のデータは基本的に話し言葉のものである．例文はアズヌール・アイシャが特集アンケートの日本語文に基づいて作文した.

2. とりたて助詞

とりたて助詞（focus-sensitive particle）は，文の焦点（focus）がそれと対比される他の要素（候補；alternative）とどのような関係にあるかを示す助詞である[1]．例えば，「x だけ」は，述語が表す特性が x には成り立つものの，それと対比される他の個体には成り立たないことを表す.「健**だけ**が直美と食事をした」という文では，健が焦点で，「だけ」は「直美と食事をした」が健には言えても，聡や仁といった，

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します.
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

* 本研究は JSPS 科研費 26770135 および頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「危機言語・少数言語を中心とする循環型調査研究のための機動的国際ネットワーク構築」の助成を受けたものである．本稿の執筆は野元のメルボルン大学滞在中に行われた．滞在期間中の研究支援についてここに感謝の意を記したい.

[1] 焦点表現については，本誌前号で扱った．焦点という概念についての説明は，野元・アズヌール・アイシャ（2016）を参照されたい.

健と対比される人物には言えないことを表す.「だけ」と対称的なのが「も」である.「x も」は，x 以外に，それと対比される他の個体の中にも少なくとも 1 つ，述語が表す特性が成り立つものがあることを表す．例えば,「健**も**直美と食事をした」という文は，焦点である「健」以外に，少なくとももう一人，直美と食事をした人物がいることを意味する.

「だけ」のように，焦点が述語の特性が成り立つ唯一の要素であることを表すとりたて助詞には，saja（文語：sahaja）と hanya がある．これらは組み合わせて用いられることが多い．saja は焦点を含む句の後に，hanya はその前に生起する．日本語の「しか」のような否定極性（negative polarity）を持つ特別な助詞はない．(1)で関係詞 yang が用いられる場合，その統語構造は，自由関係節 yang~「～であるの」を主語とし，焦点となる項の名詞句が述語部分に来るような擬似分裂文である．hanya だけが焦点を表す句の直前に生起する(2b)は，間違いではないものの，文が完結していないように感じられる.

(1) a. Orang itu *saja* (yang) datang tepat masa-nya.[2] 【3】
person that only REL come exact time-DEF
b. *Hanya* orang itu (yang) datang tepat masa-nya.
only person that REL come exact time-DEF
c. *Hanya* orang itu *saja* (yang) datang tepat masa-nya.
only person that only REL come exact time-DEF
「あの人**だけ**，時間通りに来た.」

(2) a. Ini di-jual di sini *saja*. 【4】
this PASS-sell at here only
b. ?Ini di-jual *hanya* di sini.
this PASS-sell only at here
c. Ini *hanya* di-jual di sini.
this only PASS-sell at here
d. Ini di-jual *hanya* di sini *saja*.
this PASS-sell only at here only
e. Ini *hanya* di-jual di sini *saja*.
this only PASS-sell at here only
「これはここで**しか**買えない.」

逆に,「も」のように,述語の表す特性が成り立つのが焦点だけではないことを表すとりたて助詞には，pun と juga がある．これらは組み合わせて用いられることが多い．juga は主語の後と述語の後の両方に生起できるのに対し，この用法の pun は主語の後にしか生起しない[3].

(3) a. Saya *juga* nak.
1SG too want

[2] Leipzig Glossing Rules にない略号は以下の通りである：PART: particle.
[3] 「全然～，全く～（しない）」や「やっぱり～，ちゃんと～（する）」というように断言を表す談話小辞の pun は述語の後に生起する.

b. Saya *pun* nak.
1SG also want
c. Saya *pun* nak *juga*.
1SG also want too
「私**も**欲しい.」

(4) Bagi (kepada/pada) saya *juga*. 【12】
give to/to 1SG too
「私（に）**も**ちょうだい.」

「だけ」の意味と「も」の意味は相容れないが，別の意味で「も」と相容れないのが対比を表す「は」である.「x も」が述語の表す特性が成り立つ要素が x 以外に少なくとも 1 つ存在することを表すのに対し，「x は」は述語の表す特性が成り立たない可能性がある要素が少なくとも 1 つ存在することを表す. 3 つの個体 x，y，z から成る議論領域（domain of discourse）を仮定すると，これら三種のとりたての間の関係性は，述語の表す特性が成り立つかどうかによって，表 1 のようにまとめることができる．論理式に見て取れるように，違いは意味構造中の否定（¬）の位置である[4].

表 1 「だけ」「も」「は」の関係

	x	y	z	論理式	マレーシア語
「x だけ」	○	×	×	$\forall x\,[P(x) \rightarrow \neg\exists y\,[\;P(y) \wedge x \neq y]]$	sa(ha)ja, hanya
「x も」	○	○	?	$\forall x\,[P(x) \rightarrow \exists y\,[\;P(y) \wedge x \neq y]]$	pun, juga
「x は」	○	×	?	$\forall x\,[P(x) \rightarrow \exists y\,[\neg P(y) \wedge x \neq y]]$	Pula

日本語の「は」に相当するマレーシア語のとりたて助詞は，pula である.

(5) Ayah dah balik, kan? Mak *pula*? 【13】
dad already return right mum on.the.other.hand
「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」

2 文目のように pula を含む文は，お母さんがもう帰って来たかどうかを中立的に尋ねるのではなく，お父さんとは事態が異なる可能性があることを示唆する．つまり，話者はお母さんももう帰って来ているとは思っていない．ただし，このような異なる特性の成立は，その可能性が意味されるだけであり，実際には同じ特性が成立した場合でも，pula の使用が意味的に逸脱した感じになるわけではない．すなわち，(5)に対する答えが「お母さんももう帰って来たよ」だったとしても，pula のせいで対話が不自然になるということはない.

焦点およびそれと対比される他の要素は，文脈によって決まる何らかの基準に従って尺度（scale）を構成することがある．下の(6)であれば，例えば，地域の行事の準備をすることが期待されている度合いに応じた,「小さい子供＜大きい子供＜老人＜…」のような尺度を考えることができる．焦点が尺度の下限に位置することを表す，マレーシア語のとりたて助詞は pun である.

[4]「は」は，単に述語の表す特性が成り立たないこと断定するのでなく，その可能性を述べる．可能性の意味は，ここに示す論理式では省いてある.

(6) (*Sampaikan/Sehinggakan*) kanak-kanak kecil *(*pun*) di-suruh tolong buat kerja itu. 【9】
to.the.extent/to.the.extent children small also PASS-ask help do work that
「小さい子供**まで（も）**，その仕事の手伝いをさせられた.」

上で見たように，この pun には累加の用法もある (cf. (3)).「～まで」を意味する sampaikan や sehinggakan は，このことにより生じる曖昧性を解消する働きをする．可能な解釈が尺度の関与するもののみに限定されるためである．ちなみに，日本語でも「まで」は pun に相当する「も」と共起する．しかし，マレーシア語の pun が義務的であるのに対し，日本語の「も」は義務的ではない．日本語の「も」は，マレーシア語の pun と違い，尺度の下限の指定をそれ自体の意味に含まないと言える.「も」は飽くまで累加の意味を表し，それは「まで」により発生する尺度含意（scalar implicature）を意味論的に確定するものに他ならない．その結果，俗に「強調」と呼ばれる効果が生じる.

尺度の下限を示すとりたて助詞は存在しても，尺度の上限を表すには特別なとりたて助詞はマレーシア語には存在しないようである．下の(7)で想定される尺度は，例えば，ある家において大学生の子供が掃除することが期待される度合いに基づく,「浴室の排水溝＜トイレ＜…＜玄関＜居間＜自分の部屋」のようなものである．この文では，尺度の上限を表すのに,「～まで，程度」という意味の前置詞 setakat が用いられている.

(7) *Setakat* bilik sendiri, sendiri-lah yang bersihkan. 【11】
as.far.as room self self-PART REL clean
「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」

焦点とそれと対比される要素の間の関係がより複雑になる場合にも，日本語には特別なとりたて助詞が存在する．しかし，マレーシア語にはそのような特別な助詞は存在せず，他の要素を用いて類似の意味が表現される.

述語の特性が成り立つ要素のうち焦点の占める比率が期待値をはるかに超えていることは，semua(-nya)「(その）すべて」[5]を belaka「例外なく」を hampir「ほとんど」と組み合わせて用いることにより，類似の意味を表現する.

(8) Yang ada dalam rumah itu *hampir semua(-nya)* kanak-kanak *belaka.* 【5】
REL be in house that almost all-3 children without.exception
「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」

日本語の「こそ」は，述語の表す特性が焦点について成り立つことが対比される要素について成り立つことに比べ，特に注目に値することを示す．(9)は直訳すると「今後は失敗をすることがあってはならない」である.

---

[5] (i)は，全称量化子（universal quantifier）の semua を含む文の例である.

(i) Perkara sebegitu, bukan ke semua sudah tahu!? 【21】
thing like.that not Q all already know
「そんなこと（は)，みんな知っているんじゃないか！？」

(9) Selepas ini mesti jangan buat silap. 【6】
after this must not make mistake
「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」

焦点が対比される要素と並ぶ一例であり，述語の表す特性が必ずしもそれだけに成り立つというわけではないことは，同様の意味を選択の接続詞 ke を使って「～か（何か)」のような形で表現できる．ke の後に apa「何」を足すことはできない.

(10) Penat, kan. Jom minum teh *ke*. 【7】
tired right let's drink tea or
「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」

選択の接続詞は，焦点に対する話者の低評価を表す際にも用いられる．(11a)の atau apa-apa pun は直訳すると「か何も」であるが，この文は「何も欲しくない」という意味ではない.

(11) a. Saya tak mengharapkan/mahu/nak duit *atau* *apa-apa* *pun*. 【10】
1SG not expect/want/want money or anything at.all
b. Saya tak mengharapkan/mahu/nak duit *atau* *seumpamanya*.
1SG not expect/want/want money or the.like
「私はお金**なんか**欲しくない.」

焦点と対比される要素がその一部として焦点の表す個体を必ず含むことを表すことは，副詞 sekurang-kurangnya「少なくとも」や接続詞 asalkan「～である限り」を用いて表現することができる.

(12) a. Boleh bertahan selama beberapa hari jika ada *sekurang-kurangnya* air. 【8】
can endure for a.few day if be at.least water
b. *Asalkan* ada air, boleh bertahan selama beberapa hari.
as.long.as be water can endure for a.few day
「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」

3. 不定表現

不定表現とは，その言語表現を聞き手が単一の指示対象（指示対象が複数の場合は，単一の和（sum)）と結びつけることができないような表現をいう．マレーシア語の不定表現一般については，正保（2001）が論じている．本稿では，不定の人物を汎称的に―つまり，「子ども」や「日本の大学生」などの下位レベルでなく，「人」という上位のレベルで―指す 3 つの表現，sesiapa，seseorang，orang の振舞いを，Haspelmath (1997)の不定代名詞の類型論で用いられている意味区分に沿って記述する.

各表現の語構成は以下の通りである．まず，sesiapa は疑問代名詞 siapa「誰」を部分重複することにより派生した形式である[6]．口語では完全重複による siapa-siapa も可能である．次に，seseorang は seorang

[6] Haspelmath (1997: 179)は，「部分重複による事例は知らない（I know of no case of partial reduplication)」と述べているので，これは通言語的に珍しいことのようである．ちなみに，特集の対象でない，人以外

「一人」を部分重複した形である．seorang 自体は，普通名詞 orang「人」に由来する類別詞 orang に数詞「1」の接辞形 se-が付加したものである．最後に，orang は「人」という意味の普通名詞である．不定表現が疑問代名詞や汎称名詞，数詞の「1」をベースにするのは，通言語的によく観察されるパターンである．マレーシア語ではその 3 つすべてが共存する．重複によるものはそれに比べると頻度は低いものの，ベトナム語やアイヌ語など，他の言語でも報告されている（Haspelmath 1997: 179）．

(13)は，特定（specific），つまり，その言語表現を話し手あるいは主語が単一の指示対象と結びつけることが原理的には可能になっている場合である（Kratzer 1998）．話し手が，実際に電話に出るなどして，電話してきた人物が具体的に誰であるかを知っている場合（既知 ; known）も，ただ電話が鳴るのを聞いただけで，その人物が具体的に誰であるかを知らない場合（未知 ; unknown）も，どちらも seseorang と orang だけが容認可能である．

(13) Ada **sesiapa/seseorang/orang* telefon tadi. 【14】
be anyone/someone/person phone just.now
「さっき**誰か**（が）電話してきたよ．／さっき電話してきた**人**がいたよ．」

(14)は，発話時点では現実になっていない非現実（irrealis）の不特定（non-spcific）の例である．seseorang は，sesiapa や orang に比べ，容認度が下がる．

(14) Mari tanya *sesiapa/?seseorang/orang.* 【15】
let's ask anyone/someone/person
「**誰か**／**人**に聞いてみよう．」

疑問文では，3 つとも可能である．

(15) Semasa saya tiada, ada *sesiapa/seseorang/orang* datang? 【16】
while 1SG not.be be anyone/someone/person come
「私のいない間に**誰か**／**人**来た？」

条件節内では，seseorang は容認されない．seseorang を用いた場合，まるで来るのが人間ではないかのように感じられるという．その理由となぜ同様のことが疑問文の(15)で起こらないのかは不明である．

(16) Jika ada *sesiapa/*seseorang/orang* datang, sila beritahu saya. 【16】
if be anyone/someone/person come please tell 1SG
「**誰か**／**人**来たら，私に教えてください．」

否定に関して Haspelmath (1997: 32)は，直接否定（direct negation）と間接否定（indirect negation）の 2 つを区別する．Haspelmath の記述では，両者の違いは，否定辞の統語的位置による．より具体的には，直接否定では，否定辞が否定の極性を持つべき節内に生起する．一方，間接否定では否定辞が否定の極

の不定代名詞では，疑問詞が完全重複される．apa-apa「何か，何でも」，mana-mana「どこか，どこでも」，bila-bila「いつでも」のようにである．

性を持つべき節を埋め込む節に生起する（上位節否定 ; superordinate negation）[7]．Haspelmath はまた，「～なしで」や「否定する」，「拒む」のように，それ自体の意味の中に否定を含む表現についても，間接否定に含めている．

しかしながら，Haspelmath の定義は実際の言語現象にそぐわない[8]．Haspelmath は 2 種類の否定の例として，(17)のドイツ語文を挙げる．これらの文では異なる不定表現が用いられる．例文中では，否定極性を持つはずの節を[　]で示した．また，例文の日本語訳の後に Haspelmath による英訳も付けた．

(17) ドイツ語（Haspelmath 1997: 33）

a. [*Niemand* ist gekommen]. （直接否定）
nobody is come
「[**誰も**来なかった]. 」（Nobody came.）

b. Es ist nicht nötig, [dass *jemand* kommt]. （間接否定）
it is not necessary that someone comes
「**誰も**来る必要はない（＝[**誰か**が来る]ことは必要ない）.」 ¬□[∃x.COME(x)]
（It is not necessary that anybody came.）
cf.「**誰も**来てはならない（＝[**誰も**来ない]ことが必要だ）.」 □[¬∃x.COME(x)]

(17a)が直接否定であることは問題ない．一方，間接否定であるとされる(17b)は Haspelmath の定義に従えば，「誰も来ない」という否定命題の必然性を意味する文であるはずである．だが，Haspelmath の付けた英訳は，「誰も来る必要はない」というように，「誰かが来る」ことの必然性を否定する文になっている．この解釈では，従属節は否定極性を持たない．否定されているのは，主節の nötig「必要だ」である．Arndt Riester 氏（私信）によれば，(17b)のドイツ語文の実際の解釈は後者であるという．

Haspelmath が意図する言語現象は，否定の作用域で異なる形式の生起が可能か否かということであろう．日本語や英語では，「か」形や some 形の代わりに「も」形や any 形が生起できる．それに対して，ドイツ語のような言語では同様の交替がない．このことは否定辞と不定表現が異なる節に生起することとは直接的には関係しない．直接否定は否定の作用域にないこと，間接否定は否定の作用域にあることである．否定の作用域にないのに否定であるというのは，不定代名詞自体が否定表現であることに他ならない（注 8 も参照）．

マレーシア語には，英語の no one やドイツ語の niemand に相当する否定の不定代名詞は存在しない．(18)–(21)のように，否定の作用域では seseorang は使われない．

---

[7] Haspelmath 自身の表現では，the negation in the superordinate clause logically belongs to the subordinate clause「上位節の否定が論理的に従属節に帰属する」である．

[8] Haspelmath の直接否定と間接否定の区別を巡るその他の問題として，van der Wouden (2000)は直接否定が二義的であることを指摘している．すなわち，(ia)のように否定の不定代名詞（nobody）を含む文も，(ib)のように不定代名詞（anything）が独立した否定要素により認可される文もどちらも同じ直接否定として扱われる．

(i) a. Nobody could travel to the Caucasus that year.
b. I don’t know anything about Lezgian.
(van der Wouden 2000)

(18) a. Saya tak fikir [ada *sesiapa/*seseorang/orang* yang akan datang hari ini]. 【18】
1SG not think be anyone/someone/person REL will come today
「今日は**誰も／人**来るとは思わない.」[9]

b. Saya fikir [tiada *sesiapa/*seseorang/orang* yang akan datang hari ini].
1SG think [not.be anyone/someone/person REL will come today
「今日は**誰も／人**来ないと思う.」

(19) [Di situ sekarang ini tiada *sesiapa/*seseorang/orang* pun-lah]. 【19】
at there now this not.be anyone/someone/person also-PART
「そこには今**誰も／人**いないよ.」

(20) Benda yang macam itu, siapa-lah yang akan beli?! 【22】
thing REL like that who-PART REL will buy
[Takkan-lah ada *sesiapa/*seseorang/orang* yang hendak beli]!
not.will-PART be anyone/someone/person REL want buy
「そんなもの，誰が買うんだよ！？**誰も**買うわけないじゃないか！」

(21) Tanpa *sesiapa/*seseorang/orang* menolong-nya, dia boleh pergi ke sana se-orang diri.
without anyone/someone/person help-3 3SG can go to there one-CLF self
「彼は，｛**誰も／人**が｝助けてくれなくても，一人でそこへ行くことができた.」

自由選択（free choice）は，sesiapa ととりたて助詞 pun「も」（2 節参照）の組み合わせにより表される.

(22) (Itu) *sesiapa/*seseorang/*orang* pun boleh buat. 【20】
that anyone/someone/person also can do
「（それは）**誰でも**できる.」

---

[9] この例は，マレーシア語文も日本語文も従属節の表す命題が否定されているように感じられる．しかし，主節の述語を pasti「確かだ」などに変えてみると，そうではないことが分かる.

(i) Saya tak pasti [ada *sesiapa/*seseorang/orang* yang akan datang hari ini].
1SG not sure be anyone/someone/person REL will come today
「今日は｛**誰か**が／***誰も／人**が｝来ると確信できない.」

この文では，「誰かが来る」という肯定の命題に対する話者の確かさが否定されているのであり，「誰も来ない」という否定命題は解釈に関与しない．述語が「思う」の場合に，「P だと思わない」が「P でないと思う」を意味しているように感じられるのは，「思う」の意味の希薄さに起因する．つまり，ある平叙文を発話すること自体，発話内容が話者の思っていることであることの表明であり，あえて「思う」と言ったところで，総合的な解釈に大きな影響は与えない．そのため，「P だと思わない」⇒「P でないと思う」式の語用論的推論が意味論的意味により阻まれることなく成立する.

ちなみに，野元の判断では，(i)では「誰も」は使えない．van der Wouden (2000: 注 4) によれば，オランダ語でも，主節の述語の違いが従属節中の不定表現の選択に影響を与える.

比較の基準（standard of comparison）でも同様に，sesiapa ととりたて助詞 pun「も」の組み合わせが用いられる．

(23) Fatimah menari lebih baik daripada *sesiapa/*seseorang/*orang* pun.
Fatimah dance more well than anyone/someone/person also
「ファティマは**誰**より**も**うまく踊った.」

以上の結果をもとに，Haspelmath 式の意味地図を作成すると，図 1 のようになる．sesiapa の領域は図の右側から左側へ伸びる．一方，seseorang の領域は左から右へ伸びる．汎称名詞 orang「人」は，比較の基準と自由選択以外のすべてをカバーする．前述のように，直接否定と間接否定は，Haspelmath の定義とは異なる定義に従っている．本稿の定義では，直接否定はマレーシア語とは無関係である．

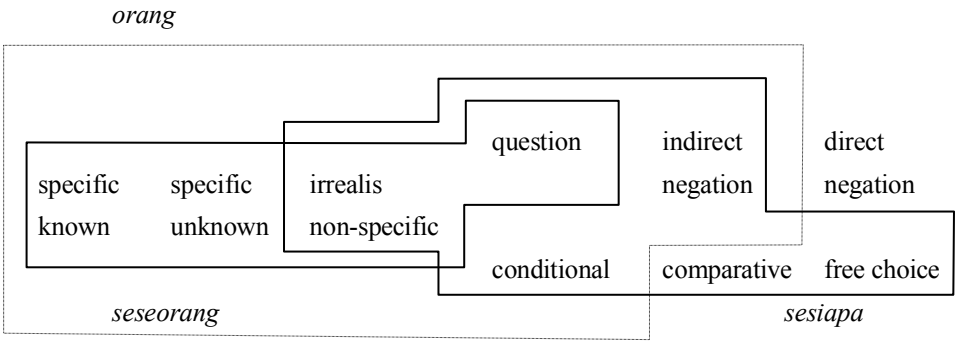


図 1　マレーシア語の「誰／人」の意味地図

4. その他

4.1. 主題の照応

(24)は，主題（＝その文の表す命題が何に関してであるか）が後続文の空主語により照応されることを示すものである．一文目は，(di) tanah ini「この土地（で）」が主題，sayur-sayurannya「その野菜」が主語となっている，「A は B が C だ」という主題・題述構文である．主語には，主題を照応する 3 人称代名詞-nya が含まれる．二文目には明示的な主語は生起しない．その代わりとして空主語を想定すると，この空主語は一文目の主語の「野菜」ではなく，主題の「この土地」を照応する．

(24) (Di) Tanah ini sayur-sayuran-nya tumbuh elok. Jadi, mungkin boleh di-jual 【1】
at land this vegetables-3 grow well so maybe can PASS-sell
dengan harga yang tinggi.
with price REL high
「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう.」

(25)も，主題が後続文の空主語により照応されることを示す例である．(24)との違いは，一文目が主題・題述構文の形式を取っていない点である[10]．一文目の主題は「私」である．二文目の hari ini「今日」は，

[10] 日本語の「私は頭が痛い」に対応する主題・題述構文は再述代名詞（resumptive pronoun）の有無にかかわらず，容認されない．

この文脈では，主語ではなく，時を表す修飾句である．(24)と同様，明示的な主語は生起せず，その代わりの空主語は一文目の主題である「私」を照応する．例文の日本語訳はマレーシア語の構文を反映するような直訳に近い訳を付けてある．

(25) a. Kepala saya sakit. Jadi, hari ini cuti. 【2】
head 1SG hurt so today take.off
「私の頭が痛い．だから今日は休む.」
b. Saya sakit kepala. Jadi, hari ini cuti.
1SG headache so today take.off
「私は頭痛だ．だから今日は休む.」

4.2. 談話小辞とモダリティ表現

日本語には，文の表す命題内容が話し手・聞き手の知識・信念体系とどのように関係するかに関する話し手の判断を表す終助詞が存在する．「ね」や「よ」がその例である．マレーシア語では小辞 lah が似た意味を持つ（詳細は Goddard (1994)を参照）．また，日本語や英語と同様，命題内容の実現可能性に関する話者の判断を表すのには，種々のモダリティ表現が用いられる（詳細は野元（2011）を参照）．日本語では「～そうだ」や「～らしい」がその例である．マレーシア語の例としては，動詞 nampak「～に見える」や小辞 macam「～のような」がある．日本語同様，2 つの要素の組み合わせも可能である．なお，(27)の saja は英語の just に相当する談話小辞であり，限定を表すとりたて助詞「～だけ」ではない．

(26) Bahasa Inggeris awak bagus-*lah*. 【23】
language English 2SG good-PART
「君は英語がうまい**ね**.」

(27) Awak *nampak macam* bosan saja-*lah*. 【24】
2SG look like bored just-PART
「君は退屈そうだ**ね**.」

(28) Esok pun *macam* sejuk-*lah*. 【25】
tomorrow also like cold-PART
「明日も寒いらしい**よ**.」

参考文献

Goddard, Cliff. 1994. The meaning of *lah*: Understanding “emphasis” in Malay (Bahasa Melayu). *Oceanic Linguistics* 33: 145–165.

Haspelmath, Martin. 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

(i) a. *Saya kepala sakit. 【2】
1SG head hurt
b. *Saya kepala saya sakit.
1SG head 1SG hurt

Kratzer, Angelika. 1998. Scope or pseudoscope? Are there wide-scope indefinites? In Susan Rothstein (ed.). *Events and Grammar*, 163–196. Dordrecht: Kluwer.

野元裕樹. 2011.「マレーシア語のモダリティの概要」『語学研究所論集 16』, 130–150. 東京外国語大学.

野元裕樹，アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー. 2016.「マレーシア語の焦点表現と名詞述語文」『語学研究所論集 21』, 171–189. 東京外国語大学.

正保勇. 2001.「マレーシア語の不定表現」『語学研究所論集 6』, 71–91. 東京外国語大学.

van der Wouden, Ton. 2000. Indefinite pronouns: A review of Haspelmath 1997. *Linguistic Typology* 4: 281–291.

執筆者連絡先:**nomoto@tufs.ac.jp**（野元），**aznuraisyah@ukm.edu.my**（アズヌール・アイシャ）

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017），pp.133-138.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.133-138.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

中国語
Markers of information structure in Chinese

三宅 登之
Takayuki Miyake

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies,Institute of Global Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対する中国語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Chinese data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，取り立て表現，不定表現，情報の縄張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

小稿では，アンケート項目に回答する形を通して，以下に中国語の言語データを示す[1].

[1] この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．
这　块　土地　蔬菜　长　得　　很　　好，　所以　大概　可以　　以　高价　卖　出去。
この　CLF　土地　　野菜　　育つ　<様態>　とても　良い　　だから　たぶん　～できる　　～で　高値　　売る　出す

「この土地」(“这块土地”) は主題（topic）として文頭に置かれる．また，全体は複文となっているが，前半節の文型としては，“这块土地”（この土地）が主語，“蔬菜长得很好”（野菜がよく育つ）が述語，さらにその述語の中が，“蔬菜”（野菜）が主語，“长得很好”が述語という，主述述語文（“主谓谓语句”）と分析することができる．

[2] 私は頭が痛い．だから今日は休む.
我　头疼，　所以　今天　休息。
私　頭痛い　　だから　今日　　休む

“我头疼”（私は頭が痛い）の部分は[1]と同様に主述述語文と分析することが可能であるが，『現代汉语词典（第 7 版)』[2]では“头疼”を 1 語（形容詞）で登録しているので，形容詞述語文とも考えられる．複文の前半で主語“我”が提示されているので，後半の主語は省略されている．

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 中国語データは，胡良娜さん（本学大学院博士後期課程，中国山東省日照市出身）にご提供いただいた．ご協力に感謝の意を表する．ただし，小稿での分析に問題点があれば全て責任は筆者（三宅）に帰するものである．
[2] 『现代汉语词典（第 7 版)』中国社会科学院语言研究所词典编辑室编，商务印书馆，2016 年.

[3] あの人だけ，時間通りに来た.
只有　他　准时　　到　了。
～だけ　彼　時間通り　着く　<変化>

[4] これはここでしか買えない.
这个　只有　在　这儿　才　　能　　买　到。
これ　～だけ　～で　ここ　はじめて　できる　買う　<達成>

「～だけ」という限定の意味は様々な語句で表現できるが，[3][4]では接続詞“只有”（ただ～だけが～だ，～してこそはじめて～だ）で表されている．[4]では後に副詞“才”を置いて“只有～才～”というパターンが用いられている.

[5] その家にいたのは子供ばかりだった.
那　时候　那个　家　里　尽　是　小孩子。
その　時　　その　家　中　全て　～だ　子供

[5]では副詞“尽”（すべて，ことごとく）を用いて「～ばかり」という意味を表している．“尽是～”で「～だらけである」「～ばかりである」という意味で，ある空間がその成員だけで埋め尽くされていることを表す.

[6] 次回こそ，失敗しないようにしよう.
我们　下次　一定　不要　　再　失败。
私たち　次回　必ず　～してはいけない　また　失敗する

[6]においては「～こそ」を表す語彙的な要素は用いられていない.「次回こそ失敗しないように」ということは「今回は失敗した，なので次回は決して失敗を繰り返さないように」のような話者の意図が表現されていると思われるが，しいて言えばこの文ではそのような話者の意図は“一定”（必ず）という副詞で表されていると考えることができる.

[7] 疲れたね，お茶でも飲もう.
累　了　吧，　咱们　喝　杯　茶　吧。
疲れる　<変化>　<推察>　私たち　飲む　～杯　お茶　<提案>

「お茶でも」のいわば気軽な語感は，[7]では，量詞“杯”が担っていると言っていいであろう．文法的にはこの量詞“杯”の前に数詞“一”が省略されていると考える．このように数詞は“一”の場合のみ省略できる．文字通りとると「1 杯のお茶を飲もう」と言っているわけであるが，ここでの数量詞“一杯”は，「2 杯ではなく 1 杯だ」といった数量を相手に伝えることに主眼があるのではなく，“一”という最小の数量単位を使うことによって，動作の少量を相手に行うことを誘いかけており，相手にかける負担の少ない，気軽な提案の語感を表すことにつながっている.

[8] 水さえあれば，数日間は大丈夫だ.
只要　　有　水，　挨　几　天　饿　　是　没有　问题　的。
～さえすれば　ある　水　受ける　数　日　ひもじい　～だ　ない　問題

「～さえ」の部分は，必要条件を表す接続詞“只要”によって表されている．

[9] 小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた．
连　小孩子　都　被　逼　着　去　帮忙　做　那个　工作。
～さえ　子供　も　<受動>　強制する　<持続>　行く　手伝う　する　その　仕事

[9]における「～まで」は，介詞（前置詞）“连”によって表されている．通常はその後で副詞“都”あるいは“也”で受ける．“连～都”あるいは“连～也”で，「～さえも，～までも」と，包含するもののうち極端な例を取りあげて強調する機能を持つ構造である．

[10] 私はお金なんか欲しくない．
我　根本　不　想　要　钱。
私　全く　<否定>　思う　要る　お金

日本語では「～なんか」と言えば，話者がそれに対して低評価を下していることが表せるが，[10]は中国語では強い打ち消し（この文では「お金が欲しい」ということに対しての強い打ち消し）ととらえて，副詞“根本”（全く）を用いている．

[11] 自分の部屋ぐらい，自分できれいにしなさい．
最　起码　把　自己　的　房间　收拾　干净。
最も　少なくとも　～を　自分　の　部屋　片付ける　きれいな

「～くらい」の表す「最低限」という意味は，中国語では副詞“起码”（最低でも，少なくとも，最小限）で表されている．

[12] 私にもちょうだい．
你　也　给　我　一点儿　吧。
あなた　も　与える　私　少し　<提案>

「～も」の意味を表すには，中国語では副詞“也”を用いる．“也”は二つの事柄が同じであることを表す．

[13] お父さんもう帰って来たね．お母さんは？
爸爸　已经　回来　了。　妈妈　呢？
父　もう　帰ってくる　<完了>　母　～は？

「～は？」は語気助詞“呢”を用いて“～呢？”で表される．このタイプの疑問文は省略疑問文と呼ばれることもある．[13]では“妈妈回来了吗？”（お母さんは帰ってきた？）という内容を聞いているわけだが，文脈でそれが明らかなので“妈妈”だけが用いられその他の部分が省略されているわけである．

[14] 誰か（が）電話してきたよ.
有　人　给　你　　打　　电话　了。
いる　人　に　あなた　かける　電話　<完了>

[15] 誰かに聞いてみよう.
我　问问　　别人。
私　ちょっと聞く　他人

[16] 私のいない間に誰か来た？
我　不　　在　的　时候　有　人　来　过　　吗?
私　<否定>　いる　～の　時　　いる　人　来る　<終結>　<疑問>

[17] 誰か来たら，私に教えてください.
要是　有　人　来　了，　就　　跟　我　说　一声　吧。
もし　いる　人　来る　<完了>　そしたら　に　私　言う　一言　<提案>

以上の「誰か」は中国語では不定の人物ととらえられている．[14] [16] [17] では“有人”が用いられているが，全て主語の位置に生起していることに注意したい．文法構造としては，“有”が「ある，いる」という動詞，“人”が「人」という名詞で，この“人”が動詞“有”の目的語になっていると同時に，後半部分の動詞句（[14]でいえば“给你打电话了”（あなたに電話をかけてきた））の動作主を兼ねているので，中国語の伝統文法でいうところのいわゆる「兼語文」を構成している.

[15]の「誰か」だけは，主語ではなく動詞“问”（聞く，尋ねる）の目的語の位置に置かれているので，“别人”（他人，ほかの人）という語彙で表されている.

[18] 今日は誰も来るとは思わない．／今日は誰も来ないと思う.
我　想　今天　谁　也　不　　会　　来。
私　思う　今日　誰　も　<否定>　<可能性>　来る

[19] そこには今誰もいないよ.
现在　那儿　一　个　人　都　　没有。
今　そこ　1　人　人　～さえ　いない

[18] [19]は全部否定の表現である．[18]は「誰も」の部分を疑問代詞“谁”を用い，「疑問代詞＋“也”（または“都”）＋否定表現」のパターンで構成された文である．[19]は「誰も～ない」の内容を「1 人も～ない」という角度から表現し，「“一”＋量詞＋名詞＋“也”（または“都”）＋否定表現」という形で示している.

[20] （それは）誰でもできる.
谁　都　会　　做。
誰　みな　<可能>　する

[21] そんなこと（は），みんな知っているんじゃないか!?
那　种　事　大家　不　　都　知道　　吗?
それ　種類　事　　皆さん　<否定>　みな　知っている　　<疑問>

[20]の「誰でも～（肯定形）」も，[18]の否定形の場合と同様に，疑問代詞の非疑問用法が用いられるケースである．「疑問代詞＋“都”＋肯定表現」という構成になる．否定形の場合と異なるのは，疑問代詞の後には，否定形の場合は副詞“也”と“都”のどちらかを用いるということだったが，肯定形の場合は一般に“都”しか用いない．[21]では，“大家”（みんな）という語彙を用いて表されている．

[22] そんなもの，誰が買うんだよ!?，誰も買うわけないじゃないか！
谁　会　　买　那　种　东西　呢?　没　　人　会　　买　吧!
誰　　<可能性>　買う　あの　種類　物　　<疑問>　いない　人　　<可能性>　買う　<推察>

前半の“谁会买那种东西呢？”は，疑問文の形をとっているが，この場合は反語文として用いられている．実際に言いたい内容は後半の“没人会买吧！”ということである．中国語では疑問文と反語文は形式上は違いがないことが多く，コンテクストの支えでそれが反語文であることがわかる．

[23] 君は英語がうまいね.
你　　英语　很　　好　啊。
あなた　英語　　とても　良い　<肯定>

[23]では，例えば相手の話す英語を聞いて上手だと感じた話者が，「あなたの英語は上手だ」と自分の判断を直接相手に伝えるわけであるから，特に副詞などは挟まずにそのまま形容詞述語文を用いている．

[24] 君は退屈そうだね.
你　　好像　　很　　无聊。
あなた　みたいだ　　とても　退屈だ

[24]では，相手が退屈かどうかは相手の心の中の問題なので話者は断言することはできず，例えば見た目などから相手が退屈なのではないかと推測して「退屈そうだ」と言っている．その場合は副詞“好像”（まるで～のようだ，～のような気がする，どうも～みたいだ）を用いて表現する．

[25] 明日も寒いらしいよ.
听说　　明天　也　很　　冷。
だそうだ　明日　　も　　とても　寒い

[25]の「～らしい」で表されているのは伝聞である．動詞“听说”（聞くところによると～だそうだ）を使って伝聞の内容を表すことができる．

参考文献

陈平.1987.「释汉语中与名词性成分相关的四组概念」,『中国语文』第 2 期.
徐烈炯・刘丹青. 1998.『话题的结构与功能』上海教育出版社.

執筆者連絡先:**tmiyake@tufs.ac.jp**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.139-153.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.139-153.

<特集「情報標示の諸要素」>

現代朝鮮語の情報表示の諸要素

Markers of information structure in Korean

黒島 規史・崔 正熙

Norifumi Kuroshima, Jeonghee Choi

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する. 本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対する朝鮮語データを与えることである.

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Korean data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語, とりたて表現, 不定表現, 情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

本稿では, 特集「情報表示の諸要素」のアンケートに沿って, 現代朝鮮語 (以下, 朝鮮語) の例文を提示し, それに適宜補足説明を加える. 最後に朝鮮語のとりたて表現について簡単な考察を加える.

2. 朝鮮語データ

朝鮮語の情報表示の諸要素, 具体的には主題表示の軸項 (1-2), とりたて表現 (3-13), 不定表現 (14-22), 情報のなわ張り理論 (23-25) に関連する例について見ていく. 例文の朝鮮語はハングル表記と, Yale 式ラテン文字転写[1]にグロスを付して提示する. アンケートの日本語例文を朝鮮語で表したときに日本語とは違う表現を用いる場合, グロスの下にさらに「」を加え日本語訳を示す.

2.1. 主題卓越型類型論の軸項

(1)【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】
「この土地は野菜がよく育つ. だから高い値段で売れるだろう.」
이 땅{은/에서는} 채소가 잘 자란다. 그러니까 비싼 값에 팔릴 것이다.

i	ttang{=un/=eyse=nun}	chayso=ka	cal	cala-nta.
この	土地=TOP/=LOC=TOP	野菜=NOM	よく	育つ-DECL.NPST
kulenikka	pissa-n	kaps=ey	phalli-l	kes-i-ta.
だから	高い-ADNC.NPST	値段=DAT	売れる-ADNC.IRR	こと-COP-DECL.NPST

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] ラテン文字転写には淺尾仁彦氏が作成した「ハングル→イェール式ローマ字変換」(http://asaokitan.net/tools/hangul2yale/) を利用した. ただし, 両唇音 (p, pp, ph, m) に付く wu は u で表記せず, そのまま wu で転写している.

ここの日本語例文を朝鮮語にすると，ttang=eyse=nun (土地=LOC=TOP) のように位格を入れたほうがより自然ではあるが，その場合軸項は「土地」とも「野菜」とも解釈しうる．軸項を「土地」として解釈されるようにするには ttang=nun (土地=TOP) とするほうがよい．

(2)【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】
「私は頭が痛い．だから今日は休む．」
나 머리 아파. 그러니까 오늘 쉴 거야.

na	meli	apha.	kulenikka	onul	swi-l	ke-ya.
1SG	頭	痛い:DECL.NPST.NPOL	だから	今日	休む-ADNC.IRR	こと-COP:DECL.NPST.NPOL

日本語例文のように「私」「今日」に主題標識を付けることは可能だが，これを付けると対比の意味が出てしまうため，ここでは主題標識なしで例文を提示した．この場合も「私」は統語的軸項として機能する．

2.2. とりたて表現

朝鮮語においてとりたてを担うものは，限定詞 (delimiter)，補助詞，あるいは特殊助詞などと呼ばれるが，その全てがとりたて的な意味を持っているわけではなく，あくまでも格を表す助詞以外の，統語的な出現環境が比較的自由なものが含まれる．これらの範囲については韓国でも様々な論考があり，論者によってなにを特殊助詞などに含めるかについては主張が異なる．例えば，代表的な研究である洪思滿 (1983) は 16 個の特殊助詞を認めている．

(3)【限定】
「あの人**だけ**，時間通りに来た．」
저 사람**만** 제시간에 왔어.

ce	salam=**man**	ceysikan=ey	w-ass-e.
あの	人=だけ	定時=DAT	来る-PST-DECL.NPST.NPOL

「限定」には基本的に =man が用いられる．日本語と同様，主格の後に限定のとりたて表現を付けて，=i/ka=man (=NOM=だけ) のように用いることはできない．ただ，主格を後に付けて =man=i/ka (=だけ=NOM) とすることは可能である．

(4)【限定・否定との共起】
「これはここで**しか**買えない．」

a. ?이건 여기서**밖에** 못 사.

?ike=n	yeki=se=**pakkey**	mos	sa.	
これ=TOP	ここ=LOC=しか	IMPS	買う:DECL.NPST.NPOL	

b. 이건 여기(가) 아니면 못 사.

ike=n	yeki(=ka)	ani-myen	mos	sa.
これ=TOP	ここ(=NOM)	NCOP-ADVC.COND	IMPS	買う:DECL.NPST.NPOL

「これはここでなければ買えない．」

c. 이건 여기서**만** 살 수 있어.
ike=n yeki=se=**man** sa-l swu iss-e.
これ=TOP ここ=LOC=だけ 買う-ADNC.IRR すべ ある-DECL.NPST.NPOL
「これはここでだけ買える.」

日本語例文に対しては, 上記 (4a-c) のように 3 通りの言い方ができる. 限定と否定の共起には (4a) のように (=)pakkey が用いられるが, この例文の場合はやや不自然であり, (4b) のように「ここでなければ」と条件形を使うか, (4c) のように (3) で見た =man を使う方が自然である. 一方, 次の (4d) のように (=)pakkey が主格の位置に来る場合は自然である.

d. 그 사람**밖에** 없다.
ku salam=**pakkey** eps-ta.
その 人=しか いない-DECL.NPST
「その人**しか**いない.」

(5)【限定・多数】
「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」
a. ?그 집에 있었던 건 아이(들)**뿐**이었다.
?ku cip=ey iss-ess-ten ke=n ai(=tul)=**ppwun**-i-ess-ta.
その 家=DAT いる-PST-ADNC.IPFV もの=TOP 子供(=PL)=のみ-COP-PST-DECL

b. 그 집엔 아이(들)**만** 있었다.
ku cip=ey=n ai(=tul)=**man** iss-ess-ta.
その 家=DAT=TOP 子供(=PL)=だけ いる-PST-DECL
「その家には子供(たち)だけいた.」

日本語例文を直訳すると (5a) のように表すことも可能だが, 上でも見た =man を使って (5b) のように表現する方が自然な朝鮮語になる.

(6)【限定・強調】
「次回**こそ**, 失敗しないようにしよう.」

a. ?다음에**야말로** 실패하지 않도록 해야지.
?taum=ey-**yamallo** silphayha-ci anh-tolok hay-yaci.
次=DAT-こそ 失敗する-NMLZ NEG-ADVC.MNN する-OBLG

b. 다음에**는** 절대 실패하지 말아야지.
taum=ey=**nun** celtay silphayha-ci mal-ayaci
次=DAT=TOP 絶対 失敗する-NMLZ やめる-OBLG

「こそ」のように限定の強調には -(i)yamallo が用いられるが, (6) の日本語例文に対する朝鮮語訳としては (6a) よりも (6b) のように主題標識で表した方が自然である. しかし, 次の (6c) のような文に

おいては「こそ」を -(i)yamallo で表すことができる．(4) でも見たように，朝鮮語と日本語では似たようなとりたて表現があるが，その統語的な性質が異なる．

c. 저**야말로** 죄송합니다.
ce-**yamallo** coysongha-pnita.
1SG-こそ すまない-DECL.NPST.POL
「私（の方）こそすみません.」

(7)【反限定・例示】
「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」
a. 피곤하지. 차{**라도/나**} 마시자.
phikonha-ci. cha{**-lato/-na**} masi-ca.
疲れた-ASS お茶-でも/-でも 飲む-COHR

この例文においては「でも」は -(i)lato あるいは -(i)na で表すことができる．前者は日本語の「でも」に類似しているが，後者は対比される選択項目の中でもランクが下のものを選ぶというニュアンスがある．例えば次の例文 (7b) において，-(i)lato は「（わたしはお腹いっぱいで食べられないが）せめておまえだけでも食べろ」という状況で使えるが，-(i)na は聞き手をぞんざいに扱い，「おまえが食べればいいだろ」というニュアンスがある．-(i)na は疑問詞に付くと，「誰でも」「いつでも」のように，自由選択の意味を表す．例については (20) を参照のこと．

b. 너{**라도/나**} 먹어.
ne{**-lato/-na**} mek-e.
2SG-でも/-でも 食べる-IMPR.NPOL
「せめておまえが食べろ／おまえが食べればいいだろ.」

(8)【極端・意外】
「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」
a. 물**만** 있으면 며칠 동안은 괜찮아.
mwul=**man** iss-umyen myechil tongan=un kwaynchanh-a.
水=だけ ある-ADVC.COND 数日 間=TOP 大丈夫だ-DECL.NPST.NPOL

「さえ」のように，ある尺度の小さい方に極端なものを表すとりたて表現には =cocha (8b) があるが，(8a) のように最低限のものを表す場合には用いることができず，(3), (4) で見た =man を用いる．(8b) のように，=cocha はしばしば否定とともに用いられる．

b. 자기 이름**조차** 한자로 못 쓴다.
caki ilum=**cocha** hanca=lo mos ssu-nta.
自分 名前=さえ 漢字=INST IMPS 書く-DECL.NPST
「自分の名前さえ(すら)漢字で書けない.」

(9)【極端・意外】
「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」
a. 어린 아이들한테**까지** 그 일을 시켰다.
eli-n ai=tul=hanthey=**kkaci** ku il=ul sikhy-ess-ta.
幼い-ADNC.NPST 子供=PL=DAT=まで その 仕事=ACC させる-PST-DECL

日本語の「まで」と同様，朝鮮語の =kkaci は「(場所・時間) =kkaci」という格助詞の機能を持つこともあれば，この例のようにとりたて助詞として機能することもある．=kkaci の他に，ある尺度のなかで期待されない極端な例を示すとりたて表現としては =mace もあるが, この例文で =kkaci の代わりに使うと不自然になる．ただし，次のような言い方は可能である.

b. 어린 아이들**마저** 그 일을 해야 했다.
eli-n ai=tul=**mace** ku il=ul hay-ya hay-ss-ta.
幼い-ADNC.NPST 子供=PL=DAT=まで その 仕事=ACC する-OBLG する-PST-DECL
「幼い子供たちまでその仕事をしなければならなかった.」

(10)【反極端・低評価】
「私はお金**なんか**欲しくない.」
난 돈 **따위(따윈)** 원치 않아.
na=n ton **ttawi(ttawi=n)** wenchi anh-a.
1SG=TOP お金 なんか(なんか=TOP) 望む:NMLZ NEG-DECL.NPST.NPOL

特に「反極端・低評価」を表すには日本語の「なんか」に似た ttawi を用いることができる．ttawi はとりたて助詞ではなく依存名詞である.

(11)【反極端・最低限】
「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」
자기 방 **정도는** 스스로 치우도록 해.
caki pang **cengto=nun** susulo chiwu-tolok hay.
自分 部屋 程度=TOP 自分で 片付ける-ADVC.MNN する:IMPR.NPOL

「ぐらい」は cengto [程度] を使って表すことができるが，ここではさらに主題標識を付けて cengto=nun (程度=TOP) のように表す必要がある.

(12)【類似・類似】
「私に**も**ちょうだい.」
나한테**도** 줘.
na=hanthey=**to** cwe.
1SG=DAT=も くれる:IMPR.NPOL

「類似」には日本語の「も」と類似した =to を用いることができる.

(13)【反類似・対比（疑問）】
「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」

아빠 벌써 오셨네. 엄마**는**?
appa　pelsse　o-sy-ess-ney.　emma=**nun**?
お父さん　もう　来る-HON-PST-ADM　お母さん=TOP

この例では，日本語の「は」と似た機能を果たす主題標識の =un/nun を用いて表すことができる．

ここでの考察を踏まえて，アンケートにも挙がっていた野田 (2015: 84) を参考に，朝鮮語のとりたて表現を表 1 に整理しておこう．朝鮮語のとりたて表現として表 1 に含めたものの中には，韓国で特殊助詞などと呼ばれる一群の助詞には通常含まれないものもある．

表 1：日本語と朝鮮語のとりたて表現

	日本語	朝鮮語		日本語	朝鮮語
限定	だけ ばかり しか こそ（特立）	=man「だけ」 (=)pakkey (+ NEG)「しか」 (=)ppwun「のみ」 -(i)yamallo「こそ」	**反限定**	でも（例示） も（柔らげ） なんか（例示）	-(i)lato「でも」 -(i)na「でも」
極端	まで（意外） さえ（意外） も（意外） でも（意外）	=kkaci「まで」 =mace「まで」 =cocha「さえ」	**反極端**	なんて（低評価） ぐらい（最低限） こそ（譲歩）	ttawi「なんか」 cengto(=nun)「ぐらい(は)」
類似	も（類似）	=to「も」	**反類似**	は（対比）	=un/nun「は」

2.3. 不定表現

(14)【特定既知 (specific known)】
「**誰か**（が）電話してきたよ.」

a. **어떤 사람**한테서 전화 왔어.
etten　**salam**=hantheyse　cenhwa　w-ass-e.
ある　人=ABL　電話　来る-PST-DECL.NPOL
「ある人から電話が来たよ.」

b. **누가** (너한테) 전화했는데?
nwuka　(ne=hanthey)　cenhwahay-ss-nuntey?
誰:NOM　(2SG=DAT)　電話する-PST-ADVC.AVS
「誰か（おまえに）電話してきたぞ.」

(14b) の場合，nwuka は疑問詞としても機能するため，これに強勢が置かれる場合は疑問詞疑問文にもなりうる．

Haspelmath (1997: 313-5) では，specific known (14), specific unknown, irrealis non-specific (15), question

(16), conditional (17), indirect negation (18) の場合に朝鮮語は，疑問詞あるいは疑問詞 + -nka が用いられるとしているが，実際にはいつでも両者が使えるわけではない．

I Senwung (2000: 213) では，次のような例文を挙げながら，疑問詞 + -nka は対象が話者にとって未知であるときに用いられると指摘している．次の (14c) では，B が食べているものは不定であっても未知のものではない．

c. A: 야, 빨리 와.
ya, ppalli wa.
おい はやく 来る:IMPR.NPOL

B: 지금 {뭐/??뭔가} 먹고 있어. 한 시간쯤 이따가 갈게.[2]
cikum {mwe/??mwe-nka} mek-ko iss-e.
今 なに/なに-か 食べる-ADVC.SEQ いる-DECL.NPST.NPOL

han sikan-ccum ittaka ka-lkey.
一 時間-くらい あとで 行く-PROM

「A：おい，はやく来いよ．
B：今ご飯（lit. なにか）食べてるんだ．一時間くらいあとで行くよ．」 (I Senwung 2000: 213)

上の B の発話では mwe「なに（か）」はそのまま日本語にすることはできないが，例えば nwukwu manna-ko iss-e. (誰 会う-ADVC.SEQ いる-DECL.NPST.NPOL) のような文では，日本語は「人に会っている」のように総称名詞 (generic noun) である「人」を用いることができる．

しかし，I Senwung (2000: 213) は次の例文では，対象は未知であるにも関わらず，疑問詞と疑問詞 + -nka でその文法性に差異があり，その原因については不明だと述べている．

d. 지금도 {어딘가(가)/?어디가} 개발되고 있다.
cikum=to {eti-nka(=ka)/?eti=ka} kaypaltoy-ko iss-ta.
今=も どこ-か(=NOM)/どこ=NOM 開発される-ADVC.SEQ いる-DECL.NPST
「今もどこかが開発されている．」

e. 항상 {어딘가에서/?어디에서} 전쟁이 일어난다.
hangsang {eti-nka=eyse/?eti=eyse} cencayng=i ilena-nta.
いつも どこ-か=LOC/どこ=LOC 戦争=NOM 起きる-DECL.NPST
「いつもどこかで戦争が起きている．」

f. {어딘가/??어디}부터 일이 잘못되기 시작했다.
{eti-nka/??eti}=pwuthe il=i calmostoy-ki sicakhay-ss-ta.
どこ-か/どこ=から こと=NOM 間違う-NMLZ 始まる-PST-DECL
「どこからかうまくいかなくなり始めた．」

g. {어딘가(가)/어디가} 고장이 났다.

[2] ここで，이따가 ittaka は있다가 isstaka が正しいと考えられるが，原文のまま引用する．

{eti-nka(=ka)/eti=ka}　kocang=i　na-ss-ta.
どこ-か=NOM/どこ=NOM　故障=NOM　出る-PST-DECL
「どこかが故障した.」

(I, Senwung 2000: 215)

ただし，次の (14h) のように，疑問詞で表される内容が完全に想定できないようなときには疑問詞 + -nka のほうが自然になるようである.

h.　**언젠가** 좋은 일이 있을 거야.
encey-nka　coh-un　il=i　iss-ul　ke-ya.
いつ-か　よい-ADNC.NPST　こと=NOM　ある-ADNC.IRR　こと-COP:DECL.NPST.NPOL
「いつかいいことがあるだろう.」

(15)【非現実不特定 (irrealis non-specific)】
「**誰か**に聞いてみよう.」
{**누구**/??**누군가**}한테 물어보자.
{**nwukwu**/??**nwukwu-nka**}=hanthey　mwul-e　po-ca.
誰/誰-か=DAT　尋ねる-ADVC.SEQ　見る-COHR

(14) と同じく疑問詞の nwukwu が使われるが，-nka が付いた nwukwu-nka は不自然である．疑問詞 + -nka はどちらかというと書き言葉的であり，そのため，この例文では不自然になると考えられる．以下，(16), (17) の例についても同様である.

(16)【疑問 (question)】
「私のいない間に**誰か**来た？」
내가 없는 동안 {**누가**/??**누군가**} 왔었어?
nayka　eps-nun　tongan　{**nwuka**/??**nwukwu-nka**}　wa-ssess-e?
1SG:NOM　いない-ADNC.NPST　間　誰:NOM/誰-か　来る-PLPF-INTRR.NPOL

この例においても疑問詞の nwuka (nwukwu) が用いられ，nwukwu-nka は不自然である.

(17)【条件節内 (conditional)】
「**誰か**来たら，私に教えてください．」
{**누가**/?**누군가**} 오면 저한테 알려 주세요.
{**nwuka**/?**nwukwu-nka**}　o-myen　ce=hanthey　ally-e　cwu-sey=yo.
誰:NOM/誰-か　来る-ADVC.COND　1SG=DAT　知らせる-ADVC.SEQ　くれる-HON:IMPR=POL

この例は (15), (16) の例と比べると nwukwu-nka の使用はやや不自然という程度である．これは (17) が (15), (16) の例文と比べると「誰か」を想定しにくいためだと考えられる.

(18)【間接（全部）否定 (indirect negation)】
「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う.」
a.　오늘은 **아무도** 안 올 것 같아.

onul=un **amwu=to** an o-l kes kath-a.
今日=TOP 誰=も NEG 来る-ADNC.IRR こと 同じだ-DECL.NPST.NPOL

b. 오늘은 **누가** 올 것 같진 않아.
onul=un **nwuka** o-l kes kath-ci=n anh-a.
今日=TOP 誰:NOM 来る-ADNC.IRR こと 同じだ-NMLZ=TOP NEG-DECL.NPST.NPOL
「今日は誰かが来そうではない.」

朝鮮語は (18a) に見るように否定の場合は通常の疑問詞とは違う系統の語を用いる．(18b) のように疑問詞を用いることも可能だが，通常は (18a) を用いる．

(19)【直接（全部）否定 (direct negation)】
「そこには今**誰も**いないよ.」
a. 거긴 지금 **아무도** 없어.
keki=n cikum **amwu=to** eps-e.
そこ=TOP 今 誰=も いない-DECL.NPST.NPOL

(18) の例と同様に, amwu=to が用いられる．例文は少し変わるが, (19b) に示したとおり日本語の「誰ひとり」のようにして全部否定を表すこともできる．また，(19c) のように「その誰も」ということで全部否定を表すこともある．

b. **누구** 하나 제대로 아는 사람이 없어.
nwukwu hana ceytaylo a-nun salam=i eps-e.
誰 ひとつ きちんと 知る-ADNC.NPST 人=NOM いない-DECL.NPST.NPOL
「誰ひとりちゃんと知っている人がいない.」

c. **그 누구도** 부정할 수 없다.
ku nwukwu=to pwucengha-l swu eps-ta.
その 誰=も 否定する-ADNC.IRR すべ ない-DECL.NPST
「誰ひとりとして否定することはできない.」

(20)【自由選択 (free-choice)】
「(それは) **誰でも**できる.」
a. (그건) **누구나** (다) 할 수 있어.
(kuke=n) **nwukwu-na** (ta) ha-l swu iss-e.
それ=TOP 誰-でも みんな する-ADNC.IRR すべ ある-DECL.NPST.NPOL

b. (그건) **누구든(지)** 할 수 있어.
(kuke=n) **nwukwu-tun(ci)** ha-l swu iss-e.
それ=TOP 誰-でも する-ADNC.IRR すべ ある-DECL.NPST.NPOL

この例では，Haspelmath (1997: 313-315) も挙げているように，-(i)na あるいは -(i)tunci を用いる．前

者については (7) でも扱った．-(i)tunci は縮約形として -(i)tun もある．

-(i)na と -(i)tunci の違いは，次のように説明できる．nwukwu-na の後に ta「みんな」が付くとより自然になることからもわかるように，nwukwu-na は不特定の成員全てを指し，nwukwu-tunci は次の (20c) のように，A, B, C と候補を分けることができ，特定の成員を指す．

c. 그런 건 너(나), 엄마(나), 아빠(나), **누구든지** 알 수 있는 거잖아.
kule-n ke=n ne(-na), emma(-na), appa(-na),
そうだ-ADNC.NPST もの=TOP 2SG(-でも) お母さん(-でも) お父さん(-でも)
nwukwu-tunci a-l swu iss-nun ke-canh-a.
誰-でも 知る-ADNC.IRR すべ ある-ADNC.NPST こと-NEG-DECL.NPST.NPOL
「そんなのはおまえだって，お母さんだって，お父さんだって，誰だってわかることじゃないか.」

また，次のような例文の対比からも nwukwu-na と nwukwu-tunci の違いがわかる．つまり，(19d) では成員は特定の学生たちであるため，nwukwu-tunci が自然であり，(19e) のような一般論を語るときには不特定のため nwukwu-na が自然である．

d. （教室で何人かの学生がいる状況で，教師が）
의견을 말해 보세요. {?**누구나/누구든(지)**} 좋습니다.
uykyen=ul malhay po-sey=yo.
意見=ACC 言う:ADVC.SEQ 見る-HON:IMPR=POL
{?**nwukwu-na/nwukwu-tun(ci)**} coh-supnita.
誰-でも/誰-でも よい-DECL.NPST.POL
「意見を言ってみてください．誰でもいいです.」

e. {**누구나**/ ?**누구든(지)**} 비밀은 있다.
{**nwukwu-na**/?**nwukwu-tun(ci)**} pimil=un iss-ta.
誰-でも/誰-でも 秘密=TOP ある-DECL.NPST
「誰にでも秘密がある.」

ところで，(20a), (20b) はどちらも能力可能，状況可能の解釈ができるが，実際は -(i)tunci のほうが状況可能と用いる場合はより自然になることが多いようである．この点については今後さらに検討が必要である．

(21)【自由選択を示す「みんな」】
「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか！？」
a. 그런 건 **누구나** (다) 알잖아!?
kule-n ke=n **nwukwu-na** (ta) al-canh-a!?
そうだ-ADNC.NPST こと=TOP 誰-でも みんな 知る-NEG-INTRR.NPST.NPOL

b. 그런 건 **누구든(지)** 알잖아!?
kule-n ke=n **nwukwu-tun(ci)** al-canh-a!?
そうだ-ADNC.NPST こと=TOP 誰-でも 知る-NEG-INTRR.NPST.NPOL

ここで提示されているような例において，自由選択を表す場合には「みんな」を意味する ta を使用すると不自然となる．ここでは (20) で見た nwukwu-na と nwukwu-tunci を用いている．nwukwu-na と nwukwu-tunci の違いは，(20) で述べたとおり，不特定の成員を指すか，個別の成員を指すかという点にある．

(22)【反語】
「そんなもの，**誰が**買うんだよ！？誰も買うわけないじゃないか！」
그런 걸 **누가** 사겠어!? 아무도 안 살걸?
kule-n ke=l nwuka sa-keyss-e!?
そうだ-ADNC.NPST こと=ACC 誰:NOM 買う-PROB-INTRR.NPOL
amwu=to an sa-lkel?
誰=も NEG 買う-INFER

この例文においてもやはり，1 文目では日本語と同じく疑問詞の nwuka を用いることができる．蓋然性を表す -keyss- はなくともよい．

2.4. なわ張り理論

情報のなわ張り理論を援用した研究としては Ikharasi (2000) や平 (2004) がある．Ikharasi (2000) は連結語尾の一つである -nikka（～から）と終結語尾 -ci の共起関係に注目し，従属節と主節で表される情報が，両方話し手のなわ張り内にあるときに，共起関係が実現すると指摘している．平 (2004) では終結語尾の一つである -ci を分析し，「話し手にとってなわ張りの外に属する情報，聞き手にとってなわ張り内に属する情報の場合には叙述形の -ci が使用されない」ということを明らかにしている．

(23)【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】
「君は英語がうまい**ね**.」
너 영어 {잘하**는구나**/잘하**네**}.
ne yenge {calha-**nunkwuna**/calha-**ney**}.
2SG 英語 上手だ-ADM/上手だ-ADM

ここでは終結語尾の -kwuna あるいは -ney を用いることができる．前者は「知覚・推論によって得た情報を新たに知る」ことを表し, 後者は「現在の知覚から得た情報を新たに知る」ことを表す (Pak 2006: 223-233). これらの終結語尾については黒島・崔 (2016: 223-4) でも扱った.

(24)【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】
「君は退屈そうだ**ね**.」
a. 너 지루하**구나**.
ne cilwuha-**kwuna**.
2SG 退屈だ-ADM

b. 너 지루한가 보**네**.
ne cilwuha-nka po-**ney**.
2SG 退屈だ-みたいだ-ADM

この例文の場合，(23) のところでも述べたように，終結語尾の -kwuna は推論から得た情報を新たに知ることを表せるので,「間接形」を用いずとも (24a) のように表すこともできる. (24b) は日本語の「みたいだ」のように証拠性の意味を持つ -na/nka po-ta に (23) で見た終結語尾の -ney が付いた例である.

(25)【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】
「明日も寒いらしい**よ**.」

a. 내일도 춥대.
nayil=to chwup-tay.
明日=も 寒い-QUOT. NPST.NPOL

b. 내일도 춥다나 봐.
nayil=to chwup-ta-na pwa.
明日=も 寒い-QUOT-みたいだ.NPST.NPOL

「話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外」の場合は「間接形」が用いられ，ここでは二通りの言い方を提示してある. (25b) は引用形にさらに (24b) と同じ -na/nka po-ta が用いられている.

3. 朝鮮語のとりたて表現

ここでは本稿のアンケート例文の結果と，野田 (2015) の議論を基に，朝鮮語のとりたて表現に簡単な考察を加える. まずは表 1 で示した日本語と朝鮮語のとりたて表現から朝鮮語の部分だけを抜き出し，さらに朝鮮語のとりたて表現として考えられるものを追加し，表 2 として示しておこう．朝鮮語で下線を引いたものは，本稿のアンケートで扱ったとりたて表現である.

表 2：朝鮮語のとりたて表現

	朝鮮語		朝鮮語
限定	=man「だけ」 (=)pakkey (+ NEG)「しか」 (=)ppwun「のみ」 -(i)ya「こそ」 -(i)yamallo「こそ」	**反限定**	-(i)lato「でも」 -(i)na「でも」 -(i)tunci「でも」 =to「も」
極端	=kkaci「まで」 =mace「まで」 =cocha「さえ」 =to「も」 (=un/nun)=khenyeng「はおろか」 数量表現 + -(i)na「(数量) も」	**反極端**	ttawi「なんか」 cengto(=nun)「ぐらい(は)」 -(i)nama「だけでも」
類似	=to「も」	**反類似**	=un/nun「は」

野田 (2015: 95) は表 2 にもある「限定—反限定」「極端—反極端」「類似—反類似」の関係を次の図 1 のように説明している.

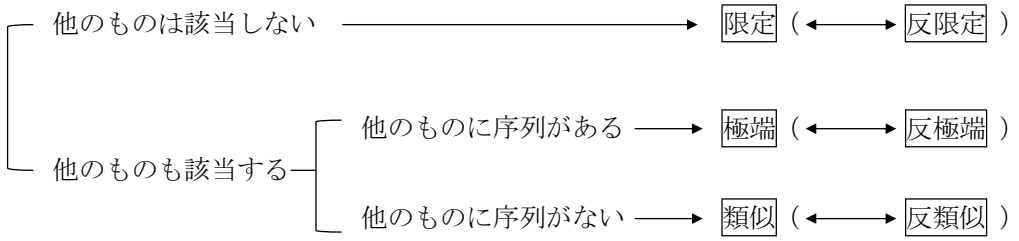


図 1：とりたて表現の意味体系における 3 系列の関係 (野田 2015: 95)

野田 (2015: 96) はこの図 1 について，「「限定」「極端」「類似」のとりたて表現だけを考えれば，このように互いにはっきりとした意味の対立があり，それぞれが別の意味を表している．そのため，これらのとりたて表現はそれを使う必要性が強いことが多く，日本語でもスペイン語でも同じように使われるのだと考えられる」と述べている．朝鮮語のとりたて表現について見てみると，表 2 の左の列の「限定」「極端」「類似」を表す要素は，形態的な特徴が異なることがわかる．つまり，左の列には基本的に接語の類が多く，右の列はコピュラ -i(ta) を介した表現や依存名詞の類が多い．

さらに野田 (2015: 96) は図 1 で括弧に入った「反限定」等と「限定」等の関係について，「「反限定」は「他のものも該当する」という点で「極端」「類似」と同じになり，「反極端」「反類似」は「他のものは該当しない」という点で「限定」と同じになる」と指摘している．この指摘について， =to は「反限定」と「極端」「類似」に分布し，たしかに「「反限定」は「他のものも該当する」という点で「極端」「類似」と同じ」という野田 (2015: 96)の指摘は的を射ているようである．これは日本語の「も」にも当てはまる．

このようなカテゴリ間の類似に関して，もう一つ指摘しておきたい．(10) で見た ttawi「なんか」はとりたて表現としても用いられるが，alkhool **ttawi**=uy aykchey「アルコールなどの液体」のように，例示の「など」という意味でも用いられ，「反極端」「反限定」の間に連続性が見られる．日本語の「なんか」も例示としての用法もあれば，「反極端」の低評価の用法もあると考えられる．

4. まとめと今後の課題

本稿では朝鮮語の情報表示の諸要素について，特集「情報表示の諸要素」のアンケートに従って考察した．特に朝鮮語のとりたて要素についてさらにアンケートで得られた結果以外の要素も追加したうえで整理し，カテゴリ間の類似について指摘した．

朝鮮語と日本語のとりたて表現の対照研究については, 洪思満 (1979a-1983) の一連の研究があるものの，その他はある個別の形式同士の対照が主であり，体系的な研究はなされていない．今後は日本語と朝鮮語のとりたて要素について，どのような要素をとりたてられるか，主節に文法的制約があるか等，様々な観点から体系的に考察が進められるべきであろう．

略号一覧

ABL	Ablative	奪格	N-	non-	非-
ACC	Accusative	対格	NCOP	negative copula	指定詞（否定）
ADM	Admirative	詠嘆	NEG	negation	否定
ADNC	adnominal clause	連体節	NMLZ	nominalizer	名詞化
ADVC	adverbial clause	連用節	NOM	nominative	主格
ASS	Assertive	確言	OBLG	obligation	義務
AVS	Adversative	逆接	PL	plural	複数
COHR	Cohortative	勧誘	PLPF	pluperfect	大過去
COND	Conditional	条件形	POL	polite	丁寧
COP	Copula	指定詞	PROB	probability	蓋然性
DAT	dative(-locative)	与(位)格	PROM	promissive	約束法
DECL	Declarative	叙述	PST	past	過去
HON	Honorific	尊敬	QUOT	quotative	引用
IMPR	Imperative	命令	SEQ	sequential	継起
IMPS	Impossible	不可能	SG	single	単数
INFER	Inferential	推量	TOP	topic	主題
INTRR	Interrogative	疑問	1		一人称
IPFV	Imperfective	未完了	2		二人称
IRR	Irrealis	非現実	-		接辞境界
LOC	Locative	位格	=		接語境界
MNN	Manner	様態			

参考文献

朝鮮語で書かれた文献

洪思滿. 1983. “國語特殊助詞論”. Seoul: 學文社.

Ikhalasi, Koichi. [五十嵐孔一] 2000. ‘Yenkyelemiwa congkyelemiuy houngkwankyeyey tayhaye—{-(u)nikka}lul cwungsimulo—’ [連結語尾と終結語尾の呼応関係について—{-(u)nikka}を中心に—], “hyengthaylon” 2(2): 289-305. pakuyceng.

I, Senwung. 2000. ‘‘uymwunsa + (i)- + -nka’ kwusenguy pwuceng (不定) phyohyeney tayhaye’ [‘疑問詞 + (i)- + -nka’ 構文の不定表現について], “kwukehak” [国語学] 36: 191-219. kwukehakhoy [国語学会].

Pak, Cayyen. 2006. “hankwuke yangthay emi yenkwu” [韓国語様態語尾の研究]. kyengkito: thayhaksa.

日本語で書かれた文献

黒島規史・崔正熙. 2016.「朝鮮語の情報構造と名詞述語文」『語学研究所論集』21: 213-226. 東京外国語大学語学研究所.

平香織. 2004.「終結語尾‘-지’(-ci) の意味と用法：情報のなわ張り理論の観点から」佐藤滋・堀江薫・中村渉（編）『対照言語学の新展開』279-296. 東京：ひつじ書房.

野田尚史. 2015. 「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』15(2): 82-97. 日本語文法学会.

洪思満. 1979a.「日本語の副助詞と韓国語の特殊助詞との対照研究 (I) —その副詞的修飾機能を中心に—」『外国人と日本語』4: 93-113. 筑波大学文芸・言語学系内外国人に対する日本語教育プロジェクト.

洪思満. 1979b.「日本語の副助詞と韓国語の特殊助詞との対照研究 (II) —その接続機能を中心に—」『朝鮮学報』90: 1-22. 朝鮮学会.

洪思滿. 1982.「韓國語の特殊助詞と日本語の副助詞との對照研究 (III) —'極端例示' 語類の意味分析を中心に—」, "enekwahakyenkwu" [言語科学研究] 2: 115-133. enekwahakhoy [言語科学会].

洪思滿. 1983.「韓国語の特殊助詞と日本語の副助詞との對照研究 (IV) —{man}と{だけ}の意味機能対比—」, "enekwahakyenkwu" [言語科学研究] 3: 307-327. enekwahakhoy [言語科学会].

英語で書かれた文献

Haspelmath, Martin. 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

執筆者連絡先：norifumi.964ma@gmail.com（黒島規史）, **minami7709@yahoo.co.jp**（崔正熙）

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.155-159.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.155-159.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

ウズベク語[1]

Markers of information structure in Uzbek

日高 晋介
Shinsuke Hidaka

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies,Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するウズベク語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Uzbek data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，取り立て表現，不定表現，情報の縄張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

(1)「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」

Bu	*yer-da*	*sabzavot-lar*	*yaxshi*	*o'-s-a-di.*	*Shu-ning*	*uchun*	*narx-i*
this	place-LOC	vegetable-PL	good	grow-NPST-3SG	that-GEN	for	price-3SG.POSS
baland.							
expensive							

(2)「私は頭が痛い．だから今日は休む．」

Bosh-im	*og'ri-yap-ti.*	*Shu*	*sababli*	*dam*	*ol-a-man.*
head-1SG.POSS	hurt-PROG-3SG	that	because.of	rest	take-NPST-1SG

(1) も (2) も，第一の文が第二の文の主語とはなっていない．つまり，主題が軸項として機能していない．

(3)「あの人**だけ**，時間通りに来た．」

Faqat	*u*	*odam*	*o'z*	*vaqt-i-da*	*yet-ib*	*kel-di-ø.*
only	that	person	REFL	time-3SG.POSS-LOC	reach-CVB	come-PAST-3SG

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] ウズベク語母語話者 (1985 年生まれ，シルダリヤ州出身，男性) に日本語からウズベク語に訳していただいた．さらに、匿名の査読者一名から有益な助言をいただいた。お二方に感謝の意を表します。なお，本稿における誤りは全て筆者に責任があることをことわっておく．

(4)「これはここで**しか**買えない.」

Bu-ni	***faqat***	*shu*	*yer-dan(=gina)*	*sot-ib*	*ol-sa-ø*	*bo'l-a-di.*
this-ACC	only	that	place-ABL=EMPH	sell-CVB	take-COND-3SG	be-NPST-3SG

(4) において，否定との共起はない．条件形 *-sa + bo'l-* は，話者が動作の可能性に確信を持つことを表す (Bodrogligeti 2003: 878).

(5)「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」

Bu	*uy-da*	***faqat***	*bola-lar*	*bo'l-ish-gan-ø.*
this	house-LOC	only	child-PL	be-COMP-PRF-3SG

(3) から (5)では副詞 *faqat* を用いる．なお，副詞 *faqat* はアラビア語からの借用語である (Begmatov va boshq. 2008a: 336).

(6)「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」

Aynan	*keyingi*	*safar*	*xato*	*qil-maslik-ka*	*harakat*	*qil-a-man.*
exactly	next	time	mistake	do-VN.NEG-DAT	action	do-NPST-1SG

(6) では副詞 *aynan* を用いる．

(7)「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」

Charcha-di-k=a,	***choy+poy***	*ich-aylik.*
be.tired-PAST-1PL=EMPH	tea+RDP	drink-IMP.1PL

部分重複を用いる．(10) でも部分重複を用いる．

(8)「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」

Hech	***bo'l-ma-sa-ø,***	*suv*	*bo'l-sa-ø,*	*bir*	*necha*	*kun*	*amalla-sa-ø*
non	be-NEG-COND-3SG	water	be-COND-3SG	one	some	day	find.a.way-COND-3SG
bo'l-a-di.							
be-NPST-3SG							

太字部分は「何もなくても」と訳す．(11) も *Hech bo'lmasa* を用いる．

(9)「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」

Hattoki	*yosh*	*bola-lar*	***ham***	*bu*	*ish-ga*	*safarbar*	*qil-in-di-ø.*
even	young	child-PL	also	this	work-DAT	mobilization	do-PASS-PAST-3

不変化詞[2]*hattoki* は *ham* と共起する．

[2] Begmatov va boshq. (2008b: 515) では，*hattoki* は *hatto* と同じであると述べられており，*hatto* は *yuklama*「不変化詞」であるとしている．

(10)「私はお金**なんか**欲しくない.」

Men	***pul+mul***	*xohla-ma-y-man.*
1SG	money+RDP	want-NEG-PRS-1SG

(7) 同様，部分重複を用いる.

(11)「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」

Hech	***bo'l-ma-sa-ø,***	*o'z-ing-ni*[3]	*xona-ng-ni*	*o'z-ing*	*yig'ishtir.*
non	be-NEG-COND-3SG	REFL-2SG.POSS-GEN	room-2SG.POSS-ACC	REFL-2SG.POSS	put.in.order

(8) 同様，*Hech bo'lmasa*「何もなくても」を用いる.

(12)「私に**も**ちょうだい.」

Men-ga	***ham***	*ber.*
1SG-DAT	also	give

(13)「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」

Dada-m	*kel-di-lar.*	*Oy-im=**chi**?*
father-1SG.POSS	come-PAST-3PL	mother-1SG.POSS=Q

(14)「**誰か**（が）電話してきたよ.」

Kim=dir	*telefon*	*qil-di-ø.*
who=INDF	telephon	do-PAST-3SG

(15)「**誰か**に聞いてみよう.」

Kim-dan=dir	*so'ra-b*	*ko'r-aylik.*
who-ABL=INDF	ask-CVB	see-IMP.1PL

(16)「私のいない間に**誰か**来た？」

Men	*yo'qlig-im-da*	***kim=dir***	*kel-di-ø=mi?*[4]
1SG	absence-1SG.POSS-LOC	who=INDF	come-PAST-3SG=Q

(17)「**誰か**来たら，私に教えてください.」

Kim=dir	*kel-sa-ø,*	*men-ga*	*xabar*	*qil-ing.*
who=INDF	come-COND-3SG	1SG-DAT	news	do-IMP.2PL

(14) から(17) では，*=dir* を用いる.

---

[3] 属格接辞は *-ning* である。しかし、Sjoberg (1963: 84) は話し言葉において時々 *-ni* が現れると述べている。

[4] 最初の調査では、インフォーマントは *=mi* なしで発話していた。しかし、査読者からの指摘を受け、再度この日本語文を訳してもらったところ、*=mi* なしではおかしいというコメントを頂いた。

(18)「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う.」

Bugun	***hech***	***kim***	*kel-ma-y-di*	*deb*	*o'yla-y-man.*
today	non	who	come-NEG-NPST-3SG	SUB	think-NPST-1SG

(19)「そこには今**誰も**いないよ.」

U	*yer-da*	*hozir*	***hech***	***kim***	*yo'q.*
that	place-LOC	now	any	who	no

全部否定を表す場合 ((18), (19))，*hech kim* を用いる.

(20)「（それは）**誰でも**できる.」

a. *U-ni*	***har***	***bir***	***odam***	*qil-a*	*ol-a-di.*	
that-ACC	every	one	person	do-CVB	take-NPST-3SG	
b. *U*	*ish*	***har***	***bir***	***odam**-ning*	*qo'l-i-dan*	*kel-a-di.*
that	work	every	one	person-GEN	hand-3SG.POSS-ABL	come-NPST-3SG

(21)「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか!?」

Bu-ni	***hamma***	*bil-a-di=yu!*
this-ACC	all	know-NPST-3SG=EMPH

(22)「そんなもの，**誰が**買うんだよ!?，誰も買うわけないじゃないか！」

Bu-ni	***kim***	*sot-ib*	*ol-ar=di-ø?*	***Hech***	***kim-ga***	*kerak*	*emas.*
this-ACC	who	sell-CVB	take-PTCP.FUT=PAST-3SG	non	who-DAT	necessary	NEG

(23)「君は英語がうまい**ね**.」

Sen	*ingliz*	*til-i-ni*	*zo'r*	*bil-a-san=**a**.*
2SG	England	language-3SG.POSS-ACC	great	know-NPST-2SG=EMPH

(23) では，*=a* を用いる．これはイントネーションを上げて発話される.

(24)「君は退屈そうだ**ね**.」

Sen	*zerik-kan-ga*	*o'xsha-y-san.*
2SG	be.bored-PTCP.PAST-DAT	be.similar..to-NPST-2SG

直訳すれば、「君は退屈したことに似ている.」となる.

(25)「明日も寒いらしい**よ**.」

Ertaga	*ham*	*sovuq*	*bo'l-ar=kan/bo'l-ar=mish.*
tomorrow	also	cold	be-PTCP.FUT=HS

(24), (25) では，終助詞にあたる接辞および接語を用いない．(25) にある*=kan, =mish* はそれぞれ小詞 *ekan, emish* の語頭が落ちたものである.

略号一覧（ライプツィヒグロスに掲載されていない略号）

SUB (subordinator) 従属節化

参考文献

Begmatov, E., A. Madavaliyev, N. Mahkamov, T. Mirayev, N.To‘xliyev, E. Umarov, D. Xudoyberganova, A. Hojev. 2008a. *O‘zbek tilining izohli lug‘ati: 80000 dan ortiq so‘z va so‘z birikmasi: To‘rtinch jild.* Toshkent: "O‘zbekiston milliy entsiklopediyasi" Davlat ilmiy nashriyoti.［ウズベク語詳解辞典：八万以上の語と熟語：第四巻］

_____ 2008b. *O‘zbek tilining izohli lug‘ati: 80000 dan ortiq so‘z va so‘z birikmasi: Beshinch jild.* Toshkent: "O‘zbekiston milliy entsiklopediyasi" Davlat ilmiy nashriyoti. ［ウズベク語詳解辞典：八万以上の語と熟語：第五巻］

Bodrogligeti, András J. E. 2003. *An academic grammar of Modern Literary Uzbek.* München: Lincom Europa.

Sjoberg, F. Andrée. 1963. *Uzbek Structural Grammar*. Uralic and Altaic Series, Vol.18 Indiana University, Bloomington.

執筆者連絡先：**hidaka.shinsuke.g0@tufs.ac.jp**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.161-169.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.161-169.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

モンゴル語（オラド方言・ハルハ方言）
Markers of information structure in Mongolian

ホリロ
Hao Rile

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies,Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学) に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するモンゴル語（オラド方言・ハルハ方言）データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Mongol data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，取り立て表現，不定表現，情報の縄張り

Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

モンゴル語オラド方言は，中国内モンゴル自治区巴彦淖尔(バヤンノール)市及び包頭(ボゴト)市の周辺で話されている方言であり，チャハル方言の下位方言とされている．モンゴル語ハルハ方言は，モンゴル国の広域に分布する方言である．本稿ではオラド方言とハルハ方言を扱う．

オラド方言のコンサルタントは，1960 年中国内モンゴル自治区巴彦淖尔市烏拉特(オラド)前旗生まれの女性である．中国語[1]を媒介言語として聞き取り調査を行ったため，場合によっては中国語の表現に誘導された可能性が否定できない．ハルハ方言のコンサルタントは 1989 年モンゴル国ウヴルハンガイ県ハラホリン郡生まれの女性であり，日本語が堪能である．日本語の例を提示し，25 の文を訳していただく形をとった．また，例文によっては二通りの回答もあったので，a，b と記した．

以下の文では，オラド方言を [urd] ，ハルハ方言を [khal] ，中国語を [cn] の略号でそれぞれ示す．ハルハ方言の表記はキリル文字正書法による表記をローマ字に転写して示す[2]．オラド方言は録音資料をもとに筆者が音韻表記したものである[3]．なお，筆者はオラド方言の母語話者であり，オラド方言の分析には筆者の内省も用いた．

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[1] 本稿で使用する中国語は，巴彦淖尔市で話される晋語の大包下位方言を使用したため，中国語の標準語（普通話）と多少異なる点がある．

[2] 本稿でのモンゴル語ハルハ方言の例文表記は，下記の転写ルールに従う： a=a, б=b, в=v[β], г=g, д=d, e=je/jö, ё=jo, ж=ž[ʤ~ʧ], з=z[ʣ~ʦ], и=i, й=j, к=k, л=l[ɮ], м=m, н=n, о=o[ɔ], ө=ö[ɵ], п=p, р=r, с=s, т=t, у=u[ʊ], ү=ü[ʉ], ф=f, х=x, ц=c[ʦʰ], ч=č[ʧʰ], ш=š[ʃ], ъ=”, ы=y[iː], ь=’, э=e, ю=ju/jü, я=ja.

[3] 本稿でのモンゴル語オラド方言の音素目録は下記の通りである．母音：/a, ɛ, ə, i, ɪ, ɔ, œ, ʊ, u/. 子音：/b[b~β], p, t, d, f[ɸ], s, š[ʃ], g[ɢ~g~ɣ~в], x[χ~x~q~k], č[ʧ], ǰ[ʤ], m, n, ŋ, r, l, w, j/.

2. データ

(1)　「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」

[cn]　这地方适合种菜了．所以能卖个好价钱呀哇.

[urd]	in	gaǰar	diir	nɔgɔɔ	saaŋ	ʊrag-dag	bɔl-x-ɔɔr
	これ	土地	上	野菜	よい	育つ-VN.HBT	なる-VN.NPST -INS
	niləəŋ	un-d		xur-jaawa[4].			
	相当	値段-DAT		着く-MOD			

[khal]	ene	gazar-t	nogoo	sajn	urga-dag.	tijm	bolo-x-oor
	これ	土地-DAT	野菜	良い	育つ-VN.HBT	そんな	なる-VN.NPST-INS
	une-tej	zara-gda-x		baj-x=aa.			
	値段-PROP	売る-PASS-VN.NPST		ある-VN.NPST=MOD			

(1) [urd] の-jaawa は「だろう」という意味で使われている．-jaawa は動詞語幹にのみ接続され，その動詞は文末にしか現れない.

(2)　「私は頭が痛い．だから今日は休む.」

[cn]　我头疼了，所以今天休息.

[urd]	bii /minii	tɔlgɛɛ	ubs-ǰi-x	bɔl-x-ɔɔr	unəədər	amar-na.
	1SG /1SG.GEN	頭	痛む-PROG-VN.NPST	なる-VN.NPST-INS	今日	休む-NPST

[khal]	minij	tolgoj	övd-ööd	baj-gaa	učr-aas	önöödör	amra-na.
	1SG.GEN	頭	痛む-CVB.PFV	ある-VN.IPFV	理由-ABL	今日	休む-NPST

[urd] の場合，一人称代名詞 bii はその属格形の minii と言い換え可能であるが，minii のほうがより自然である.

(3)　「あの人だけ，時間通りに来た.」

[cn]　只有那个人，按时来了.

[urd]	gagč	tirə=l	čag-d-aaŋ	ir-səŋ.
	唯一	それ=EMP	時間-DAT-REFL	来る-VN.PFV

[khal]	ter	xün=l	cag-t-aa	ir-sen.
	それ	人=EMP	時間-DAT-REFL	来る-VN.PFV

[4] -jaawa は晋語大包下位方言の助詞「呀 ya」と「哇 wa」に由来すると考えられる．「呀 ya」はこれから起こることを叙述する場合，或いはこれから発生する性状などを説明する場合に用いられる．「我打工格呀（私はもうすぐ出稼ぎに行く．）」「地里的庄稼熟呀（もうすぐ畑の農作物が熟れる．）」．「哇 wa」の用法は普通話の「吧 ba」の用法と大体同じで，希求，相談，推測，感嘆などの語気を表す．以上の助詞「呀 ya」と「哇 wa」に関する記述は，内蒙古自治区地方志办公室编 (2012: 732-733) を参照した.

(4)　「これはここでしか買えない.」
[cn]　这个只能从这儿能买到了.

[urd]	in	jim-ii	ǰiu[5]	muŋ	indiir-əəs=l	ab-ǰ	diilə-n.
	これ	もの-ACC	まさに	まさに	ここ-ABL=EMP	取る-CVB.IPFV	できる-NPST

[khal]	üün-ijg	end-ees=l	xudalda-ǰ	av-č	čad-na.
	これ-ACC	ここ-ABL=EMP	売買する-CVB.IPFV	取る-CVB.IPFV	できる-NPST

(5)　「その家にいたのは子供ばかりだった.」
[cn]　那个房子里全是小娃娃.

[urd]	tir	gir-t	bur	ǰʊʊxaŋ	xuuxd-uud=l	bɛɛ-ǰi-səŋ.
	これ	家-DAT	すべて	小さい	子供-pl=EMP	いる-PROG-VN.PFV

[khal]	ter	ger-t	xüüxd-üüd=l	baj-san.
	それ	家-DAT	子供-PL=EMP	いる-VN.PFV

(6)　「次回こそ，失敗しないようにしよう.」
[cn]　下次争取不要再失败了.

[urd]	daraa	ʊdaa	jɔstɛɛ	ila-gd-kʊʊ-gaar	čarmɛɛ-ja.
	次	回	実に	勝つ-PASS-NEG-INS	頑張る-1.OPT

[khal]	daraa-gijn	udaa-gaas=l	aldaa	gar-ga-x-güj	baj-ja.
	次-GEN	回-ABL=EMP	ミス	出る-CAUS-VN.NPST-NEG	ある-1.OPT

(7)　「疲れたね，お茶でも飲もう.」
[cn]　累啦哇，喝点茶什么的哇.

[urd]	jadar-či-laa=wa.	ǰaaxaŋ	čɛɛ	mɛɛ	ʊʊ-x=jim[6]=ba.
	疲れる-PFV-PST=MOD	少し	お茶	RDP	飲む-VN.NPST=MOD=MOD

[khal]	jadar-čix-laa.	caj=č	bol-tugaj	uu-ja.
	疲れる-CVB.PFV-PST	お茶=も	なる-VOL	飲む-OPT

(7) [urd] の =jim はハルハ方言の文末助詞 =jum に対応する．=ba は内モンゴル地域のモンゴル語で広く使用される疑問小辞であり，中国語の「吧 ba」に由来すると考えられる．(7) [urd]では，ハルハ方言と同様に意

[5] 中国語「就 jiù」からの借用と考えられる.
[6] 説明を表す文末小辞に関しては，ここに示した =jim のほかに，母音調和の規則による =jʊm, =jum のような形もある.

志を表す接辞 -ja も用いられる.

(8)　「水さえあれば，数日間は大丈夫だ.」
[cn]　只要有水的话，坚持几天没问题.

[urd]	ʊs	bɛɛ-dag=l=jʊm	bʊl	xidəŋ	udər=jə	tisə-či-n.
	水	ある-VN.HBT=EMP=MOD	COND	いくつ	日=も	耐える-PFV-NPST

[khal]	us=l	baj-val	xeden	ödör-t-öö	zügeer=ee.
	水=EMP	ある-CVB.COND	いくつ	日-DAT-REFL	大丈夫=MOD

(8) [urd] などの =jə や(25) [urd] の=ja は中国語「也 yě（も，また）」に由来すると考えられる．これらは同じ形態素の異形態であり，母音調和の法則に従って母音が変化した可能性がある.

(9)　「小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた.」
[cn]　连小娃娃也让叫过个帮忙做那些营生了.

[urd]	ǰʊʊxaŋ	xuuxd-əər=jə	tir	ağil-ii	xabsr-ʊʊl-ǰ	xii-ləg-səŋ.
	小さい	子供-INS=も	それ	仕事-ACC	手伝う-CAUS-CVB.IPFV	する-CAUS-VN.PFV

[khal]	ǰaaxan	xüüxd-eer	xür-tel	ter	ağil-d-aa	tusl-uul-san.
	小さい	子供-INS	到る-CVB.LIM	それ	仕事-DAT-REFL	手伝う-CAUS-VN.PFV

[urd] の場合，=jə を bas「も」や xurtəl「まで」と置き換え可能である.

(10)　「私はお金なんか欲しくない.」
[cn]　我不想要钱什么的.

[urd]	bii	ǰɔɔs	mɔɔs	ab-ii	g-ɛɛ	san-ji-kʊʊ.
	1SG	お金	RDP	取る-1.OPT	という-CVB.PFV	思う-PROG-NEG

[khal]	bi	mongo	tögrög	xüse-x-güj	baj-na.
	1SG	お金	トゥグルグ[7]	欲しがる-VN.NPST-NEG	ある-NPST

(11)　「自分の部屋ぐらい，自分できれいにしなさい.」
[cn]　最起码个儿的房间个儿弄干净.

[urd]	naad	ǰax-d-aaŋ	uur-iiŋ	gir-əəŋ	uur-əəŋ	čibrəl-ø.
	こちら	辺-DAT-REFL	自分-GEN	家-REFL	自分-REFL	掃除する(2.IMP)

[7] トゥグルグはモンゴル国の通貨単位である.

[khal]	jadaǰ	öör-ijn-xee	öröög	öör-öö	ceverl-eerej.
	せめて	自分-GEN-REFL	部屋-ACC	自分-REFL	掃除する-2.IMP

(11) [urd] の naad ǰaxdaaŋ は「少なくとも」という意味を表す.

(12) 「私にもちょうだい.」
[cn] 给我也来一点儿.
[urd]

a.	nɛmɛɛd=jə	ǰaaxaŋ	ug-əətəg-ø.
	1SG.DAT=も	少し	あげる-IMM-2.IMP
b.	nɛmɛɛd=jə	ǰaaxaŋ	ɛl-ø.
	1SG.DAT=も	少し	くれる-2.IMP

[khal]	nadad=č	ge-sen	ög-öötč.
	1SG.DAT=も	という-VN.PFV	あげる-2.IMP

(12) [urd]の a, b のうち，b の動詞語幹だけで表す命令形はより強い命令になり，a の-əətəg［緊時アスペクト］を用いた形は若干丁寧な命令になる.

(13) 「お父さんもう帰って来たね．お母さんは？」
[cn] 你爸回来啦噢，你妈了？

[urd]	aabʊ=čin	xɛr-ɛɛ	ir-tsəŋ[8]=ɔɔ.	muumu=čin	jaa-č-b=ʊʊ?
	父=2SG.POSS	帰る-CVB.PFV	来る-PST=MOD	母=2SG.POSS	どうする-PFV-PST=Q

[khal]	aav=čin’	ir-sen	baj-na=šide.	eeǰ=čin’	jaa-san=be?
	父=2SG.POSS	来る-PST	ある-NPST=MOD	母=2SG.POSS	どうする-VN.IPFV=Q

(14) 「誰か（が）電話してきたよ.」
[cn] 有人打过来电话了.

[urd]	nig	xuŋ	dianxua	ir-səŋ= šɔɔ.
	一	人	電話	来る-VN.PFV=MOD

[khal]	neg	xün	utasd-san=šüü.
	一	人	電話する-VN.PFV=MOD

(15) 「誰かに聞いてみよう.」
[cn] 我问一下别人看看哇.

[8] オラド方言のこの -tsəŋ は，アスペクト接辞 -čix に形動詞接辞 -səŋ が後続した形式の簡略化されたものと考えられる.

[urd]	xun-əəs	nig	asʊʊ-ǰ	uǰ-ii.
	人-ABL	一	聞く-CVB.IPFV	見る-1.OPT

[khal]	xen	negn-ees	asuu-ǰ	üz-je.
	誰	一-ABL	聞く-CVB.IPFV	見る-1.OPT

(15)[khal]では，オラド方言と同様に xun-əəs (人-ABL) を使用してもよいという.

(16) 「私のいない間に誰か来た？」
[cn] 我不在的时候，有人来过没？

[urd]	nɛmɛɛ-gii	bɛɛ-kʊʊ	bɛɛ-xlɛɛr	xuŋ	ir-b-uu?
	1SG-ACC	いる-NEG	いる-CVB.ASS	人	来る-PST=Q

[khal]	nama-jg	baj-x-güj	xoorond	xen	negen	ir-sen=üü ?
	1SG-ACC	いる-VN.NPST-NEG	間	誰	一	来る-VN.PFV=Q

(17) 「誰か来たら，私に教えて下さい.」
[cn] 要是有人来的话，跟我说一声.

[urd]	xuŋ	ir-səər	nɛmɛɛd	nig	xil-əətəg.
	人	来る-CVB.COND	1SG.DAT	一	言う-2.IMP

[khal]	xün	ir-vel	nadad	xel-eerej.
	人	来る-CVB.COND	1SG.DAT	言う-2.IMP

-sAAr[9]は動作や状態の継続を表す副動詞であるが, 内モンゴル地域の多くのモンゴル語諸方言では条件表現として用いられる傾向がある. オラド方言では, ハルハ方言と同様, 条件の形式に-bAl[10]も使用されるが, -sAAr のほうが使用頻度が高い. したがって，この方言ではすでに条件の用法が中心になっているものと考え，条件の副動詞として扱う.

(18) 「今日は誰も来るとは思わない. ／今日は誰も来ないと思う.」
[cn] 我不觉得今天有人来. ／我觉得今天谁也不来.

[urd]	unəədər	barag	xiŋ=jə	ir-kuu=wa.
	今日	多分	誰=も	来る-NEG=MOD

[khal]	önöödör	xen=č	ire-x-güj	ge-ǰ	bodo-ǰ	baj-na.
	今日	誰=も	来る-VN.NPST-NEG	という-CVB.IPFV	思う-CVB.IPFV	ある-NPST

[9] -sAAr は母音調和により -saar, -səər, -sɔɔr という異形態が存在する. 大文字は母音調和による異形態があることを示す.
[10] -bAl は母音調和により -bal, -bəl, -bʊl という異形態が存在する.

(19)　「そこには今誰もいないよ.」
[cn]　那儿现在谁也不在啊.

[urd]　tindiir　ɔdɔɔ　xiŋ=jə　bɛɛ-kʊʊ=aa.
そこ　今　誰=も　いる-NEG=EMP

[khal]　tend　odoo　xen=č　baj-x-güj=ee.
そこ　今　誰=も　いる-VN.NPST-NEG=EMP

(20)　「(それは) 誰でもできる.」
[cn]　(那个) 谁也会了.

[urd]　(tirn-ii)　xiŋ=jə　čada-n.
(それ-ACC)　誰=も　できる-NPST

[khal]　xen=č　čad-na.
誰=も　できる-NPST

(21)　「そんなこと (は), みんな知っているんじゃないか!?」
[cn]　那事儿, 不是尽知道了？

[urd]　tiim　ʊčr-ii　xuŋ　bur　midə- ǰi-x　biš=iŋ?
そんな　こと-ACC　人　皆　知る-PROG-VN.NPST　NEG=Q

[khal]　tijm　züjl-ijg　bügd　mede-ǰ　baj-gaa=jum　biš=üü?
そんな　類-ACC　みんな　知る-CVB.IPFV　ある-VN.IPFV=MOD　NEG=Q

(22)　「そんなもの, 誰が買うんだよ!?　誰も買うわけないじゃないか！」
[cn]　那东西, 谁买了?!　谁也不可能买哇！

[urd]　tiim　jim-ii　xiŋ　ab-x=iŋ?　xiŋ=jə　ab-kʊʊ=dɛɛ.
そんな　もの-ACC　誰　買う-VN.NPST=Q　誰=も　買う-NEG=MOD

[khal]　tijm　jum　xen　xudalda-ǰ　ava-x=jum=be ?
そんな　もの　誰　売買する-CVB.IPFV　取る-VN.NPST=MOD=Q
xen=č　xudalda-ǰ　ava-x-güj　biš=üü?
誰=も　売買する-CVB.IPFV　取る-VN.NPST-NEG　NEG=Q

(22) [urd].はハルハ方言のように, ab-kʊʊ biš=iŋ?（取-NEG　NEG=Q）と言い換え可能である.

(23)　「君は英語がうまいね.」
[cn]　你的英语真好了.

[urd]	činii	ɛŋgəl	xil	čʊxʊm	saaŋ=ɔɔ.
	2SG.GEN	イギリス	言語	本当に	良い=MOD

[khal]	či	angli	xel-d-ee	sajn=jum=aa.
	2SG	イギリス	言語-DAT-REFL	良い=MOD=EMP

(24) 「君は退屈そうだね.」
[cn] 你看起来有点儿无聊了哇.

[urd]	čii	ǰaaxaŋ	xiidəl	alda-ǰi-x	šig	bɛɛ-n=daa
	2SG	少し	やること	失う-PROG-VN.NPST	ような	ある-NPST=MOD

[khal]	či	zalx-san=jum	šig	baj-na=tee.
	2SG	嫌になる-VN. PFV=MOD	ような	ある-NPST=MOD

(25) 「明日も寒いらしいよ.」
[cn] 好像明天也挺冷的.

[urd]	magaadar=ja	xiitəŋ	majig-tɛɛ.
	明日=も	寒い	様子-PROP

[khal]	margaaš=č	ge-sen	xüjten	bai-x=jum	šig	baj-na=šüü.
	明日=も	という-VN.PFV	寒い	ある-VN.NPST =MOD	ような	ある-NPST=MOD

略号一覧

-	接辞境界	GEN	属格
=	接語境界	HBT	習慣
ø	ゼロ接辞	IMM	緊時
1, 2, 3	1, 2, 3 人称	IMP	命令
ABL	奪格	INS	造格
ACC	対格	IPFV	不完了
ASS	随伴	LIM	限界
CAUS	使役	MOD	モダリティ標識
COND	条件	NEG	否定
CVB	副動詞	NPST	非過去
DAT	与位格	OPT	希求
EMP	強調	PASS	受身

PFV	完了	RDP	重複
PL	複数	REFL	再帰所有
POSS	所有	SG	単数
PROG	進行	TOP	主題
PROP	恒常的所有	VN	形動詞
PST	過去	VOL	願望
Q	疑問		

参考文献

内蒙古自治区地方志办公室(编) (2012)『内蒙古自治区志・方言志：汉语卷』北京：地方志出版社.

執筆者連絡先：**horlo2009@yahoo. co. jp**

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.171-176.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.171-176.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

ダグール語の情報標示の諸要素
Markers of information structure in Dagur

山田 洋平
Yohei Yamada

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies,Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するダグール語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Dagur data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

ダグール語はモンゴル語族の言語で，主として中国の東北部に分布する言語である．言語の詳細については山田 (2015, 2016) を，音素目録や本稿における表記については山田 (2016) を参照されたい．

本稿で使用するデータはチチハル地域のダグール語である．調査は中国黒竜江省チチハル市メイリス地区の女性 (1939 年生まれ) にご協力いただいた．媒介言語は漢語を用いた．当該地域のダグール語の特徴の一つとして，文末位置で n が脱落し母音に替わることがあるという現象が見られる (cf. 基底における接辞 -n や -sen などの現れ. ex. [18]).

各例文はもとのアンケートを翻訳する形で行ったが，意味に異なりが生じている場合は例文下の括弧内に訳を付した．

2. データ

♦主題卓越型類型論の軸項について [1], [2]

[1]「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

ene gaǰir sasgen tarisnini sain, tendmee awg kuu baraan.

ene	gaǰir	sasgen	tari-sen-ini	sain	tendmee	aw-g	kuu	baraan.
this	place	vegetable	to.plant-PERF-3SG	good	so	to.take-VN	person	many

(この土地は野菜を植えたのが良く，ゆえに買う人が多い．)

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[2]「私は頭が痛い．だから今日は休む．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

bii hekimini ewdiibei, tenne ene uder bii ul šanberiičim.

bii	heki-mini	ewd-ii-bei	tenne	ene	uder	bii	ul	šanber-iič-m
1SG	head-1SG	to.ache-PROG-NPST	so	this	day	1SG	NEG	to.work-to.go-NPSTII.1SG

この例文では後続の文に一人称単数代名詞が現れたため，これを無くしても分が成立するか問うたところ，「無くてもよい」とのことであった．しかし，有るほうが自然なのかもしれない．

♦とりたて表現について [3]~[13]

[3]「あの人**だけ**，時間通りに来た.」【限定】

ten nek l kuu erinkeedee kučiree irsen.

ten	nek=l	kuu	erinkee-d-ee	kučir-ee	ir-sen
that	one=EMP	person	time-DAT-REFL	to.reach-ANT	to.come-PERF

「ただ一人の」という表現は数詞 nek に強調の接語 l を付したもので修飾する形を取る ([4] も同様).

[4]「これはここで**しか**買えない．」【限定・否定との共起】

enii ene nek l gajir awǰ olbei.

en-ii	ene	nek=l	gajir	aw-ǰ	ol-bei
this-GA	this	one=EMP	place	to.take-SIM	to.get-NPST

[5]「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」【限定・多数】

geri doter hoo ičker.

geri	doter	hoo	ičker
house	inside	all	children

[6]「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」【限定・強調】

bii dagaakaa butee yag šadwei.

bii	dagaa=kaa	butee-ø	yag	šad-wei
1SG	next=EMP	to.succeed-SIM	just	to.be.able-NPST.1SG

[7]「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」【反限定・例示】

yag ǰogsenšii baa, čaayees osii oo.

yag	ǰog-sen=šii=baa	čaayees	os-ii	oo-ø
just	to.be.tired-PERF=2SG=SFP	tea.leaf	water-GA	to.drink-IMP

(もう疲れたでしょう？お茶でも飲みなさい．)

čaayees os とはお茶一般を表す複合語的な表現であり，ここでいう反限定・例示を示すものではない．重複 (エコーワード: 重複部分の第一モーラが ma になる) を用いた os mas「水やなんか」, čie maa「お

茶やなんか」という表現もあるという.

[8]「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」【極端・意外】

os bei aasini hoir guareb uder aaǰ šadbei.

os	bei	aas-ini	hoir	guareb	uder	aa-ǰ	šad-bei
water	exist	COND-3SG	two	three	day	to.be-SIM	to.be.able-NPST

(水があれば二三日は生きられる)

[9]「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」【極端・意外】

šig kuu ičkee hoo gonzuoliibei.

šig	kuu	ičkee	hoo	gonzuol-ii-bei
big	person	child	all	to.work-PROG-NPST

(大人や子供がみんな働いている)

[10]「私はお金**なんか**欲しくない.」【反極端・低評価】

bii ǰigaa yekee ul awmee.[1]

bii	ǰigaa	yekee	ul	aw-n=bi=ee
1SG	money	thing	NEG	to.take-NPSTII=1SG=EMP

ここでは「お金なんか」が yekee「もの」という語で表現されている．ここでも [7] 同様 ǰigaa magaa「お金やなんか」 という重複表現が使用可能であるという.

[11]「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」【反極端・最低限】

šinii gerišini šii weertee ergeni kee

šinii	geri-šini	šii	weert-ee	ergeni-ø=kee
2SG.GEN	house-2SG	2SG	oneself-REFL	to.clean-IMP=SFP

[8], [9], [11] では意図した「さえ」(極端・意外), 「まで」(極端・意外), 「ぐらい」(反極端・最低限) が言語形式に反映されていないようである.

[12]「私に**も**ちょうだい.」【類似・類似】

bii bas awyaa.

bii	bas	aw-yaa.
1SG	also	to.take-VOL

(私ももらおう)

[1] チチハル地域のダグール語では、-n (NPSTII) と=bei (1SG) が融合・縮約して -n=b > -n=m > -m=m > -m という形式が表層形で現れる。

[13]「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」【反類似・対比(疑問)】

ačaamini akuu hajirsen, meemeemini ker hajirsen uwei?

ačaa-mini	akuu	hajir-sen	meemee-mini	ker	hajir-sen	uwei
father-1SG	already	to.get.home-PERF	mother-1SG	how	to.get.home-PERF	NEG.EXIST

(お父さんはもう帰ってきた，お母さんはどうして帰ってこない？)

反類似・対比を表す言語形式は現れていないようである．

◆不定表現について [14]~[22]

[14]「**誰か**(が)電話してきたよ．」【特定既知(specific known)】

dianhua irsen.

dianhua	ir-sen
telephone	to.come-PERF

(電話が (かかって) 来た)

日本語でも，話者にとって既知の人について暈かした言い方をしたい場合は，「[*誰かから/φ] 電話が来たよ」と表現するのではなかろうか．

[15]「**誰か**に聞いてみよう．」【非現実不特定(irrealis non-specific)】

bišen kuuyeer hasooyaa.[2]

bišen	kuu-eer	hasoo-yaa
other	person-AI	to.ask-VOL

(他の人に聞こう)

[16]「私のいない間に**誰か**来た？」【疑問(question)】

minii geri uweidmini kuu irsen yee?

minii	geri	uwei-d-mini	kuu	ir-sen=yee
1SG.GEN	house	NEG.EXIST-DAT-1SG	person	to.come-PERF=Q

[17]「**誰か**来たら，私に教えてください．」【条件節内(conditional)】

yaošii kuu irsen aasini šii nan ǰaa.

yaošii	kuu	ir-sen	aas-ini	šii	nan	ǰaa-ø
if	person	to.come-PERF	COND-3SG	2SG	1SG.DAT	to.tell-IMP

[18]「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」【間接(全部)否定(indirect negation)】

bii uǰigdaa ene udur anii č ul iree.

bii	uǰi-g-d-aa	ene	udur	anii=č	ul	ir-n
1SG	to.see-VN-DAT-REFL	this	day	who=ever	NEG	to.come-NPSTII

(私が見たところ，今日は誰も来ない)

---

[2] 長母音・二重母音終わりの名詞に、長母音始まりの形態素が続くとき、挿入子音 y が現われる。

ここでは「私が見たところ」という表現を用いて間接話法的な表現になっていない．el-ǰ san {to.say-SIM to.think}「…と思う」という表現も存在するが，少なくともチチハル方言においては間接否定のような比較的複雑な構文が避けられる傾向にあるように思われる．

[19]「そこには今**誰も**いないよ．」【直接(全部)否定(direct negation)】

ter gaǰir anii č uwei.

ter	gaǰir	anii=č	uwei
that	place	who=ever	NEG.EXIST

[20]「(それは)**誰でも**できる．」【自由選択(free-choice)】

ene baitii anii č akuu šadbei.

ene	bait-ii	anii=č	akuu	šad-bei
this	occation-GA	who=ever	all	to.be.able-NPST

[21]「そんなこと(は)，**みんな**知っているんじゃないか!?」【自由選択を示す「みんな」】

tiimer yanstii baitii anii č akuu medbei.

tiimer	yans-tii	bait-ii	anii=č	akuu	med-bei
such	situation-PROP	occation-GA	who=ever	all	to.know-NPST

[22]「そんなもの，**誰が**買うんだよ!?，誰も買うわけないじゃないか！」【反語】

tiimer yanstii ǰakii anii awbei. anii č bas ul awaa.

tiimer	yans-tii	ǰak-ii	anii	aw-bei	anii=č	bas	ul	aw-n
such	situation-PROP	thing-GA	who	to.take-NPST	who=ever	also	NEG	to.take-NPSTII

[18]~[22] の全称「誰でも」「誰も」は疑問詞 anii「誰が」を用いた表現になっている．[21] における「みんな」(漢語の 大家「みんな」) に対しては hao-yaar bur {everyone-AI all}という表現でも良いとのことであった．

◆なわ張り理論について ([2]) [23]~[25]

[23] 君は英語がうまい**ね**．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

šii daguur husug niamer saaken husgellii šadebšie.

šii	daguur	husug	niamer	saaken	husgel-lii-ø	šad-b=ši=ee
2SG	Dagur	language	how	beautiful	to.say-PROG-SIM	to.be.able-NPST=2SG=EMP

(あなたはダグール語をなんて上手に話すことができるのだ)

[24]「君は退屈そうだ**ね**．」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

bii uǰigdaa šii dawuu sain bišen.

bii	uǰi-g-d-aa	šii	dawuu	sain	bišen
1SG	to.see-VN-DAT-REFL	2SG	very	good	other

(私の見たところ，あなたはあまり良くない)

[18] および [24] で見られる uǰi-g-d-aa {to.see-VN-DAT-REFL}「見たところ」に現れる再帰は，主文「あなたはあまり良くない」の主語と一致しないため，文法的でないように思われる (あるいは再帰と解釈すべきでないかもしれない)．これは主文に「見たところ～と思う」といった思考動詞が省略されたものと解釈すべきか．この構文では再帰が現れるのが普通であるようであり，聞き手の領域内であることなどとは関係がなさそうである．なお，「見たところ」という従属節の主語が bii {1SG} という人称代名詞主格形で現れるが，やはりダグール語においては一般的であり (モンゴル語などでは対格形や属格形など斜格になりやすい)，なわ張りの外内などとは無関係である．

[25]「明日も寒いらしいよ.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

bii sonstenmini buni uder bas aiduw kuiten ellee.[3]

bii	sons-sen-mini	buni	uder	bas	aiduw	kuiten	el-sen
1SG	to.hear-PERF-1SG	tomorrow	day	also	very	cold	to.say-PERF

(私の聞いたところ，明日もとても寒いという)

略号一覧

-: 接辞境界.
=: 接語境界.
1, 2, 3: 1st, 2nd, 3rd person 一，二，三人称.
AI: ablative-instrumental 奪具格.
ANT: anterior 先行.
IMP: imperative 命令法.
NEG: negative 否定.
NPST: non-past 非過去 (NPST: -bei; NPSTII: -n).
PERF: perfect 完了.
PROG: progressive 進行.
PROP: proprietive 恒常的所有.
Q: question
COND: conditional 条件.
DAT: dative-locative 与位格.
EMP: emphasis 強調.
GA: genitive accusative 属対格.
GEN: genitive 属格.
REFL: reflexive 再帰.
SFP: sentence final particle 終助詞.
SG: singular 単数.
SIM: simultaneous 同時.
VOL: volitional 願望.
VN: verbal noun 形動詞.

参考文献

山田洋平.2015.「ダグール語の (連用修飾的) 複文」，東京外国語大学『語学研究所論集』20: 195-204.
_____.2016.「ダグール語」(特集「情報構造と名詞述語文」)，東京外国語大学『語学研究所論集』21: 237-248.

執筆者連絡先 : yamadabayar@gmail.com

[3] sons-sen (to.hear-PERF) では後続の形態素に異化が起こり、-ten という形式で現れている。また el-sen (to.say-PERF) は順行同化及び文末の n の母音化 (ex. [18]) が起こり、el-sen > el-len > el-lee という形式が現われている。なお過去時制を表す接辞として -laa, -lii があり、el-lee の接尾辞に似るが、本調査では -lee という接辞が動詞 el に後続するケースに限られるため、-sen の異形態であるという解釈を取った。

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号 (2017), pp.177-182.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.177-182.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

ナーナイ語
Markers of information structure in Nanay

風間 伸次郎
Shinjiro Kazama

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies,Institute of Global Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するナーナイ語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Nanay data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

ナーナイ語はツングース諸語の１つである．ツングース諸語は，類型的にみて日本語にもよく似たタイプの言語で，もっぱら接尾辞による膠着型言語である．語順は Head-final，つまり SOV で修飾語-被修飾語の順序をとる．以下は基本的に IPA をベースにした音素表記によるが，一音素一文字の原則などの理由から，次のような独自の音素表記も用いている： č[tɕ], ǰ[dʑ], ň[ɲ]．ロシア語からの近年の借用語と思われるものは斜字体で示している．

コンサルタントは 1938 年ナイヒン村生まれの女性である．調査はロシア語を媒介言語にして行った．日本語文の下の[　]内に使用したロシア語文を示す．ロシア語の調査例文は，1990 年ウラジオストック生まれの話者の方にお願いして日本語から作成していただいた．

なおこの言語の文法の概略に関して，より詳しくは風間 (2010) も参照されたい．

[1]「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】［На этой земле хорошо растут овощи. Думаю, поэтому её можно дорого продать.］

əi	naa-do	solgi	uləən	balǰi-i,
this	land-DAT	vegetable	well	grow-PTCP.IMPF

tui	ta-mi	maŋga-ǰi	xodasi-i=daa	aja.
thus	do-SIM	hard-INS	sell-PTCP.IMPF=CUM	good

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

「この土地」は主題／主語でなく，与格の斜格項として訳され，solgi「野菜」が文全体を通じた主語として選択された．したがってこの文を調査した目的である【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】が存在するかどうかは解明できなかった．次のように与格を除いて，二重主語文にすることができるかどうかを訊いてみたところ，「可能ではあるが，あまり良い表現ではない」とのことであった．したがってやはりこの言語で非必須項が統語的軸項として機能するかどうかはなお明らかではない．

əi	naa	solgi	uləən	balǰi-i,
this	land	vegetable	well	grow-PTCP.IMPF

tui	ta-mi	maŋga-ǰi	xodasi-i=daa	aja.
thus	do-SIM	hard-INS	sell-PTCP.IMPF=CUM	good

[2]「私は頭が痛い．だから今日は休む．」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】［У меня болит голова, поэтому сегодня я не пойду в школу/на работу.］

mii	ǰili-ji	ənusi-i-ni,	tui	ta-mi	əiniə
I	head-1SG	ache-PTCP.IMPF-3SG	thus	do-SIM	today

ǰobo-nda-go-asim-bi.
work-DIRINT-REPET-NEG.PRS-1SG

mii ǰili-ji「私の頭」は主要部標示型の所有構造をなしているものと考えられる．mii「私」は主格と同じ形ではあるが，動詞の主語の人称標示が 3 人称（-ni）であるため，主語としては機能していない．次の文で主語は変わることになるが，ここでも動詞の人称標示があるため，主語が変わっても問題はないものと考えられる．よってここでも日本語のように主題が統語的軸項として次の文で働く，というようなことは，この言語では観察されないことがわかる．

♦とりたて表現について

[3]「あの人**だけ**，時間通りに来た．」【限定】［Только он пришёл вовремя.］

ňoani=ragda	{ ǰului / ərim-bə	tərək	}	ǰiǰu-xə-ni.
(s)he=only	ahead / time-ACC	just		come.REPET-PTCP.PERF

[4]「これはここで**しか**買えない．」【限定・否定との共起】［Это можно купить только здесь.］

əi-wə	əi-du=rəgdə	ga-mi	aja.
this-ACC	this-DAT=only	buy-SIM	good

日本語の「しか」のように，否定との呼応に特化したとりたての要素は観察されない．[3] で見られたのと同じ =rAgdA（大文字は母音調和による異形態があることを示す，以下も同じ）が用いられている．

[5]「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」【限定・多数】[В доме были одни дети.]

ǰoog-do	təŋ	nuuči	gurun=maňa	bi-čin.
house-DAT	just	small	people=only	be-PTCP.PERF

「ただ〜ばかり」はこのように təŋ … =mAňA となる．təŋ なしで =mAňA だけでも用いられる．

[6]「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」【限定・強調】[В следующий раз постараемся не ошибиться.]

ǰiaja	modan=kaa	tərək	ta-ǰaa-po.
next	time=EMP	correct	do-IND.FUT-1PL

[7]「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」【反限定・例示】[Ты, наверное, устал, пойдём выпьем чаю.]

a.	sii	jada-xan	bi-ǰərəə,	*čaj*-ja	omi-nda-go-ari.	
	you	get.tired-PTCP.PERF	be-IND.FUT.3	tea-ACC	drink-DIRINT-COHOR-REF.PL	
b.	sii	jada-xan	bi-ǰərəə,	*čaj*=os	xai=os	omi-nda-go-ari.
	you	get.tired-PTCP.PERF	be-IND.FUT.3	tea=Q	what=Q	drink-DIRINT-COHOR-REF.PL

a. が単に先にコンサルタントが答えた文である．b. は「お茶か 何か 飲もう」にあたる表現であり，こちらから提示して訊いたものであるが，言えるという．

[8]「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」【極端・意外】[Несколько дней я могу прожить без проблем только на воде.]

muə-ǰi=rəgdəə	əm	xadoa	ini-du	mii	bi-mi	mutə-əm-bi.
water-INS=only	one	several	day-DAT	I	be-SIM	can-IND.PRS-1SG

[9]「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」【極端・意外】[Даже маленьких детей заставили помогать.]

nuučikəənǰuəm-bə=dəə	ǰobo-waaŋ-ki-ni.
children-ACC=CUM	work-CAUS-PTCP.PERF-3SG

[8], [9] を観察すると，野田 (2015) の「表 2 日本語のとりたて表現の意味の体系」における「極端」に特化して対応する形式が存在せず，「限定」と「類似」の諸形式がその意味領域を分担して表現していることがわかる．

[10]「私はお金**なんか**欲しくない.」【反極端・低評価】[Вовсе мне не нужны деньги.]

mii	ǰixa(-wa)	gələ-əsim-bi.
I	money-ACC	need-NEG.PRS.1SG

[11]「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」【反極端・最低限】［Прибери хотя бы свою комнату.］

mənə	*komnata*-ji	oosi-go-mi=daa	aja.
oneself	room-REF.SG	clear-REPET-SIM=CUM	good

[12]「私に**も**ちょうだい.」【類似・類似】［И мне, пожалуйста.］

(xooni=a=daa)	mindu=dəə	buu-ruu.
how=EMP=CUM	I.dat=CUM	give-IMP

[13]「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」【反類似・対比（疑問）】［Папа уже дома. А мама?］

amaa	ǰoog-do	bi-i,	əniə=kəə.
father	house-DAT	be-PTCP.IMPF	mother=EMP

野田 (2015) がヨーロッパの諸言語について日本語と対比させて述べているように，この言語でも「反限定」，「反極端」，「反類似」を明示する形式は現れない．それらの意味はやはりコンテキストに任せて聞き手に推論させているものと考えられる．

♦不定表現について

[14]「**誰か**（が）電話してきたよ.」【特定既知（specific known）】［Кто-то позвонил.］

ui=nuu	*zvoni*la-xa-ni.
who=Q	call-PTCP.PREF-3SG

[15]「**誰か**に聞いてみよう.」【非現実不特定（irrealis non-specific）】［Давай кого-нибудь спросим.］

gəə,	ui-wə=dəə	mədəsi-gu-uri.
hey	who-ACC=CUM	ask-REPET-PTCP.IMPERS

[16]「私のいない間に**誰か**来た？」【疑問（question）】［Кто-нибудь приходил пока меня не было?］

ui=dəə	pulsi-xən,	mii	abaa-do-ji-ja.
who=CUM	go.around-PTCP.PERF	I	nothing-DAT-1SG-OBL

[17]「**誰か**来たら，私に教えてください.」【条件節内（conditional）】［Скажите мне, если кто-нибудь придёт.］

minči	un-duu-su,	ui=dəə	ǰi-wučiə-ni.
I.DIR	say-IMP-2PL	who=CUM	come-COND-3SG

[18]「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う.」［Я не думаю, что сегодня кто-нибудь придёт/Я думаю, сегодня никто не придёт.］

mii	murči-i-jə=kəə,	əiniə	ui=dəə	ǰi-dəsi.
I	think-PTCP-1SG=EMP	today	who=CUM	come-NEG.PRS

媒介言語のロシア語の文には，上位節で否定が表現されているものと下位節で否定が表現されているものの二様の文を用意し，その両者を示したが，コンサルタントは下位節に否定の現れる表現を用いてナーナイ語に翻訳した.

【間接（全部）否定（indirect negation）】
[19]「そこには今**誰も**いないよ.」【直接（全部）否定（direct negation）】［Там сейчас никого нет.］

tado	əsi	ui=dəə	abaa.
there	now	who=CUM	nothing

[20]「（それは）**誰でも**できる.」【自由選択（free-choice）】［Это может сделать кто угодно.］

əi-wə=kəə	ui=dəə	xəm	aŋgo-mi	mutə-i.
this-ACC=EMP	who=CUM	all	make-SIM	can-PTCP.IMPF

[21]「そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか!?」【自由選択を示す「みんな」】［Разве не все об этом знают?］

təi	ǰaka(-wa)	nai	xəmtu	saa-rasi-či.
that	thing-ACC	people	all	know-NEG.PRS-3PL

nai xəmtu の部分は，xəmtu nai でも同じであるという.

[22]「そんなもの，**誰が**買うんだよ!?　誰も買うわけないじゃないか！」【反語】［Кто будет такое покупать?! Конечно же, никто.］

čawa	ui	ga-dii.	ui=dəə	ga-dasi.
that.ACC	who	buy-PTCP.IMPF	who=CUM	buy-NEG.PRS

ナーナイ語の不定表現では，特定既知の場合にのみ［疑問詞＋=nuu（YesNo 疑問文形成の際に文末に使われる要素）］が用いられるが，それ以降（すなわち，Haspelmath (1997) の含意的配置図のより右側）では，もっぱら［疑問詞＋=dAA（累加（日本語の「も」にあたる要素）］が用いられることがわかる．なお，どの形式も，類型論的にも地域的（ユーラシア）にも多数を占める疑問詞ベースの不定表現である.

♦なわ張り理論について
[23]「君は英語がうまい**ね**.」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】［Ты так хорошо говоришь по-английски.］

sii	loča	xəsə-ǰi-ə-ni	uləən	xisaŋgo-i-si.
you	Russia	word-INS-OBL-3SG	good	talk-PTCP.IMPF-2SG

[24]「君は退屈そうだね.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】［Ты такой скучный.］

(əiniə)	sii	paixapsi-laa	bi-ə-či.
today	you	bored-COMP	be-IND.PRS-2SG

[25]「明日も寒いらしいよ.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】［Говорят, завтра тоже будет холодно.］

un-dii-či,	čimanaa=daa	nonǰi	o(si)-ǰaraa.
say-PTCP-3PL	tomorrow=CUM	cold	become-IND.FUT.3

この [25] で未来形 -ǰArAA が用いられる以外，特になわ張り理論での対立に対応した形式は現れない.

略号・記号

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person
ACC: accusative 対格
CAUS: causative 使役
COHOR: cohortative 勧誘
COMP: comparative 比較
CUM: cumulative 累加
DAT: dative 与格
DIR: directive 方向格
DIRINT: directional intentional 移動の目的
EMP: emphasis 強調
FUT: future 未来
IMP: imperative 命令法
IMPERS: impersonal 非人称
IMPF: imperfective 未完了
IND: indicative mood 直説法
INS: instrumental case 道具格
NEG: negative 否定
OBL: oblique 斜格標示
PERF: perfective 完了
PL: plural 複数
PRS: present 現在
PTCP: participle 形動詞
Q: question 疑問
REF: reflexive 再帰
REPET: repetitive-reversive aspect 再度・反動アスペクト
SG: singular 単数
SIM: simultaneous converb 同時副動詞

参考文献

Haspelmath, Martin (1997) *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

風間伸次郎 (2010) 『ナーナイの民話と伝説 12』ツングース言語文化論集 48. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

野田尚史 (2015) 「第 5 章 世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性 —「する」言語と「なる」言語、高コンテクスト言語と低コンテクスト言語の再検討を中心に—」益岡隆志（編）『日本語研究とその可能性』106-132. 東京：開拓社.

執筆者連絡先：kazamas@tufs.ac.jp

東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 22 号（2017), pp.183-188.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.22 (2017), pp.183-188.

〈特集「情報標示の諸要素」〉

エウェン語
Markers of information structure in Ewen

風間 伸次郎
Shinjiro Kazama

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies, Institute of Global Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第 22 号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 25 個のアンケート項目に対するエウェン語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'markers of informational structure' (*Journal of the Institute of Language Research 22*, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Ewen data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語，とりたて表現，不定表現，情報のなわ張り
Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

エウェン語はツングース諸語の1つである．ツングース諸語は，類型的にみて日本語にもよく似たタイプの言語で，もっぱら接尾辞による膠着型言語である．語順は Head-final，つまり SOV で修飾語-被修飾語の順序をとるのが基本であるが，エウェン語の語順は必ずしもこの原則に従わないことも多い．以下は基本的に IPA をベースにした音素表記によるが，一音素一文字の原則などの理由から，次のような独自の音素表記も用いている： č[tɕ], ǰ[dʑ], ň[ɲ]．ロシア語からの近年の借用語と思われるものは一般的な転字法により，斜字体で示している．コンサルタントは1954年 Tvajan村生まれの女性である．調査はロシア語を媒介言語にして行った．日本語文に続く［ ］内に使用したロシア語文を示す．ロシア語の調査例文は，1990年ウラジオストック生まれの話者の方にお願いして日本語から作成していただいた．

[1]「この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．」【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】［На этой земле хорошо растут овощи. Думаю, поэтому её можно дорого продать.］

ələ	təər-lə	ai-č	ɪsʊ-waat-tɯ	*ovashshi*,
this.LOC	land-LOC	good-INS	grow-HAB-IND.3PL	vegetable.PL

mərgəə-t-tɯ-m	təəmi	noŋman	buu-mi	aj	əəripti-č.
think-PROG-IND-1SG	then	it.ACC	give-COND	good	price-INS

「土地」は場所の斜格項として示され，「野菜」が主語の文によって表現された．さらに次の文では「野菜」を代名詞で受けた文が用いられた．このため，斜格項が次の文の統語的軸項として働くかについてのデータは得られなかった．

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

[2]「私は頭が痛い．だから今日は休む.」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】［У меня болит голова, поэтому сегодня я не пойду в школу/на работу.］

minŋi	dıl-ʊ	ən-sɯn,
I.NOMLZ	head-POSS.1SG	ache-IND.3SG

təəmi	tiək	bii	ə-təə-m	ur-rɯ	gurgəə-tki.
then	now	I	NEG-FUT-1SG	go-INF	work-DIR

ここでも「頭」を主語とした文が選択され，日本語のようにその持ち主を主題として取り上げることは起きない．しかし，続く文では主語として働くことがわかる．ただし動詞には人称標示があるので，主語の切り替えに問題はないのかもしれない．

♦とりたて表現について

[3]「あの人**だけ**，時間通りに来た.」【限定】［Только он пришёл вовремя.］

noŋan=takan	əm-ni-n,	ai-č.
(s)he=only	come-PTCP-3SG	good-INS

[4]「これはここで**しか**買えない.」【限定・否定との共起】［Это можно купить только здесь.］

ərə-w	ələ=tkən	uniw-mi	aja.
this-ACC	this.LOC=only	buy-COND	good

ロシア語，エウェン語ともにこの文では限定要素と呼応する否定要素は現れていない．

[5]「その家にいたのは子供**ばかり**だった.」【限定・多数】［В доме были одни дети.］

ǰʊʊ-la	bi-d-di-tɯn	kʊŋaa-l=tkan.
home-LOC	be-PROG-PTCP-3PL	child-PL=only

[6]「次回**こそ**，失敗しないようにしよう.」【限定・強調】［В следующий раз постараемся не ошибиться.］

uuntɯ-du	ə-dəə-wur	ootaa-r	uŋ-ǰi-p.
another-DAT	NEG-PURP-REF.PL	fail-INF	do-PROG-1PL.EXCL

この限定・強調の文には，特に明示的な情報構造を示す要素は現れなかった．もっともロシア語の各要素を 1 対 1 対応的に訳している傾向が強く見られるので，ここでもロシア語の文にそうした要素がないことが原因になっている可能性がある．

[7]「疲れたね，お茶**でも**飲もう.」【反限定・例示】［Ты, наверное, устал, пойдём выпьем чаю.］

ii	koč	өsəlɯn-ni	ur-gəər	ilu-sn-ə-gəər.
you	probably	get.tired-PTCP	go-COHOR	drink-MOM-E-COHOR

日本語における「～でも」によるいわば「軽い」例示のニュアンスは，瞬間相の -sn によって表現されている可能性があり，この要素が注目される．

[8]「水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ.」【極端・意外】［Несколько дней я могу прожить без проблем только на воде.］

adi-w=da	inəg-u	bii	bi-mč-u,
some-ACC=CUM	day-ACC	I	be-SUBJ-1SG

aač	problema-la	muu-č=tɯkəən.
without	problem-NEG.PROP	water-INS=only

[9]「小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた.」【極端・意外】［Даже маленьких детей заставили помогать.］

kučukəə-r-bə=də=tič	kuŋaa-r-bɯ	bəl-ukən-i-tɯn.
small-PL-ACC=CUM=EMPH	child-PL-ACC	help-CAUS-PTCP-3PL

[10]「私はお金**なんか**欲しくない.」【反極端・低評価】［Вовсе мне не нужны деньги.］

mindu	ə-s-ni=də=tit	əl	naadaa-r.
I.DAT	NEG-IND-3SG=CUM=EMPH	money	be.necessary-INF

[11]「自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい.」【反極端・最低限】［Прибери хотя бы свою комнату.］

iik-li	məəni=nun	komnata-j.
clean-IMP	oneself.GEN=EMPH	room-REF.SG

[12]「私に**も**ちょうだい.」【類似・類似】［И мне, пожалуйста.］

mindu=də	gə.
I.DAT=CUM	hey

[13]「お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？」【反類似・対比（疑問）】［Папа уже дома. А мама?］

aka	ʊkal	ǰʊʊ-la,	əkə=nəən.
father	already	home-LOC	mother=CONTRAST

総じてこのエウェン語におけるとりたて表現の調査では，野田 (2015) が日本語以外の言語で観察されにく

いとしていた反極端 [11]，反類似 [13] の要素が観察されたことが興味深い（無論，こうした調査の限界を示すものではあるが，媒介言語であるロシア語に現れる形式の影響を受けていることは十分に考えられる）．さらに反限定も，名詞につく要素ではないが，アスペクトの接辞によってそのニュアンスが示されている可能性があることもみた ([7])．なお反類似の要素も名詞そのものではなく，その修飾語につく要素となっている．

♦不定表現について

[14]「**誰かɤ**（が）電話してきたよ．」【特定既知（specific known）】［Кто-то позвонил.］

ŋii=wut	čʊral-ni-n.
who=INDEF	call-PTCP-3SG

ここでの =wut は疑問詞につき，それを不定の対象を示すものに変える機能を果たしていると考えられる。

[15]「**誰かɤ**に聞いてみよう．」【非現実不特定（irrealis non-specific）】［Давай кого-нибудь спросим.］

ŋii=də	ulgʉm-gəər.
who=CUM	ask-COHOR

[16]「私のいない間に**誰かɤ**来た？」【疑問（question）】［Кто-нибудь приходил пока меня не было?］

ŋii=də=wʉl	ɵl-lɵɵt-tʉ-n,	aačča	unət	bi-sʉk-u.
who=CUM=INDEF	drop.in-HAB-IND-3SG	nothing	yet	be-COND-1SG

[17]「**誰かɤ**来たら，私に教えてください．」【条件節内（conditional）】［Скажите мне, если кто-нибудь придёт.］

gɵɵn-ə-sʉn	mindu,	ŋii=də	əm-nʉkʉ-n.
say-IND-2PL	I.DAT	who=CUM	come-COND-3SG

[18]「今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．」【間接（全部）否定】（indirect negation）】［Я не думаю, что сегодня кто-нибудь придёт/Я думаю, сегодня никто не придёт.］

a.	bii	mərgəət-tʉ-m,	tiək	ŋii=dəə	ə-tə-n	əm-nə.
	I	think-IND-1SG	now	who=CUM	NEG-FUT-3SG	come-INF

b.	bii	ə-sʉ-m	mərgəət-tʉ,	tiək	ŋii=dəə	əm-ǰiŋə-wə-n.
	I	NEG.IND-1SG	think-INF	now	who=CUM	come-PTCP.FUT-ACC-3SG

この二様の表現に関して，コンサルタントによれば，b. の文の方がエウェン語として良いということであった．

[19]「そこには今**誰も**いないよ．」【直接（全部）否定（direct negation）】［Там сейчас никого нет.］

tala	tiək	ŋii=dəə	aačča.
that.LOC	now	who=CUM	nothing

[20]「(それは) **誰でも**できる.」【自由選択 (free-choice)】〔Это может сделать кто угодно.〕

ər-ə-w	nək-či-n,	ŋii=wul.
this-E-ACC	do-IND.FUT-3SG	who=INDEF

[21]「そんなこと (は), **みんな**知っているんじゃないか!?」【自由選択を示す「みんな」】〔Разве не все об этом знают?〕

əəw	ŋii=wut	ə-s-ni	ər-ə-w	aa-r=a.
I.wonder	who=INDEF	NEG-IND-3SG	this-E-ACC	know-INF=EMPH

この文も媒介言語であるロシア語の影響を大きく受けているものと考えられるが, 一種の反語表現になっているものと考えられる. 日本語に訳せば, 「誰かこれを知らないことがあろうか!?」のような表現になっているものと考えられる.

[22]「そんなもの, **誰が**買うんだよ!? 誰も買うわけないじゃないか!」【反語】〔Кто будет такое покупать?! Конечно же, никто.〕

ŋii	unii-ǰi-n	ərrөөččөө-m?	ŋii=də=si	ə-təə-n.
who	buy-IND.FUT-3SG	such-ACC	who=CUM=EMPH	NEG-IND.FUT-3SG

上記のエウェン語の不定表現における付属語の要素の現れを整理すると, 次のようになる.

表 1: エウェン語の不定表現における付属語

[14]=[21](=wut)	[15]=[17]=[18]=[19]=[22](=dA)	[16]=[20](=wUl)
特定既知 ＝自由選択を示す「みんな」	非現実不特定＝疑問条件節内＝間接（全部）否定 ＝直接（全部）否定＝反語	疑問＝自由選択

※ なお大文字は母音調和による異形態のあることを示す

なお[21]「自由選択を示す「みんな」」については, 直接その表現に対応するものとして現れているのではなく, そのアンケート文に対応する答にその出現が観察されたものであることに注意する必要がある.

この分布を如何に解釈するか, Haspelmath (1997) の含意的配置図に照らしての検討, などの点については, 今後の課題とする.

♦なわ張り理論について

[23]「君はロシア語がうまい**ね**.」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】〔Ты так хорошо говоришь по-русски.〕

ii	uməkič	təərə-wəčin-ø-ni	ňuučidič=či.
you	so	speak-CONSTANT-IND-2SG	in.Russian=EMPH

[24]「君は退屈そうだね.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】［Ты такой скучный.］

ii	uməkič	onnɪn=da.
you	so	be.bored=CUM

[23] と [24] に関して，uməkič（およびロシア語の takoj, tak）が，日本語の「ね」のニュアンス，すなわち聞き手のなわ張り内にあることを話していることを明確にするために機能していることも考えられる.

[25]「明日も寒いらしいよ.」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】［Говорят, завтра тоже будет холодно.］

gөөn-ø,	tɪmɪma	inən=tittə	bi-ǰi-n.
say-3PL	tomorrow	cold=still	be-IND.FUT-3SG

略号一覧

ACC: accusative 対格	INDEF: indefinite 不定
CAUS: causative 使役	INF: infinitive 不定詞
COHOR: cohortative 勧誘	INS: instrumental 具格
COND: conditional 条件（副動詞）	LOC: locative 処格
CONSTANT: constant (aspect) 恒常	MOM: momentative (aspect) 瞬間
CONTRAST: contrast 対比	NEG: negative (verb) 否定動詞
CUM: cumulative 累加	NOMLZ: nominalizer 名詞化
DAT: dative 与格	PL: plural 複数
DIR: directive 方向格	POSS: possesive 所有形
E: epenthesis 挿入音添加	PROG: progressive 進行
EMPH: emphasis 強調	PROP: proprietive 所有
EXCL: exclusive （一人称複数）排除形	PTCP: participle 形動詞形
FUT: future 未来	PURP: purposive 目的（副動詞）
GEN: genitive 属格	REF: reflexive 再帰
HAB: habitual (aspect) 習慣	SG: singular 単数
IMP: imperative 命令	SUBJ: subjunctive 接続法
IND: indicative 直説法（非未来）	

参考文献

Haspelmath, Martin (1997) *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

野田尚史 (2015) 「第 5 章 世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性 —「する」言語と「なる」言語、高コンテクスト言語と低コンテクスト言語の再検討を中心に—」益岡隆志（編）『日本語研究とその可能性』106-132. 東京：開拓社.

執筆者連絡先：kazamas@tufs.ac.jp

語学研究所 活動報告

2016 年度 定例研究会要旨 …… 189

2016 年度 LUNCHEON LINGUISTICS 発表要旨 …… 201

2016 年度 語学研究所 活動一覧 …… 211

語学研究所 刊行物 …… 219

語学研究所 既刊号目次 …… 223

定例研究会要旨

「移動表現の日独比較 —移動動詞と経路を表す前置詞句との共起関係を中心に—」

高橋美穂（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / ドイツ語学）

日時：平成 28（2016）年 6 月 1 日　16:00～18:00
会場：東京外国語大学　語学研究所

本発表では、類型論的に異なるタイプに属するとされる日独語の移動表現を、とりわけ移動動詞と経路表現との結びつきという観点から分析するための基礎的なデータを示し、比較・対照分析のための枠組みを示すことを目指した。本発表の構成は次のとおりである。まず、本発表の目的・分析対象を述べたあと（1.）、移動表現・移動動詞のタイポロジーを取り上げた（2.）。続いてドイツ語の移動動詞を例に、移動の経路を表す前置詞句によってもたらされる、移動事象のアスペクト的・相的な変化に言及した（3.）。さらに、起点・着点・中間経路などの具体的な経路を表す前置詞句が、ドイツ語の移動動詞が用いられる特定の構文において、構文の可否や解釈と密接に関連することを示した（4.）。そのうえで、日本語における移動動詞と経路表現の組み合わせを、とくに移動事象のアスペクト的・相的変化に着目し、確認した（5.）。以上を受けて、最後に、日独語では移動事象の相的変化がそれぞれ異なる形式で言語化されることを指摘した（6.）。

移動事象のアスペクト的解釈の変化は、移動経路の有界性と相関している。ドイツの laufen（走る）や schwimmen（泳ぐ）のような移動様態を表す動詞は、元来段階的な位置変化を表す「過程」タイプのものであるが、これらの移動様態動詞は、有界的な経路を示す起点や着点を表す前置詞句を伴うことで、相反する位置づけの状態から構成される「状態変化」タイプへと変わる。ドイツ語では、このような経路を表す前置詞句の有無が、移動動詞が出現する構文の可否や構文全体の解釈に関わることがあり、その一例が自由与格を伴う構文（自由与格構文）である。高橋 (2015)におけるコーパスを使用した事例の調査・分析の結果、移動動詞が出現する与格構文では、（i）起点・着点・中間経路などの具体的な経路を表す前置詞句が必須であり、アスペクト的に区切られた移動事象が表される必要があること、（ii）さらにそれらの経路を表す前置詞句を手がかりとして「与格の人のもとへ」という求心的移動あるいは「与格の人から離れて」という遠心的移動のいずれかが表され得ること、（iii）そのような移動の直示性と構文全体の解釈（「影響」か「非意図的使役」か）が相関していること、が明らかとなった（自由与格構文の異なる 2 つの解釈については、McIntyre (2006), Schäfer (2008)など参照）。このように Talmy (1991, 2000)によるところの「付随要素枠付け言語」タイプであるドイツ語では、具体的な移動経路は前置詞句によって表され、しかも、それらが文で表される移動事象のアスペクト・直示性に密接に関わる。その一方で、「動詞枠付け言語」タイプの日本語では、移動経路は動詞に語彙化される傾向があるとされる（宮島 (1984)、松本 (1997)など）。「入る」「出る」「着く」などの移動動詞では特定の経路（「入る」「着く」では着点、「出る」では起点）が語彙化されており、これらの動詞によって表される移動は時間的・アスペクト的に区切られたものとなる。日本語においても「走る」「歩く」「はう」などの移動様態を表す動詞が存在するものの、これらの動詞で表されるのは時間的・アスペクト的に区切られない移動であり、しかも、これらの動詞と移動経路を表す格助詞との共起には一定の制限が認められる。

本発表の結論は次のとおりにまとめられる。（i）ドイツ語の経路を表す前置詞句は、移動様態動詞と結びつくことで、移動の事象タイプを「過程」から「状態変化」へと変える役割を担う。同様の働きを持つのは、日本語では「入る」「出る」「着く」のような経路を語彙化した移動動詞である。これらの

移動動詞は、相反する下位事象から構成される変化を表すものとして分析される（例えば「部屋に入る」の場合、「部屋にいない」という状態から「部屋にいる」という状態への変化）。（ii）日本語の移動経路を表す「に」格や「を」格は、（ドイツ語の経路を表す前置詞句と異なり）移動事象の相的変化には関与しない。これらの助詞は、動詞の語彙意味に内在する経路の概念をそれぞれに表出する働きを持つ（「に」は着点、「を」は起点または中間経路）。そのため、「走る」「泳ぐ」などの「過程」タイプの移動様態動詞が、例えば着点を表す「に」格と結びつくためには、該当する経路の概念（着点）を語彙化した「着く」「行く」のような動詞表現と組み合わされなければならない。

参考文献

McIntyre, Andrew (2006): The interpretation of German datives and English *have*. In: Daniel Hole, André Meinunger and Werner Abraham. (eds.) *Datives and Other Cases: Between Argument Structure and Event Structure*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp.185–212.

宮島達夫 (1984):「日本語とヨーロッパ語の移動動詞」国語学会編『金田一春彦博士古希記念論文集 第2巻 言語学編』三省堂, pp. 456–486.

松本曜 (1997): 「空間移動の言語表現とその拡張」田中茂範・松本曜『空間と移動の表現』研究社出版, pp. 126–229.

Schäfer, Florian (2008): *The Syntax of (Anti-)Causatives: External Arguments in Change-of-State Contexts*. Amsterdam: John Benjamins.

高橋美穂 (2015):「事象の「所有」に基づく lassen および自由与格による項の拡張—ドイツ語の移動動詞を例に—」博士論文 (東京外国語大学).

Talmy, Lonard (1991): Path to realization: A typology of event conflation. In: *Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*. Berkeley: University of California, pp.480-519.

Talmy, Leonard (2000): *Toward a Cognitive Semantics, vol. 2, Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

定例研究会要旨

「対格表現の地域差 —助詞ゼロをめぐって—」

木部暢子（国立国語研究所時空間変異研究系教授，東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授(クロスアポイントメント)/ 方言学）

日時：平成 28（2016）年 7 月 6 日　18:00～20:00
会場：東京外国語大学　語学研究所

１　概要

日本語標準語では，主格標識に「が」を，対格標識に「を」を使用する。しかし，話し言葉では助詞ゼロ（無助詞）で主格，対格を表すことがある（太郎　本　読んでるよ）。日本語諸方言を見渡すと，主格，対格の標示のしかたに地域差がある。発表では，現在，国立国語研修所で作成中の「日本語諸方言コーパス」を利用して各地の対格標示形式の地域差について述べた。

２．「日本語諸方言コーパス」とは

「各地方言収集緊急調査」（1977～1985 年に文化庁が行った方言談話調査）の音声データを使用し，検索ができるようにしたもの。本発表では，地域差を見るために青森県弘前市，東京都台東区，石川県羽咋郡押水町，大阪市，広島市，北九州市，鹿児島県頴娃町の 7 地点のデータを使用した。

３．「日本語諸方言コーパス（試作版）」による対格助詞の地域差

方言コーパスにより各地の対格の格標示形式の地域差を示すと，以下のとおりである。

対格標示形式の地域差　（出現回数(%)）

地域	助詞なし	助詞あり	合計	備考
弘前	102(94.4%)	ゴト 6(5.6%)	108(100%)	
東京	35(43.2%)	オ　46(56.8%)	81(100%)	保留 7
羽咋	55(64.7%)	オ　30(35.3%)	85(100%)	
大阪	57(62.0%)	オ　35(38.0%)	92(100%)	
広島	14(8.2%)	オ　156(91.8%)	170(100%)	保留 7
北九州	21(61.8%)	オ　13(38.2%)	34(100%)	
鹿児島	5(5.7%)	オ　82(94.3%)	87(100%)	

対格助詞ゼロの出現度は、高い順から以下のようになっている。

弘前 ＞ 石川県羽咋・大阪・北九州 ＞ 東京 ＞ 広島 ＞ 鹿児島

ここから次のような問題が提起される。

・弘前は助詞ゼロが基本だが，どのようなときに助詞「ゴト」が使われるのか。
・広島と鹿児島は助詞「オ」が基本だが，どのようなときに助詞ゼロが使われるのか。
・東京，羽咋，大阪市，北九州で助詞「オ」が使われる条件はどのようなものか。

４．弘前市方言の対格標示

弘前市方言では、主格，対格が助詞ゼロで標示されるのが基本である。語順は S-O-V で，O と V は隣接している。対格名詞句が指示詞（ソレ，アレ）の場合は，すべて助詞「ゴト」が使われている。この

ことから，「ゴト」の使用には名詞句の定性が関係していると考えられる。また，「対格名詞＋ゴト」は文頭に現れることがある。その場合はＶに隣接しない。

助詞ゼロと「ゴト」の比較　　（出現回数）

地点	文構造	助詞ゼロ（総数 102）	「ゴト」（総数 6）
弘前	対格 NP＋V	91	2
弘前	対格 NP＋格要素＋V	1	3
弘前	指示詞＋V	0	4

５．北九州市方言の対格標示

主格は「が」で，対格は助詞ゼロまたは「オ」で標示される。語順は S-O-V である。助詞ゼロの場合も「オ」の場合も O と V は隣接している。助詞「オ」が現れやすいのは，対格名詞句が修飾要素を含むときである。このことから，助詞「オ」の使用は、取り立てと関係しているのではないかと思われる。

対格名詞句と動詞との距離，名詞句の　　（出現回数）

地点	文構造	助詞ゼロ（総数 21）	「オ」（総数 13）
北九州	対格 NP＋V	21	11
北九州	対格 NP＋格要素＋V	0	0
北九州	指示詞	2	1
北九州	NP[　Ø　　＋N]	18	6
北九州	NP[修飾要素＋N]	3	7

６．鹿児島県頴娃町方言の対格標示

主格は「ガ」で、対格は「オ」で標示されるのが基本である。助詞「オ」は名詞語末母音と融合することが多いので、「オ」かゼロかの判定には注意が必要である。例えば、以下の例の「ハナス（話しを）」は、「ハナシオ」に当たる。

257-000　C　ガッチュー　ハナス　キケバ　モー　ナンダヂャイガ
よく　話を　聞けば　もう　涙だが

以下の「アイ」（あれを），「オイ」（私を）の例も融合を起こしている可能性があり、無助詞の出現条件については、今後の課題としたい。

138-000　C　マン　ナッダゲ　チュッセー　アイ　セダバッ
まあ　なるだけ　と言って　あれ［を］　したけど
157-000　B　X24 ダ　ワガエデー　アイ　ショッタバッ
X24 たちは　自宅で　あれ［を］　していたが
442-000　B　X47 ガ　オイ　チカマユンナ　チュバッ　チカマエッソラ
X47 が　私［を］　捕まえるな　と言うけれど　捕まえてね

付記

この研究は, 平成 25～27 年度科研費基盤(B)一般 25284087, 平成 28 年度 科研費基盤(A)一般 16H01933 による研究成果の一部である。

定例研究会要旨

「訳せる日本語、機械が訳せる日本語」

佐野 洋（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語情報処理論, 電子化言語データベース, コンピュータ支援の語学教育）

日時：平成 28（2016）年 9 月 14 日　16:00～18:00
会場：東京外国語大学　語学研究所

この 2 年余りにわたる横井先生（東京工科大学名誉教授）が主催する研究会1（「日本語マニュアルの会」）の活動成果の報告を行った。

この会で提唱する日本語文章論は、思考内容を段階を経て記述に変換するというプロセスモデルを持つことを特徴としている。つまり、文章産出（マニュアルライティング）の作業の前提として「思考のシンボライズ（言語化）とその表出には段階がある」と考えるのである。以下にまとめる。

- 表出段階
  試みる日本語、表わす日本語、伝える日本語、訳せる日本語
- 方向性
  一方向性（不可逆的プロセス）
- 関係性
  訳せる日本語は、ターゲット言語によって（表現が）違う
  訳せる日本語は、「機械が訳せる日本語」を含む

上記の表出段階についての概要は以下のとおりである。

- 試みる日本語
  思考のツールとして、試行錯誤を柔軟に支えるための日本語
- 表わす日本語
  思考を精密化し、記載要件を満たし、情報を適切に表現するための日本語
- 伝える日本語
  読み手が効率よく間違いなく読み取れるように、情報を的確に伝達するための日本語
- 訳せる日本語
  多言語翻訳の中継（中間）言語となり、外国語へ直訳できるようにするための日本語

本発表では、上記の「訳せる日本語」段階の成果内容を説明した。日本語マニュアルをターゲットとしていて、その目的（産業日本語の活動の目的）は、以下ある。

- 正確かつ円滑な情報発信力の強化
- 知的生産性の向上（と知識資源の蓄積と活用）
- 翻訳における品質と効率と向上

発表内容の具体的内容は、「伝える日本語」表現を「訳せる日本語」表現に書き換える規則の集合についての紹介である。書き換えられた「訳せる日本語」は、以下の特徴を有する日本語文章表現になる（ことを目指している）。

- 多言語翻訳へ対応できる

1 http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/

翻訳原稿が多言語翻訳に対応できれば、その価値を確実に主張できる。翻訳原稿を作るというステップを設けることが、十分にコスト的に見合う。

- 翻訳会社の実業務へ対応できる

分業体制の運用を円滑にし、翻訳発注側と翻訳会社とのコミュニケーションを円滑にする

- 機械翻訳活用へ対応できる

前編集作業と後編集作業を設け、現状の機械翻訳システムを有効に利用できる。

書き換えの詳細な内容については、参考資料2を参照のこと。いずれもウェブ参照が可能である。

参考資料

☑ 「伝える日本語」から「訳せる日本語」へと言い換える―『日本人のための日本語マニュアル（暫定第 1 版）』―, JAPIO Year Book 2016（2017 年初頭に JAPIO の HP に掲載予定）

☑ 「日本人のための日本語マニュアル（試作版）」,パンフレット（2016 年 2 月 24 日）
http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/?page_id=53

☑ 「日本人のための日本語マニュアル」, JAPIO Year Book 2015
http://www.japio.or.jp/00yearbook/yearbook2015.html

☑ 「日本人のための日本語マニュアル」, JAPIO Year Book 2014
http://www.japio.or.jp/00yearbook/yearbook2014.html

2 Japio YEAR BOOK 2016（2017 年始めには掲載予定）http://www.japio.or.jp/00yearbook/を参照。

定例研究会要旨

「社会は敬語をどう獲得するか？ －マクロ社会言語学的考察－」

柳村 裕（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / 社会言語学, 音声学）

日時：平成 28（2016）年 10 月 5 日　18:00～20:00
会場：東京外国語大学　語学研究所

本研究では、マクロ社会言語学的接近法によって、日本語の敬語の習得・変化過程の記述と理論的考察を行った。国立国語研究所の大規模経年発話資料をもたらした「岡崎敬語調査」（国立国語研究所 1957、1983、2010）の資料を再分析し、話者の個人内での敬語使用における「加齢変化」のパターンを記述した。また、話者の「職業」という新たな分析指標を加えることでこれまでの研究を発展させ、敬語使用と話者の社会的属性との関係を分析した。その結果、敬語の習得・変化パターンに、話者の職業によって異なる二つのタイプがあることを示した。そして以上の観察結果を基に、日本語の敬語の習得・使用・変化が、話者の社会的属性とどのように関わるかを捉えるための仮説を提案した。

岡崎敬語調査資料のうち本研究で分析対象とするのは、11 種類の設定場面における短文発話回答データと、発話者の生年、性別、学歴、職業などの社会属性項目である。3 回の調査（第一次：1953 年、第二次：1972 年、第三次：2008 年）のそれぞれに約 400 名、合計約 1,200 名の話者のデータが含まれる。まず、発話回答に現れる各種敬語形式の使用数を集計した。集計対象は「デス」「マス」「ゴザイマス」「イタダク」「イラッシャル」等の各種敬語形式である。次に、発話中の敬語形式をもとに、各発話文について「丁寧さの段階付け」（国立国語研究所 1957、1983）を行った。これは、主に発話末の表現に基づき、各発話の丁寧さを 3 段階に分類したものであり、最も丁寧なものから順にゴザイマス体、デスマス体、ダ体に概ね相当する。各段階に点数を与え（ゴザイマス体が 3 点、デスマス体が 2 点、ダ体が 1 点）、これを敬語使用特徴の指標として、話者の個人内での敬語使用の変化およびその話者属性差を分析した。

敬語使用の変化の分析は、「見かけ時間 apparent time」および「実時間 real time」で分析により行った。丁寧さの段階点が話者の（調査時点での）年齢によってどう異なるかを見ることで、敬語使用の「見かけ時間上の変化」を観察・記述した。また、特定の年代生まれの話者について第一次～三次および追加調査の結果を比較することで、丁寧さの段階点の「実時間上の変化」を直接的に観察した。そして、以上 2 種の分析を話者の職業ごとに行うことで、話者の個人内での敬語使用の変化が職業によってどう異なるかを分析した。

結果の概要は以下の通り。まず、職業等の話者属性を考慮せずにサンプル全体で見ると、敬語の「成人後採用」（井上他 2016、柳村 2014）が観察された。見かけ時間と実時間の両方において、話者の年齢が高くなるほど丁寧さの段階点が高くなることが観察された。加齢に伴い敬語の使用量が増え、また、より丁寧な形式を使うという、話者の生涯における言語使用の特徴の変化と解釈できる。

一方で敬語使用の変化パターンの職業差も観察された。すなわち上述の丁寧さの成人後採用が観察されたのは一部の職業の話者のみであり、別の職業の話者には成人後採用が観察されなかった。具体的には、職務の中での敬語使用の違いによって職業を「事務類」「接客類」「労務類」の三つに分類すると、このうち丁寧さの成人後採用が観察されたのは接客類のみであった（柳村 2017）。事務類と労務類は、敬語使用の加齢変化が少なく、早い（若い）時期に身につけた敬語がほぼ生涯を通して使用されると解釈できた。

以上の観察結果より、敬語の習得・使用・変化のパターンと話者属性の関係を捉えるための仮説を提案した。すなわち、敬語の習得には二つのパターンがあり、そのどちらに当てはまるかは話者の属性によって異なるという仮説である。二つのパターンとは、一つは成人後採用であり、もう一つは敬語がより早い時期に習得され、個人内での言語形成期以降の変化が見られないパターンである。今後の研究では、岡崎敬語調査資料の再分析および新たに収集する調査資料の分析を行い、この仮説の構築・検証を計画している。すなわち、どのような話者属性（職業以外も含む）においてどちらの敬語習得・変化パターンが観察されるか、また、これまでに見られていない新たな習得・変化パターンが見られるかを検討し、敬語使用と話者属性の関係を総合的に分析する。

参考文献

井上史雄・阿部貴人・鑓水兼貴・柳村裕・丁美貞（2016）『敬語表現の成人後採用—岡崎における半世紀の変化—』国立国語研究所「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」報告書

国立国語研究所（1957）『敬語と敬語意識』東京：秀英出版.

国立国語研究所（1983）『敬語と敬語意識—岡崎における 20 年前との比較—』東京：三省堂.

国立国語研究所（2010）『敬語と敬語意識—愛知県岡崎市における第三次調査—』科学研究費補助金研究成果報告書, 第 1～4 分冊.

柳村裕（2014）「ことばの丁寧さの経年変化と社会的要因—岡崎敬語調査から—」『国立国語研究所論集』8: 177–196.

柳村裕（2017）「話者の職業による敬語使用の差異と変化—岡崎敬語調査資料の分析—」『国立国語研究所論集』採択決定, 第 12 号掲載予定, 掲載頁未定.

定例研究会要旨

「語研特集「情報構造」に関する報告と今後の調査の展望」

風間伸次郎（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 記述言語学・ツングース諸語）

日時：平成 29（2017）年 1 月 25 日　18:30～20:30
会場：東京外国語大学　語学研究所

次の号（本号）の語研論集の特集のアンケートに用いる例文を吟味し，アドバイスをいただくために発表を行った．具体的には Li and Thompson (1976) や Haspelmath (1997) などの先行研究を取り上げ，その要旨を紹介するとともに，それらの諸先行研究の要点を基にアンケートの例文を作成し，それらの妥当性について議論を行った．前号の調査で分かったことについてもその結果に対する考察を紹介し，議論を行った．

さらなる詳細に関しては，今号の特集および特にその「まえがき」を参照されたい．

定例研究会要旨

「エジプトアラビア語の疑問詞位置と語順類型」

長渡陽一（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / アラビア語, 朝鮮語）

日時：平成 29（2017）年 3 月 1 日　17:30〜19:30
会場：東京外国語大学　語学研究所

アラビア語エジプト方言の疑問詞位置は平叙文の元位置にとどまる（Ernest et. al 1979: 222; 西尾 2009:1; Versteegh 2014: 218）。また疑問詞を文頭に置くこともあり、これについては「強調」と説明されている。ところが、*e: da?*（何、これ）「これは何か？」のように、疑問詞を文頭に置くのがふつうのものも少なくない。そこで、実際に疑問詞の位置を、会話コーパスの中で調査した。

1.　疑問詞位置の調査方法

調査は、エジプト映画『テロリズムとケバブ』（1992 年）、『ハッサンとマルコス』（2008 年）のシナリオ 2 編から疑問文を抽出し、構文によって分類した。

2.　エジプト方言の疑問詞位置

動詞文　動詞がある文で、「主語 + 動詞 + 目的語 + その他」の語順である。疑問詞目的語は 72 例中 72 例が、疑問詞副詞は 59 例中 55 例が元位置であった。

(1)　*enta ʔult e: bi-ẓ-ẓabṭ?*　「君は正確には何を（目的語）言ったか？」
君　言った　何　正確に

(2)　*ge:t hina le:?*　「なぜ（副詞）来たのか？」
来た　ここ　なぜ

存在文　存在詞 *fi:*「ある」を用いた、there is に相当する文で、疑問詞主語は、28 例中 28 例が元位置であった。

(3)　*fi: e:?*　「何があるか？（どうした？）」
ある　何

コピュラ文　「主語 + 補語」の語順で、現在時制ではコピュラは使われない。46 例のうち、疑問詞が元位置のものが 15 例、文頭のものが 31 例あった。

(4)　*dija:nt-ak e:?*「君の宗教は何か？」
宗教　-君の　何

(5)　*e: d-dawʃa di?*「この騒ぎは何か？」
何　(定)-騒ぎ　この

擬似分裂文　「疑問詞 +［節定冠詞 *illi* を冠した句］」であり、コピュラ文と同じ構造である。21 例中、疑問詞が目的語の例は 2 例、主語の例は 19 例あった。

(6)　*e: illi enta bteʕmel da?*「その君がしていることは何か？」
何　(定)　君　している その

動詞文の主語　動詞文のうち疑問詞主語が人のものは 8 例中 8 例が元位置であった。疑問詞主語が物のものは 6 例中 6 例で疑問詞が後方移動していた。存現表現であるためと思われる。（言語学会での風

間氏コメントより）

(7) *mi:n* *fatan* *ʕalaj-ja?* 「誰が私のことを告げ口したか？」
誰 告げ口した について-私

(8) *ha-jiħṣal* *e:?* 「何が起きるか？」
(未)起きる 何

3. まとめ

動詞文（存現表現を除く）、存在文での疑問詞は元位置であった。コピュラ文は、疑問詞が文頭のものと元位置のものがあった。擬似分裂文はコピュラ文である。構文によって疑問詞位置が異なることは、情報構造と関係があることが考えられる。

また同じく SVO 語順のインドネシア語・マレー語も、疑問詞位置がエジプト方言と同じ様相を呈する。ところが、同じ SVO 語順であっても、中国語やタイ語は、コピュラ文においても元位置である。これは、コピュラ文にコピュラを使うかどうかと関係があるかも知れない。

引用文献

Ernest T. Abdel-Massih, Zaki N. Abdel-Malek, El-Said M. Badawi (2009). A Reference Grammar of Egyptian Arabic, Georgetown U.P.

西尾哲夫（2009）「エジプト・アラビア語の Wh 疑問文の語順と語順変化－コプト語影響説の再検討－」『国立民族学博物館研究報告』34 (1).

Versteegh, Kees (2014). The Arabic Language 2nd ed. Edinburgh U.P.（『アラビア語の世界－歴史と現在』長渡陽一訳, 2015 年, 三省堂）

LUNCHEON LINGUISTICS 発表要旨

◆2016（平成 28）年 4 月 20 日

「Documentary Linguistics: Asian Perspectives (DLAP2016) 報告」

山越康裕（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）

2016 年 4 月 6-9 日に香港大学で開催された Documentary Linguistics: Asian Perspectives (DLAP2016)の概要を報告するとともに以下の発表について紹介した。

・Vijay A. D'Souza (University of Oxford)

Gathering the right stuff. Some reflections on collecting the right language material during documentation

・Nala H. Lee (Stanford University)

The Language Endangerment Index: A Southeast Asian Perspective

・Benjamin Brosig (The Hong Kong Polytechnic University)

Documenting epistemicity in Qinghai Oirat

・Moira Saltzman (University of Michigan)

Jejueo talking dictionary: A collaborative online database for language revitalization

・Ekaterina Gruzdeva, Juha Janhunen (University of Helsinki)

Documentation and revitalization of the Nivkh language on Sakhalin

◆2016（平成 28）年 4 月 27 日

「ポポロカ語テマラカユカ方言における名詞の生産的複合と語彙的複合」

中本 舜（東京外国語大学外国語学部　南・西アジア課程ウルドゥー語専攻）

ポポロカ語テマラカユカ方言においては、形態音韻論・統語論・意味論的基準によって、基本的には語形成に使われる 2 種類の名詞複合、「生産的複合」と「語彙的複合」が区別される。形態音韻論的には、前部要素が独自の音韻論的ドメインをなすことを示すような形態音韻論的規則や音素配列論的な制約がある場合生産的複合とみなされる。統語論的には、動詞や句を取ることができる場合生産的複合とみなされる。意味論的には、動物や人間を表す前部要素が必ず生産的複合により複合される。

この 2 種類の複合を区別することは、語形成研究およびポポロカ語学にそれぞれ意義を持つ。語形成研究においては、これに用いられる形態論的操作である生産的複合が他の言語において関係節によって表される表現の一部を表すことができるという点で語形成と統語論のインターフェイスに関する事例を提供する。また、ポポロカ語学においては、生産的複合に現れる前部要素が語彙的要因のみによって限定されるわけではないことから、Veerman-Leichsenring (2004)

がポポロカ祖語に再建する「名詞類別詞」がポポロカ語テマラカユカ方言において一貫した文法カテゴリーとならず、本研究は Veerman-Leichsenring による同カテゴリーの再建に疑義を投げかけるものであるといえる。

◆2016（平成 28）年 5 月 11 日
「東・東南アジア諸語における地域的翻訳借用」
　倉部慶太（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所/日本学術振興会特別研究員 PD）

本発表では、東・東南アジア諸語の地域的翻訳借用の一例として「日食」と「月食」を取り上げ、当該地域の言語では「食」を表す際に「捕食者+日/月+摂食する」という構造が用いられることが多いことを報告した。同地域の約 100 の言語と方言を対象に調査した結果、次のことが分かった。(a) この構造は当該地域の 80 弱の言語に系統を越えて広く観察される。(b) 捕食者として様々な動物が用いられ、「犬」「虎」「蛙」「蛇」「魚」「ムササビ」「精霊」などが現れる。(c) 摂食動詞として「食べる」または「呑み込む」が用いられる。(d) 「日食」と「月食」で非対称性を示す言語が複数あり、例えばラフ語では「日食」では捕食者として「虎」を用いるが、「月食」では「蛙」を用いる。(e) SOV を基本語順とするチベット・ビルマ諸語は「食」表現では OSV 語順を用いる。

◆2016（平成 28）年 5 月 18 日
「ラマホロット語における ə̃ʔə̃「作る」による動詞連続とその文法化」
　長屋尚典（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）

ラマホロット語はオーストロネシア語族中央マレー・ポリネシア語派に属し、インドネシア共和国東部のフローレス島で話されている。この言語は、この島の他の言語がそうであるように、孤立的な言語で、動詞連続構文を頻繁に用いる言語である。本発表では、この言語における動詞 ə̃ʔə̃「作る」に注目し、この動詞が語彙的動詞から動詞連続構文を介して、使役、道具、同伴者、さらには様態副詞標識、等位接続詞まで用法を拡大していることを、主語との一致や接語代名詞の振る舞いなどを証拠として論じた。

◆2016（平成 28）年 5 月 25 日
「英語会話の co-construction における話者間の知識・情報の共有」
　第十早織（東京外国語大学大学院博士後期課程）

本発表では、英語会話における co-construction を参与者のトピックに関する知識量の観点から分析した。Co-construction とは、話者 B が話者 A の発話を完了させ、ひとつの統語的まとまり

（syntactic gestalt: Auer 1996, Szczepek 2000）を作り出す現象である。Co-construction には completion type と expansion type の２タイプがあると言われている(Ono and Thompson 1995, 1996)。以下が例である。

(1) Carsales3

1 G: .. when you say it happens for a reason,
2 .. it's like,
→3 ... () it happened to get you off –
→4 D: .. off my ass.

(Ono and Thompson 1995: 228)

(2) Africa 2

1 A: .. actually,
→2 they just went out to<% Chisera= %>,
3 .. to go [out to the river].
→4 B: [which is a hundred miles],
5 in the [2 bush 2].
6 A: [2 it's 2] about a hundred miles away,
7 .. and they w- were just going to go up to the river.

(ibid.: 228)

(1)は completion type の例である。4 行目で話者 D が 3 行目の話者 G の中途半端な発話を完了させている。(2)は expansion type である。話者 B は話者 A のそれだけで意味も統語も完全な発話に要素を付け足して発話を拡張している。

これまでは主に、なぜ co-construction が可能となるのかに焦点があてられてきたが（Ono and Thompson 1995, 1996 など）、実際の会話で何が起こっているのかはあまり分析されてこなかった。そこで、本発表では参与者の会話のトピックに関する知識量・情報量の観点から、話者 A と話者 B の知識量の差や、その差がどのように埋め合わされ、co-construction が生じているのかを観察し、記述した。例えば、話者 A の知識量が多い場合、話者 B は確認をするように上昇調イントネーションで不足要素を補完する。一方で、話者 B に知識量が多い場合は、下降調イントネーションで補完する。この場合、ひとつの syntactic gestalt の中でふたつの行為 (Q and A) が生じることが多い。このような supportive な機能が co-construction の典型である。また、典型から逸脱した competitive な機能もある。話者 B はあえて推測しうる話者 A の後続発話と異なる内容を発し、ユーモアや意見の対立を示す。典型である supportive な態度を装って補完することにより、このような機能が生じる。この現象を観察することで参与者のどちらがトピックに関する知識や情報量を多く持っているのか、どちら側の情報について述べられているのかを分析することができる。

また、expansion type には話者 B の視点から大きく clarification 機能をもつものと specification 機能をもつものがあった。前者は話者 A の発話に情報を付け足して、より詳細なものにする役割を果たす。その大多数が下降調イントネーションで付け足されていた。後者のタイプは話者 A の発話に情報を付け足して自分（話者 B）自身の理解を促すものであった。こちらは上昇調イントネーションで付け足されていた。Completuin type に比べて、expansion type は話者 A によりそった発話（supportive）というより話者 B 自身の視点から付け足される傾向が強かった。

なぜ co-construction が生じるのかという疑問には様々な要因が考えられる。まず、相手の発話をしっかりと聞いているからこそ co-construction が可能であるという点で、相手との engagement を高めることができる。さらには projectability の観点から、相手の統語構造を引きついで活用することで参与者が新たな統語構造を算出・処理するための認知的負担を軽減することができ、他の処理（意味論・語用論的解釈など）へとその余力を配分することができるためであると考えられる。

参考文献

Auer, P. 1996. On the prosody and syntax of turn-continuations. In E. Couper-Kuhlen and M. Selting (eds.), *Prosody in Conversation*. Cambridge: Cambridge University Press. 57-100.

Ono, T. and Thompson, S. A. (1995). What Can Conversation Tell Us about Syntax? in P. W, Davis (ed.), Alternative Linguistics: Descriptive and Theoretical Modes. Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins. 213-271.

Ono, T. and Thompson, S. A. (1996). Interaction and Syntax in the Structure of Conversational Discourse: Collaboration, Overlap, and Syntactic Dissociation. in E. H. Hovy and D. R. Scott (eds.), Computational and Conversational Discourse: Burning Issues — An Interdisciplinary Account. Berlin: Springer. 67-96.

Szczepek, B. B. 2000b. Functional aspects of collaborative productions in English conversation. *Interaction and Linguistic Structures* 21: 1-36.
URL: http://www.inlist.uni-bayreuth.de/issues/21/inlist21.pdf

◆2016（平成 28）年 6 月 1 日

「第二回国際モンゴル語学会（於・カルムイク国立大学）報告」

山田洋平（東京外国語大学大学院博士後期課程）

ロシアのカルムイク共和国エリスタにあるカルムイク国立大学にて 2016 年 5 月 19 日～21 日の日程で行われた第二回国際モンゴル語学会 (II Международной конференций по монгольскому языкознанию / Second International Conference on Mongolic Linguistics) の参加報告を行った。また発表者が学会にて行った口頭発表「ダグール語の条件副動詞」の内容を以下の通り紹介した。

ダグール語の条件副動詞 -AAs「～すれば」には、所属の形式の付与が義務的である。これは主節と従属節の主語が同一である (再帰) か異なるかを示す指示転換がマークされているものであると言える。こうした義務的な指示転換は他のモンゴル諸語には類を見ず、また周囲のツングース諸語 (南グループ: ソロン語、ヘジェン語、マンジュ語) にも見られない。

◆2016（平成 28）年 6 月 8 日
「日本語学会 2016 年度春季大会報告」
川村 大（東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授）

学習院大学において 5 月 14・15 の両日行われた日本語学会 2016 年度春季大会について報告した。まず概況を報告し、本学ＡＡ研岡田一祐氏のポスター発表があったことなどを紹介した。その後、中俣尚己氏「接続助詞に前接する品詞について―コーパスから見える南モデル―」を取り上げ、やや詳しく紹介した。

◆2016（平成 28）年 6 月 15 日
「アイルランド語の『完了受動』における動作主人称」
山田怜央（東京外国語大学大学院博士後期課程）

アイルランド語(印欧語族ケルト語派島嶼ケルト語ゴイデリック諸語)には、‘be done’のような構造で表される『完了受動』と呼ばれる形式が存在する。ただし『受動』と呼ばれてはいるものの、この形式は典型的な『受動』としての特性を持たないように思われる。
そこで本発表では、この『完了受動』が持つ特性について、動作主人称に着目し、その情報構造の観点から考察をおこなった。具体的には、典型的な『受動』では、1 人称動作主の出現頻度がかなり低くなることが予想される。
結果として、アイルランド語の『完了受動』は無標の文と比べて 1 人称動作主の現れ方に差が見られず、情報構造の点からは全く『受動』らしくないことが明らかになった。

◆2016（平成 28）年 6 月 22 日
「イディッシュ語とは何語か」
鴨志田聡子（東京外国語大学非常勤講師、東京大学人文社会系研究科研究科研究員、東京大学先端科学技術センター協力研究員）

本発表では、ユダヤ人の言語の一つであるイディッシュ語の歴史や言語的特徴を説明した。イディッシュ語話者たちはこの言語を日常生活で使い、豊かな創作活動をしてきた。しかしこの言語は「死にゆく言語」とも呼ばれている。これは話者が虐殺されたこと、世界各地に移住し拡散したこと、そして各地の言語に同化したことなどによる。とはいえ、ニュ ーヨークやエ

ルサレムを中心に世界中にまだ多くの話者が存在している。イディッシュ語の話者の歴史はこの言語の特徴に反映されている。イディッシュ語は基本的にヘブライ文字で書くので一見ヘブライ語に見えるのだが、ラテン文字で書くとドイツ語に似ている。ドイツ語の影響が強いため借用語が 8 割程度あり、文法も似ているためだ。とはいえユダヤ人の宗教や伝統に深いかかわりのあるヘブライ語や、ユダヤ人が長年住んだ地域の言語スラブ語からの影響も強い。これらの言語の借用語も多く、文法的な影響も受けている。本発表の最後にユダヤ英語 Yinglish (English の E をとって、Yiddish の Y をつけたもの)を紹介した。発表を通じてユダヤ人の歴史を言語に反映したイディッシュ語は独特な言語だということを解説した。

◆2016（平成 28）年 6 月 29 日
「日本言語学会第 152 回大会報告」
　蔡 熙鏡（東京外国語大学大学院博士後期課程）

2016 年 6 月 25 日と 26 日に慶應義塾大学三田キャンパスで開催された日本言語学会第 152 回大会について報告を行った。報告では、まず大会の概要について説明した後に、報告者が聞いた口頭発表から、倉部慶太氏の「ジンポー語における人称階層に基づく動詞の一致」と山田洋平氏の「モンゴル語の係り結び」の 2 件を選んで、やや詳しく紹介した。

◆2016（平成 28）年 7 月 6 日
「国際シンポジウム"Japanese and Korean accent: diachrony, reconstruction, and typology"報告」
　小山内優子（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニア・フェロー）

2016 年 7 月 2 日（土）～3 日（日）に本学アジア・アフリカ言語文化研究所にて、国際シンポジウム "Japanese and Korean accent: diachrony, reconstruction, and typology" が開催された。本報告では、まずシンポジウムの全体像を報告したのち、2 日間の発表の中から “Mora and syllable in the pitch accent system of Koshikijima Japanese” （窪薗晴夫国立国語研究所教授）を取り上げ、紹介した。

◆2016（平成 28）年 10 月 19 日
「イロカノ語の直示的移動動詞」
　山本恭裕（京都大学大学院文学研究科博士後期課程）

イロカノ語（オーストロネシア語族、フィリピン）は空間的直示動詞とされる ʔay「来る」と pan「行く」を持つ。本研究では、映像刺激を用いた描写実験から得たデータにより、この 2 つの動詞の意味的性質を分析した。これら 2 つの動詞の分布を理解するには、 (a) 従来の分析で用いられてきた「直示的中心」という概念が、話者のやりとりが関わる機能的な空間として

定義される必要があること、また (b) 語彙化された意味と、推論により生じる語用論的な含意を区別する必要があることを論じた。これにより、(1) ʔay は話者領域（話者によって自身の領域と認識され、物理的な障壁などによって定義される）への移動を表し、一方 (2) pan は語彙的には直示性を持たない要素であり、全般的な移動を表す。また (3) pan は典型的には非話者領域への移動を表すと解釈されるが、これは「より特定的な要素である ʔay が使用されない＝話者領域への移動ではない」という推論から生じる含意であることを論じた。加えて、(4) 2 要素の使用頻度は移動者の有生性により差が生じることを報告した。

◆2016（平成 28）年 10 月 26 日
「フィジー語の接尾辞を伴わない他動詞」
岡本 進（東京外国語大学大学院博士前期課程）

フィジー語の他動詞は動詞語根に他動詞派生接尾辞が付加された形式であるとされてきた。しかしフィジー語の動詞は、他動詞派生接尾辞が付加されていないにもかかわらず、統語的に 2 つの名詞句 (すなわち主語と目的語) が出現しうる場合がある。本研究では、接尾辞が付加されている他動詞を「接尾辞形」、付加されていない他動詞を「ゼロ形」とする。

ゼロ形がすべての動詞で許容されるというわけではないということは従来指摘されてきた。しかし、先行研究では羅列的に例が挙げられているのみである。今回はゼロ形の成立条件を明らかにするため、コンサルタント調査と資料調査を行った。

調査の結果、以下の 2 点が明らかとなった。まず第一に、ゼロ形は他動性の低い動詞では観察されず、その目的語は典型的には theme である。第二に、接尾辞形は様々な統語環境で実現するのに対し、ゼロ形は主動詞としてよりも補文節内や名詞句として実現する傾向が強い。

◆2016（平成 28）年 11 月 9 日
「ConCALL 2016 (2nd Bi-Annual Conference on Central Asian Languages and Linguistics)大会報告」
山田洋平（東京外国語大学大学院博士後期課程）

2016 年 10 月 7 日から 9 日の日程で行われた ConCALL 2016 (2nd Bi-Annual Conference on Central Asian Languages and Linguistics) の報告を行った。大会はアメリカ・インディアナ州ブルーミントンのインディアナ大学で行われた。

◆2016（平成 28）年 11 月 30 日
「自然談話における宮古島池間方言の nyaan について―使用頻度に基づく意味機能拡張の仮説―」
呉 唯（東京外国語大学大学院博士前期課程）

池間方言における補助動詞 *nyaan* には、「完了」のアスペクト的な意味に加えて、日本語標準語の「~てしまう」と類似する機能————「非実現バイアス」(実現しなかった方がいいという話者の評価)がある。先行研究では、「腐る」のような「ものの正常な機能の消失」を表す「準消失動詞」と組み合わせることが *nyaan* 意味拡張の動機とされたが、調査した談話データでは合計 70 例の中に「準消失動詞」が 2 例しかない。

そして、本発表では、「話者が動作主と一致しない場合に多用されること」が「非実現バイアス」が生じた主な要因であると主張する。興味深いのは、梁井(2009)によると、日本語の「～てしまう」は話者と動作主が一致しない例が多く、それが動機となりマイナスの感情・評価的意味が焼き付けられた。この言語事実は、まさに *nyaan* の「非出現バイアス」の表出と平行的に捉えられる。

◆2016（平成 28）年 12 月 7 日
「第 153 回日本言語学会大会報告」
　橋本直樹（東京外国語大学大学院博士前期課程）

2016 年 12 月 3，4 日に福岡大学で行われた日本言語学会の報告を行った。まず大会の概要について説明した後に、ディリック・セバル氏（岡山大学大学院）の口頭発表「トルコ語における存在表現の文法化」を取り上げ、発表の概略を報告した。

◆2016（平成 28）年 12 月 14 日
「日本語学会 2016 年度秋季大会報告」
　川村 大（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

山形大学において 10 月 29・30 の両日行われた日本語学会 2016 年度秋季大会について報告した。まず概況を報告し、本学ＡＡ研岡田一祐氏が大会発表賞（春季大会のポスター発表による）を受賞したことなどを紹介した。また、三宅俊浩氏「近世上方における可能動詞の展開」についてやや詳しく紹介したほか、いくつかの発表の概要を紹介した。

※本報告は平成 28 年度学術研究助成基金助成金（課題番号 16K02720）による成果の一部である。

◆2017（平成 29）年 1 月 18 日
「現代ドイツ語における対格の相関詞 es」
　井坂ゆかり（東京外国語大学大学院博士前期課程）

相関詞 es は、現代ドイツ語の 3 人称中性単数の代名詞 es の用法のひとつで、対格の場合、母

文に現れ、後置された目的語文を予告する。対格の相関詞 es が現れるかどうかは、一般的に動詞によると説明され、相関詞を通常伴う動詞・任意に伴う動詞・通常伴わない動詞といった分類がなされる。では、相関詞 es が任意の動詞については、実際どのような場合に相関詞 es が現れるのだろうか。本研究では動詞 bedauern（残念に思う）を例にコーパス調査を行い、相関詞 es の出現率が目的語文の種類によって異なっていることを明らかにした。このような出現率の差には、動詞の事実性と目的語文の仮想性／現実性が関連していると考えられる。

2016 年度 語学研究所 活動報告

講演会

言語文化学部講演会

『世界の色彩語の類型と進化 ～"ブッシュマン"の言語調査がもたらす新知見～』

日時：2016（平成 28）年 5 月 11 日　18:00～19:30

会場：東京外国語大学府中キャンパス研究講義棟 226 教室

講演者：中川 裕（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語学）

コメンテーター：松浦寿夫（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 表象文化）

※事前申込不要, 入場無料

共催：語学研究所, 総合文化研究所

『コーパスに基づくフランス語研究』

日時：2016（平成 28）年 10 月 26 日　14:00～16:30

会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

〈プログラム〉

講演 I：L'évolution des conjonctions de cause dans l'histoire du français

講師：Annie BERTIN (パリ西大学ナンテール教授)

講演 II：Syntaxe du français moderne : sur la distinction entre le niveau des ≪constructions≫ et le niveau des ≪énoncés≫

講師：Frédéric SABIO (エクス・マルセイユ大学教授)

※使用言語：フランス語（通訳なし）

※事前申込不要, 入場無料

主催：科研(基盤研究 B)「フランス語, ポルトガル語, 日本語, トルコ語の対照中間言語分析」(代表：川口裕司), 科研(基盤研究 A)「話し言葉フランス語における統語的, 韻律的アノテーションの試み」(代表：秋廣尚恵)

後援：東京外国語大学 語学研究所

『ポルトガルがマカオに残した記憶と遺産 ―『マカエンセ』という人々―』

日時：2017（平成 29）年 1 月 27 日　18:50～20:10

会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

講演者：内藤理佳（上智大学常勤嘱託講師）

※事前申込不要, 入場無料

主催：科研(基盤研究 C)「東南アジア語圏におけるヨーロッパ系言語との接触・混成現象に関する動態的記述研究」(代表：黒澤直俊), 科研(基盤研究 B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的

言語能力達成度評価法の総合的研究」(代表：富盛伸夫)
共催：東京外国語大学 語学研究所

"(Mis)matches between signed and spoken languages"
日時：2017（平成29）年2月20日　15:00～16:30
会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟4階419号室）
講演者：Dr.Aslı GÖKSEL（Department of Linguistics, SOAS University of London）
※使用言語：英語（通訳なし）
※事前申込不要，入場無料
主催：科研(基盤研究A)「コーパスに基づく談話の主題と結束性の研究」(代表：峯岸真琴)，科研(基盤研究B)「フランス語，ポルトガル語，日本語，トルコ語の対照中間言語分析」(代表：川口裕司)
後援：東京外国語大学 語学研究所

定例研究会

語学研究所（研究講義棟4階419号室）

第1回　2016（平成28）年6月1日
「移動表現の日独比較 ―移動動詞と経路を表す前置詞句との共起関係を中心に―」
発表者：高橋美穂（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / ドイツ語学）

第2回　2016（平成28）年7月6日
「対格表現の地域差　―助詞ゼロをめぐって―」
発表者：木部暢子（国立国語研究所時空間変異研究系教授，東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授(クロスアポイントメント) / 方言学）

第3回　2016（平成28）年9月14日
「訳せる日本語，機械が訳せる日本語」
発表者：佐野 洋（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語情報処理論，電子化言語データベース，コンピュータ支援の語学教育）

第4回　2016（平成28）年10月5日
「社会は敬語をどう獲得するか？―マクロ社会言語学的考察―」
発表者：柳村 裕（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員 / 社会言語学，音声学）

第5回　2016（平成28）年11月2日
「コーパスの語種・頻度から見た日本語（史）資料の位相」
発表者：小木曽智信（国立国語研究所言語資源研究系准教授，東京外国語大学大学院国際日本学研究院准教授(クロスアポイントメント) / コーパス言語学）

第 6 回　2016（平成 28）年 12 月 13 日
「日本語の意味を世界につなぐ日本語 Wordnet」
発表者：フランシス・ボンド（南洋理工大学 言語学・多言語研究科准教授 / 計算言語学）
※共催：頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「危機言語・少数言語を中心とする循環型調査研究のための機動的国際ネットワーク構築」

第 7 回　2017（平成 29）年 1 月 25 日
「語研特集「情報構造」に関する報告と今後の調査の展望」」
発表者：風間伸次郎（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 記述言語学・ツングース諸語）

第 8 回　2017（平成 29）年 3 月 1 日
「エジプトアラビア語の疑問詞位置と語順類型 」
発表者：長渡陽一（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特別研究員, 東京外国語大学非常勤講師 / アラビア語, 朝鮮語）

研究会

科学研究費助成事業（基盤研究 B）「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」第 1 回研究会

日時：2016（平成 28）年 7 月 15 日　17:30～21:00
会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）
1.　17:30-18:30　研究報告
「TUFS 言語モジュールを活用したアジア諸語の社会文化的言語能力指標について」
報告者：富盛伸夫（東京外国語大学名誉教授）, YI Yeong-il （東京外国語大学博士前期課程）
2.　18:30-19:30　特別講演
「タイの言語教育現場での社会文化的摩擦」
講師：Dr. Soysuda, NA RANONG（タイ国立カセサート大学東洋言語学科准教授）
3.　19:30-20:30　研究発表
「タイにおける日本語教育に関する調査報告 ―タイ人学習者にとっての日本語の社会文化的特質―」
報告者：根岸雅史（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）
4.　20:30-21:00　総合討議・質疑応答（司会進行：富盛伸夫）
※事前申込不要, 入場無料
※主催：科研基盤研究(B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」
※共催：東京外国語大学語学研究所

科学研究費助成事業（基盤研究 B）「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」第 2 回研究会

日時：2016（平成 28）年 12 月 2 日　18:30～20:30

会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

1.　18:00-18:40　研究報告

「TUFS 言語モジュールを活用したアジア諸語の社会文化的特質 の考察と指標化」

報告者：富盛伸夫（東京外国語大学名誉教授）, YI Yeong-il (イ ヨンイル)（東京外国語大学大学院博士前期課程）

2.　18:45-19:25　研究報告

「ベトナム語教育における heritage と legacy」

報告者：田原洋樹（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）

3.　19:30-20:10　研究報告

「Tagalog, Taglish, English, そして Chabacano―カオスの中のアイデンティティー―」

報告者：荻原 寛（東京外国語大学大学院特別研究員・語学研究所）

4.　20:10-20:30

総合討議・質疑応答（司会進行：富盛伸夫）

※事前申込不要, 入場無料

※主催：科研基盤研究(B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」（代表：富盛伸夫）, 科研基盤研究(C)「東南アジア語圏におけるヨーロッパ系言語との接触・混成現象に関する動態的記述研究」（代表：黒澤直俊）

※共催：東京外国語大学語学研究所

科学研究費助成事業（基盤研究 B）「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」第 3 回研究会

日時：2017（平成 29）年 1 月 27 日　18:00～20:30

会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

1.　18:00-18:50　研究報告

「アジアにおけるポルトガル語とその言語・文化の継承 ―マラッカの言語 Kristang 語―」

報告者：富盛伸夫（東京外国語大学名誉教授）

2.　18:50-20:10　研究報告

「ベトナム語教育における heritage と legacy」

報告者：田原洋樹（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）

3.　19:30-20:10　講演会

「ポルトガルがマカオに残した記憶と遺産 ―『マカエンセ』という人々―」

講演者：内藤理佳(上智大学常勤嘱託講師)

4.　20:10-20:30

総合討議・質疑応答（司会進行：富盛伸夫）

※事前申込不要, 入場無料

※主催：科研基盤研究(B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」（代表：富盛伸夫），科研基盤研究(C)「東南アジア語圏におけるヨーロッパ系言語との接触・混成現象に関する動態的記述研究」（代表：黒澤直俊）

※共催：東京外国語大学語学研究所

ワークショップ

『言語コーパス：言語教育への応用可能性』

日時：2016（平成 28）年 10 月 14 日　14:10～17:30

会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

<プログラム>

14:10-14:20　川口裕司（本学大学院教授）挨拶

14:20-15:20　講演（言語：英語）

"Strategies for enhancing production and comprehension of foreign languages in their spoken variety: text/speech alignment and reference corpora variation"

講師：Emanuela Cresti and Massimo Moneglia（フィレンツェ大学教授）

15:20-15:40　質疑応答

16:00-17:00　講演（使用言語：日本語）

「語彙習得とジフの法則：コーパスからわかる不都合な事実」

講師：藤村逸子(名古屋大学大学院教授)

17:00-17:30　質疑応答

17:30　閉会

※事前申込不要，入場無料

※主催：基盤研究 B「フランス語，ポルトガル語，日本語，トルコ語の対照中間言語分析」(代表：川口裕司)

※後援：東京外国語大学語学研究所

『アジア諸語の音調特性の解析：日本語と東南アジア諸語を対象として』

日時：2017（平成 29）年 2 月 1 日　14:00～17:10

会場：東京外国語大学 語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

<プログラム>

14:00-14:05　佐藤大和 挨拶

14:05-14:25　佐藤大和「音調特性研究のための音声分析・再合成ツール」

14:25-14:50　佐藤大和「日本語アクセントにおける音調降下特性とその知覚」

15:00-15:25　降幡正志「スンダ語のトピックマーカーとイントネーション」

15:25-15:50　鈴木玲子・益子幸江「ラオ語の二音節語における声調のピッチについて」

16:00-16:25　岡野賢二「ビルマ語の軽音節のピッチについて」
16:25-16:50　益子幸江・峰岸真琴「タイ語の声調の音響音声学的研究」
16:50-17:10　峰岸真琴「声調分析が形態統語レベルの分析に示唆するもの」

※事前申込不要, 入場無料

※主催：科研(基盤研究 B)「動態形式に基づくアクセント言語と声調言語の対照研究」(代表：佐藤大和), 科研(基盤研究 C)「文イントネーションの型についての言語間対照研究」(代表：益子幸江)

※共催：東京外国語大学語学研究所

LUNCHEON LINGUISTICS（言語学動向研究会）

12:00〜12:40　語学研究所（研究講義棟 4 階 419 号室）

第 1 回　2016（平成 28）年 4 月 13 日
「シベ語における意図と知識についての予備的考察」
発表者：児倉徳和（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教）

第 2 回　2016（平成 28）年 4 月 20 日
「Documentary Linguistics: Asian Perspectives (DLAP2016) 報告」
発表者：山越康裕（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）

第 3 回　2016（平成 28）年 4 月 27 日
「ポポロカ語テマラカユカ方言における名詞の生産的複合と語彙的複合」
発表者：中本 舜（東京外国語大学外国語学部　南・西アジア課程ウルドゥー語専攻）

第 4 回　2016（平成 28）年 5 月 11 日
「東・東南アジア諸語における地域的翻訳借用」
発表者：倉部慶太（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所/日本学術振興会特別研究員 PD）

第 5 回　2016（平成 28）年 5 月 18 日
「ラマホロット語における ə̃ʔə̃「作る」による動詞連続とその文法化」
発表者：長屋尚典（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）

第 6 回　2016（平成 28）年 5 月 25 日
「英語会話の co-construction における話者間の知識・情報の共有」
発表者：第十早織（東京外国語大学大学院博士後期課程）

第 7 回　2016（平成 28）年 6 月 1 日
「第二回国際モンゴル語学会（於・カルムイク国立大学）報告」
発表者：山田洋平（東京外国語大学大学院博士後期課程）

第 8 回　2016（平成 28）年 6 月 8 日
「日本語学会 2016 年度春季大会報告」
発表者：川村 大（東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授）

第 9 回　2016（平成 28）年 6 月 15 日
「アイルランド語の『完了受動』における動作主人称」
発表者：山田怜央（東京外国語大学大学院博士後期課程）

第 10 回　2016（平成 28）年 6 月 22 日
「イディッシュ語とは何語か」
発表者：鴨志田聡子（東京外国語大学非常勤講師，東京大学人文社会系研究科研究員，東京大学先端科学技術センター協力研究員）

第 11 回　2016（平成 28）年 6 月 29 日
「日本言語学会第 152 回大会報告」
蔡 熙鏡（東京外国語大学大学院博士後期課程）

第 12 回　2016（平成 28）年 7 月 6 日
「国際シンポジウム"Japanese and Korean accent: diachrony, reconstruction, and typology"報告」
発表者：小山内優子（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニア・フェロー）

第 13 回　2016（平成 28）年 10 月 19 日
「イロカノ語の直示的移動動詞」
発表者：山本恭裕（京都大学大学院文学研究科博士後期課程）

第 14 回　2016（平成 28）年 10 月 26 日
「フィジー語の接尾辞を伴わない他動詞」
発表者：岡本 進（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第 15 回　2016（平成 28）年 11 月 2 日
「アイルランド語における 2 つの'have'文」
発表者：山田怜央（東京外国語大学大学院博士後期課程）

第 16 回　2016（平成 28）年 11 月 9 日
「ConCALL 2016 (2nd Bi-Annual Conference on Central Asian Languages and Linguistics)　大会報告」
発表者：山田洋平（東京外国語大学大学院博士後期課程）

第 17 回　2016（平成 28）年 11 月 30 日
「自然談話における宮古島池間方言の nyaan について―使用頻度に基づく意味機能拡張の仮説―」
発表者：呉 唯（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第 18 回　2016（平成 28）年 12 月 7 日
「第 153 回日本言語学会大会報告」
発表者：橋本直樹（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第 19 回　2016（平成 28）年 12 月 14 日
「日本語学会 2016 年度秋季大会報告」
発表者：川村 大（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

第 20 回　2016（平成 28）年 12 月 21 日
「アイヌ語研究の現状と展望」
発表者：奥田統己（札幌学院大学人文学部教授, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー）

第 21 回　2017（平成 29）年 1 月 18 日
「現代ドイツ語における対格の相関詞 es」
発表者：井坂ゆかり（東京外国語大学大学院博士前期課程）

刊行物

『語学研究所論集』第 22 号　2017 年 3 月
語学研究所活動報告書 2015 年度オープンアカデミー後期開講教養講座『言葉とその周辺をきわめる -4-』
2017 年 3 月

語学研究所　刊行物

『スウェーデン語・デンマーク語・アイスランド語・ノルウェー語』	
『基礎モンゴル語教本』	
『基礎英語学』	
『語学研究所所報　第 1 号』	1960（昭和 35）年 3 月
『語学研究所所報　第 2 号』	1961（昭和 36）年 3 月
『語学研究所所報　第 3 号』	1962（昭和 37）年 3 月
『語学研究所所報　第 4 号』	1963（昭和 38）年 3 月
『語学研究所所報　第 5 号』	1964（昭和 39）年 3 月
『語学研究所所報　第 6 号』	1965（昭和 40）年 3 月
『語学研究所所報　第 7 号』	1966（昭和 41）年 3 月
『語学研究所所報　第 8 号』	1970（昭和 45）年 3 月
『文部省科学研究費による外国語教科書研究編纂についての報告』	1970（昭和 45）年 3 月
『やさしいベンガル語（その 1）』	1971（昭和 46）年 3 月
『動詞の時制中心初等スペイン語』	1971（昭和 46）年 3 月
『語研資料 1　Anfitrite fermosa neste caso não quis que falecesse (Os Lusíadas, VI.22).』	1974（昭和 49）年 3 月
『語研資料 2　翻訳理論と一般言語学』	1975（昭和 50）年 3 月
『語研資料 3　関東・東北方言の地理的・年齢的分布（SF グロットグラム）』	1985（昭和 60）年 3 月
『語研資料 4　アディゲ語の音声と音韻』	1985（昭和 60）年 3 月
『語研資料 5　ドイツ語の [状態受動]』	1986（昭和 61）年 3 月
『語研資料 6　ドイツ語の意味論的分析資料』	1987（昭和 62）年 3 月
『語研資料 7　現実分析』	1987（昭和 62）年 3 月
『語研資料 8　スペイン語の語彙の頻度と拡がり』	1987（昭和 62）年 3 月
『語研資料 9　ヒンディー語略語集』	1989（平成元）年 3 月
『語研資料 10　ドイツ語の統語論的意味論的研究資料』	1990（平成 2）年 3 月
『語研資料 11　連続講演会　1990 年』	1991（平成 3）年 3 月
『語研資料 12　言語研究 I』	1991（平成 3）年 3 月
『語研資料 13　東海道沿線方言の地域差・年齢差（Q グロットグラム）』	1991（平成 3）年 3 月
『語研資料 14　言語研究 II』	1992（平成 4）年 3 月
『世界の辞書』竹林滋・千野栄一・東信行編（研究社）	1992（平成 4）年

『語研資料 15　言語研究 III』　1993（平成 5）年 3 月
『語研資料 16　スペイン語機能統語論/スィンディー語文法概説』　1994（平成 6）年 3 月
『語研資料 17　ロシア語―語史概説』　1995（平成 7）年 3 月
『語学研究所論集　第 1 号』　1996（平成 8）年 3 月
『語学研究所論集　第 2 号』　1997（平成 9）年 3 月
『語学研究所論集　第 3 号』　1998（平成 10）年 3 月
『世界の言語ガイドブック 1 ヨーロッパ・アメリカ地域』語学研究所編（三省堂）1998（平成 10）年 3 月
『世界の言語ガイドブック 2 アジア・アフリカ地域』語学研究所編（三省堂）　1998（平成 10）年 3 月
『語研資料 18　新ペルシア語概説』　1999（平成 11）年 3 月
『語学研究所論集　第 4 号』　1999（平成 11）年 3 月
『語学研究所論集　第 5 号』　2000（平成 12）年 3 月
『語学研究所論集　第 6 号』　2001（平成 13）年 3 月
『グローバル言語文化情報アーカイブ』報告書
（東京外国語大学百周年記念研究振興基金プロジェクト）　2001（平成 13）年 3 月
『語学研究所論集　第 7 号』　2002（平成 14）年 3 月
『語学研究所論集　第 8 号』　2003（平成 15）年 3 月
『語学研究所論集　第 9 号』　2004（平成 16）年 3 月
『語学研究所論集　第 10 号』　2005（平成 17）年 3 月
『語学研究所論集　第 11 号』　2006（平成 18）年 3 月
『世界のロシア語 2003 ―ロシア連邦外務省報告書―』上巻　2006（平成 18）年 3 月
（東京外国語大学語学研究所・筑波大学外国語センター共訳）　2007（平成 19）年 3 月
『世界のロシア語 2003 ―ロシア連邦外務省報告書―』下巻　2007（平成 19）年 3 月
（東京外国語大学語学研究所・筑波大学外国語センター共訳）2008（平成 20）年 3 月
『語学研究所論集　第 14 号』　2009（平成 21）年 3 月
『語学研究所論集　第 15 号』　2010（平成 22）年 3 月
『語学研究所論集　第 16 号』　2011（平成 23）年 3 月
『語学研究所論集　第 17 号』　2012（平成 24）年 3 月
『語学研究所論集　第 18 号』　2013（平成 25）年 3 月
『外語大の教師が熱中するもうひとつの言語』
（東京外国語大学オープンアカデミー2011 年度後期公開講座　活動報告書）2013（平成 25）年 3 月
『語学研究所論集　第 19 号』　2014（平成 26）年 3 月

『言葉とその周辺をきわめる』
（東京外国語大学オープンアカデミー2012 年度後期公開講座 活動報告書） 2014（平成 26）年 3 月
『語学研究所論集 第 20 号』 2015（平成 27）年 3 月
『言葉とその周辺をきわめる 2 』
（東京外国語大学オープンアカデミー2013 年度後期公開講座 活動報告書） 2015（平成 27）年 3 月
『語学研究所論集 第 21 号』 2016（平成 28）年 3 月
『言葉とその周辺をきわめる 3 』
（東京外国語大学オープンアカデミー2014 年度後期公開講座 活動報告書） 2016（平成 28）年 3 月
『言葉とその周辺をきわめる 4 』
（東京外国語大学オープンアカデミー2015 年度後期公開講座 活動報告書） 2017（平成 29）年 3 月

語学研究所論集　既刊号目次

『語学研究所論集　第 1 号』（1996 年 3 月）

東京外国語大学「語学研究所論集」創刊号の発刊に寄せて　池上岑夫
［論文］　受動文と主題文　正保　勇
真理条件的意味論 ―哲学から言語学へ―　宗宮喜代子
바람직한 한국어 교재란? ―일본어화자의 경우―　野間秀樹
［研究ノート］　コーパス言語学事始め　馬場　彰

『語学研究所論集　第 2 号』（1997 年 3 月）

［論文］　Sujeto remático en ladín　Shigenobu KAWAKAMI
［研究ノート］　現代ラオス語の文末詞について　上田玲子
前置詞 *vъn の現代スラヴ諸語におけるヴァリアントの分類　金指久美子
写本からテキストへ ―中世 cantigas を例にとって―　黒澤直俊
オブジェクト指向アプローチによる形態素分析規則の作成　佐野　洋
現代ウクライナ語における -y/-ю 語尾について　中澤英彦
ピッチ抽出装置を利用した声調訓練用学習教材
益子幸江，平井和之，宇根祥夫

『語学研究所論集　第 3 号』（1998 年 3 月）

［論文］　シャンパーニュ地方とブリー地方における方言の衰退
―自然現象に関する13語―　川口裕司
［研究ノート］　現代ペルシア語におけるアラビア語の重層性　縄田鉄男
「知らせる」「聞かせる」の他動詞性・使役動詞性　早津恵美子
［書評］　“SLOVENŠČINA NI TEŽKA”　金指久美子

『語学研究所論集　第4号』（1999 年 3 月）

［論文］　Penggolongan Ayat Komplemen Frasa Kata Kerja
［マレーシア語の動詞句補文の類型］　Isamu SHOHO
いわゆる「ヲ使役」「ニ使役」についての諸論考をめぐって　早津恵美子
ツングース諸語における指定格について　風間伸次郎
［研究ノート］　現代ラオス語の色彩語彙について　鈴木玲子

『語学研究所論集　第 5 号』（2000 年 3 月）

［論文］　書かれ始めたフランス語 ―Global Latin vs Local French―　川口裕司
三次元マルチメディア処理技術を応用した言語教育教材用ツールの
開発研究　富盛伸夫，有吉英心子，吉田一彦

［研究ノート］　ポルトガル語の二重鼻母音の起源によせて ―鼻音性をあらわす«m»―
黒澤直俊
形態素分析を支援する Windows 用インタフェース WinMorph　佐野　洋

『語学研究所論集　第 6 号』（2001 年 3 月）

［論文］　ディスコース・ポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能
―敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること―
宇佐美まゆみ

ドイツ語文の生成メカニズムに関する考察
―Zaima（1987），Goldberg（1995），Storrer（1992），Zaima（1999）―
在間　進

言語研究ツールの Perl による実現　佐野　洋

マレーシア語の不定表現　正保　勇

«FAITES-LES PARLER» : HISTOIRE D'UN COURS DE CONVERSATION À L'UNALCET（1998-2001）
［「学生たちに話させよう」：フランス語会話クラスの歩み（1998―2000 年度）
―東京外国語大学ネイティブ・スピーカーによるフランス語専攻2年生会話クラスの3年間―］　François ROUSSEL，Hervé COUCHOT

『語学研究所論集　第 7 号』（2002 年 3 月）

［論文］　結合価と構文 ―日独対照の観点から―　成田　節

周辺特徴を用いたタイ語文字認識手法　林　俊成

［研究ノート］　クメール語の文末詞　上田広美

《特集　言語規範と外国語教育》

［論文］　言語にとって規範とは何か　川口裕司

中国の言語規範化政策と日本における中国語教育　平井和之

言語規範と外国語教育 ―インドネシア語の場合―　降幡正志

現代朝鮮語の言語規範 ―その変遷と認識度調査を中心に―　中島　仁

都市のスペイン語語彙バリエーションと規範　高垣敏博

［研究ノート］　アラビア語の二重言語性からみる規範と教育　ラトクリフ・ロバート

英語における規範主義の伝統　浦田和幸

現代トルコ語における正書法の変更　菅原　睦

『語学研究所論集　第 8 号』（2003 年 3 月）

［論文］　ドイツ語動詞「前綴り」の分離・非分離をめぐって
―ドイツ語授業での説明原理を求めて―　成田　節

インドネシア語のイントネーション教材開発に向けて
―ピッチパターンの音響分析から―　降幡正志

聖書のフリウリ語訳について　山本真司

［研究ノート］　日本語調査用ツール CLTOOL　佐野　洋

『彙音妙悟』の版本問題 ―嘉慶六年薫園蔵板本を中心に―
樋口　靖，村上之伸

『語学研究所論集　第 9 号』（2004 年 3 月）

［論文］　併用現象と言語変化の中間段階 ―河西データ3クラスターの普及過程―
井上史雄

ファウラーの伝統 ―*Modern English Usage* をめぐって―　浦田和幸

スペイン語における語の概念について　寺崎英樹

Classifier Signs as Bipartite Stems［二裂語幹としての類別サイン］
Nobukatsu MINOURA
スペイン語コーパスによる受動文の検索　宮本正美, 高垣敏博
［研究ノート］　中世ポルトガル語における聖杯物語群のテキストについて　黒澤直俊
言語聴覚療法に必要な音声学とは　益子幸江

『語学研究所論集　第 10 号』（2005 年 3 月）
［論文］　ウイグル文字本『聖書伝』の研究 ―ペルシア語原本との比較―　菅原　睦
日本語の長母音の長さについての音響音声学的考察
―音声学的レイヤーの提案―　益子幸江
［研究ノート］　現代トルコ語の音体系 ―文節音に関する批判的レビュー―　川口裕司
Языковая политика в России и роль российского
лингвистического сообщества　Galina Nikiporets-Takigawa

『語学研究所論集　第 11 号』（2006 年 3 月）
［論文］　«Regular»　川上茂信
“GENERAL SOUTHERN DUTCH”: HOW AND WHY?
[共通南部オランダ語：どのように，またなぜ標準オランダ語と異なるか？]
Mikio KAWAMURA
言語使用に基づくドイツ語研究方法論 ―言語使用，応用，そして評価―
在間　進
The vowel system of G|ui
[グイ語の母音体系]　Hirosi NAKAGAWA
［研究ノート］　マンハイム・ドイツ語研究所の grammis と ProGr@mm　成田　節
『音韻正訛』音韻体系の基礎的研究 ―音節構造と声母音系―　樋口　靖

『語学研究所論集　第 12 号』（2007 年 3 月）
［論文］　『翻訳老乞大』の「了」の朝鮮語訳をめぐって　伊藤英人
ロシア語の数量詞と一致が示すいくつかの問題点　匹田　剛
［研究ノート］　クメール語の名詞句における反復表現について　上田広美
スロヴェニアのグラゴール文字文献の問題について　金指久美子
多重の制約を利用した英語用例文の提示方式　佐野　洋
ワヒー語婚礼歌 sinisay　吉枝聡子

『語学研究所論集　第 13 号』（2008 年 3 月）
［論文］　ラオ語の諾否疑問文について　鈴木玲子
「пора＋不定形」の構造における動詞の体と語義の問題によせて　中澤英彦
［研究ノート］　人名詞と動詞とのくみあわせ（試論）―連語のタイプとその体系―
早津恵美子
バベルの塔再考　山本真司

『語学研究所論集　第 14 号』（2009 年 3 月）
［論文］　オロチ語とウデヘ語の異同について　風間伸次郎

テーマ企画:特集「受動表現」

まえがき　風間伸次郎

［論文］　行為連鎖の観点から見た中国語の“被”構文　三宅登之

「迷惑の受身」とイタリア語の与格　山本真司

［研究ノート］ツングース諸語の受身人名詞と動詞とのくみあわせ（試論）　風間伸次郎

古代日本語における受身表現　川村 大

クメール語の受動表現について　上田広美

ビルマ語の受動表現に関する覚え書き　岡野賢二

［受動表現データ］

ドイツ語　成田 節

フランス語　敦賀陽一郎

イタリア語　花本知子

スペイン語　高垣敏博

ポルトガル語の受動表現について　黒澤直俊,鳥越慎太郎

ロシア語　匹田 剛, 瀧川ニキパレツ・ガリーナ

ポーランド語の受動文　カチマレク・ミロスワバ

チェコ語　金指久美子

モンゴル語　温品廉三

インドネシア語　降幡正志

マレーシア語　正保 勇

ベトナム語の受身文　川口健一

ビルマ語　岡野賢二

ウルドゥー語　萩田 博

ペルシア語　吉枝聡子

『語学研究所論集　第 15 号』（2010 年 3 月）

［論文］　20 世紀における英語の語法変化について

―David Crystal 編 Fowler 初版をもとに―　浦田和幸

テーマ企画:特集「アスペクト」

まえがき　風間伸次郎

［論文］　英語のアスペクトについて　宗宮喜代子

ドイツ語のアスペクト

―言語における視点化の力学についての方法論的考察―　藤縄康弘

リトアニア語のアスペクトとパーフェクト

―ロシア語との対照アスペクト論的観点から―　櫻井映子

ラトヴィア語のアスペクト対立とその表現の選択性　堀口大樹

［研究ノート］イタリア語において動詞 essere が「移動」を表す場合

―「出来事」と「結果」の関係について―　山本真司

スペイン語の時制 ―日本語との対照　山村ひろみ, 高垣敏博

ナーナイ語のアスペクト　風間伸次郎

日本語との対照から見た中国語のアスペクト　三宅登之

現代口語ビルマ語のアスペクト表現について　岡野賢二

［アスペクト データ］

ドイツ語　成田 節

フランス語　敦賀陽一郎
ロシア語　中澤英彦
ブルガリア語　菅井健太
ラトヴィア語　堀口大樹
ウクライナ語　コベルニック ナディア
ポーランド語　カチマレク・ミロスワバ
朝鮮語　伊藤英人
モンゴル語　温品廉三
インドネシア語　降幡正志
ラオス語　鈴木玲子
ウルドゥー語　萩田 博
トルコ語　菅原 睦
キルギス語　アクマタリエワ ジャクシルク
ウズベク語　マムルジョン・ハルナザロフ
ペルシア語　吉枝聡子

『語学研究所論集　第 16 号』（2011 年 3 月）

［論文］　Between Lexeme-Forming Derivation and paradigmatic Inflection
[語彙素形成派生と範列的屈折の間]　箕浦信勝

テーマ企画：特集「モダリティ」
まえがき　風間伸次郎
［研究ノート］ ナーナイ語のモダリティ　風間伸次郎
［モダリティ データ］
ドイツ語　成田 節
フランス語　敦賀陽一郎
ロシア語　小川暁道
ブルガリア語　菅井健太
ラトヴィア語　堀口大樹
リトアニア語　櫻井映子
中国語　三宅登之
朝鮮語　伊藤英人
モンゴル語　ジンガン
マレーシア語　野元裕樹
クメール語　上田広美
ウルドゥー語　萩田 博
トルコ語　菅原 睦
キルギス語　アクマタリエワ ジャクシルク
ペルシア語　吉枝聡子

『語学研究所論集　第 17 号』（2012 年 3 月）

テーマ企画：特集「ヴォイスとその周辺」
まえがき　風間伸次郎
［研究ノート］ イタリア語における非人称の si と受動態の si の構文
―特に変則的な一致について―　山本真司

現代ロシア語におけるヴォイスについて ―受動表現を中心に―
中澤英彦
マレーシア語のヴォイスとその周辺 野元裕樹
［ヴォイスとその周辺 データ］
スペイン語 高垣敏博
ブルガリア語 菅井健太
ラトヴィア語 堀口大樹
リトアニア語 櫻井映子
中国語 加藤晴子
朝鮮語 伊藤英人
モンゴル語 風間伸次郎
クメール語 上田広美
ラオ語 鈴木玲子
ビルマ語 岡野賢二
ウルドゥー語 萬宮健策
トルコ語 菅原 睦
キルギス語 アクマタリエワ ジャクシルク
ペルシア語 吉枝聡子

『語学研究所論集 第 18 号』（2013 年 3 月）
［論文］ 言語音声の聴知覚研究のためのツール構築 佐藤大和, 益子幸江
ガリシア・アストゥリアス語の言語帰属問題を巡って 川上茂信
Inversion in Sayula Popoluca and Japanese Sign Language
［サユラ・ポポルカ語と日本手話の反転の対照研究］ 箕浦信勝
［研究ノート］ 朝鮮半島における言語接触 ―中国圧への対処としての対抗中国化―
伊藤英人
企画 1 ： 特集「所有・存在表現」
まえがき 風間伸次郎
［研究ノート］ウルドゥー語の所有・存在表現
－接尾辞 wālā を用いた表現が表すもの－ 萬宮健策
マダガスカル語の所有・存在表現 箕浦信勝
［所有・存在表現 データ］
ドイツ語 藤縄康弘
スペイン語 高垣敏博
フィンランド語 坂田晴奈, 高橋健太郎
ロシア語 阿出川修嘉, アレクサンドル・コスティルキン
モンゴル語 風間伸次郎
ナーナイ語 風間伸次郎
中国語 三宅登之
朝鮮語 伊藤英人
インドネシア語 降幡正志
マレーシア語 野元裕樹, ウン・シンティ, ファリダ・モハメッド
アラビア語 松尾 愛
ペルシア語 吉枝聡子

企画 2 ： 補遺

まえがき　風間伸次郎

［データ］

フィンランド語　坂田晴奈, 高橋健太郎

ソロン語　風間伸次郎

ナーナイ語　風間伸次郎

アラビア語　松尾 愛

ウズベク語　日高晋介

サハ語　江畑冬生

トゥバ語　風間伸次郎, 江畑冬生

『語学研究所論集 第 19 号』（2014 年 3 月）

［論文］　On S, A, P, T, and R alignment in Malagasy Sign Language (TTM)
[マダガスカル手話における S, A, P, T, R アラインメントについて]
箕浦信勝

［研究ノート］　Senarai komprehensif perbezaan ejaan Malaysia dan ejaan Indonesia
[マレーシアとインドネシアの綴りの差の包括リスト]
野元裕樹, 山下菜穂子, 小坂彩野

企画 ： 特集「他動性」

まえがき　風間伸次郎

［研究ノート］イタリア語における狭義の再帰動詞と形式的再帰動詞は他動詞なのか
山本真司

マダガスカル語の他動性に関して　箕浦信勝

リトアニア語における二項述語の格枠組みと他動性　櫻井映子

ウズベク語の他動性　日高晋介

モンゴル語の他動性　山田洋平

［他動性 データ］

フランス語　秋廣尚恵

イタリア語　久保 博

スペイン語　高垣敏博

ポルトガル語・アストゥリアス語　黒澤直俊

ポーランド語　森田耕司

ブルガリア語　菅井健太

ウルドゥー語　萬宮健策

ペルシア語　吉枝聡子

アラビア語　松尾 愛

中国語　三宅登之

朝鮮語　伊藤英人

ナーナイ語　風間伸次郎

ソロン語　風間伸次郎

ダグール語　風間伸次郎, 山田洋平

ニヴフ語（東サハリン方言）　蔡 熙鏡

マレーシア語　野元裕樹, ウン・シンティ

ラオ語　鈴木玲子

『語学研究所論集　第 20 号』（2015 年 3 月）

［論文］　日本語の使役文における使役主体から動作主体への働きかけの表現
－従属節事態と主節の使役事態との関係－　早津恵美子

企画：特集「(連用修飾的) 複文」

まえがき　風間伸次郎

［研究ノート］マダガスカル語の複節構文に関して　箕浦信勝

［(連用修飾的) 複文 データ］

ドイツ語　成田 節
フランス語　秋廣尚恵
イタリア語　西澤 藍
スペイン語　高垣敏博
フィンランド語　坂田晴奈
ハンガリー語　大島 一
ロシア語　宮内拓也，佐山豪太
中国語　加藤晴子
朝鮮語　黒島規史，孫 ミナ
モンゴル語　山田洋平
ダグール語　山田洋平
ナーナイ語　風間伸次郎
ソロン語　風間伸次郎
ニヴフ語東サハリン方言　蔡 熙鏡
カム・チベット語ティンドゥ方言　ツェジワンモ
ラワン語ダル方言　大西秀幸
マレーシア語　野元裕樹，アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー
ウルドゥー語　萬宮健策
口語タミル語　小幡千陽
アラビア語　松尾 愛
ペルシア語　吉枝聡子
トルコ語　奥 真裕
トルクメン語　奥 真裕

『語学研究所論集　第 21 号』（2016 年 3 月）

［論文］　ツングース諸語において祖形 *-ks- が仮定される音対応について
風間伸次郎

企画：特集「情報構造と名詞述語文」

まえがき　風間伸次郎

［情報構造と名詞述語文 データ］

フランス語　秋廣尚恵
スペイン語　川上茂信，チャビ・アラストゥルエイ
ドイツ語　成田 節
フィンランド語　坂田晴奈
ハンガリー語　大島 一

トルクメン語	奥 真裕
アラビア語エジプト会話体	長渡陽一
ペルシア語	吉枝聡子
ウルドゥー語	萬宮健策
ビルマ語	トゥザ ライン, 岡野賢二
ラワン語マトワン方言	大西秀幸
ラオ語	鈴木玲子
クメール語	上田広美
マレーシア語	野元裕樹, アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー
インドネシア語	降幡正志
中国語	加藤晴子
朝鮮語	黒島規史, 崔 正熙
モンゴル語	山田洋平
ダグール語	山田洋平
ソロン語	風間伸次郎
ナーナイ語	風間伸次郎
グイ語	中川 裕